綾部市
男女共同参画社会づくりに関する
調査報告書

令和７年３月

目　次

Ⅰ 調査の概要 6
１．調査の目的 6
２．調査の方法 6
３．回収結果 6
４．報告書の見方 7

Ⅱ 調査結果のまとめ 9
【市民意識調査】 9
１．回答者の属性 9
２．男女平等について 9
３．仕事について 14
４．家庭生活・子育て・社会参加・防災について 16
５．配偶者等からの暴力・ハラスメントについて 21
６．男女共同参画施策について 22
【事業所アンケート】 24
１．事業所の概要について 24
２．女性の登用について 24
３．育児・介護との両立支援について 24
４．男女がともに働きやすい環境について 24
５．男女共同参画に関する今後の取組について 25

Ⅲ 調査結果からみる課題 27

Ⅳ 市民意識調査の結果 31
１．回答者の属性 31
２．男女平等について 39
３．仕事について 86
４．家庭生活・子育て・社会参加・防災について 103
５．配偶者等からの暴力・ハラスメントについて 138
６．男女共同参画施策について 147
７．自由意見 165

Ⅴ 事業所アンケートの結果 169
1．事業所の概要について 169
2．女性の登用について 171
3．育児・介護との両立支援について 175
4．男女がともに働きやすい環境について 179
5．男女共同参画に関する今後の取組について 182
6．自由意見 183

Ⅵ 調査票 162
1．市民意識調査 162
2．事業所アンケート 174

Ⅰ　調査の概要

Ⅰ 調査の概要

１．調査の目的

本市では、「綾部市男女共同参画条例」及び「綾部市男女共同参画計画第４次あいプラン」に基づき、男女が共に輝いて生きることのできるまちを目指し、様々な施策に取り組んでいます。

本調査は、男女共同参画に関する市民の方々の考えや生活状況を把握し、計画改定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

２．調査の方法

	市民意識調査	事業所アンケート
調査対象	綾部市内に在住の 18 歳以上の男女 1,000 人	綾部市内事業所 130 社
抽出方法	無作為抽出	綾部市商工会議所　会員事業所
調査方法	郵送による配布及び回収	郵送による配布及び回収
調査期間	令和７年３月 13 日～３月 26 日	令和７年３月 13 日～３月 26 日
調査内容	・男女平等について ・仕事について ・家庭生活・子育て・社会参加・防災について ・配偶者等からの暴力・ハラスメントについて ・男女共同参画施策について ・回答者の属性	・事業所の概要について ・女性の登用について ・育児・介護との両立支援について ・男女がともに働きやすい環境について ・男女共同参画に関する今後の取組について

３．回収結果

【市民意識調査】

発送数	回収数	無効票	有効回収数（率）				
			全体	性別			
				女性	男性	その他※	性別無回答
1,000 件 (100.0%)	455 件 (45.5%)	1 件 (0.1%)	454 件 (45.4%)	245 件	192 件	6 件	11 件

※答えたくない。どちらでもない。わからない。

【事業所調査】

標本数	回収数	無効数	有効回収数（率）
130 件 (100.0%)	73 件 (56.2%)	0 件 (0.0%)	73 件 (56.2%)

４．報告書の見方

①「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。

②「MA」は「Multiple Answer（複数回答)」の略で、1 つの質問に対して複数の選択肢を提示し、該当するものをすべて選んでもらう形式を指します。複数回答の場合、図中に MA（Multiple Answer＝いくつでも)、3LA（3 Limited Answer＝３つまで）と記載しています。

③単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第２位以下を四捨五入し、小数点第１位までを表記しています。このため、百分率の合計が 100.0%とならない場合があります。

④不明（無回答）はグラフから除いている場合があります。

⑤表内において、上位１位、上位２位には色付けをしています。また、全体と比べて５ポイント以上高い場合には△、10 ポイント以上低い場合には▼の記号を付けています。

⑥母数が少ない場合、分析から除外する場合があります。

⑦回答者の年齢構成で 70 歳以上が 46.5%を占めていることから、全体回答の結果は 70 歳以上の意見をより強く反映しています。

【今回調査と前回調査の回答者年齢構成の比較】

	今回調査		前回調査	
	件数	%	件数	%
20 歳未満	-	-	9 件	1.8%
20 歳代	13 件	2.9%	25 件	4.9%
30 歳代	32 件	7.0%	51 件	10.0%
40 歳代	36 件	7.9%	79 件	15.6%
50 歳代	71 件	15.6%	73 件	14.4%
60 歳代	85 件	18.7%	118 件	23.2%
70 歳以上	211 件	46.5%	148 件	29.1%
無回答	6 件	1.3%	5 件	1.0%
全体	454 件	100.0%	508 件	100.0%

II　調査結果のまとめ

Ⅱ 調査結果のまとめ

【市民意識調査】

１．回答者の属性（問19～問24）

○　性別は、「女性」が 54.0%、「男性」が 42.3%で女性の方が約 12%多くなっています。

○　年齢は、70 歳以上が 46.5%で母集団全体の構成比に比べて高いことから、全体の回答結果は、70 歳以上の人の意見がやや強く反映されていることになります。性別でみると、すべての年代で女性の方が回答率が多くなっています。

○　居住地域は、すべての性別、年齢別で「綾部」が多くなっています。

○　家族構成は、「２世代世帯（親と子ども)」が 37.0%で最も多く、次いで「配偶者・パートナーのみ（事実婚を含む)」が 34.4%、「ひとり暮らし」が 16.7%となっています。

○　配偶関係は、「配偶者・パートナーがいる」が 69.4%、「配偶者・パートナーはいない」が 29.1%となっています。

○　子どもの有無は、「いる」が 80.2%で、子どもの年代は、「社会人」が 83.5%、「大学生・大学院生・専門学校生」が 7.4%、「小学生」が 6.0%となっています。また、子どもの人数は、「2 人」が 43.1%、「３人」が 32.7%、「1 人」が 12.1%となっています。

２．男女平等について（問１）

（１）男女共同参画についての関心の有無

○　男女共同参画・ジェンダー平等のための様々な社会の動きに対する関心について、『関心あり』（「非常に関心を持っている」と「多少関心を持っている」の合計）が 67.4%、『関心なし』（「あまり関心を持っていない」と「まったく関心を持っていない」の合計）が 27.1%となっています。

○　前回調査と比較すると、『関心あり』は今回調査 67.4%・前回調査 58.3%と、今回調査の方が 9.1 ポイント男女共同参画への関心が上昇しており、特に女性にその傾向が強いことがいえます。

（２）各分野の男女の地位の平等感（問２）

○　各分野の男女の地位の平等感について、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）が最も多い項目は「④社会の慣習やしきたりなどでは」で 75.1%となっています。また『男性優遇』は「⑧社会全体では」「⑥政治への参加では」「②職場では」でも約 60%と多くなっています。

①学校教育では

○　学校教育ではについて、『男性優遇』が 13.5%、『女性優遇』（「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性の方が優遇されている」の合計）が 1.5%となっています。

○　すべての性別、年齢別で「平等」が最も多くなっています。

○　前回調査との大きな差はみられません。

②職場では

○　職場ではについて、『男性優遇』が 59.3%、『女性優遇』が 4.0%となっています。

○　性別による大きな差はみられません。
○　年齢別でみると、30 歳代、40 歳代は「平等」が他の年齢層と比べて多く 30%を超えています。60 歳以上では『男性優遇』が 60%を超えています。
○　前回調査との大きな差はみられません。

③家庭生活では

○　家庭生活ではについて、『男性優遇』が 45.4%、『女性優遇』が 5.7%となっています。
○　性別でみると、『男性優遇』は女性の方が約 15 ポイント多く、「平等」は男性の方が約 13 ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、30 歳代以下は『男性優遇』よりも「平等」が多くなっています。
○　前回調査と比較すると、今回調査では男女ともに「平等」が多くなっています。

④社会の慣習やしきたりなどでは

○　社会の慣習やしきたりなどではについて、『男性優遇』が 75.1%、『女性優遇』が 1.7%となっています。
○　性別による大きな差はみられません。
○　年齢別でみると、40 歳以上ではいずれも『男性優遇』が 70%を超えています。
○　前回調査との大きな差はみられません。

⑤法律や制度のうえでは

○　法律や制度のうえではについて、『男性優遇』が 44.9%、『女性優遇』が 3.1%となっています。
○　性別でみると、女性の方が約 17 ポイント多く、「平等」は男性の方が約 23 ポイント多くなっており、男女で意識の差が大きくなっています。
○　年齢別でみると、10・20 歳代と 40 歳代は「平等」が約 20%と少なくなっています。60 歳代は「平等」が 42.4%と他の年齢層と比べて多くなっています。
○　前回調査との大きな差はみられません。

⑥政治への参加では

○　政治への参加ではについて、『男性優遇』が 61.9%、『女性優遇』が 0.2%となっています。
○　性別でみると、『男性優遇』は女性の方が 8.3 ポイント多く、「平等」は男性の方が約 12 ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、40 歳代以上は『男性優遇』が６割を超えているのに対して、30 歳代以下は５割台となっています。
○　前回調査と比較すると、今回調査では女性は『男性優遇』がやや少なくなっている一方で、男性はやや多くなっています。

⑦地域活動の場では（自治会、ボランティア活動など）

○　地域活動の場（自治会、ボランティア活動など）ではについて、『男性優遇』が 42.1%、『女性優遇』が 8.2%となっています。
○　性別による大きな差はみられません。

○　年齢別でみると、30 歳代は『男性優遇』が 25.1%と他の年齢層と比べて少なく、「わからない」が 21.9%となっています。その他の年齢層の違いはさほど大きくありません。
○　前回調査と比較すると、今回調査では『男性優遇』が多くなっています。

⑧社会全体では

○　社会全体ではについて、『男性優遇』が 64.7%、『女性優遇』が 3.9%となっています。
○　性別でみると、『男性優遇』は女性の方が約８ポイント多く、「平等」は男性の方が約９ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、40 歳代以下は男性優遇感が６割を超えているのに対して、50 歳代以上は５割台となっています。
○　前回調査と比較すると、今回調査では「平等」が少なく、「わからない」が多くなっています。男女ともに「平等」が少なくなっています。

⑨各分野の男女の地位の平等感（全国調査との比較）

○　すべての分野で今回調査の方が『男性優遇』の割合が少なくなっています。特に「⑥政治への参加では」は差が大きくなっています。

（３）家庭生活等に関する意識について（問３）

○　「①『男性は仕事、女性は家事・育児』と役割分担をする方がよい」と「②女の子は『女らしく』、男の子は『男らしく』育てた方がよい」は、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）がそれぞれ 71.6%、57.5%と多くなっています。
○　「③女性も結婚、出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」「④父親も子育てに積極的にかかわった方がよい」「⑤政治など方針決定の場に参画する女性が今よりも増えた方がよい」「⑥自治会や PTA などの会長や役員に女性が増えた方がよい」では『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が約 80～90%を占めています。
○　「⑦希望する夫婦が別姓を選べるようにする方がよい」では、『そう思う』が 51.3%、『そう思わない』が 45.8%となっています。

①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割分担をする方がよい

○　性別でみると、『そう思う』は男性の方が多く、10 ポイント以上の意識差があります。
○　年齢別でみると、10～50 歳代ではいずれも『そう思わない』が 80%を超えています。70 歳以上は、『そう思う』が 30.8%と他の年齢層と比べて多くなっています。
○　性年齢別でみると、10～30 歳代では男女とも、『そう思わない』が約 80%となっていますが、40～50 歳代の『そう思わない』は女性 87.7%・男性 70.0%、60 歳以上の『そう思わない』は女性 74.0%・男性 57.8%と性別による違いが大きくなっています。
○　前回調査との大きな差はみられません。

②女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てた方がよい

○　性別でみると、『そう思わない』は女性の方が 27.6 ポイント多く、男女で意識差が大きくなっています。

○　年齢別でみると、『そう思わない』は 10～40 歳代では 70%台、50 歳以上では 50%台となっています。
○　性年齢別でみると、30 歳代以下よりも 40 歳代以上で男女の意識差が特に大きくなっています。
○　前回調査と比較すると、『そう思わない』が約 10 ポイント多くなっています。また、女性の方が、意識変化が大きくなっています。

③女性も結婚、出産にかかわらず仕事を続ける方がよい

○　性別による大きな差はみられません。
○　年齢別でみると、30 歳代、40 歳代は『そう思わない』が他の年齢層と比べて多くなっています。
○　性年齢別でみると、男性の 10～30 歳代では『そう思わない』が他の層と比べて多くなっています。
○　前回調査と比較すると、今回調査では男女ともに『そう思う』が多くなっています。

④父親も子育てに積極的にかかわった方がよい

○　性別でみると、男女とも『そう思う』が 90%以上を占めていますが、男性の方が「どちらかといえばそう思う」が約 15 ポイント多くなっています。
○　性年齢別でみると、40～50 歳代では「そう思う」が、女性の方が約 27%多く、性別による違いが大きくなっています。
○　前回調査との大きな差はみられません。

⑤政治など方針決定の場に参画する女性が今よりも増えた方がよい

○　性別でみると、男女とも『そう思う』が約 90%を占めていますが、女性の方が「そう思う」が約６ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、10～30 歳代では『そう思う』が 80%未満となっており、『そう思わない』が約 20%となっています。
○　性年齢別でみると、男性の 10～30 歳代では『そう思う』が６割台にとどまり、他の層との違いが大きくなっています。
○　前回調査と比較すると、女性の方がやや強く肯定する方向に変化しています。

⑥自治会や PTA などの会長や役員に女性が増えた方がよい

○　性別でみると、『そう思う』は男性の方が約 10 ポイント多くなっています。特に「そう思う」は男性の方が約 20 ポイント多くなっており、差が大きくなっています。
○　年齢別でみると、10～40 歳代では『そう思わない』が 30%を超えています。60 歳代は『そう思う』が他の層に比べて多くなっています。
○　性年齢別でみると、男女とも年齢層が低いほど『そう思わない』が多く、世代間の意識差が大きくなっています。
○　前回調査と比較すると、今回調査は男女ともに「そう思う」が多くなっています。

⑦希望する夫婦が別姓を選べるようにする方がよい

○　性別でみると、『そう思う』は女性の方が約 14 ポイント多くなっています。

○　年齢別でみると、30 歳代と 70 歳以上では、『そう思う』よりも『そう思わない』が多くなっています。
○　性年齢別でみると、男性はいずれの年齢層も『そう思う』よりも『そう思わない』が多くなっており、否定的な考えが多くみられます。女性は 50 歳代以下では『そう思う』が 70%台ですが、60 歳以上は『そう思う』と『そう思わない』がほぼ同割合となっています。また、50 歳代以下は男女の意識差が大きくなっています。

（４）男女共同参画に関する用語の認知度（問４）

○　男女共同参画に関する用語の認知度について、『認知度』(「知っている」と「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」の合計）が最も多いものは、「①男女共同参画社会」で 84.8%となっています。また、「②綾部市男女共同参画計画（あいプラン)」「⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和)」「③女性活躍推進法」も『認知度』が 50%を超えています。
○　一方、「⑤困難女性支援法」「⑦セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利)」は『認知度』が 40%を下回っています。

①男女共同参画社会

○　男女共同参画社会について、『認知度』は 84.8%となっています。
○　性別でみると、『認知度』は女性の方が約６ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、10～30 歳代と 50 歳代では『認知度』が 90%を超えています。
○　前回調査との大きな差はみられません。

②綾部市男女共同参画計画（あいプラン）

○　綾部市男女共同参画計画（あいプラン）について、『認知度』は 63.2%となっています。
○　性別でみると、『認知度』は男女とも約 60%となっていますが、女性の方が認知度が高くなっています。
○　年齢別でみると、30 歳代の『認知度』が最も低く、70 歳以上は『認知度』が約７割と高くなっています。
○　前回調査と比較すると、今回調査は『認知度』が約９ポイント多くなっており、特に女性の方が高くなっています。

③女性活躍推進法

○　女性活躍推進法について、『認知度』は 56.6%となっています。
○　性別による大きな差はみられません。
○　年齢別でみると、30 歳代、40 歳代では、「知らない」が 50%を超えています。
○　前回調査との大きな差はみられません。

④候補者男女均等法

○　候補者男女均等法について、『認知度』は 49.1%となっています。
○　性別による大きな差はみられません。
○　年齢別でみると、年齢があがるほど『認知度』が高くなっています。
○　前回調査と比較すると、今回調査は全体では変化がないですが、女性はやや上昇、男性はやや減少しています。

⑤困難女性支援法

○　困難女性支援法について、新しい法律ということもあり、認知度は 32.8%にとどまっています。
○　性別による大きな差はみられません。
○　年齢別でみると、10～30 歳代では「知らない」が約 90%を占めています。『認知度』は年齢があがるほど高くなっています。

⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

○　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について、『認知度』は 61.9%となっています。
○　性別による大きな差はみられません。
○　年齢別でみると、概ね若い世代ほど『認知度』が高い傾向にあります。
○　前回調査と比較すると、今回調査は男性の『認知度』が 10 ポイント以上低くなっています。

⑦セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）

○　セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）について、『認知度』は 35.5%となっています。
○　性別による大きな差はみられません。
○　年齢別でみると、10・20 歳代、60 歳代、70 歳以上の認知度が４割弱となっています。

３．仕事について

（１）回答者と配偶者・パートナーの職業（問５）

①回答者の職業

○　回答者の職業について、「年金生活」が 32.8%で最も多く、次いで「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など））」が約 20%となっています。
○　性別でみると、女性の方が「専業主婦・専業主夫」が約 10 ポイント多く、男性の方が「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」が約７ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、10～50 歳代では「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」、60 歳代では「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など））」、70 歳以上では「年金生活」が最も多くなっています。
○　前回調査と比較すると、今回調査は回答者の年齢構成で 70 歳以上が多いことから働いている人の割合が減少しています。「専業主婦・専業主夫」「無職（年金生活以外）」「年金生活」の合計は、今回調査が約 10 ポイント多くなっています。

①配偶者・パートナーの職業

○　配偶者・パートナーの職業について、「年金生活」が 34.6%で最も多く、次いで「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員)」「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など))」が約 20%となっています。

○　性別でみると、配偶者・パートナーの職業は、女性の方が「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員)」が約 17 ポイント、男性の方が「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など))」が約 17 ポイント、「専業主婦・専業主夫」が約 10 ポイント多くなっています。

○　年齢別でみると、10～50 歳代では「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員)」、60 歳代では「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など))」、70 歳以上では「年金生活」が最も多くなっています。

○　前回調査と比較すると、今回調査は「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員)」が約９ポイント少なくなっています。

○　「専業主婦・専業主夫」「無職（年金生活以外)」「年金生活」の合計は、今回調査 45.0%・前回調査 32.7%で、今回調査が 12.3 ポイント多くなっています。

（２）就労意向の有無（問５－１）

○　「働きたくない」が 47.8%で最も多く、「わからない」「条件が整えば働きたい」が約 20%となっています。

○　性別でみると、男性の方が「すぐ働きたい」が約 6.0 ポイント、「条件が整えば働きたい」が約 12 ポイント多くなっています。

○　年齢別でみると、60 歳代は「わからない」と「働きたくない」がそれぞれ 38.5%（5 件)、70 歳以上は「働きたくない」61.5%（16 件）が最も多くなっています。

○　前回調査と比較すると、今回調査は「わからない」が約 18 ポイント多くなっています。

（３）働きたいと考えているが現在働いていない理由（問５－２）

○　働きたいと考えているが現在働いていない理由について、「自分の健康に不安がある」が 40.0%（4 人）で最も多くなっています。

○　性別でみると、女性は「自分の健康に不安がある」(50.0%：3 件)、男性は「親や家族の介護・看護がある」(50.0%：2 件）が最も多くなっています。

○　前回調査と比較すると、今回調査は「希望の給料に合う勤め先が見つからない」「希望の勤務時間に合う勤め先が見つからない」「親や家族の介護・看護がある」が多くなっています。

（４）女性が責任ある職務や指導的立場などに参画していくために必要なこと（問６）

○　女性が責任ある職務や指導的立場などに参画していくために必要なことについて、「男性が女性を仕事上の対等なパートナーとみなすよう意識改革を進める」が 50.0%で最も多く、次いで「女性の人材育成を目的とした教育や研修の機会を増やす」「女性自身が指導的立場になることに消極的な意識を改める」が約 40%となっています。

○　性別でみると、女性の方が「すべての部署に男女双方を配置する」が約５ポイント、男性の方が「管理職の女性割合の目標と達成時期を設定し、計画的に取組を進める」約６ポイント多くなっています。

○　年齢別でみると、10・20 歳代は「女性の人材育成を目的とした教育や研修の機会を増やす」、40

歳代は「女性自身が指導的立場になることに消極的な意識を改める」、30歳代と50歳以上は「男性が女性を仕事上の対等なパートナーとみなすよう意識改革を進める」が最も多くなっています。

○　前回調査と比較すると、今回調査は「管理職の一定割合を女性に割り当てる」が約７ポイント、「管理職の女性割合の目標と達成時期を設定し、計画的に取組を進める」が約５ポイント多くなっています。男女それぞれの意識変革や人材育成教育は同程度ですが、積極的改善措置（ポジティブアクション）の割合が増加しています。

（５）育児や介護の有無にかかわらず働き続けるために必要なこと（問７）

○　育児や介護の有無にかかわらず働き続けるために必要なことについて、「休業を取りやすい職場環境、職場の雰囲気づくり」「企業の育児・介護休業制度の整備・充実」「男女がともに家族の家事・育児・介護を担う」が60％を超えています。

○　性別でみると、柔軟な働き方や家庭役割に男女の意識差が大きくなっています。

○　年齢別でみると、主に働き方や時間、職場の環境等への取組に対して年齢が低くなるほど回答が多くなる傾向がみられます。

○　前回調査と比較すると、今回調査はほとんどの項目で割合が増加しています。

４．家庭生活・子育て・社会参加・防災について

（１）男女役割分担について（問８－１～問８－２）

①理想の役割分担

○　男女役割分担について、いずれの項目も「両方同じくらいするのがよい」が 50％を超えており、「両方同じくらいするのがよい」が最も多い項目は「⑤子どもの教育としつけ」の 86.6％となっています。

○　『男性がするのがよい』（「主に男性がするのがよい」と「どちらかといえば男性がするのがよい」の合計）が最も多い項目は、「①生活費をかせぐ」で 43.0％、次いで「⑦自治会など地域活動への参加」で28.6％となっています。

○　『女性がするのがよい』（「主に女性がするのがよい」と「どちらかといえば女性がするのがよい」の合計）が最も多い項目は、「⑥育児（乳幼児の世話）」で 40.5％、次いで「②日々の家計の管理」で32.4％、「③日常の家事」で26.6％となっています。

②生活費をかせぐ（理想）

○　「両方同じくらいするのがよい」が 50.7％で最も多くなっています。また、『男性がするのがよい』が43.0％となっています。

○　性別でみると、男女の意識差は小さくなっています。

○　年齢別でみると、「同じくらい」は 40 歳代が突出して多くなっており、『男性がするのがよい』は若年者と高齢者で割合が高くなっています。

③日々の家計の管理（理想）

○　「両方同じくらいするのがよい」が 59.9％で最も多くなっています。また、『女性がするのがよい』が32.4％となっています。

○　性別でみると、「両方同じくらいするのがよい」は男女ともに約 60%となっています。『女性がするのがよい』は男性の方が約 7.0 ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、「同じくらい」は若年層と高齢者で５割以下となっています。

④日常の家事（理想）

○　「両方同じくらいするのがよい」が 67.4%で最も多くなっています。また、『女性がするのがよい』が 26.6%となっています。
○　性別でみると、「両方同じくらいするのがよい」は男女ともに 65%を超えています。『女性がするのがよい』は男性の方が約５ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、30～50 歳代では家事の分担に対する意識が高くなっています。

⑤老親や病身者の介護や看護（理想）

○　「両方同じくらいするのがよい」が 85.0%で最も多くなっています。
○　性別による大きな差はみられません。
○　年齢別でみると、30 歳代から 60 歳代までは「両方同じくらい」が 90%を超えているが、10・20 歳代と 70 歳以上は 70%台にとどまっています。10・20 歳代では「男性」が、70 歳以上では「女性」が他の年齢層より多くなっています。

⑥子どもの教育としつけ（理想）

○　「両方同じくらいするのがよい」が 86.6%で最も多くなっています。
○　性別でみると、『女性がするのがよい』は男性の方が約６ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、若年層と高齢者で「両方」がやや少なくなっています。

⑦育児（乳幼児の世話）（理想）

○　「両方同じくらいするのがよい」が 53.5%で最も多くなっています。『女性がするのがよい』が 40.5%となっています。
○　性別でみると、「両方同じくらいするのがよい」は女性の方が約９ポイント多くなっています。『女性がするのがよい』は男性の方が約 12 ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、10・20 歳代と 40 歳代、50 歳代では「両方同じくらいするのがよい」が 60%を超えています。70 歳以上では「女性がするのがよい」が 47.4%で、「両方同じくらいするのがよい」よりも多くなっています。

⑧自治会など地域活動への参加（理想）

○　「両方同じくらいするのがよい」が 66.5%で最も多くなっています。『男性がするのがよい』が 28.6%となっています。
○　性別による大きな差はみられません。
○　年齢別でみると、10～50 歳代では「両方同じくらいするのがよい」が 70%を超えています。特に 40 歳代は 86.1%と多くなっています。60 歳以上では『男性がするのがよい』が約 30%となっています。

⑨実際の男女役割分担

○　実際の男女役割分担について、「両方同じくらいするのがよい」が最も多いものは「⑤子どもの教育としつけ」で 30.2%となっています。

○　『男性がしている』(「主に男性がしている」と「どちらかといえば男性がしている」の合計)が最も多いものは「⑦自治会など地域活動への参加」で 55.7%、次いで「①生活費をかせぐ」で 48.7%となっています。

○　『女性がしている』(「主に女性がしている」と「どちらかといえば女性がしている」の合計)が最も多いものは「③日常の家事」で 69.4%、次いで「②日々の家計の管理」で 55.7%、「⑥育児（乳幼児の世話)」で 43.2%、「④老親や病身者の介護や看護」で 32.8%、「⑤子どもの教育としつけ」で 28.6%となっています。

⑩生活費をかせぐ（実際）

○　『男性がしている』が 48.7%となっています。

○　性別でみると、『男性がしている』は男性の方が 21.7 ポイント多くなっており、男女の意識差が大きくなっています。

○　年齢別でみると、30 歳代では「主に男性がしている」が 37.5%と多く、『男性がしている』が 62.5%となっています。

⑪日々の家計の管理（実際）

○　『女性がしている』が 55.7%となっています。

○　性別でみると、『女性がしている』は女性の方が 12 ポイント多く、『男性がしている』は男性の方が約 17 ポイント多くなっており、男女の意識差が大きくなっています。

○　年齢別でみると、10～40 歳代では『女性がしている』が 60%を超えています。50 歳代では「両方同じくらいしている」が他の年齢層よりも多くなっています。

⑫日常の家事（実際）

○　『女性がしている』が約 70%となっています。

○　性別でみると、『女性がしている』は女性の方が 11.7 ポイント多く、『男性がしている』は男性の方が 9.3 ポイント多くなっています。

○　年齢別でみると、30～50 歳代では『女性がしている』が 70%を超えています。

⑬老親や病身者の介護や看護（実際）

○　「いずれにも該当しない」が 30.0%で、『女性がしている』が 32.8%となっています。

○　性別でみると、『女性がしている』は女性の方が 17.4 ポイント多くなっています。「両方同じくらいしている」『男性がしている』は男性の方が約６～７ポイント多くなっています。

○　年齢別でみると、40 歳代は「女性がしている」が 47.2%と他の年齢層よりも多くなっています。

⑭子どもの教育としつけ（実際）

○　「両方同じくらいしている」が 30.2%で最も多くなっています。『女性がしている』が 28.6%となっています。

○　性別でみると、『女性がしている』は女性の方が 10 ポイント多くなっています。「両方同じくらいしている」は男性の方が 10.1 ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、40 歳代では、『女性がしている』が約 30～50％となっています。

⑮育児（乳幼児の世話）（実際）

○　「いずれにも該当しない」が 30.2％で、『女性がしている』が 43.2％となっています。
○　性別でみると、「いずれにも該当しない」は男性の方が約６ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、40 歳代は『女性がしている』が 66.7％と多くなっています。また、30 歳代と 50 歳代でも『女性がしている』が 50％を超えています。

⑯自治会など地域活動への参加（実際）

○　『男性がしている』が 55.7％となっています。
○　性別でみると、『女性がしている』は女性の方が約 12 ポイント多くなっています。『男性がしている』は男性の方が約 23 ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、30 歳代、40 歳代では『女性がしている』が 20％で、他の年齢層よりも多くなっています。10・20 歳代と 50 歳代、60 歳代では『男性がしている』が 60％を超えています。

（２）「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（問９）

①希望

○　生活の中で優先すること(希望)について、「仕事と家庭生活」「家庭生活」「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活」が 20％前後となっています。
○　性別による大きな差はみられません。
○　年齢別でみると、10・20 歳代と 50 歳代、60 歳代は「仕事と家庭生活」、30 歳代、40 歳代は「家庭生活」、70 歳以上は「家庭生活と地域活動・個人の生活」が最も多くなっています。
○　前回調査と比較すると、今回調査・前回調査とも「仕事と家庭生活」が最も多く、大きな違いはみられません。

②現実

○　生活の中で優先すること(現実)について、「仕事と家庭生活」「家庭生活」「仕事」が 20％前後となっています。
○　性別でみると、女性の方が「仕事と家庭生活」「家庭生活と地域活動・個人の生活」が５ポイント以上多く、男性の方が「仕事と地域活動・個人の生活」が 10.6 ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、10・20 歳代と 40 歳代は「仕事」、30 歳代と 50 歳代、60 歳代は「仕事と家庭生活」、70 歳以上は「家庭生活」が最も多くなっています。
○　前回調査と比較すると、今回調査は「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活」が 8.9 ポイント少なく、「仕事」が 11.4 ポイント多くなっています。

（３）男性が家事、子育て、介護などに積極的に参加していくために必要なこと（問10）

○　「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が 54.6%で最も多く、次いで「『家庭や地域のことをするのは女性の役目』という固定的な考え方を改めること」が 48.7%、「労働時間の短縮や育児や介護などの休暇制度の整備について、企業に働きかけること」が 40.1%となっています。

○　性別でみると、女性の方が「その他」「特に必要なことはない」以外の項目がいずれも多くなっており、「『家庭や地域のことをするのは女性の役目』という固定的な考え方を改めること」で 18.4 ポイント差、「男性の家事、育児、介護の技能を高めること」で 10.4 ポイント差などとなっています。

○　年齢別でみると、10～30 歳代はほとんどの項目で他の年齢層よりも回答が多くなっています。40 歳代は「『家庭や地域のことをするのは女性の役目』という固定的な考え方を改めること」が 61.1%で最も多くなっています。

○　前回調査と比較すると、今回調査は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が約 10 ポイント多くなっています。

（４）女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと（問11）

○　「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が 52.4%で最も多く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が 45.2%、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」が 30.8%となっています。

○　性別でみると、女性の方が「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が約８ポイント、男性の方が「女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと」「女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること」が約７ポイント多くなっています。

○　年齢別でみると、10・20 歳代は「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」、30 歳以上は「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が最も多くなっています。

○　前回調査と比較すると、今回調査は「女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと」「女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること」が８ポイント以上多くなっています。

（５）男女が協力し合って災害対応をしていくために必要なこと（問12）

○　「日頃から男女が協力して地域のことを進める」が 66.3%で最も多く、次いで「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」が 41.2%、「女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルの作成」が 40.1%となっています。

○　性別でみると、女性の方が「女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルの作成」が約７ポイント多くなっています。

○　年齢別でみると、10・20 歳代と 60 歳代は「防災の女性リーダーの養成」が 30%を超えています。

○　前回調査と比較すると、今回調査は「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」が約８ポイント多くなっています。

（６）男女共同参画を進めるために子どもへの教育に必要なこと（問13）

○　「男女双方に、家事能力が身につくような経験をさせる」「男女平等の意識を育てる教育をする」「男女がともに家庭の責任を果たすことの大切さを教える」が約 50%となっています。

○　性別でみると、女性の方が「テレビやインターネットなどの情報を読み解いて使いこなすための教育を進める」「特に必要なことはない」以外の項目がいずれも多くなっています。特に「周囲の大人が、男女が平等で対等な人間関係をつくる」「『男の子だから』『女の子だから』といった役割やふるまいを性別で決めつけるような言い方をしない」で差が大きくなっています。

○　年齢別でみると、10～40 歳代では「進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与え、本人の希望を優先し応援する姿勢を持つ」が 60%を超えています。また、40 歳代は「男女双方に、家事能力が身につくような経験をさせる」「男女双方に、経済的自立の意識を持つよう働きかける」「周囲の大人が、男女が平等で対等な人間関係をつくる」が 60%を超えています。

○　前回調査と比較すると、今回調査は「男女双方に、経済的自立の意識を持つよう働きかける」「男女双方に、家事能力が身につくような経験をさせる」が８ポイント以上多くなっています。

５．配偶者等からの暴力・ハラスメントについて

（１）DV・ハラスメントなどの経験（問14）

○　DV・ハラスメントなどの経験について、「パワー・ハラスメント」が 17.6%で最も多くなっています。いずれかの経験がある人は 32.8%となっています。

○　性別でみると、「パワー・ハラスメント」と「パタニティ・ハラスメント」は男性の方が女性より多いですがその他は女性の方が多くなっています。いずれかの経験がある人は女性 38.8%・男性 27.6%で女性の方が 10 ポイント以上多くなっています。

○　年齢別でみると、30～50 歳代では「パワー・ハラスメント」が 20%を超えています。また、40～60 歳代では「痴漢」が 10%を超えています。

○　前回調査と比較すると、今回調査の比較可能な項目はいずれも少なくなっています。

（２）DV・ハラスメントなどを受けた際の相談状況（問15）

○　DV・ハラスメントなどを受けた際の相談状況について、「相談しなかった」が 52.3%で最も多く、次いで「友人・知人」が 25.5%、「親・きょうだい・子ども・親戚」が 16.8%となっています。

○　性別でみると、女性の方が「親・きょうだい・子ども・親戚」が約 12 ポイント、男性の方が「相談しなかった」が 16 ポイント多くなっています。

○　年齢別でみると、30 歳代は「友人・知人」（40.0%：4 件）、40 歳代は「親・きょうだい・子ども・親戚」（33.3%：6 件）が他の年齢層と比べて多くなっています。

○　前回調査と比較すると、今回調査は「友人・知人」「親・きょうだい・子ども・親戚」が 10 ポイント以上少なく、「相談しなかった」が 10 ポイント以上多くなっています。

（３）DV・ハラスメントなどを相談しなかった理由（問16）

○　相談しなかった理由について、「相談するほどのことではないと思った」が 28.2%で最も多く、次いで「自分さえもっとしっかりすればいいのだと思った」「相談しても自分のせいにされたり、我慢するように言われるのではないかと思った」「そのことについて思い出したくない」が約 20%となっています。

○　性別でみると、男性の方が「相談したことが相手に知られると、さらに事態が悪くなると思った」が約 15 ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、年齢ごとに理由は様々となっています。
○　前回調査と比較すると、今回調査は「誰（どこ）に相談したらいいのかわからなかった」「世間体が悪いので、人に知られたくないと思った」が 10 ポイント以上少なくなっている一方で、「このことが知れると、周囲の人に心配や迷惑をかけるのではないかと思った」「自分さえもっとしっかりすればいいのだと思った」が約５ポイント多くなっています。

６．男女共同参画施策について

（１）この10年間の男女共同参画の変化（問17）

○　この 10 年間の男女共同参画の変化について、『進んでいる』（「進んでいる」と「どちらかといえば進んでいる」の合計）が最も多いものは、「①男女平等の考え方」で 61.4%、次いで「②職場における女性の活躍」で 53.8%となっています。
○　『進んでいない』（「どちらかといえば進んでいない」と「進んでいない」の合計）が最も多いものは、「③自治会など地域活動における女性の活躍」で 50.3%、次いで「⑥DV など女性に対する暴力をなくすための取組」で 45.2%となっています。

①　男女平等の考え方

○　『進んでいる』が約 60%、『進んでいない』が約 30%となっています。
○　性別でみると、『進んでいる』は男性の方が約７ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、40 歳代、50 歳代では『進んでいる』が約 70%となっています。
○　前回調査との大きな差はみられません。

②　職場における女性の活躍

○　『進んでいる』が約 50%、『進んでいない』が約 30%となっています。
○　性別でみると、『進んでいない』は女性の方が約８ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、30～50 歳代では『進んでいる』が 60%を超えています。
○　前回調査と比較すると、今回調査は『進んでいる』が約６ポイント少なくなっています。

③　自治会など地域活動における女性の活躍

○　『進んでいる』が約 40%、『進んでいない』が約 50%となっています。
○　性別でみると、『進んでいない』は男性の方が約 20 ポイント多くなっています。
○　年齢別でみると、10～50 歳代では『進んでいない』が約 60%と多くなっています。
○　前回調査と比較すると、今回調査は『進んでいる』で男性が約８ポイント少なくなっています。

④　仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさ

○　『進んでいる』『進んでいない』がともに 40%以上となっています。
○　性別でみると、『進んでいる』は女性 42.8%・男性 44.3%で、性別による大きな違いはみられません。
○　年齢別でみると、30 歳代、40 歳代では『進んでいない』が 50.0%となっています。50 歳代では

『進んでいる』が 53.5%で、『進んでいない』よりも多くなっています。

○　前回調査との大きな差はみられません。

⑤　男性の子育て、介護への参画

○　『進んでいる』『進んでいない』がともに 40%以上となっています。

○　性別による大きな差はみられません。

○　年齢別でみると、30 歳代、40 歳代では『進んでいる』が約 60%となっています。

○　前回調査と比較すると、今回調査は『進んでいない』が約８ポイント少なくなっています。

⑥　DV など女性に対する暴力をなくすための取組

○　『進んでいる』が 36.6%、『進んでいない』が 45.2%となっています。

○　性別でみると、『進んでいる』は男性の方が約 10 ポイント多くなっています。

○　年齢別でみると、10～30 歳代では『進んでいない』が 60%を超えています。

○　前回調査と比較すると、今回調査は『進んでいない』が約８ポイント少なくなっています。

⑦　行政などの相談窓口の充実

○　『進んでいる』が 43.2%、『進んでいない』が 37.0%となっています。

○　性別でみると、『進んでいない』は男性の方が約６ポイント多くなっています。

○　年齢別でみると、10～30 歳代では『進んでいない』が約 50～60%となっています。

○　前回調査と比較すると、今回調査は『進んでいない』が 9.0 ポイント少なくなっています。

（２）綾部市が今後さらに力を入れて取り組むべきこと（問18）

○　綾部市が今後さらに力を入れて取り組むべきことについて、「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」が最も多く、次いで「高齢者に対する社会サービスを充実させること」となっています。

○　性別でみると、女性は「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」が男性より 12.8 ポイント多く、男性は「ひとり親家庭等への援助、社会保障を充実させること」が女性より 9.3 ポイント多くなっています。

年齢別でみると、30 歳代、40 歳代では「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」「保育所や放課後学級の施設などを充実すること」が、50 歳以上と比べて多くなっています。

【事業所アンケート】

１．事業所の概要について（問１～問２）

○　回答事業所の主な業種は、「製造業」（41.1％）、「建設業」（17.8％）、「サービス業」（11.5％）、「卸売・小売業」（11.0％）となっている。

○　本調査に記載された管理職数の女性割合は 14.5％、正規従業員の女性割合は 32.6％、非正規従業員の女性割合は 63.9％となっている。

２．女性の登用について（問３～問６）

○　女性従業員数は、「増えている」が 37.0％、女性管理職数は、12.3％が「増えている」と回答しています。

○　今後の女性雇用の増減については、「どちらともいえない」が 61.6％で最も多くなっています。

○　現在、取り組んでいる女性の積極的登用のための取組について、「従業員の勤務時間や担当業務などに本人の希望を反映」「従業員から職場環境の改善について意見要望を取り上げる」「従業員の資格取得や社会貢献活動を支援」が５割以上となっています。

○　今後、取り組みたい女性の積極的登用のための取組について、女性活躍加速化助成金の活用」「管理職を対象に女性従業員活用のための指導や研修の実施」が約３割となっています。

○　女性を管理職に登用するうえでの課題について、「女性自身が管理職を望まない傾向がある」が 57.5％で最も多くなっています。

３．育児・介護との両立支援について（問（７～問10）

○　育児休業取得状況について、「令和５年度中に出産した女性従業員数」は 28 人、「うち、育児休業を取得した女性従業員数」は 30 人となっています。

○　「令和５年度中に配偶者が出産した男性従業員数」は 46 人、「うち、育児休業を取得した男性従業員数」は 25 人となっています。

○　「産後パパ育休(出生時育児休業)を取得した男性従業員数」は 22 人となっています。

○　介護休業の取得状況について、「令和５年度中に介護休業を取得した女性従業員数」は６人、「令和５年度中に介護休業を取得した男性従業員数」は３人となっています。

○　現在、取り組んでいる育児・介護をしながら働きつづけるための取組について、「半日又は時間単位の有給休暇の付与制度」「有給休暇の計画的取得、時季指定の取得の推進」が５割以上となっています。

○　今後、取り組みたい育児・介護をしながら働きつづけるための取組について、「両立支援等助成金の活用」が 28.8％で最も多くなっています。

○　仕事と育児や介護の両立支援を推進しようとする際の問題について、「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」が 53.4％で最も多くなっています。

４．男女がともに働きやすい環境について（問11～問12）

○　企業認定・認証制度の認知度について、「知っている」が 58.9％で最も多くなっています。

○　現在、取り組んでいるハラスメント防止のための取組について、「就業規則などにハラスメント防止の規定を設ける」が 54.8％で最も多くなっています。

○　今後、取り組みたいハラスメント防止のための取組について、「従業員を対象に職場環境につい

ての調査を行う」が 24.7%で最も多くなっています。

５．男女共同参画に関する今後の取組について（問13）

○　男女共同参画を進めるにあたり行政に対して希望することについて、「広報誌やパンフレットなどで、事業所の男女共同参画について啓発を行う」が 28.8%で最も多く、次いで「男女共同参画の推進や女性の能力開発のための講座やセミナーを開催する」が 27.4%、「特に何もない」が 26.0%となっています。

Ⅲ　調査結果からみる課題

Ⅲ 調査結果からみる課題

■男女平等、男女共同参画に関する意識について

○ 男女共同参画・ジェンダー平等のための様々な社会の動きに対する関心度が、前回調査では男性の方が女性より関心度が高かったのが、今回調査では女性で大きく上昇して、男性を上回っています。男女共同参画に関する用語の認知度が女性はいずれも上昇しており、男女共同参画・ジェンダー平等についての情報にふれる機会が増加していることが背景にあると推測されます。

○ 「男性は仕事、女性は家事・育児」という性別役割分担に否定的な人、女性の就労継続に肯定的な人は増加しており、市民意識はジェンダー平等の方向に変化している様子がうかがえています。その一方で、社会全体での男女平等感では、６割以上の人が『男性優遇』と感じている現実はほとんど変わっていません。

○ また、性別でみたときに、女性の方が男性よりも、社会の各分野における男性優遇感は強い傾向で、性別役割分担に否定的な人の割合は高いなどの男女の意識差が大きい点についても前回調査と同様の傾向がみられます。

○ 国における職業分野における女性活躍推進や子育て支援の充実などを背景に、結婚・出産後も働きつづける女性の増加や男性の育児休業取得率の上昇などに変化が見られます。現在、60 歳代以上の人とその子ども世代にあたる子育て世代では、子育てをめぐる環境が大きく異なります。ジェンダー平等意識が高まるほどに、これまで気づいていなかったジェンダー不平等な状況に気づくことが、社会における男性優遇感が払しょくされない要因であると推測できます。

○ 国では、「アンコンシャス・バイアス（性別に基づく無意識の思い込み・偏見）」の存在について研究・啓発を行うなど、日常生活の様々な場面で「男だから、女だから」と無意識のうちに決めつけてしまうことへの気づきを促しています。

○ 性差に関する固定観念や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）は、誰もが持つものですが、思い込みによる決めつけや判断は、時として相手に不快感を与えたり、傷つけたりすることがあります。また、自分自身の選択肢を狭めたり、生きづらさにつながったりすることもあります。一人ひとりが、性別に基づく無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に気づくような機会を提供することが必要です。

■女性の活躍推進について

○ 本調査の事業所アンケートでは、女性従業員数、女性管理職数ともに「増えている」という事業所の割合が増加しており、今後の雇用についても「増やしたい」という事業所が増えており、事業所側の女性活用意欲は高まっている様子がうかがえます。

○ 人材不足が事業所の大きな課題であるなかで「共同参画しないと企業は回らない」といった意見も寄せられていますが、女性管理職登用の課題としては、前回同様に「女性自身が管理職を望まない傾向がある」が最も多くあげられています。

女性が管理職を望まない背景には、依然、家事・育児・介護との両立の負担感もあると考えられるため、女性の意識変革とともに男性の家事・育児・介護への参加を進めていく必要があります。「各事業所における取組の事例紹介など交流の場があるとよい」といった意見も寄せられており、男女がともに働きやすい職場づくりや女性活躍のロールモデルの紹介など情報発信や

事業所を支援する取組が求められています。

○　市民アンケート調査では、女性が責任ある職務や指導的立場に参画するために必要なことに対しては、前回調査では女性の方が男性より回答割合が多かった「男性が女性を仕事上の対等なパートナーとみなすよう意識改革を進める」について、今回調査では男性 52.6%、女性 49.8%と男性の方が多くなっています。

また、女性が地域活動のリーダーになるために必要なことでは、女性の回答で「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」がわずかながら「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」よりも多いなど男女双方の意識がやや変化している様子がうかがえています。

男女が対等に意思決定に参画するために、研修機会や役職の一定割り当て、計画的な登用など具体的な取組を推進する必要があります。

○　育児や介護をしながら働き続けるために必要なことに対しては、すべての項目において女性の方が男性よりも回答割合が多くなっていることは前回調査と同様であり、女性の方が仕事と育児・介護の両立に多様な課題を感じていることは変わっていません。働き続けやすい職場環境、家事・育児・介護の共同参画、育児・介護を支援するサービスなど、多方面からの取組が求められています。

■配偶者等からの暴力・ハラスメントについて

○　いずれかの DV やハラスメントの経験がある割合は、女性が 38.8%、男性が 27.6%となっています。「パワー・ハラスメント」と「パタニティ・ハラスメント」以外は女性の方が男性よりも被害経験の割合が多くなっています。女性の方が様々な被害を受けているものの、男性では「パワー・ハラスメント」を受けた経験が２割を超えています。

○　様々なハラスメントが社会問題化し、事業主に対して職場におけるハラスメント防止対策が義務づけられようになりました。パワー・ハラスメントについては、事業主は防止のための方針の明示や相談体制、発生時の対応などを行うことが義務づけられていますが、事業所アンケート調査では、ハラスメント防止のための取組をどれもしていないという回答が約１割、無回答が約４割と多く、事業所に対する情報発信・啓発等の取組が必要となっています。

○　DV については、社会的認識が広がり、全国的に相談件数が増加しています。しかし、市民アンケート調査では、DV・ハラスメントなどを受けた際に「相談しなかった」と回答した人が５割を超えており、前回調査時よりも多くなっています。相談しなかった理由は様々ですが、「自分さえもっとしっかりすればいいのだと思った」「相談しても自分のせいにされたり、我慢するように言われるのではないかと思った」など自分を責めたり、相談することで余計に傷つくことを恐れるような回答が比較的多くあげられています。また、わずかながら「誰（どこ）に相談したらいいのかわからなかった」の回答も見られます。

性別にかかわらず、誰もが躊躇することなく相談につながりやすい相談体制が必要です。

■男女共同参画施策について

○　この 10 年間の男女共同参画の変化では、「男女平等の考え方」は前回調査同様に進んでいると感じる人が６割を超えていますが、回答割合はやや減少しています。「職場における女性の活躍」も前回より回答割合が減少していますが、進んでいると感じる人が半数を超えています。

一方で、進んでいると感じる人が増加したのは「男性の子育て、介護への参加」「DV など女性に対する暴力をなくすための取組」「行政などの相談窓口の充実」の３項目があげられます。「男性の子育て、介護への参加」は進んでいると感じる人が進んでいないと感じる人をわずかに上回っています。

進んでいないと感じる人の方が多いのは、「自治会など地域活動における女性の活躍」と「DV など女性に対する暴力をなくすための取組」の２項目となっており、次期計画において重点的に取り組むべきこととして、これら２項目について優先的に検討する必要があると考えられます。

○ 綾部市が今後さらに取り組むべきこととしては、前回調査同様に「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」「保育所や放課後学級の施設などを充実すること」「育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること」は上位にあげられているが、今回調査では「高齢者に対する社会サービスを充実させること」が第２位にあげられている。今回調査では回答者の年齢構成が高齢者にシフトしていることが影響していると考えられるが、高齢者が主体的に参加して、生活の充実感を高めるとともに生きがいを得られるような世代間交流の取組が求められていると考えられます。

○ 事業所が行政に対して希望することでは、「広報やパンフレットなどで、事業所の男女共同参画について啓発を行う」「男女共同参画の推進や女性の能力開発のための講座やセミナーを開催する」が上位にあげられており、事業所自身が取り組みたいこととして「女性活躍加速化助成金の活用」が最上位にあげられています。女性従業員や女性管理職を今後増やしたいと回答した事業所が４割近くあることからも、女性を戦力として活用するための市内事業所へ向けた支援施策を検討する必要があります。

Ⅳ　市民意識調査の結果

Ⅳ 市民意識調査の結果

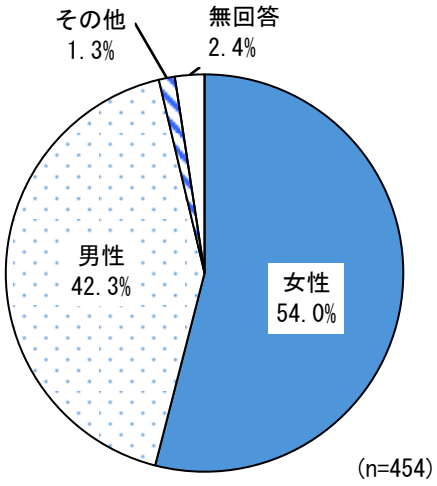
１．回答者の属性

（１）性別

【全体】

○　性別について、「女性」が54.0%で最も多く、次いで「男性」が42.3%、「その他」が1.3%となっています。

【性別】



（2）年齢

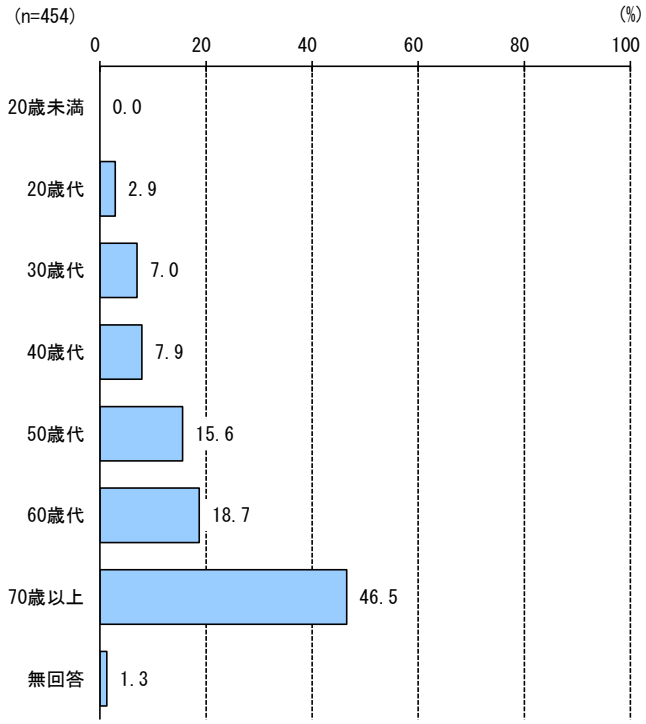
【全体】

○　年齢について、「70 歳以上」が 46.5%で最も多く、次いで「60 歳代」が 18.7%、「50 歳代」が 15.6%となっており、50 歳以上の回答者が約 80%を占めています。

【性別】

○　性別でみると、男女とも「70 歳以上」が 40%以上で最も多く、次いで女性は「50 歳代」、男性は「60 歳代」が多くなっています。

【年齢】



【性別 年齢】

単位：%

		母数 (n)	年齢							
			20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全体		454	－	2.9	7.0	7.9	15.6	18.7	46.5	1.3
性別	女性	245	－	3.3	5.3	9.8	16.7	15.9	48.6	0.4
	男性	192	－	2.6	9.4	5.7	15.1	22.9	43.8	0.5
	その他	6	－	－	△ 16.7	△ 16.7	－	16.7	50.0	－

（3）居住地域

【全体】

○　居住地域について、「綾部」が 36.1％で最も多く、次いで「中筋」が 11.2％、「豊里」が 10.6％となっています。

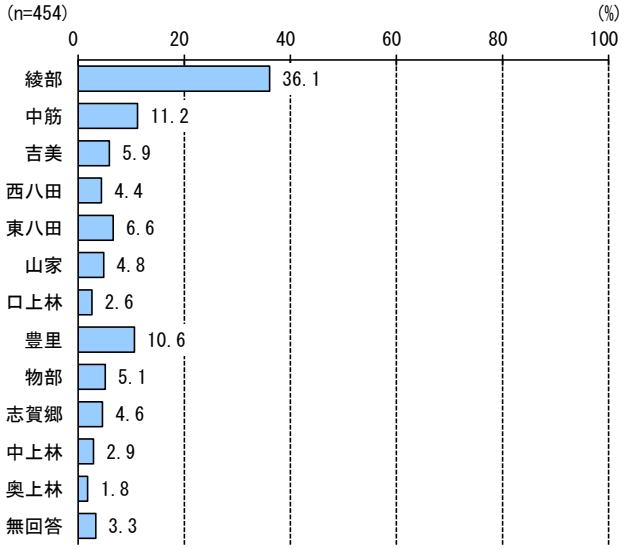
【性別】

○　性別でみると、男女とも「綾部」が最も多くなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、「綾部」の割合は 30 歳代で 59.4％を占めており、また、10・20 歳代と 50 歳代でも 40％以上と多くなっています。

【居住地域】



【性別、年齢別 居住地域】

単位：％

		母数(n)	居住地域 綾部	中筋	吉美	西八田	東八田	山家	口上林
全体		454	36.1	11.2	5.9	4.4	6.6	4.8	2.6
性別	女性	245	36.7	12.7	6.1	4.5	4.1	6.1	2.4
	男性	192	34.9	10.4	6.3	4.2	9.9	3.6	3.1
	その他	6	△ 50.0	－	－	△ 16.7	△ 16.7	－	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 46.2	△ 23.1	△ 15.4	－	－	7.7	－
	30歳代	32	△ 59.4	9.4	6.3	3.1	－	－	3.1
	40歳代	36	▼ 25.0	△ 16.7	5.6	△ 11.1	2.8	8.3	2.8
	50歳代	71	△ 45.1	12.7	9.9	2.8	5.6	－	2.8
	60歳代	85	32.9	9.4	4.7	5.9	7.1	4.7	3.5
	70歳以上	211	33.2	10.0	4.7	3.8	9.0	6.6	2.4

単位：％

		母数(n)	居住地域 豊里	物部	志賀郷	中上林	奥上林	無回答
全体		454	10.6	5.1	4.6	2.9	1.8	3.3
性別	女性	245	11.4	4.9	3.3	2.9	1.6	3.3
	男性	192	9.9	5.7	6.8	2.6	1.0	1.6
	その他	6	△ 16.7	－	－	－	－	－
年齢別	10・20歳代	13	7.7	－	－	－	－	－
	30歳代	32	12.5	3.1	3.1	－	－	－
	40歳代	36	△ 19.4	5.6	2.8	－	－	－
	50歳代	71	9.9	4.2	2.8	1.4	－	2.8
	60歳代	85	12.9	5.9	2.4	3.5	2.4	4.7
	70歳以上	211	8.5	5.7	7.1	4.3	2.8	1.9

（４）家族構成

【全体】

○　家族構成について、「２世代世帯（親と子ども）」が37.0%で最も多く、次いで「配偶者・パートナーのみ（事実婚を含む）」が34.4%、「ひとり暮らし」が16.7%となっています。

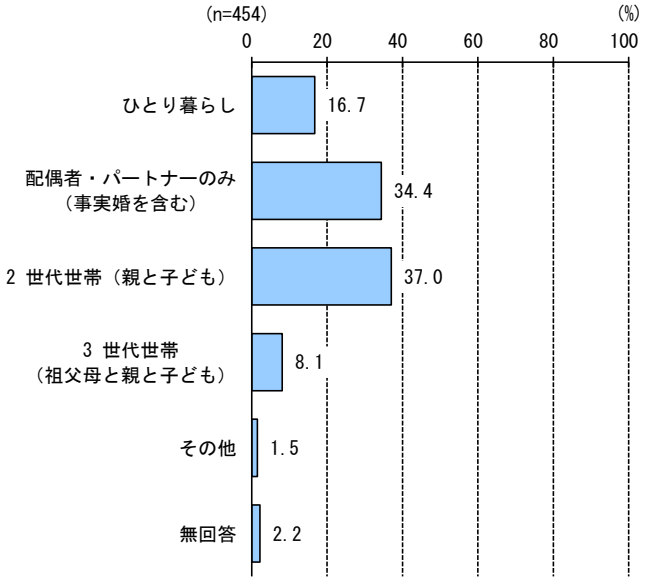
【性別】

○　性別でみると、女性は「２世代世帯（親と子ども）」、男性は「配偶者・パートナーのみ（事実婚を含む）」が最も多くなっています。また、「ひとり暮らし」は女性 20.0%・男性 13.0%で、女性の方が7.0ポイント多くなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、10～50歳代では「２世代世帯（親と子ども）」が最も多く、30～40歳代では60%以上を占めています。60 歳以上では「配偶者・パートナーのみ（事実婚を含む）」が最も多く、また、70 歳以上では「ひとり暮らし」が 24.2%と他の年齢層と比べて多くなっています。

【家族構成】



【性別、年齢別 家族構成】

単位：%

		母数(n)	家族構成					
			ひとり暮らし	配偶者・パートナーのみ（事実婚を含む）	2世代世帯（親と子ども）	3世代世帯（祖父母と親と子ども）	その他	無回答
全体		454	16.7	34.4	37.0	8.1	1.5	2.2
性別	女性	245	20.0	31.8	37.6	8.2	1.2	1.2
	男性	192	13.0	△ 39.6	35.4	8.9	1.6	1.6
	その他	6	△ 33.3	▼ 16.7	△ 50.0	－	－	－
年齢別	10・20歳代	13	15.4	▼ 7.7	△ 46.2	△ 30.8	－	－
	30歳代	32	▼ 6.3	▼ 9.4	△ 68.8	9.4	6.3	－
	40歳代	36	▼ 2.8	▼ 16.7	△ 61.1	△ 16.7	2.8	－
	50歳代	71	▼ 7.0	▼ 25.4	△ 50.7	12.7	2.8	1.4
	60歳代	85	16.5	△ 49.4	▼ 28.2	▼ 2.4	－	3.5
	70歳以上	211	△ 24.2	△ 40.3	▼ 27.5	6.2	0.9	0.9

（５）配偶関係

【全体】

○　配偶関係について、「配偶者・パートナーがいる」が69.4%、「配偶者・パートナーはいない」が29.1%となっています。

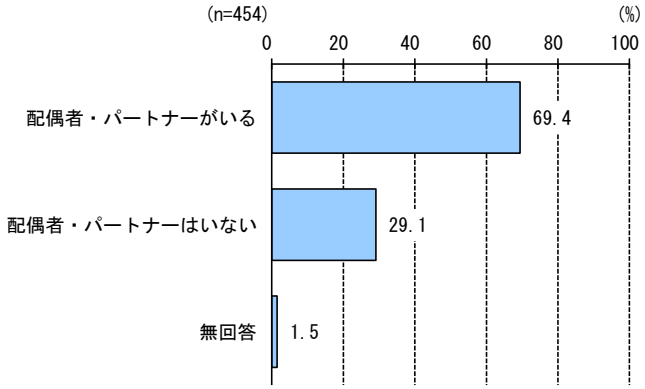
【性別】

○　性別でみると、「配偶者・パートナーがいる」は女性 66.1%・男性 74.5%で、男性の方が 8.4 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、10・20 歳代では「配偶者・パートナーはいない」が 84.6%を占め、30 歳代は「配偶者・パートナーがいる」が50.0%、「配偶者・パートナーはいない」が46.9%、40 歳～60 歳代は「配偶者・パートナーがいる」が約 70～80%ですが、70 歳以上では 67.3%となっています。

【配偶関係】



【性別、年齢別 配偶関係】

単位：%

		母数(n)	配偶関係		
			配偶者・パートナーがいる	配偶者・パートナーはいない	無回答
全体		454	69.4	29.1	1.5
性別	女性	245	66.1	32.2	1.6
	男性	192	△ 74.5	25.0	0.5
	その他	6	▼ 33.3	△ 66.7	－
年齢別	10・20歳代	13	▼ 15.4	△ 84.6	－
	30歳代	32	▼ 50.0	△ 46.9	3.1
	40歳代	36	△ 75.0	25.0	－
	50歳代	71	△ 78.9	▼ 21.1	－
	60歳代	85	△ 80.0	▼ 20.0	－
	70歳以上	211	67.3	30.3	2.4

（6）子どもの有無

【全体】

○　子どもの有無について、「いる」が 80.2%、「子どもはいない」が 16.7%となっています。

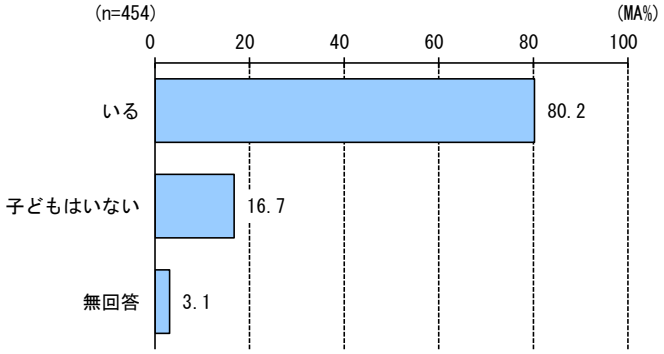
【性別】

○　性別でみると、「いる」は女性 83.7%・男性 78.1%で、女性の方が 5.6 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて「いる」の回答も多くなり、70 歳以上では「いる」が 92.4%となっています。

【子どもの有無】



【性別、年齢別 子どもの有無】

単位：%

		母数 (n)	子どもの有無 いる	子どもはいない	無回答
全体		454	80.2	16.7	3.1
性別	女性	245	83.7	15.1	1.2
	男性	192	78.1	19.3	2.6
	その他	6	▼ 66.7	16.7	16.7
年齢別	10・20歳代	13	▼ 7.7	△ 84.6	7.7
	30歳代	32	▼ 53.1	△ 43.8	3.1
	40歳代	36	▼ 75.0	△ 22.2	2.8
	50歳代	71	76.1	△ 22.5	1.4
	60歳代	85	81.2	16.5	2.4
	70歳以上	211	△ 92.4	▼ 6.2	1.4

【全体】

○ 子どもの年代について、「社会人」が 83.5%で最も多く、次いで「大学生・大学院生・専門学校生」が 7.4%、「小学生」が 6.0%となっています。

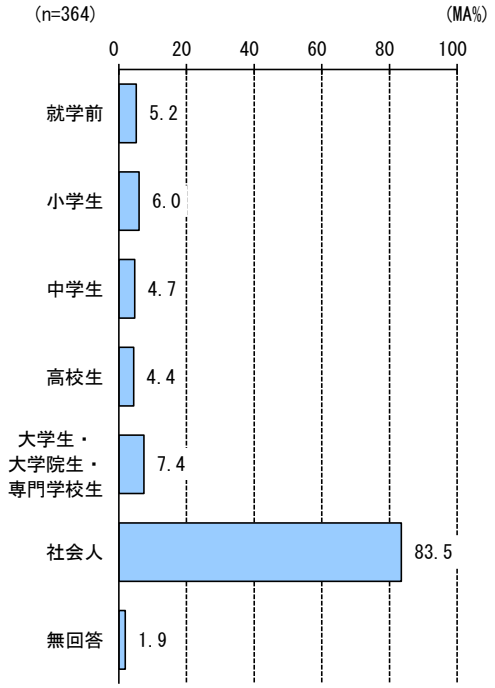
【性別】

○ 性別でみると、女性は男性よりも「社会人」が 4.7 ポイント、男性は女性よりも「就学前」が 3.9 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30 歳代では「小学生」、40 歳代では「中学生」、50 歳以上では「社会人」が最も多くなっています。

【子どもの年代】



【性別、年齢別 子どもの年代】

単位：%

		母数 (n)	子どもの年代						
			就学前	小学生	中学生	高校生	大学生・大学院生・専門学校生	社会人	無回答
全体		364	5.2	6.0	4.7	4.4	7.4	83.5	1.9
性別	女性	205	3.4	5.9	5.4	4.9	6.8	85.4	1.5
	男性	150	7.3	6.7	4.0	4.0	8.0	80.7	2.7
	その他	4	△ 25.0	−	−	−	−	▼ 75.0	−
年齢別	10・20歳代	1	△100.0	−	−	−	−	−	−
	30歳代	17	△ 52.9	△ 58.8	△ 17.6	△ 11.8	5.9	▼ 5.9	5.9
	40歳代	27	△ 29.6	△ 33.3	△ 37.0	△ 22.2	△ 18.5	▼ 18.5	−
	50歳代	54	1.9	5.6	5.6	△ 13.0	△ 31.5	▼ 72.2	3.7
	60歳代	69	−	−	1.4	−	2.9	△ 97.1	−
	70歳以上	195	−	−	−	0.5	▼ 1.0	△ 97.9	2.1

【全体】

○　子どもの人数について、「2 人」が 43.1%で最も多く、次いで「３人」が 32.7%、「1 人」が 12.1%となっています。

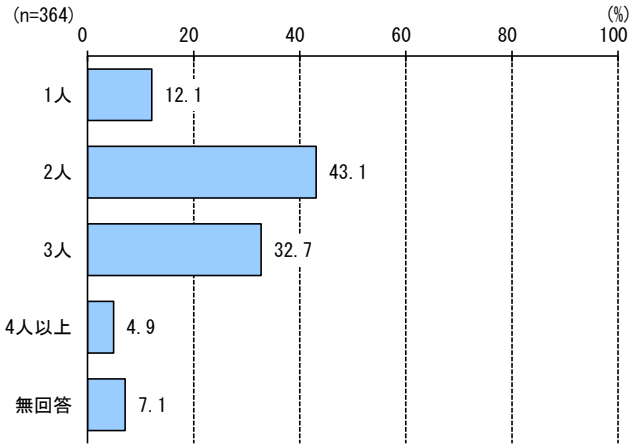
【性別】

○　性別でみると、男女とも「2 人」が最も多くなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、30 歳代と 60 歳代は「2 人」に加えて「３人」の回答も多くなっています。

【性別、年齢別 子どもの人数】



【性別、年齢別 子どもの人数】

単位：%

		母数 (n)	子どもの人数				
			1 人	2 人	3 人	4 人以上	無回答
全体		364	12.1	43.1	32.7	4.9	7.1
性別	女性	205	13.2	42.0	33.2	4.9	6.8
	男性	150	10.7	44.7	32.7	5.3	6.7
	その他	4	△ 25.0	△ 50.0	－	－	25.0
年齢別	10・20歳代	1	－	△100.0	－	－	－
	30歳代	17	－	▼ 35.3	35.3	5.9	23.5
	40歳代	27	△ 18.5	40.7	▼ 22.2	7.4	11.1
	50歳代	54	△ 18.5	40.7	▼ 25.9	7.4	7.4
	60歳代	69	8.7	▼ 37.7	△ 37.7	7.2	8.7
	70歳以上	195	11.8	46.2	34.4	3.1	4.6

２．男女平等について

（１）男女共同参画についての関心の有無

問１　男女共同参画・ジェンダー平等のための様々な社会の動きに関心を持っていますか。

【全体】

○　男女共同参画・ジェンダー平等のための様々な社会の動きに対する関心について、「多少関心を持っている」が 56.4%で最も多く、次いで「あまり関心を持っていない」が 22.7%、「非常に関心を持っている」が 11.0%となっており、『関心あり』（「非常に関心を持っている」と「多少関心を持っている」の合計）が 67.4%、『関心なし』（「あまり関心を持っていない」と「まったく関心を持っていない」の合計）が 27.1%となっています。

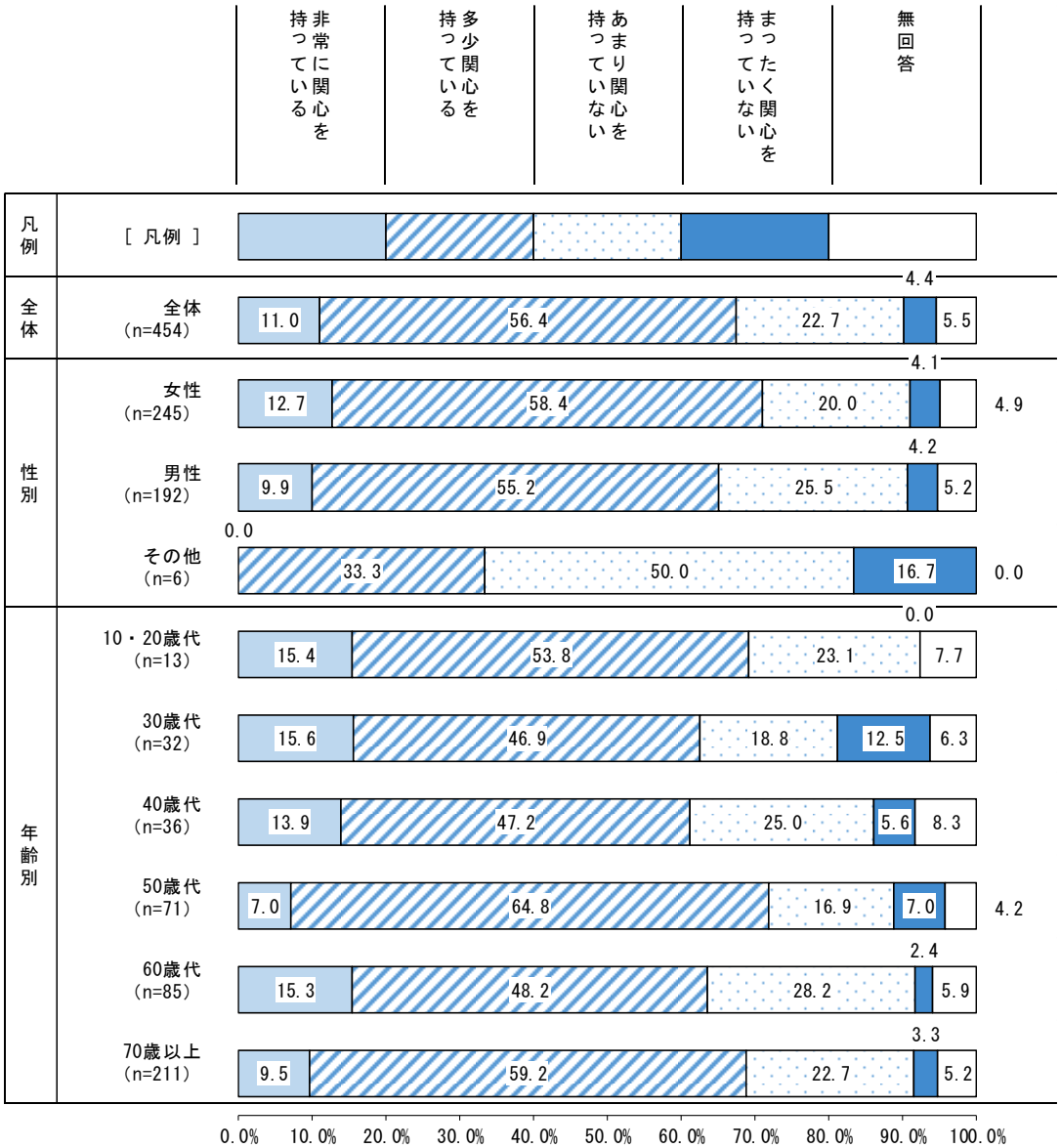
【性別】

○　性別でみると、『関心あり』は女性 71.1%・男性 65.1%で、女性の方が 6.0 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、10・20 歳代と 50 歳代、70 歳以上で『関心あり』が約 70%と多くなっています。

【男女共同参画・ジェンダー平等のための様々な社会の動きに対する関心】



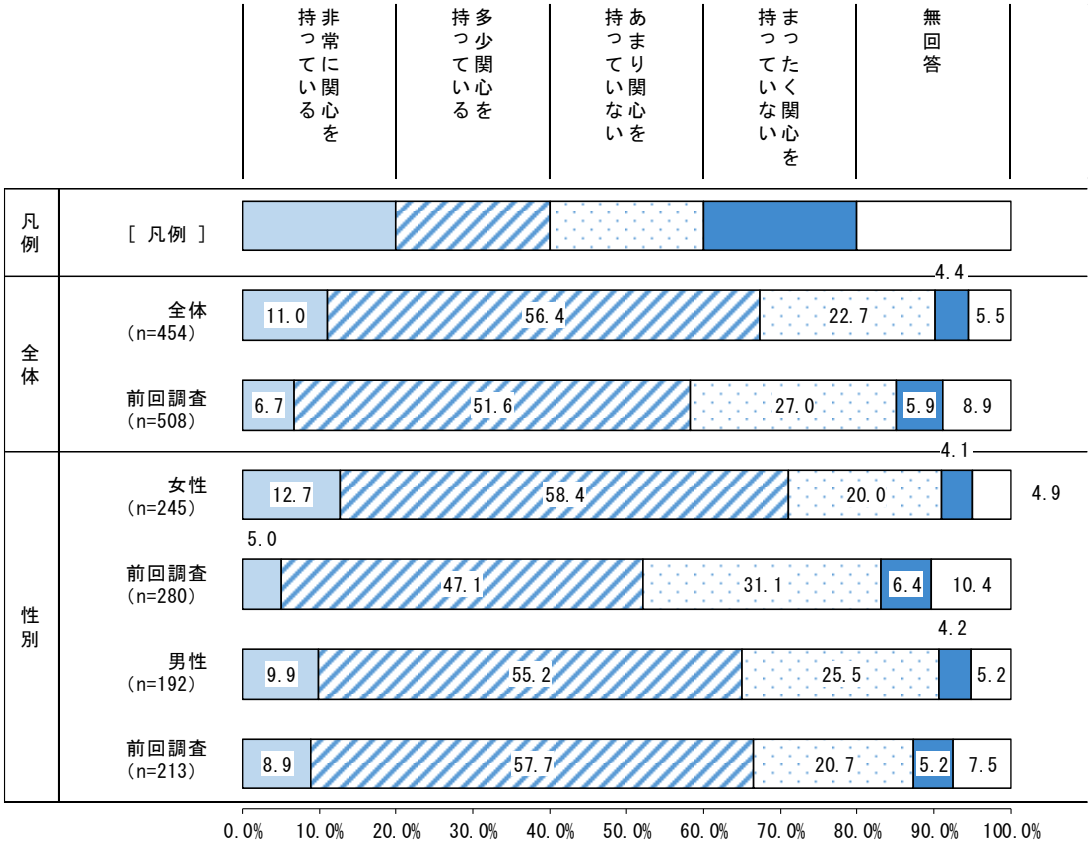
【前回比較】

○　前回調査と比較すると、『関心あり』は今回調査 67.4%・前回調査 58.3%と、今回調査の方が 9.1 ポイント多くなっています。

【性別】

○　性別でみると、女性の『関心あり』は今回調査 71.1%・前回調査 52.1%と、今回調査の方が 19.0 ポイント多くなっていますが、男性の『関心あり』は今回調査 65.1%・前回調査 66.6%と大きな違いはみられません。

【前回比較 男女共同参画・ジェンダー平等のための様々な社会の動きに対する関心】



（２）各分野の男女の地位の平等感

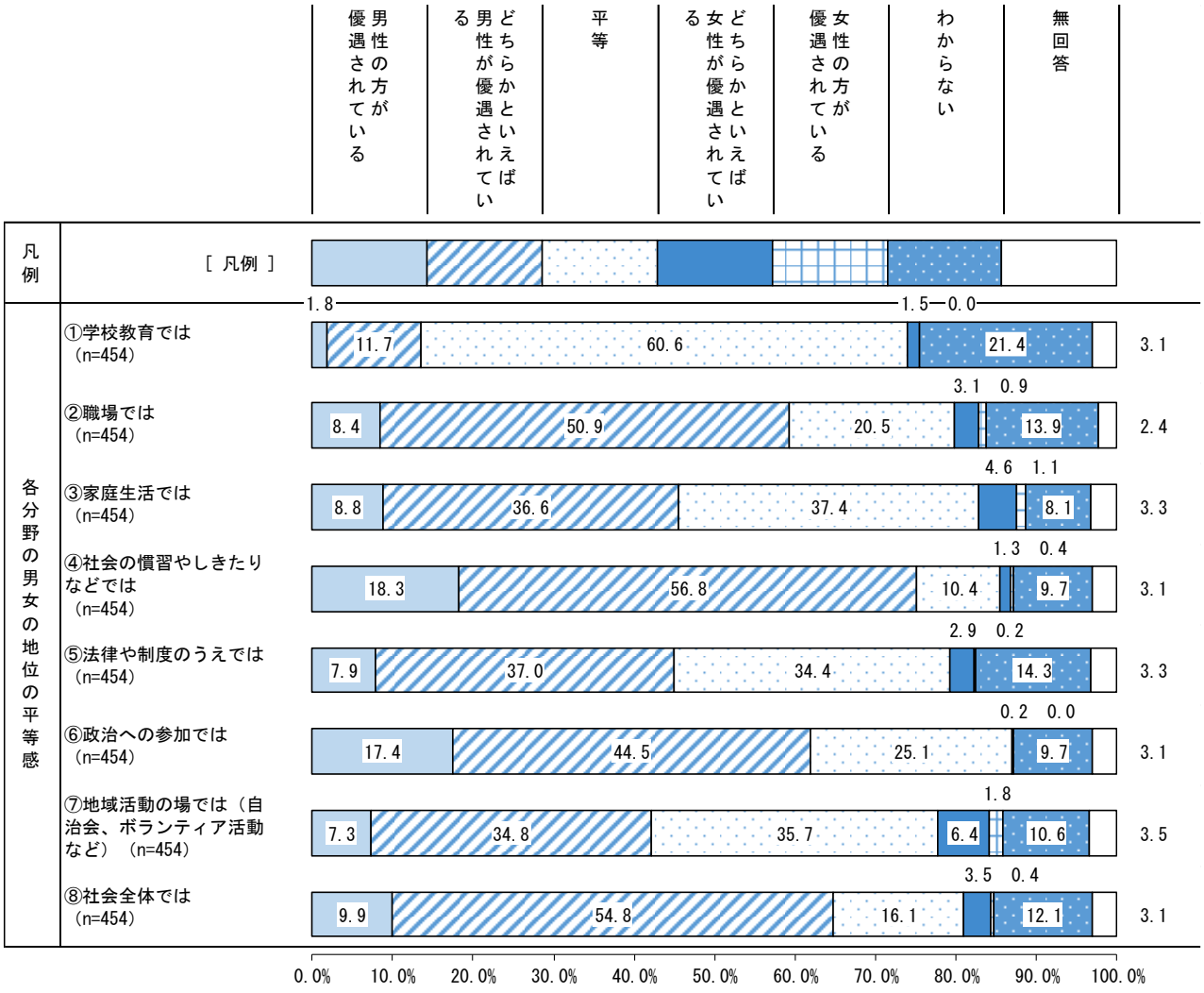
問２　現在、男女の地位は平等になっていると思いますか。

【全体】

○　各分野の男女の地位の平等感について、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）が最も多い項目は「④社会の慣習やしきたりなどでは」で 75.1%となっています。また『男性優遇』は「⑧社会全体では」「⑥政治への参加では」「②職場では」でも約 60%と多くなっています。

○　「平等」が最も多い項目は「①学校教育では」で 60.6%となっています。「①学校教育では」以外はいずれの分野も「平等」よりも『男性優遇』の割合が多くなっています。

【各分野の男女の地位の平等感】



①学校教育では

【全体】

○ ①学校教育について、「平等」が 60.6%で最も多く、次いで「わからない」が 21.4%、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 11.7%となっており、『男性優遇』が 13.5%、『女性優遇』(「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性の方が優遇されている」の合計)が 1.5%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、男女とも「平等」が最も多く、女性 57.1%・男性 66.1%となっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、いずれの年齢でも「平等」が最も多くなっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性 40～50 歳代は全体と比べて「男性優遇」の割合が多くなっています。

【性別・年齢別・性年齢別 ①学校教育では】

単位：%

		母数(n)	①学校教育では							“男性優遇”	“女性優遇”
			男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答		
全体		454	1.8	11.7	60.6	1.5	－	21.4	3.1	13.5	1.5
性別	女性	245	1.6	13.9	57.1	2.0	－	22.9	2.4	15.5	2.0
	男性	192	1.6	9.4	△ 66.1	1.0	－	18.8	3.1	11.0	1.0
	その他	6	－	－	△ 66.7	－	－	△ 33.3	－	－	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 7.7	7.7	61.5	－	－	23.1	－	15.4	－
	30歳代	32	－	－	△ 65.6	6.3	－	△ 28.1	－	－	6.3
	40歳代	36	－	13.9	61.1	－	－	22.2	2.8	13.9	－
	50歳代	71	－	14.1	60.6	4.2	－	21.1	－	14.1	4.2
	60歳代	85	1.2	10.6	△ 65.9	1.2	－	17.6	3.5	11.8	1.2
	70歳以上	211	2.8	12.8	57.3	0.5	－	21.8	4.7	15.6	0.5
性年齢別	女性　10～30歳代	21	－	▼ 4.8	61.9	4.8	－	△ 28.6	－	▼ 4.8	4.8
	40～50歳代	65	－	△ 18.5	▼ 52.3	3.1	－	26.2	－	△ 18.5	3.1
	60歳以上	158	2.5	13.3	58.2	1.3	－	20.9	3.8	15.8	1.3
	男性　10～30歳代	23	4.3	－	65.2	4.3	－	26.1	－	▼ 4.3	4.3
	40～50歳代	40	－	7.5	△ 72.5	2.5	－	▼ 15.0	2.5	▼ 7.5	2.5
	60歳以上	128	1.6	11.7	64.1	－	－	18.8	3.9	13.3	－

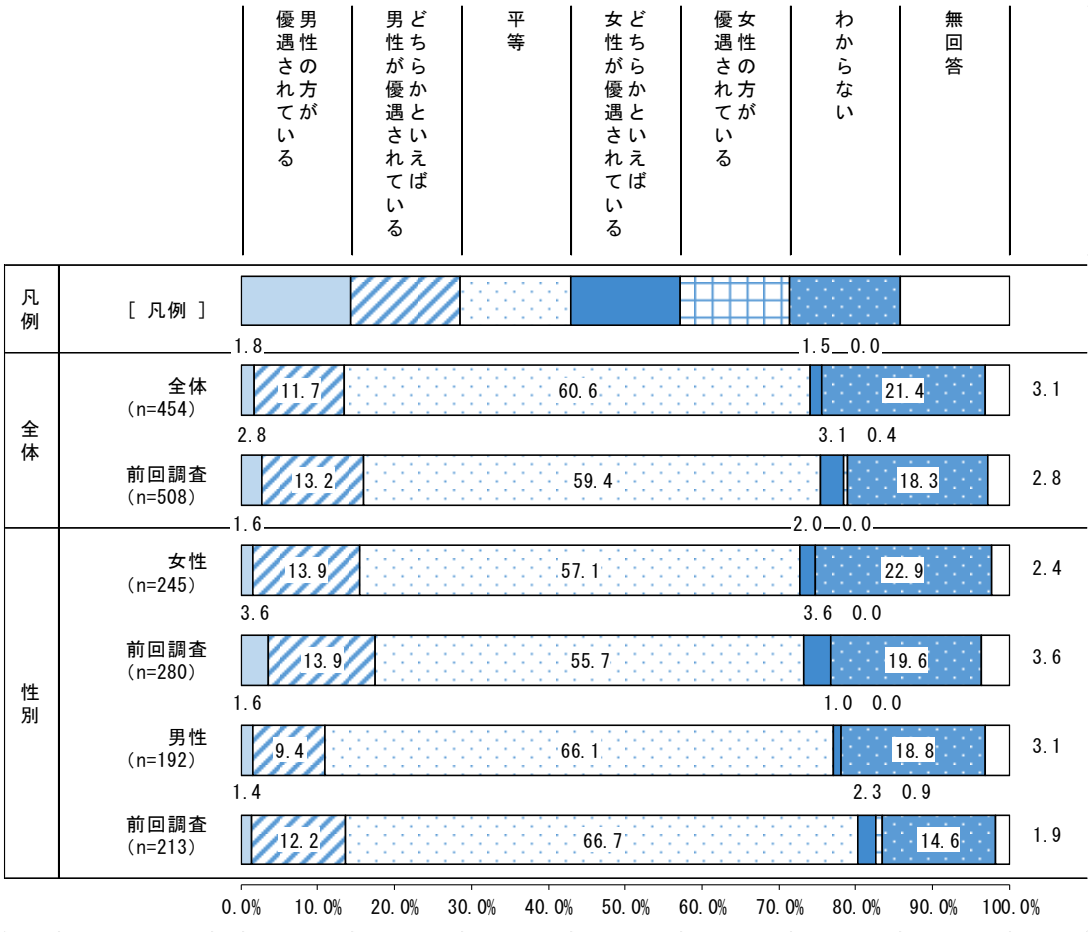
【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『男性優遇』が 2.5 ポイント、『女性優遇』が 2.0 ポイント少なく、「わからない」が 3.1 ポイント多くなっています。

【性別】

○　性別でみると、男女とも「平等」の割合に前回調査との大きな違いはみられず、「わからない」が女性で 3.3 ポイント、男性で 4.2 ポイント多くなっています。

【前回比較 ①学校教育では】



②職場では

【全体】

○ ②職場について、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 50.9%で最も多く、次いで「平等」が 20.5%、「わからない」が 13.9%となっており、『男性優遇』が 59.3%、『女性優遇』が 4.0%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『男性優遇』は女性 62.9%・男性 57.3%で、女性の方が 5.6 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30～40 歳代は「平等」が他の年齢層と比べて多く 30%を超えています。60 歳以上では『男性優遇』が 60%を超えています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、「男性優遇」の割合が、女性は年齢層による違いが小さいですが、男性は 60 歳以上と 60 歳未満では「男性優遇」に 20 ポイント以上の差がみられています。

【性別・年齢別・性年齢別 ②職場では】

単位：%

		母数(n)	②職場では							“男性優遇”	“女性優遇”
			男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答		
全体		454	8.4	50.9	20.5	3.1	0.9	13.9	2.4	59.3	4.0
性別	女性	245	10.2	52.7	18.4	1.6	0.4	14.3	2.4	62.9	2.0
	男性	192	6.3	51.0	23.4	4.2	1.6	11.5	2.1	57.3	5.8
	その他	6	－	－	16.7	△ 33.3	－	△ 50.0	－	－	△ 33.3
年齢別	10・20歳代	13	△ 15.4	▼ 30.8	23.1	7.7	△ 7.7	15.4	－	▼ 46.2	△ 15.4
	30歳代	32	6.3	▼ 37.5	△ 34.4	6.3	3.1	12.5	－	▼ 43.8	△ 9.4
	40歳代	36	△ 13.9	▼ 36.1	△ 38.9	2.8	－	▼ 8.3	－	▼ 50.0	2.8
	50歳代	71	7.0	50.7	△ 26.8	△ 11.3	－	▼ 4.2	－	57.7	△ 11.3
	60歳代	85	5.9	△ 57.6	21.2	1.2	1.2	10.6	2.4	63.5	2.4
	70歳以上	211	9.0	54.0	▼ 12.8	0.5	0.5	△ 19.0	4.3	63.0	1.0
性年齢別	女性　10～30歳代	21	9.5	47.6	△ 28.6	－	－	14.3	－	57.1	－
	40～50歳代	65	12.3	49.2	△ 27.7	4.6	－	▼ 6.2	－	61.5	4.6
	60歳以上	158	9.5	54.4	▼ 13.3	0.6	0.6	17.7	3.8	63.9	1.2
	男性　10～30歳代	23	8.7	▼ 26.1	△ 30.4	△ 13.0	△ 8.7	13.0	－	▼ 34.8	△ 21.7
	40～50歳代	40	5.0	▼ 40.0	△ 37.5	△ 12.5	－	▼ 5.0	－	▼ 45.0	△ 12.5
	60歳以上	128	6.3	△ 59.4	18.0	－	0.8	12.5	3.1	△ 65.7	0.8

【前回比較】

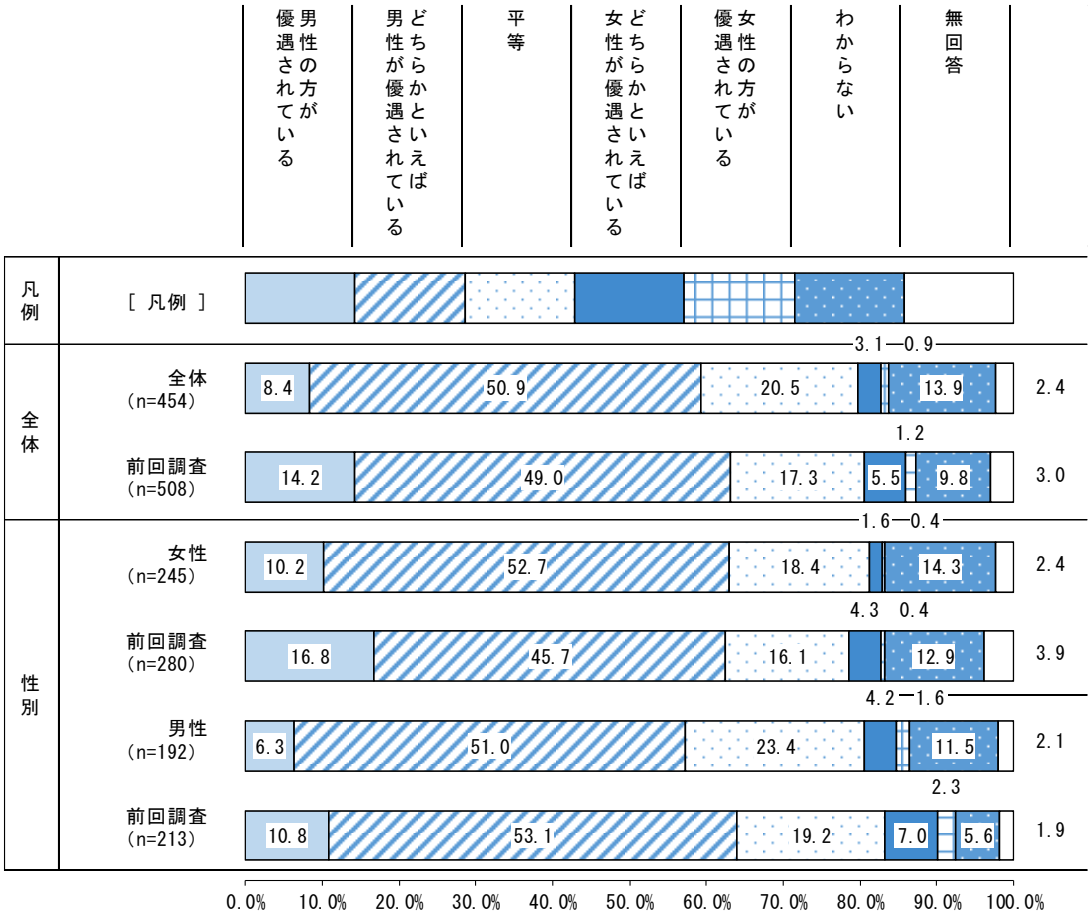
○ 前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『男性優遇』が 3.9 ポイント、『女性優遇』が 2.7 ポイント少なく、「平等」が 3.2 ポイント、「わからない」が 4.1 ポイント多くなっています。

【性別】

○ 性別でみると、女性は『男性優遇』の割合に前回調査との大きな違いはみられませんが、「男性の方が優遇されている」が少なくなり、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 7.0 ポイント多くなっています。

○ 男性は、前回調査より『男性優遇』と『女性優遇』がともに少なく、「平等」と「わからない」が多くなっています。

【前回比較 ②職場では】



③家庭生活では

【全体】

○ ③家庭生活について、「平等」が 37.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が 36.6%、「男性の方が優遇されている」が 8.8%となっており、『男性優遇』が 45.4%、『女性優遇』が 5.7%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『男性優遇』は女性 52.3%・男性 37.5%で、女性の方が 14.8 ポイント多く、「平等」は女性 32.2%・男性 44.8%で、男性の方が 12.6 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～30 歳代では『男性優遇』よりも「平等」が多くなっています。70 歳以上では「平等」が 33.6%と他の年齢層よりも少なく、『男性優遇』が 48.8%となっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性の 40～50 歳代は「男性優遇」が全体に比べて 10 ポイント以上多くなっています。男性は総じて「平等」が多いですが、60 歳未満は 60 歳以上に比べて 10 ポイント以上多くなっています。

【性別・年齢別・性年齢別 ③家庭生活では】

単位：%

		母数(n)	③家庭生活では							“男性優遇”	“女性優遇”
			男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答		
全体		454	8.8	36.6	37.4	4.6	1.1	8.1	3.3	45.4	5.7
性別	女性	245	12.7	39.6	▼ 32.2	4.9	0.8	6.9	2.9	△ 52.3	5.7
	男性	192	▼ 3.6	33.9	△ 44.8	4.2	1.0	9.9	2.6	▼ 37.5	5.2
	その他	6	－	▼ 16.7	33.3	△ 16.7	△ 16.7	－	16.7	▼ 16.7	△ 33.4
年齢別	10・20歳代	13	△ 23.1	▼ 7.7	38.5	△ 15.4	－	△ 15.4	－	▼ 30.8	△ 15.4
	30歳代	32	9.4	▼ 28.1	△ 46.9	3.1	－	12.5	－	▼ 37.5	3.1
	40歳代	36	11.1	36.1	36.1	－	－	△ 16.7	－	47.2	－
	50歳代	71	5.6	39.4	△ 43.7	2.8	－	7.0	1.4	45.0	2.8
	60歳代	85	4.7	35.3	40.0	4.7	1.2	10.6	3.5	▼ 40.0	5.9
	70歳以上	211	9.5	39.3	33.6	5.7	1.9	5.2	4.7	48.8	7.6
性年齢別	女性　10～30歳代	21	△ 19.0	▼ 23.8	33.3	9.5	－	△ 14.3	－	42.8	9.5
	40～50歳代	65	12.3	△ 43.1	▼ 32.3	－	－	12.3	－	△ 55.4	－
	60歳以上	158	11.4	40.5	▼ 32.3	6.3	1.3	3.8	4.4	△ 51.9	7.6
	男性　10～30歳代	23	8.7	▼ 21.7	△ 52.2	4.3	－	13.0	－	▼ 30.4	4.3
	40～50歳代	40	－	32.5	△ 52.5	5.0	－	7.5	2.5	▼ 32.5	5.0
	60歳以上	128	3.9	35.9	41.4	3.9	1.6	10.2	3.1	▼ 39.8	5.5

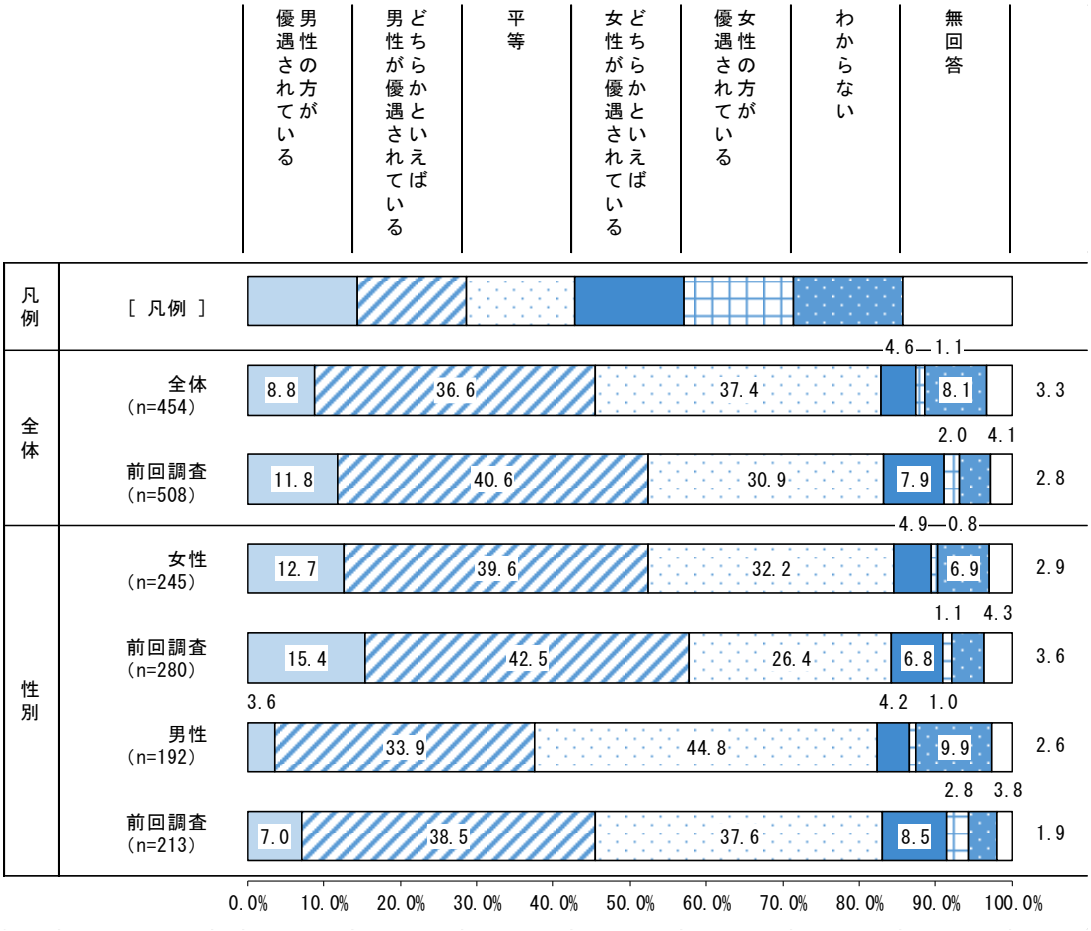
【前回比較】

○ 前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『男性優遇』が 7.0 ポイント、『女性優遇』が 4.2 ポイント少なく、「平等」が 6.5 ポイント、「わからない」が 4.0 ポイント多くなっています。

【性別】

○ 性別でみると、男女とも『男性優遇』『女性優遇』が少なく、「平等」「わからない」が多くなっており、女性より男性の方が前回調査との違いが大きくなっています。

【前回比較 ③家庭生活では】



④社会の慣習やしきたりなどでは

【全体】

○ ④社会の慣習やしきたりなどについて、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 56.8%で最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が 18.3%、「平等」が 10.4%となっており、『男性優遇』が 75.1%、『女性優遇』が 1.7%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『男性優遇』は女性 76.3%・男性 75.5%と大きな違いはみられませんが、「男性の方が優遇されている」では女性 22.4%・男性 13.5%と、女性の方が 8.9 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、40 歳以上ではいずれも『男性優遇』が 70%を超えています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性 40～50 歳代は「男性優遇」が 80%を超えて特に多くなっています。

【性別・年齢別・性年齢別 ④社会の慣習やしきたりなどでは】

単位：%

		母数(n)	④社会の慣習やしきたりなどでは							“男性優遇”	“女性優遇”
			男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答		
全体		454	18.3	56.8	10.4	1.3	0.4	9.7	3.1	75.1	1.7
性別	女性	245	22.4	53.9	9.8	0.8	－	11.0	2.0	76.3	0.8
	男性	192	13.5	△ 62.0	10.9	2.1	1.0	7.3	3.1	75.5	3.1
	その他	6	－	▼ 33.3	△ 16.7	－	－	△ 33.3	16.7	▼ 33.3	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 38.5	▼ 30.8	△ 15.4	△ 7.7	－	7.7	－	▼ 69.3	△ 7.7
	30歳代	32	18.8	▼ 37.5	△ 18.8	3.1	－	△ 21.9	－	▼ 56.3	3.1
	40歳代	36	22.2	58.3	8.3	2.8	－	8.3	－	△ 80.5	2.8
	50歳代	71	21.1	56.3	12.7	2.8	－	7.0	－	77.4	2.8
	60歳代	85	16.5	△ 64.7	9.4	－	－	7.1	2.4	△ 81.2	－
	70歳以上	211	16.1	58.3	8.5	0.5	0.9	10.4	5.2	74.4	1.4
性年齢別	女性　10～30歳代	21	△ 33.3	▼ 38.1	9.5	－	－	△ 19.0	－	71.4	－
	40～50歳代	65	△ 29.2	52.3	7.7	1.5	－	9.2	－	△ 81.5	1.5
	60歳以上	158	18.4	56.3	10.8	0.6	－	10.8	3.2	74.7	0.6
	男性　10～30歳代	23	17.4	▼ 34.8	△ 21.7	△ 8.7	－	△ 17.4	－	▼ 52.2	△ 8.7
	40～50歳代	40	▼ 10.0	△ 65.0	△ 17.5	5.0	－	▼ 2.5	－	75.0	5.0
	60歳以上	128	14.1	△ 65.6	7.0	－	1.6	7.0	4.7	79.7	1.6

【前回比較】

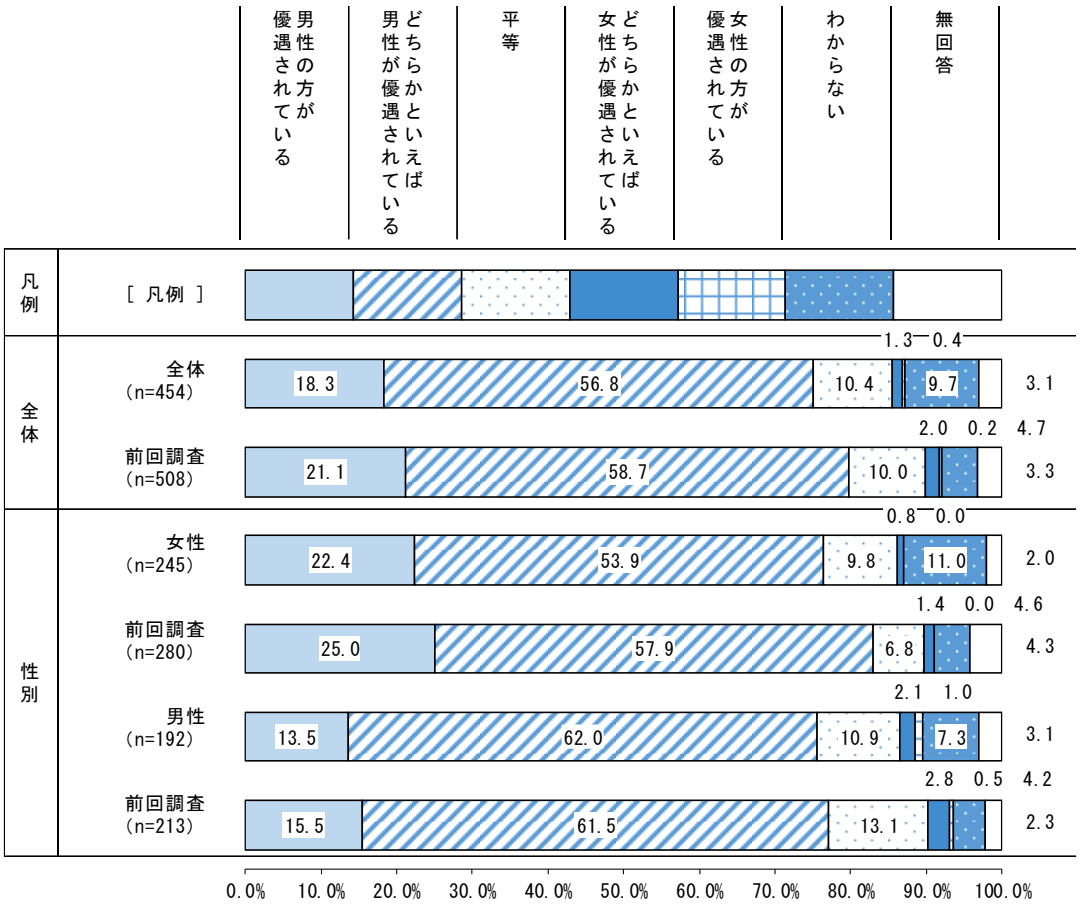
○ 前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『男性優遇』が 4.7 ポイント少なく、「わからない」が 5.0 ポイント多くなっています。

【性別】

○ 性別でみると、女性は『男性優遇』が 6.6 ポイント少なく、「平等」が 3.0 ポイント、「わからない」が 6.4 ポイント多くなっています。

○ 男性は、「わからない」が 3.1 ポイント多くなっています。

【前回比較 ④社会の慣習やしきたりなどでは】



⑤法律や制度のうえでは

【全体】

○ ⑤法律や制度のうえについて、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 37.0%で最も多く、次いで「平等」が 34.4%、「わからない」が 14.3%となっており、『男性優遇』が 44.9%、『女性優遇』が 3.1%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『男性優遇』は女性 52.6%・男性 36.0%で、女性の方が 16.6 ポイント多く、「平等」は女性 24.9%・男性 47.4%で、男性の方が 22.5 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10・20 歳代と 40 歳代は「平等」が約 20%と少なく、10・20 歳代は『男性優遇』が 61.6%、40 歳代は「わからない」が 27.8%となっています。60 歳代は「平等」が 42.4%と他の年齢層と比べて多くなっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性の 10～30 歳代は「男性優遇」が特に多く 60 歳以上と比べて 20 ポイント以上多くなっています。男性は「男性優遇」の割合は年齢層による違いは小さいですが、「平等」の割合が 40 歳以上に比べて 40 歳未満では約 15 ポイント少なくなっています。

【性別・年齢別・性年齢別 ⑤法律や制度のうえでは】

単位：%

		母数(n)	⑤法律や制度のうえでは							“男性優遇”	“女性優遇”
			男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答		
全体		454	7.9	37.0	34.4	2.9	0.2	14.3	3.3	44.9	3.1
性別	女性	245	10.2	△ 42.4	▼ 24.9	2.4	－	17.1	2.9	△ 52.6	2.4
	男性	192	4.7	▼ 31.3	△ 47.4	3.6	0.5	9.9	2.6	▼ 36.0	4.1
	その他	6	－	▼ 16.7	▼ 16.7	－	－	△ 50.0	16.7	▼ 16.7	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 23.1	38.5	▼ 23.1	－	－	15.4	－	△ 61.6	－
	30歳代	32	12.5	34.4	▼ 28.1	3.1	3.1	18.8	－	46.9	6.2
	40歳代	36	11.1	▼ 30.6	▼ 22.2	△ 8.3	－	△ 27.8	－	41.7	△ 8.3
	50歳代	71	5.6	△ 42.3	35.2	△ 8.5	－	▼ 7.0	1.4	47.9	△ 8.5
	60歳代	85	7.1	35.3	△ 42.4	1.2	－	11.8	2.4	42.4	1.2
	70歳以上	211	6.6	37.4	35.1	0.9	－	15.2	4.7	44.0	0.9
性年齢別	女性 10～30歳代	21	△ 23.8	△ 47.6	▼ 14.3	－	－	14.3	－	△ 71.4	－
	40～50歳代	65	9.2	△ 44.6	▼ 20.0	7.7	－	16.9	1.5	△ 53.8	7.7
	60歳以上	158	8.9	40.5	▼ 28.5	0.6	－	17.7	3.8	49.4	0.6
	男性 10～30歳代	23	8.7	▼ 26.1	34.8	4.3	4.3	△ 21.7	－	▼ 34.8	△ 8.6
	40～50歳代	40	▼ 2.5	▼ 30.0	△ 50.0	△ 10.0	－	▼ 7.5	－	▼ 32.5	△ 10.0
	60歳以上	128	4.7	32.8	△ 49.2	1.6	－	▼ 8.6	3.1	▼ 37.5	1.6

【前回比較】

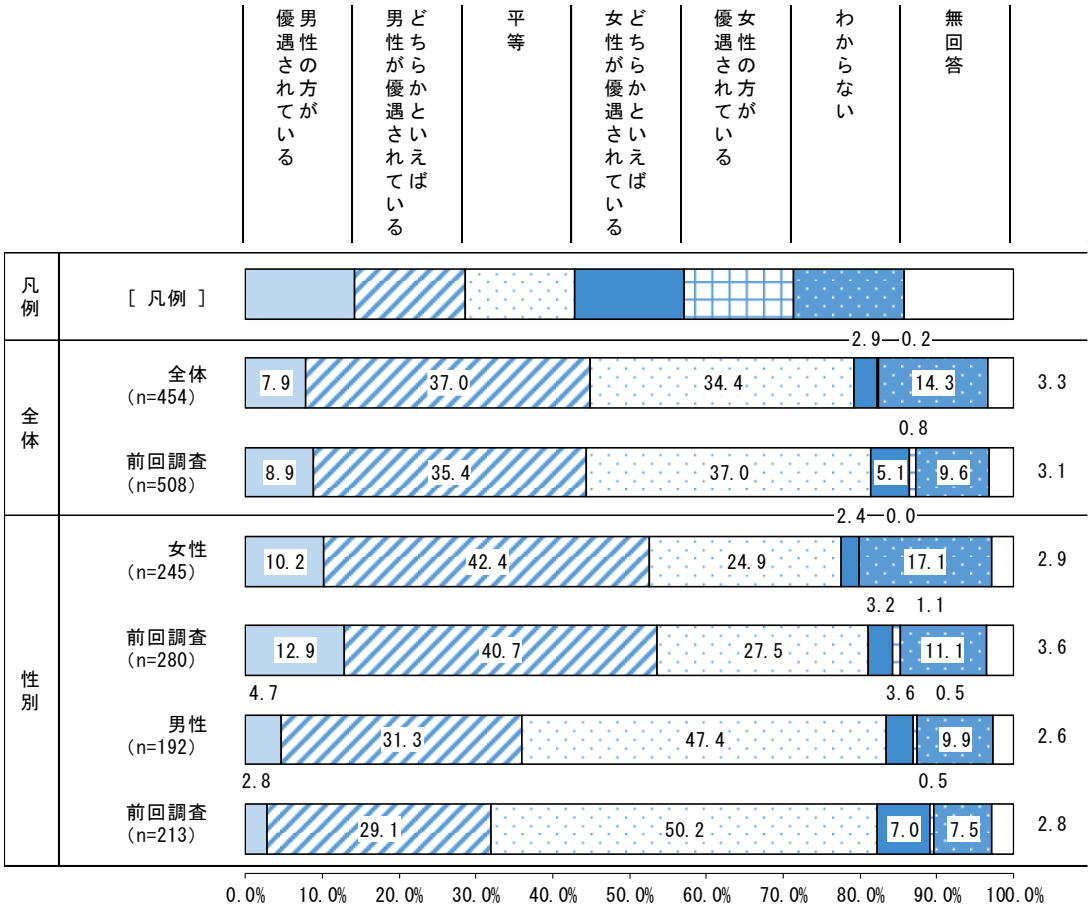
○ 前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「わからない」が 4.7 ポイント多くなっています。

【性別】

○ 性別でみると、女性は「わからない」が 6.0 ポイント多くなっています。

○ 男性は、「平等」が 2.8 ポイント、『女性優遇』が 3.4 ポイント少なく、『男性優遇』が 4.1 ポイント多くなっています。

【前回比較 ⑤法律や制度のうえでは】



⑥政治への参加では

【全体】

○ ⑥政治への参加について、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 44.5%で最も多く、次いで「平等」が 25.1%、「男性の方が優遇されている」が 17.4%となっており、『男性優遇』が 61.9%、女性優遇が 0.2%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『男性優遇』は女性 66.1%・男性 57.8%で、女性の方が 8.3 ポイント多く、「平等」は女性 20.0%・男性 32.3%で、男性の方が 12.3 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、40 歳代、50 歳代では『男性優遇』がそれぞれ 69.5%、66.2%と多くなっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性の 40～50 歳代は「男性優遇」が特に多く 70%を超えています。男性では 10～30 歳代は「男性優遇」が約 40%で少なくなっています。

【性別・年齢別・性年齢別 ⑥政治への参加では】

単位：%

		母数(n)	⑥政治への参加では							“男性優遇”	“女性優遇”
			男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答		
全体		454	17.4	44.5	25.1	0.2	－	9.7	3.1	61.9	0.2
性別	女性	245	20.8	45.3	▼ 20.0	－	－	11.0	2.9	66.1	－
	男性	192	13.0	44.8	△ 32.3	0.5	－	7.3	2.1	57.8	0.5
	その他	6	－	▼ 33.3	▼ 16.7	－	－	△ 33.3	16.7	▼ 33.3	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 38.5	▼ 15.4	△ 38.5	－	－	7.7	－	▼ 53.9	－
	30歳代	32	15.6	▼ 28.1	28.1	－	－	△ 28.1	－	▼ 43.7	－
	40歳代	36	△ 27.8	41.7	▼ 13.9	2.8	－	13.9	－	△ 69.5	2.8
	50歳代	71	▼ 11.3	△ 54.9	28.2	－	－	5.6	－	66.2	－
	60歳代	85	20.0	43.5	27.1	－	－	7.1	2.4	63.5	－
	70歳以上	211	15.2	46.9	23.7	－	－	9.0	5.2	62.1	－
性年齢別	女性　10～30歳代	21	△ 38.1	▼ 19.0	▼ 19.0	－	－	△ 23.8	－	57.1	－
	40～50歳代	65	21.5	△ 50.8	▼ 18.5	－	－	9.2	－	△ 72.3	－
	60歳以上	158	17.7	46.8	20.9	－	－	10.1	4.4	64.5	－
	男性　10～30歳代	23	▼ 8.7	▼ 30.4	△ 39.1	－	－	△ 21.7	－	▼ 39.1	－
	40～50歳代	40	▼ 10.0	47.5	△ 32.5	2.5	－	7.5	－	57.5	2.5
	60歳以上	128	14.8	46.9	△ 30.5	－	－	4.7	3.1	61.7	－

【前回比較】

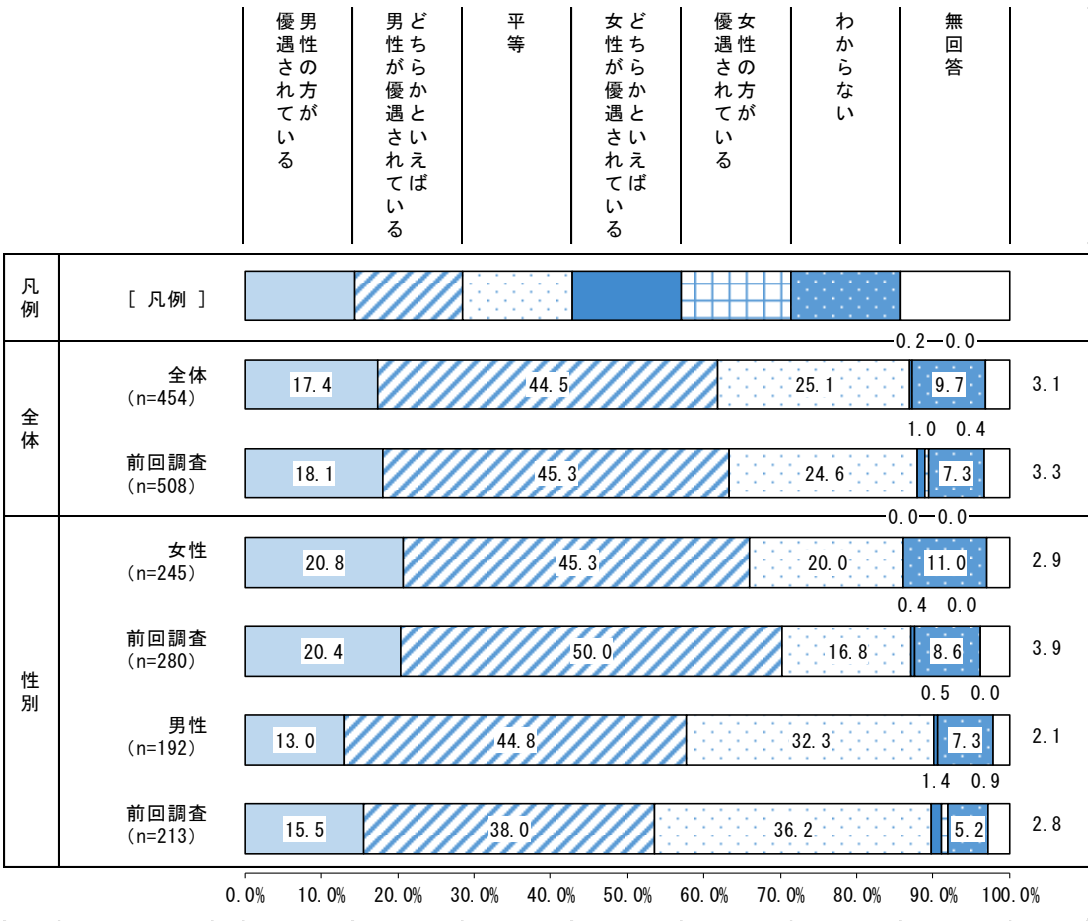
○　前回調査と比較すると、ほとんど違いはみられません。

【性別】

○　性別でみると、女性は『男性優遇』が 4.3 ポイント少なく、「平等」が 3.2 ポイント多くなっています。

○　男性は、「平等」が 3.9 ポイント少なく、『男性優遇』が 4.3 ポイント多くなっています。

【前回比較 ⑥政治への参加では】



⑦地域活動の場では（自治会、ボランティア活動など）

【全体】

○ ⑦地域活動の場について、「平等」が 35.7%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が34.8%、「わからない」が10.6%となっており、『男性優遇』が42.1%、『女性優遇』が8.2%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『男性優遇』は女性44.5%・男性39.6%で、女性の方が4.9ポイント多く、『女性優遇』は女性5.3%・男性11.9%で、男性の方が6.6ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30 歳代は『男性優遇』が 25.1%と他の年齢層と比べて少なく、「わからない」が21.9%となっています。その他の年齢層の違いはさほど大きくありません。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性は「男性優遇」の割合に年齢層による違いは小さいですが、男性では30 歳未満は30 歳以上に比べて約20 ポイント少なくなっています。

【性別・年齢別・性年齢別 ⑦地域活動の場では（自治会、ボランティア活動など)】

単位：%

		母数(n)	⑦地域活動の場では（自治会、ボランティア活動など）							“男性優遇”	“女性優遇”
			男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答		
全体		454	7.3	34.8	35.7	6.4	1.8	10.6	3.5	42.1	8.2
性別	女性	245	7.8	36.7	34.7	4.9	0.4	11.8	3.7	44.5	5.3
	男性	192	6.3	33.3	37.0	8.3	3.6	9.4	2.1	39.6	11.9
	その他	6	－	▼ 16.7	△ 50.0	△ 16.7	－	－	16.7	▼ 16.7	△ 16.7
年齢別	10・20歳代	13	7.7	38.5	30.8	－	△ 7.7	15.4	－	46.2	7.7
	30歳代	32	6.3	▼ 18.8	37.5	△ 12.5	3.1	△ 21.9	－	▼ 25.1	△ 15.6
	40歳代	36	△ 16.7	▼ 25.0	36.1	5.6	2.8	13.9	－	41.7	8.4
	50歳代	71	5.6	38.0	33.8	8.5	2.8	9.9	1.4	43.6	11.3
	60歳代	85	11.8	36.5	31.8	4.7	1.2	11.8	2.4	△ 48.3	5.9
	70歳以上	211	4.3	37.0	37.9	6.2	0.9	8.1	5.7	41.3	7.1
性年齢別	女性　10～30歳代	21	－	△ 42.9	▼ 19.0	9.5	4.8	△ 23.8	－	42.9	△ 14.3
	40～50歳代	65	△ 12.3	32.3	30.8	7.7	－	15.4	1.5	44.6	7.7
	60歳以上	158	7.0	37.3	38.6	3.2	－	8.9	5.1	44.3	3.2
	男性　10～30歳代	23	△ 13.0	▼ 8.7	△ 47.8	8.7	4.3	△ 17.4	－	▼ 21.7	13.0
	40～50歳代	40	5.0	35.0	△ 42.5	5.0	△ 7.5	▼ 5.0	－	40.0	12.5
	60歳以上	128	5.5	37.5	32.8	9.4	2.3	9.4	3.1	43.0	11.7

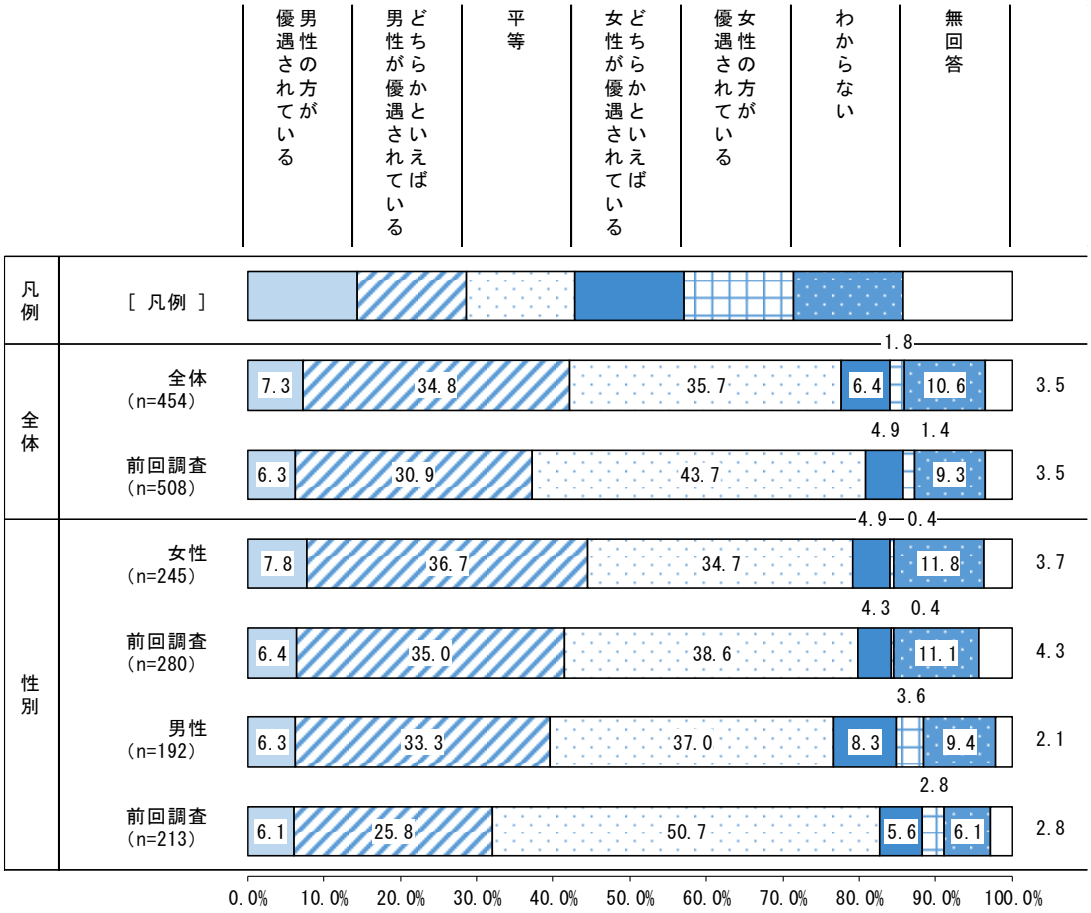
【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「平等」が 8.0 ポイント少なく、『男性優遇』が 4.9 ポイント多くなっています。

【性別】

○　性別でみると、男女ともに今回調査は「平等」が少なく、『男性優遇』が多くなっており、女性よりも男性の方が前回調査との違いが大きくなっています。

【前回比較 ⑦地域活動の場では（自治会、ボランティア活動など）】



⑧社会全体では

【全体】

○ ⑧社会全体について、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 54.8%で最も多く、次いで「平等」が16.1%、「わからない」が12.1%となっており、『男性優遇』が64.7%、『女性優遇』が3.9%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『男性優遇』は女性 69.4%・男性 61.5%で女性の方が 7.9 ポイント多く、「平等」は女性 12.2%・男性 20.8%で、男性の方が 8.6 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～40 歳代では『男性優遇』が 50%台と、50 歳以上と比べて『男性優遇』が少なくなっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性は「男性優遇」の割合に年齢層による違いは小さいですが、男性では「男性優遇」は、30 歳未満は 30 歳以上に比べて約 20 ポイント少ない一方で「女性優遇」は約 20 ポイント多くなっています。

【性別・年齢別・性年齢別 ⑧社会全体では】

単位：%

		母数(n)	⑧社会全体では							“男性優遇”	“女性優遇”
			男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答		
全体		454	9.9	54.8	16.1	3.5	0.4	12.1	3.1	64.7	3.9
性別	女性	245	11.8	57.6	12.2	2.4	0.4	13.5	2.0	69.4	2.8
	男性	192	6.8	54.7	20.8	5.2	0.5	8.9	3.1	61.5	5.7
	その他	6	－	▼ 16.7	16.7	－	－	△ 50.0	16.7	▼ 16.7	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 30.8	▼ 23.1	15.4	△ 15.4	－	15.4	－	▼ 53.9	△ 15.4
	30歳代	32	6.3	▼ 46.9	18.8	△ 9.4	3.1	15.6	－	▼ 53.2	△ 12.5
	40歳代	36	11.1	▼ 44.4	△ 25.0	5.6	－	13.9	－	▼ 55.5	5.6
	50歳代	71	5.6	△ 63.4	14.1	7.0	－	9.9	－	69.0	7.0
	60歳代	85	12.9	58.8	12.9	1.2	－	11.8	2.4	△ 71.7	1.2
	70歳以上	211	9.0	55.5	16.1	1.4	0.5	12.3	5.2	64.5	1.9
性年齢別	女性　10～30歳代	21	△ 23.8	▼ 42.9	14.3	－	－	△ 19.0	－	66.7	－
	40～50歳代	65	10.8	55.4	12.3	7.7	－	13.8	－	66.2	7.7
	60歳以上	158	10.8	△ 60.1	12.0	0.6	0.6	12.7	3.2	△ 70.9	1.2
	男性　10～30歳代	23	▼ 4.3	▼ 39.1	17.4	△ 21.7	4.3	13.0	－	▼ 43.4	△ 26.0
	40～50歳代	40	▼ 2.5	△ 60.0	△ 27.5	5.0	－	▼ 5.0	－	62.5	5.0
	60歳以上	128	8.6	55.5	19.5	2.3	－	9.4	4.7	64.1	2.3

【前回比較】

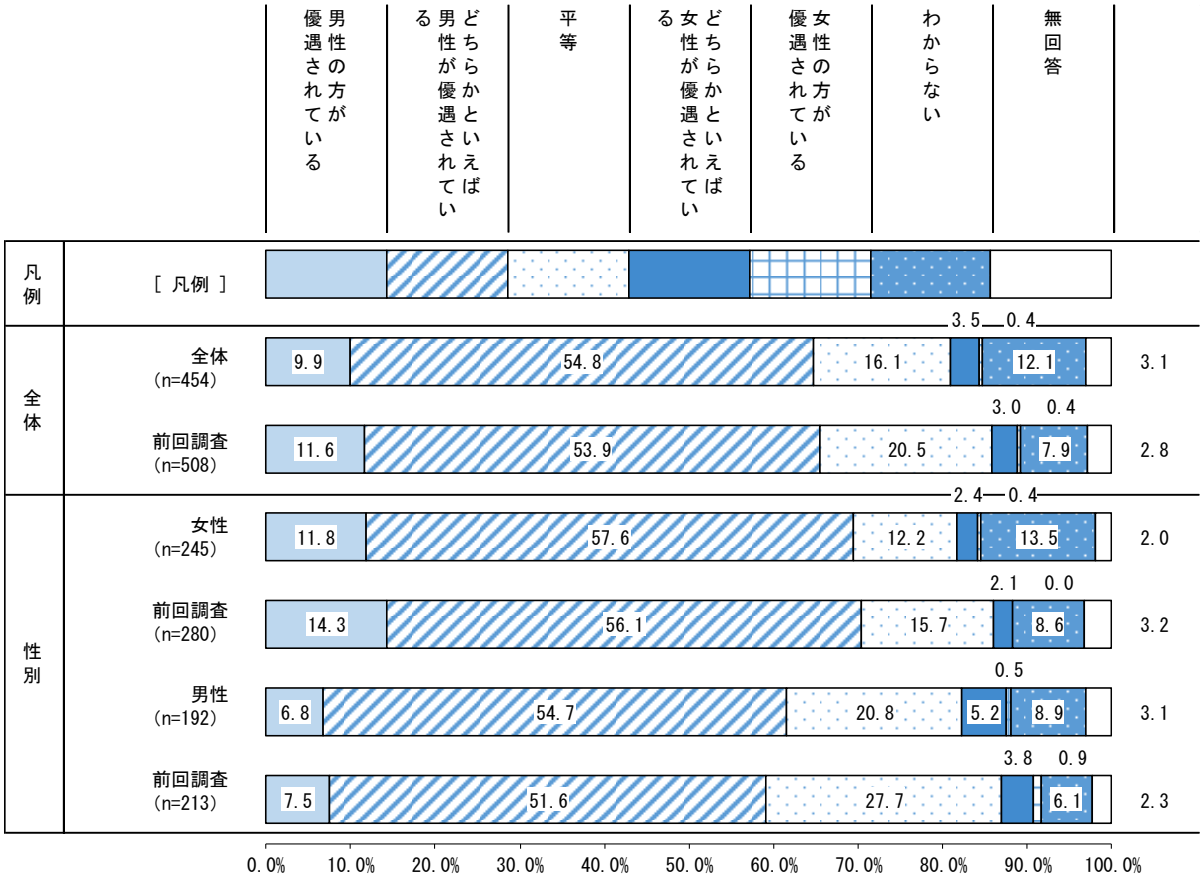
○ 前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「平等」が 4.4 ポイント少なく、「わからない」が4.2ポイント多くなっています。

【性別】

○ 性別でみると、女性は「平等」が 3.5 ポイント少なく、「わからない」が 4.9 ポイント多くなっています。

○ 男性は、「平等」が6.9ポイント少なく、『男性優遇』が2.4ポイント、「わからない」が2.8ポイント多くなっています。

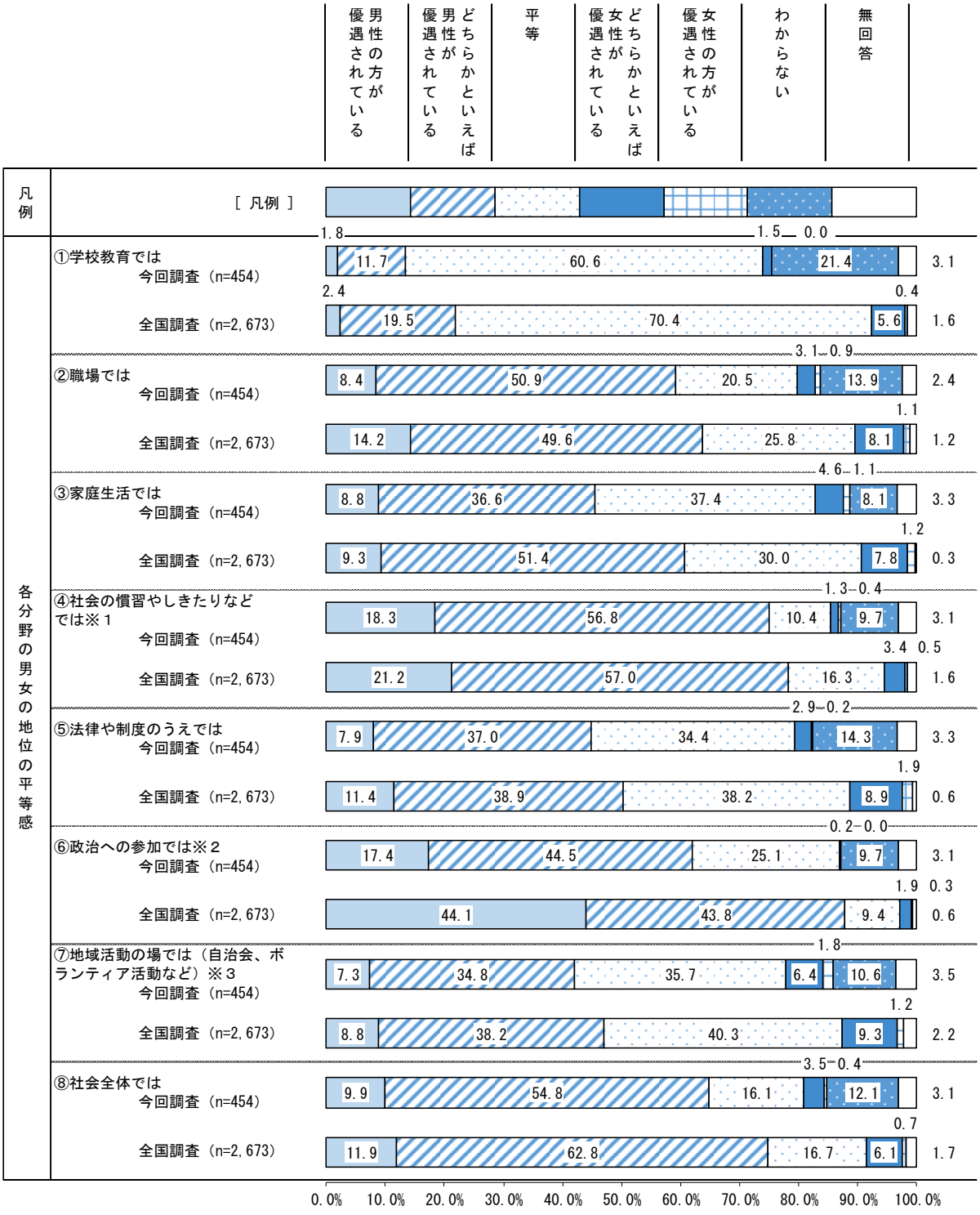
【前回比較 ⑧社会全体では】



【全国調査との比較】

○　全国調査（令和６年度「男女共同参画社会に関する世論調査」）と比較すると、『男と比較すると、すべての分野で今回調査の方が『男性優遇』の割合が少なくなっています。その差が大きい分野は「①学校教育では」「③家庭生活では」「⑥政治への参加では」があげられ、特に「⑥政治への参加では」の差が大きくなっています。「③家庭生活では」「⑥政治への参加では」で「平等」が多くなっています。

【各分野の男女の地位の平等感（全国調査との比較）】



※　　全国調査では選択肢に「わからない」はない
※１　全国調査では「社会通念・地域の慣習・しきたりなど」
※２　全国調査では「政治の場」
※３　全国調査では「自治会や PTA などの地域活動の場」

（３）家庭生活等に関する意識について

問３　次のような考え方についてどのように思いますか。

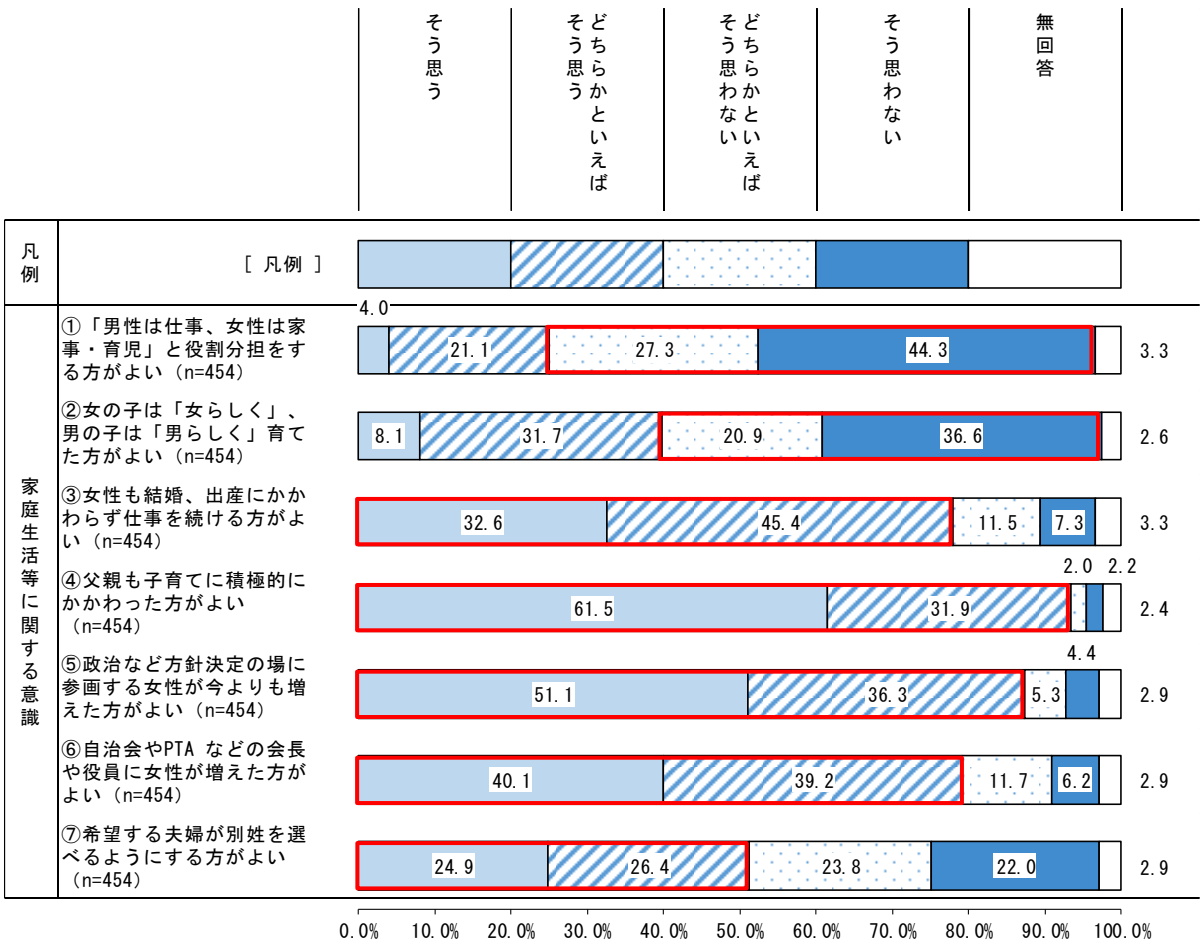
【全体】

○　家庭生活等に関する意識について、「①『男性は仕事、女性は家事・育児』と役割分担をする方がよい」と「②女の子は『女らしく』、男の子は『男らしく』育てた方がよい」では、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）がそれぞれ71.6%、57.5%と多くなっています。

○　「③女性も結婚、出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」「④父親も子育てに積極的にかかわった方がよい」「⑤政治など方針決定の場に参画する女性が今よりも増えた方がよい」「⑥自治会やPTAなどの会長や役員に女性が増えた方がよい」では『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が約80～90%を占めています。

○　「⑦希望する夫婦が別姓を選べるようにする方がよい」では、『そう思う』が51.3%、『そう思わない』が45.8%となっています。

【家庭生活等に関する意識】



①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割分担をする方がよい

【全体】

○ ①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割分担をする方がよいについて、「そう思わない」が 44.3%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が 27.3%、「どちらかといえばそう思う」が 21.1%となっており、『そう思う』が 25.1%、『そう思わない』が 71.6%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『そう思う』は女性 17.6%・男性 34.4%で男性の方が 16.8 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～50 歳代ではいずれも『そう思わない』が 80%を超えています。70 歳以上は、『そう思う』が 30.8%と他の年齢層と比べて多くなっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、10～30 歳代では男女とも、『そう思わない』が約 80%となっていますが、40～50 歳代の『そう思わない』は女性 87.7%・男性 70.0%、60 歳以上の『そう思わない』は女性 74.0%・男性 57.8%と性別による違いが大きくなっています。

【性別、年齢別、性年齢別 ①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割分担をする方がよい】

単位：%

		母数(n)	①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割分担をする方がよい					“肯定派”	“否定派”
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		
全体		454	4.0	21.1	27.3	44.3	3.3	25.1	71.6
性別	女性	245	3.3	▼ 14.3	28.2	△ 50.2	4.1	▼ 17.6	△ 78.4
	男性	192	4.2	△ 30.2	27.1	▼ 36.5	2.1	△ 34.4	▼ 63.6
	その他	6	△ 16.7	16.7	△ 33.3	▼ 33.3	－	△ 33.4	▼ 66.6
年齢別	10・20歳代	13	7.7	▼ 7.7	30.8	△ 53.8	－	▼ 15.4	△ 84.6
	30歳代	32	－	18.8	△ 34.4	46.9	－	▼ 18.8	△ 81.3
	40歳代	36	2.8	▼ 13.9	▼ 22.2	△ 61.1	－	▼ 16.7	△ 83.3
	50歳代	71	2.8	▼ 15.5	31.0	△ 49.3	1.4	▼ 18.3	△ 80.3
	60歳代	85	3.5	18.8	30.6	44.7	2.4	22.3	75.3
	70歳以上	211	4.7	△ 26.1	24.2	▼ 39.3	5.7	△ 30.8	▼ 63.5
性年齢別	女性　10～30歳代	21	－	19.0	△ 33.3	47.6	－	▼ 19.0	△ 80.9
	40～50歳代	65	1.5	▼ 9.2	27.7	△ 60.0	1.5	▼ 10.7	△ 87.7
	60歳以上	158	4.4	▼ 15.8	27.2	46.8	5.7	20.2	74.0
	男性　10～30歳代	23	4.3	▼ 13.0	△ 34.8	47.8	－	▼ 17.3	△ 82.6
	40～50歳代	40	5.0	25.0	30.0	40.0	－	30.0	70.0
	60歳以上	128	3.9	△ 35.2	24.2	▼ 33.6	3.1	△ 39.1	▼ 57.8

【前回比較】

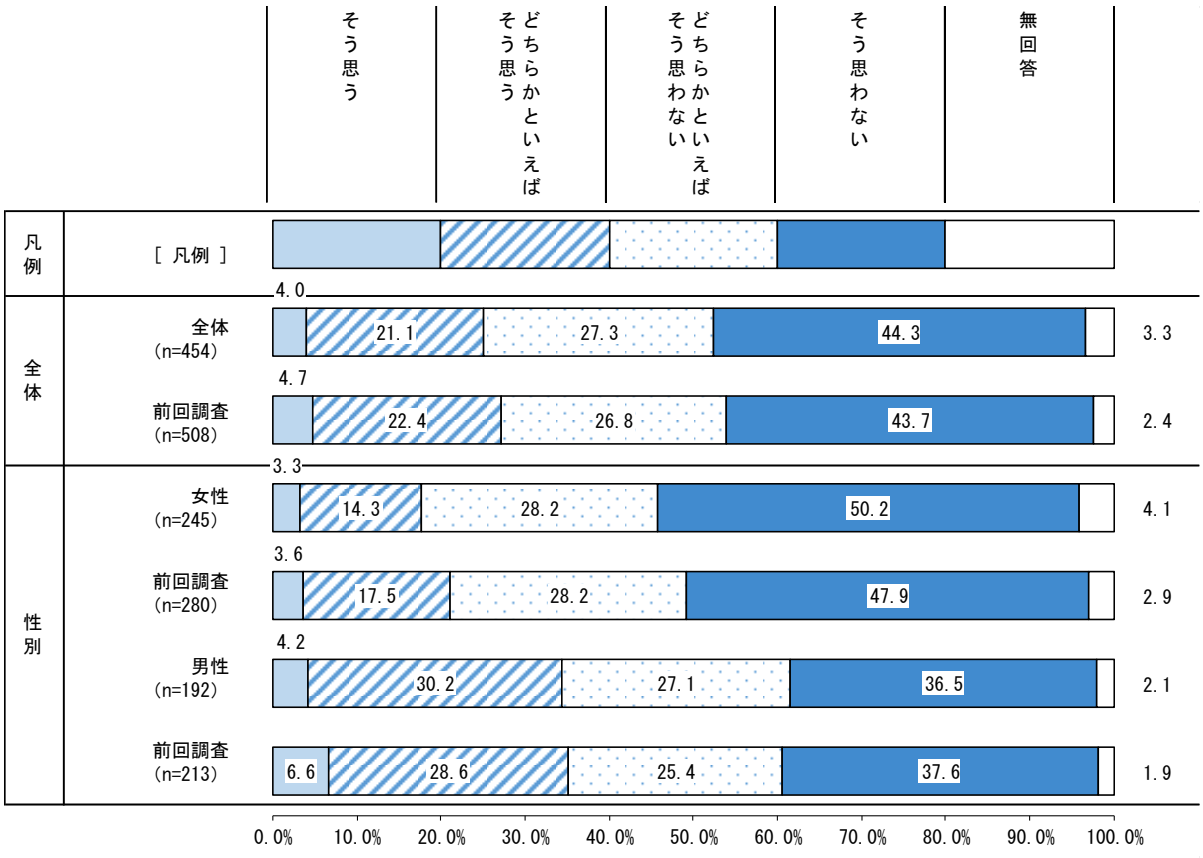
○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『そう思わない』がわずかに多くなっていますが、ほとんど変わりません。

【性別】

○　性別でみると、女性は『そう思う』が 3.5 ポイント少なくなっています。

○　男性は、『そう思わない』の割合に違いはみられませんが、「そう思う」が 2.4 ポイント少なくなっています。

【前回比較 ①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割分担をする方がよい】



②女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てた方がよい

【全体】

○ ②女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てた方がよいについて、「そう思わない」が 36.6%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 31.7%、「どちらかといえばそう思わない」が 20.9%となっており、『そう思う』が 39.8%、『そう思わない』が 57.5%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『そう思わない』は女性 69.8%・男性 42.2%で女性の方が 27.6 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、『そう思わない』は 10～40 歳代では 70%台、50 歳以上では 50%台となっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性の 10～50 歳代では『そう思わない』が 80%以上を占めています。

○ 男性の 40 歳～50 歳代と 60 歳以上では『そう思う』がそれぞれ 67.5%、55.5%と他の層と比べて多くなっています。

【性別、年齢別、性年齢別 ②女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てた方がよい】

単位：%

		母数(n)	②女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てた方がよい					“肯定派”	“否定派”
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		
全体		454	8.1	31.7	20.9	36.6	2.6	39.8	57.5
性別	女性	245	6.9	▼ 21.2	△ 26.5	△ 43.3	2.0	▼ 28.1	△ 69.8
	男性	192	8.9	△ 45.8	▼ 14.1	▼ 28.1	3.1	△ 54.7	▼ 42.2
	その他	6	△ 33.3	▼ 16.7	△ 33.3	▼ 16.7	－	△ 50.0	▼ 50.0
年齢別	10・20歳代	13	－	▼ 23.1	△ 30.8	△ 46.2	－	▼ 23.1	△ 77.0
	30歳代	32	3.1	▼ 21.9	21.9	△ 53.1	－	▼ 25.0	△ 75.0
	40歳代	36	5.6	▼ 19.4	25.0	△ 50.0	－	▼ 25.0	△ 75.0
	50歳代	71	▼ 2.8	36.6	▼ 15.5	△ 43.7	1.4	39.4	59.2
	60歳代	85	7.1	35.3	23.5	▼ 29.4	4.7	42.4	52.9
	70歳以上	211	12.3	32.2	19.9	32.2	3.3	44.5	▼ 52.1
性年齢別	女性　10～30歳代	21	－	▼ 19.0	23.8	△ 57.1	－	▼ 19.0	△ 80.9
	40～50歳代	65	▼ 1.5	▼ 12.3	△ 26.2	△ 58.5	1.5	▼ 13.8	△ 84.7
	60歳以上	158	10.1	▼ 25.3	△ 26.6	35.4	2.5	35.4	62.0
	男性　10～30歳代	23	4.3	▼ 26.1	△ 26.1	△ 43.5	－	▼ 30.4	△ 69.6
	40～50歳代	40	7.5	△ 60.0	▼ 7.5	▼ 25.0	－	△ 67.5	▼ 32.5
	60歳以上	128	10.2	△ 45.3	▼ 13.3	▼ 26.6	4.7	△ 55.5	▼ 39.9

【前回比較】

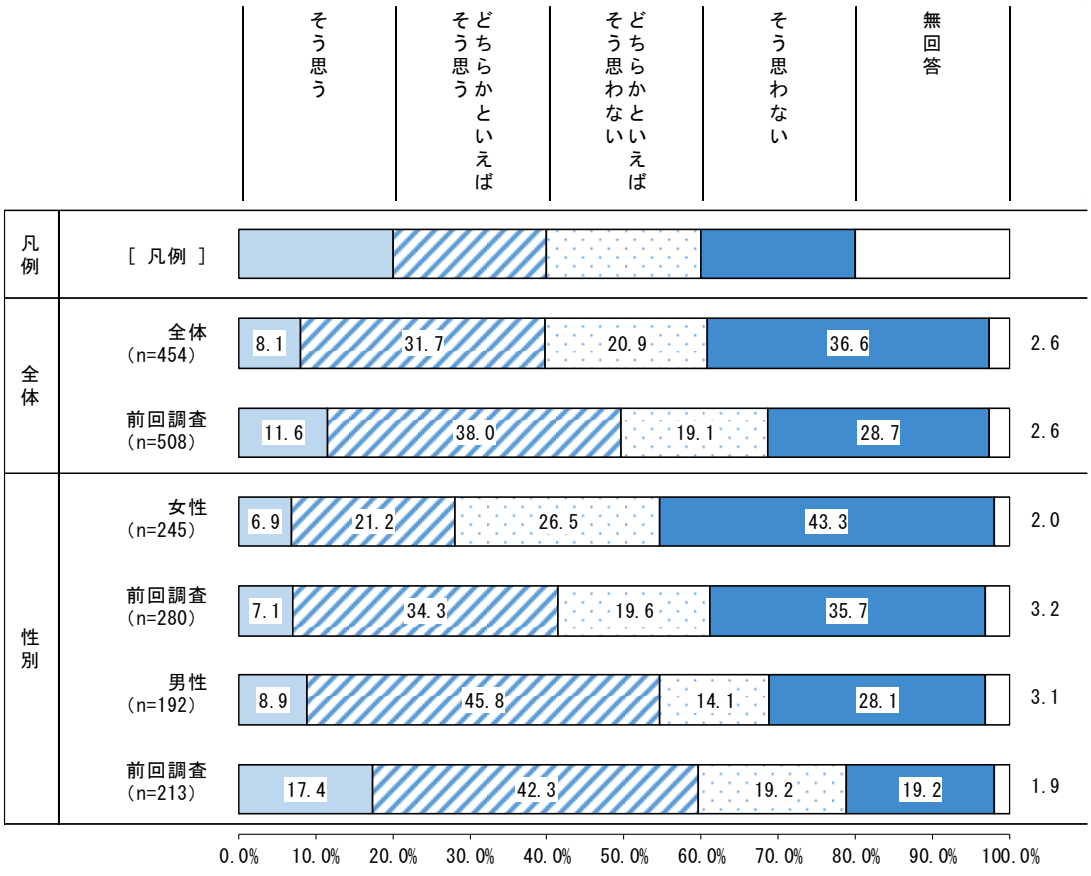
○ 前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『そう思う』が 9.8 ポイント少なく、『そう思わない』が 9.7 ポイント多くなっています。

【性別】

○ 性別でみると、女性は『そう思う』が 13.3 ポイント少なく、『そう思わない』が 14.5 ポイント多くなっています。

○ 男性は、『そう思う』が 5.0 ポイント少なく、『そう思わない』が 3.8 ポイント多くなっています。

【前回比較 ②女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てた方がよい】



③女性も結婚、出産にかかわらず仕事を続ける方がよい

【全体】

○ ③女性も結婚、出産にかかわらず仕事を続ける方がよいについて、「どちらかといえばそう思う」が 45.4%で最も多く、次いで「そう思う」が 32.6%、「どちらかといえばそう思わない」が 11.5%となっており、『そう思う』が 78.0%、『そう思わない』が 18.8%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、男女とも『そう思う』が約 80%を占め、性別による大きな違いはみられません。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30 歳代、40 歳代は『そう思わない』が約 30%と、他の年齢層と比べて多くなっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、男性の 10～30 歳代では『そう思わない』が 30.4%と、他の層と比べて多くなっています。

【性別、年齢別、性年齢別 ③女性も結婚、出産にかかわらず仕事を続ける方がよい】

単位：%

		母数(n)	③女性も結婚、出産にかかわらず仕事を続ける方がよい					“肯定派”	“否定派”
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		
全体		454	32.6	45.4	11.5	7.3	3.3	78.0	18.8
性別	女性	245	33.9	44.9	11.4	6.9	2.9	78.8	18.3
	男性	192	32.8	45.8	12.0	6.3	3.1	78.6	18.3
	その他	6	▼ 16.7	50.0	－	△ 16.7	16.7	▼ 66.7	16.7
年齢別	10・20歳代	13	△ 46.2	▼ 38.5	7.7	7.7	－	△ 84.7	15.4
	30歳代	32	37.5	▼ 31.3	12.5	△ 18.8	－	▼ 68.8	△ 31.3
	40歳代	36	▼ 25.0	41.7	△ 25.0	8.3	－	▼ 66.7	△ 33.3
	50歳代	71	31.0	47.9	15.5	2.8	2.8	78.9	18.3
	60歳代	85	35.3	48.2	▼ 3.5	8.2	4.7	△ 83.5	▼ 11.7
	70歳以上	211	32.7	46.4	10.4	6.2	4.3	79.1	16.6
性年齢別	女性　10～30歳代	21	28.6	47.6	9.5	△ 14.3	－	76.2	△ 23.8
	40～50歳代	65	30.8	41.5	△ 18.5	6.2	3.1	▼ 72.3	△ 24.7
	60歳以上	158	36.1	45.6	8.9	6.3	3.2	81.7	15.2
	男性　10～30歳代	23	△ 47.8	▼ 21.7	13.0	△ 17.4	－	▼ 69.5	△ 30.4
	40～50歳代	40	▼ 27.5	△ 52.5	△ 20.0	－	－	80.0	20.0
	60歳以上	128	32.0	48.4	8.6	6.3	4.7	80.4	14.9

【前回比較】

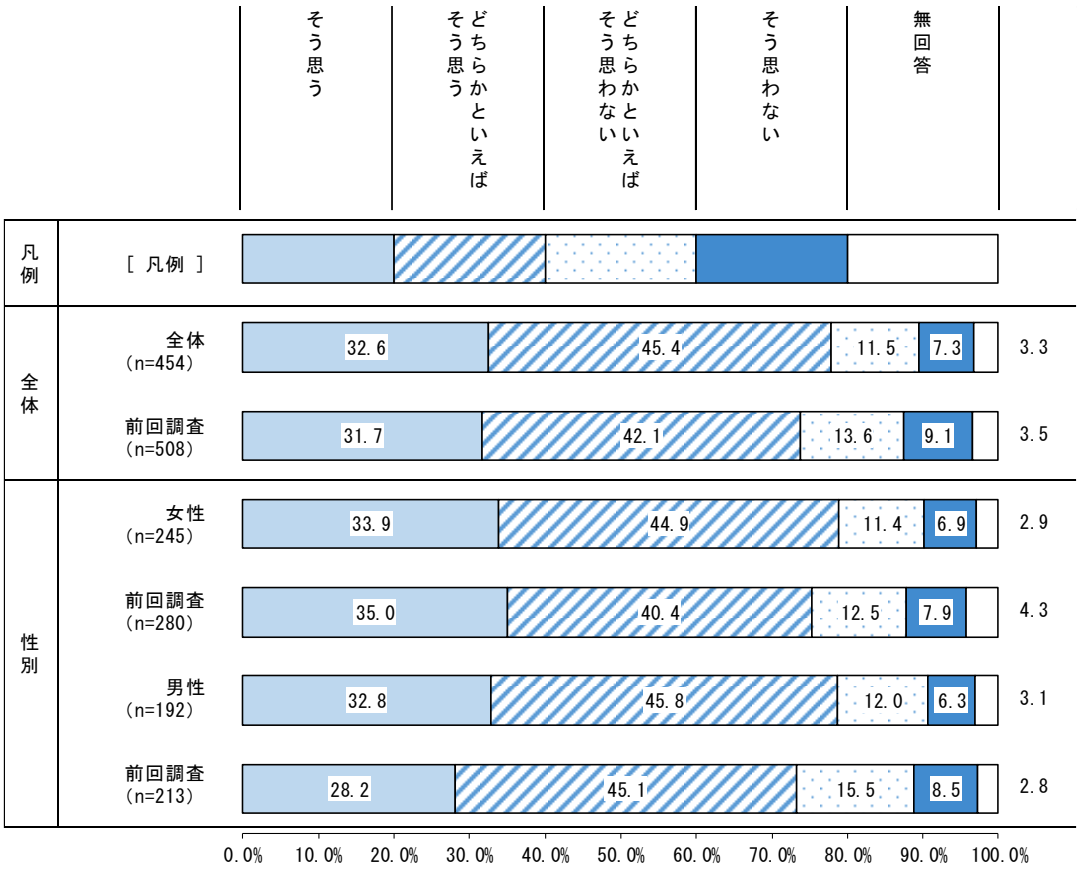
○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『そう思わない』が 3.9 ポイント少なく、『そう思う』が 4.2 ポイント多くなっています。

【性別】

○　性別でみると、女性は『そう思う』が 3.4 ポイント多くなっています。

○　男性は、『そう思わない』が 5.7 ポイント少なく、『そう思う』が 5.3 ポイント多くなっています。

【前回比較　③女性も結婚、出産にかかわらず仕事を続ける方がよい】



④父親も子育てに積極的にかかわった方がよい

【全体】

○ ④父親も子育てに積極的にかかわった方がよいについて、「そう思う」が 61.5%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 31.9%、「そう思わない」が 2.2%となっており、『そう思う』が 93.4%、『そう思わない』が 4.2%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、男女とも『そう思う』が 90%以上を占めていますが、女性の方が「どちらかといえばそう思う」が 14.8 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～40 歳代では「そう思う」が約 80%と多くなっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、40～50 歳代では「そう思う」が女性 81.5%・男性 55.0%と性別による違いが大きくなっています。

【性別、年齢別、性年齢別 ④父親も子育てに積極的にかかわった方がよい】

単位：%

		母数(n)	④父親も子育てに積極的にかかわった方がよい					“肯定派”	“否定派”
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		
全体		454	61.5	31.9	2.0	2.2	2.4	93.4	4.2
性別	女性	245	△ 69.8	▼ 25.3	0.8	1.6	2.4	95.1	2.4
	男性	192	▼ 51.0	△ 40.1	3.6	3.1	2.1	91.1	6.7
	その他	6	▼ 50.0	△ 50.0	－	－	－	△100.0	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 84.6	▼ 7.7	－	△ 7.7	－	92.3	7.7
	30歳代	32	△ 81.3	▼ 15.6	－	3.1	－	96.9	3.1
	40歳代	36	△ 77.8	▼ 22.2	－	－	－	△100.0	－
	50歳代	71	△ 69.0	28.2	1.4	－	1.4	97.2	1.4
	60歳代	85	62.4	29.4	2.4	3.5	2.4	91.8	5.9
	70歳以上	211	▼ 52.6	△ 38.4	2.8	2.4	3.8	91.0	5.2
性年齢別	女性　10～30歳代	21	△ 85.7	▼ 9.5	－	4.8	－	95.2	4.8
	40～50歳代	65	△ 81.5	▼ 16.9	－	－	1.5	△ 98.4	－
	60歳以上	158	63.3	30.4	1.3	1.9	3.2	93.7	3.2
	男性　10～30歳代	23	△ 78.3	▼ 17.4	－	4.3	－	95.7	4.3
	40～50歳代	40	▼ 55.0	△ 42.5	2.5	－	－	97.5	2.5
	60歳以上	128	▼ 45.3	△ 43.0	4.7	3.9	3.1	▼ 88.3	8.6

【前回比較】

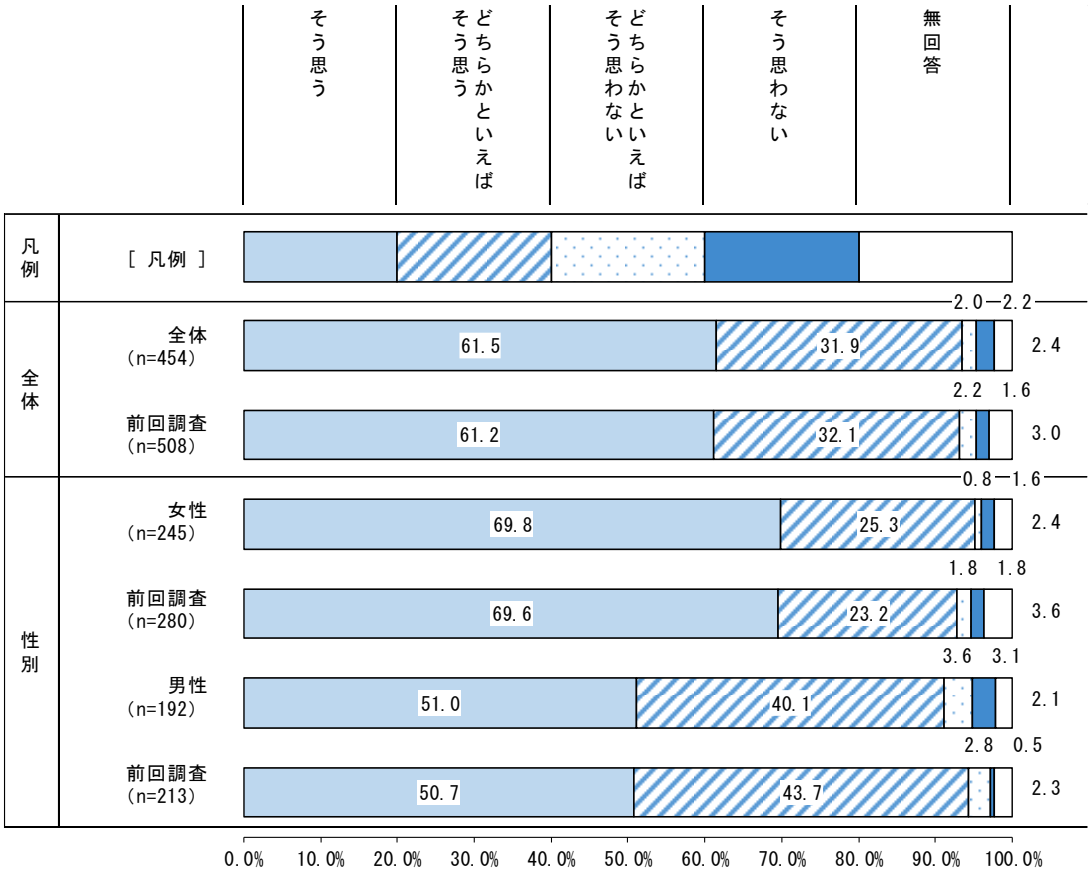
○ 前回調査と比較すると、今回調査・前回調査とも『そう思う』が90%以上を占め、大きな違いはみられません。

【性別】

○ 性別でみると、女性は『そう思う』が2.3ポイント多くなっています。

○ 男性は、『そう思う』が3.3ポイント少なく、『そう思わない』が3.4ポイント多くなっています。

【前回比較 ④父親も子育てに積極的にかかわった方がよい】



⑤政治など方針決定の場に参画する女性が今よりも増えた方がよい

【全体】

○ ⑤政治など方針決定の場に参画する女性が今よりも増えた方がよいについて、「そう思う」が51.1%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 36.3%、「どちらかといえばそう思わない」が 5.3%となっており、『そう思う』が 87.4%、『そう思わない』が 9.7%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、男女とも『そう思う』が約 90%を占めていますが、女性の方が「そう思う」が5.7 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～30 歳代では『そう思う』が 80%未満となっており、『そう思わない』が約 20%となっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、男性の 10～30 歳代では『そう思う』が 65.2%、『そう思わない』が 34.7%と、他の層との違いが大きくなっています。

【性別、年齢別、性年齢別 ⑤政治など方針決定の場に参画する女性が今よりも増えた方がよい】

単位：%

		母数(n)	⑤政治など方針決定の場に参画する女性が今よりも増えた方がよい					“肯定派”	“否定派”
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		
全体		454	51.1	36.3	5.3	4.4	2.9	87.4	9.7
性別	女性	245	54.7	33.9	4.9	4.1	2.4	88.6	9.0
	男性	192	49.0	39.1	5.7	4.2	2.1	88.1	9.9
	その他	6	▼ 16.7	△ 50.0	－	△ 16.7	16.7	▼ 66.7	△ 16.7
年齢別	10・20歳代	13	△ 69.2	▼ 7.7	7.7	△ 15.4	－	▼ 76.9	△ 23.1
	30歳代	32	▼ 40.6	37.5	△ 15.6	6.3	－	▼ 78.1	△ 21.9
	40歳代	36	50.0	△ 44.4	5.6	－	－	△ 94.4	5.6
	50歳代	71	△ 63.4	▼ 29.6	7.0	－	－	△ 93.0	7.0
	60歳代	85	△ 60.0	▼ 30.6	1.2	5.9	2.4	90.6	7.1
	70歳以上	211	▼ 45.0	40.8	4.7	4.7	4.7	85.8	9.4
性年齢別	女性　10～30歳代	21	52.4	38.1	4.8	4.8	－	90.5	9.6
	40～50歳代	65	△ 63.1	▼ 30.8	6.2	－	－	△ 93.9	6.2
	60歳以上	158	51.3	34.8	4.4	5.7	3.8	86.1	10.1
	男性　10～30歳代	23	▼ 43.5	▼ 21.7	△ 21.7	△ 13.0	－	▼ 65.2	△ 34.7
	40～50歳代	40	52.5	40.0	7.5	－	－	△ 92.5	7.5
	60歳以上	128	49.2	△ 41.4	2.3	3.9	3.1	90.6	6.2

【前回比較】

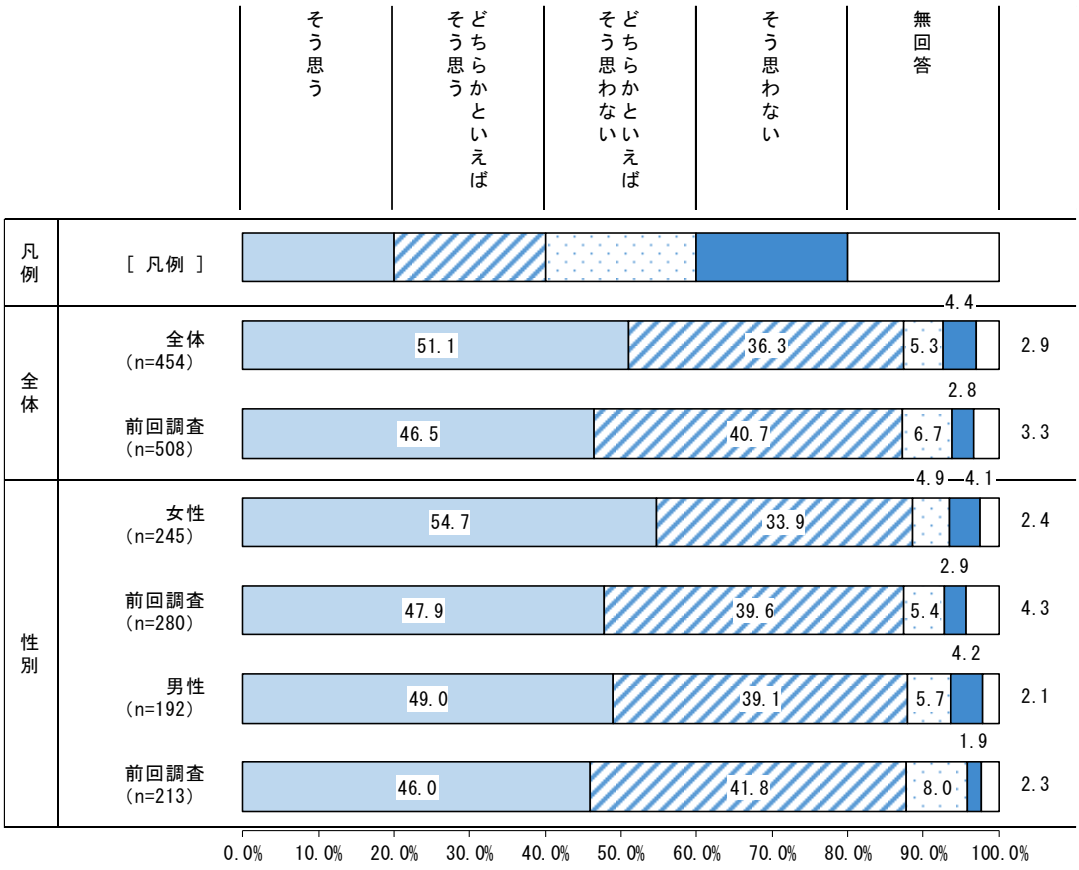
○ 前回調査と比較すると、『そう思う』は今回調査 87.4%・前回調査 87.2%と大きな違いはみられませんが、「どちらかといえばそう思う」が 4.4 ポイント少なく、「そう思う」が 4.6 ポイント多くなっています。

【性別】

○ 性別でみると、女性は「どちらかといえばそう思う」が 5.7 ポイント少なく、「そう思う」が 6.8 ポイント多くなっています。

○ 男性は、「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」が少なく、「そう思う」「そう思わない」がやや多くなっています。

【前回比較 ⑤政治など方針決定の場に参画する女性が今よりも増えた方がよい】



⑥自治会やPTAなどの会長や役員に女性が増えた方がよい

【全体】

○ ⑥自治会や PTA などの会長や役員に女性が増えた方がよいについて、「そう思う」が 40.1%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 39.2%、「どちらかといえばそう思わない」が 11.7%となっており、『そう思う』が 79.3%、『そう思わない』が 17.9%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『そう思う』は男性 85.4%、女性 75.9%で約 10 ポイント男性の方が多くなっています。特に「そう思う」は男性 52.1%・女性 32.2%で、19.9 ポイントと差が大きくなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～40 歳代では『そう思わない』が 30%を超えています。60 歳代は『そう思う』が 85.8%で他の層に比べて多くなっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性の 10～30 歳代では『そう思わない』が 47.6%と、他の層よりも多くなっています。

○ 男性の 40～50 歳代と 60 歳以上では『そう思う』が、それぞれ 85.0%、89.1%と多くなっています。

【性別、年齢別、性年齢別 ⑥自治会や PTA などの会長や役員に女性が増えた方がよい】

単位：%

		母数(n)	⑥自治会やPTAなどの会長や役員に女性が増えた方がよい					“肯定派”	“否定派”
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		
全体		454	40.1	39.2	11.7	6.2	2.9	79.3	17.9
性別	女性	245	▼ 32.2	43.7	14.7	6.5	2.9	75.9	21.2
	男性	192	△ 52.1	▼ 33.3	7.3	5.2	2.1	△ 85.4	▼ 12.5
	その他	6	▼ 16.7	▼ 33.3	△ 33.3	－	16.7	▼ 50.0	△ 33.3
年齢別	10・20歳代	13	△ 53.8	▼ 15.4	15.4	△ 15.4	－	▼ 69.2	△ 30.8
	30歳代	32	▼ 28.1	▼ 28.1	△ 25.0	△ 18.8	－	▼ 56.2	△ 43.8
	40歳代	36	▼ 30.6	38.9	△ 16.7	△ 13.9	－	▼ 69.5	△ 30.6
	50歳代	71	△ 45.1	35.2	14.1	2.8	2.8	80.3	16.9
	60歳代	85	△ 48.2	37.6	8.2	3.5	2.4	△ 85.8	▼ 11.7
	70歳以上	211	38.9	43.6	9.5	3.8	4.3	82.5	13.3
性年齢別	女性　10～30歳代	21	▼ 33.3	▼ 19.0	△ 23.8	△ 23.8	－	▼ 52.3	△ 47.6
	40～50歳代	65	▼ 29.2	43.1	△ 16.9	7.7	3.1	▼ 72.3	△ 24.6
	60歳以上	158	▼ 33.5	△ 46.8	12.7	3.8	3.2	80.3	16.5
	男性　10～30歳代	23	▼ 34.8	▼ 30.4	△ 21.7	△ 13.0	－	▼ 65.2	△ 34.7
	40～50歳代	40	△ 57.5	▼ 27.5	10.0	5.0	－	△ 85.0	15.0
	60歳以上	128	△ 53.9	35.2	▼ 3.9	3.9	3.1	△ 89.1	▼ 7.8

【前回比較】

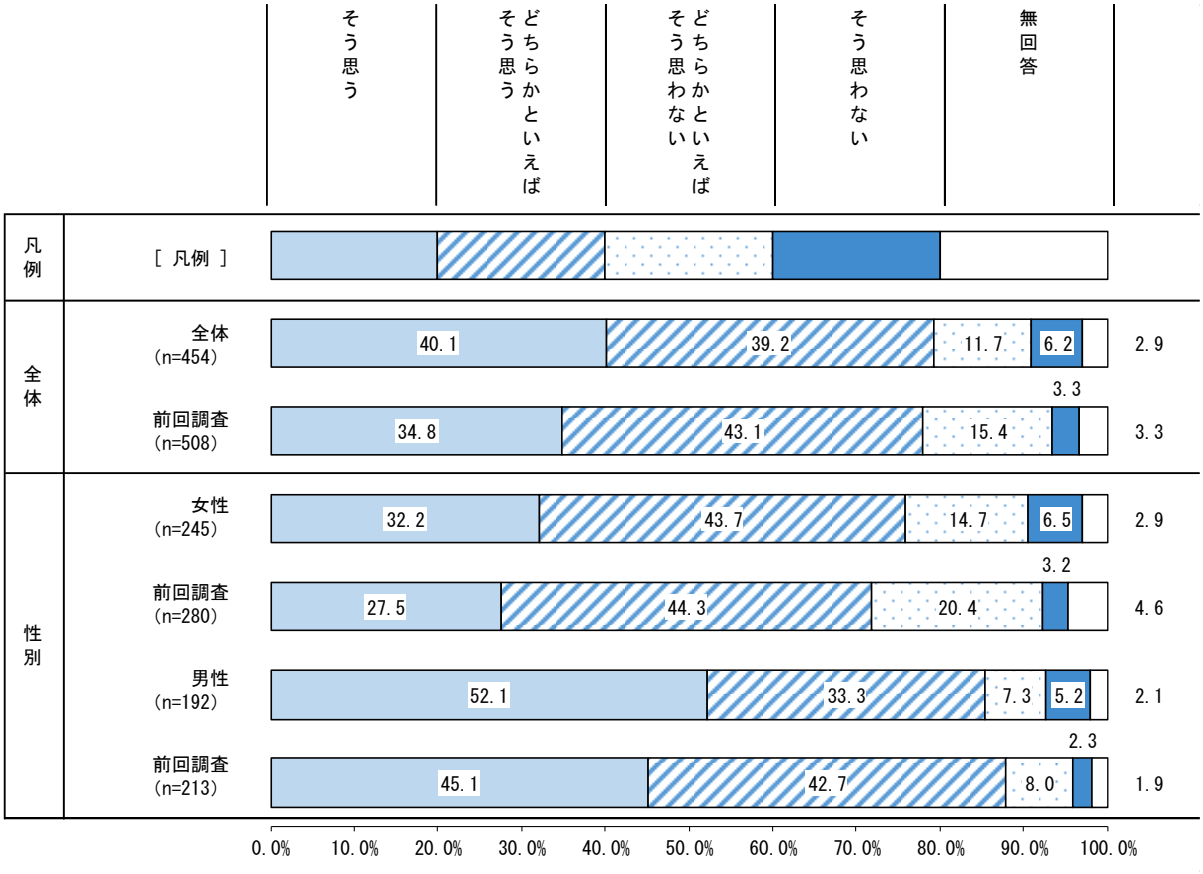
○ 前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「そう思う」が 5.3 ポイント多く、「どちらかといえばそう思う」と「どちらかといえばそう思わない」がそれぞれ 3.9 ポイント、3.7 ポイント少なくなっています。

【性別】

○ 性別でみると、女性は『そう思う』が 4.1 ポイント多くなっています。

○ 男性は、『そう思う』では 2.4 ポイント少なくなっていますが、「そう思う」は 7.0 ポイント多くなっています。

【前回調査 ⑥自治会や PTA などの会長や役員に女性が増えた方がよい】



⑦希望する夫婦が別姓を選べるようにする方がよい

【全体】

○ ⑦希望する夫婦が別姓を選べるようにする方がよいについて、「どちらかといえばそう思う」が 26.4%で最も多く、次いで「そう思う」が 24.9%、「どちらかといえばそう思わない」が 23.8%となっており、『そう思う』が 51.3%、『そう思わない』が 45.8%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『そう思う』は女性 58.4%・男性 44.8%で、女性の方が 13.6 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30 歳代と 70 歳以上では、『そう思う』よりも『そう思わない』が多くなっています。

【性年齢別】

○ 男性はいずれの年齢層も『そう思う』よりも『そう思わない』が多くなっています。

○ 女性は 50 歳代以下では『そう思う』が 70%台ですが、60 歳以上は『そう思う』と『そう思わない』がほぼ同割合となっています。

【性別、年齢別、性年齢別 ⑦希望する夫婦が別姓を選べるようにする方がよい】

単位：%

		母数(n)	⑦希望する夫婦が別姓を選べるようにする方がよい					“肯定派”	“否定派”
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答		
全体		454	24.9	26.4	23.8	22.0	2.9	51.3	45.8
性別	女性	245	28.2	30.2	▼ 18.0	21.2	2.4	△ 58.4	▼ 39.2
	男性	192	21.9	22.9	△ 31.3	21.4	2.6	▼ 44.8	△ 52.7
	その他	6	▼ 16.7	▼ 16.7	△ 33.3	▼ 16.7	16.7	▼ 33.4	50.0
年齢別	10・20歳代	13	△ 69.2	▼ 15.4	－	▼ 15.4	－	△ 84.6	▼ 15.4
	30歳代	32	△ 31.3	▼ 12.5	△ 34.4	21.9	－	▼ 43.8	△ 56.3
	40歳代	36	△ 30.6	△ 33.3	19.4	▼ 16.7	－	△ 63.9	▼ 36.1
	50歳代	71	△ 32.4	△ 35.2	▼ 14.1	▼ 16.9	1.4	△ 67.6	▼ 31.0
	60歳代	85	27.1	25.9	25.9	17.6	3.5	53.0	43.5
	70歳以上	211	▼ 17.1	25.1	27.5	26.1	4.3	▼ 42.2	△ 53.6
性年齢別	女性　10～30歳代	21	△ 52.4	▼ 19.0	▼ 14.3	▼ 14.3	－	△ 71.4	▼ 28.6
	40～50歳代	65	△ 35.4	△ 43.1	▼ 10.8	▼ 9.2	1.5	△ 78.5	▼ 20.0
	60歳以上	158	21.5	26.6	21.5	△ 27.2	3.2	48.1	48.7
	男性　10～30歳代	23	△ 30.4	▼ 8.7	△ 34.8	26.1	－	▼ 39.1	△ 60.9
	40～50歳代	40	27.5	▼ 20.0	25.0	△ 27.5	－	47.5	△ 52.5
	60歳以上	128	▼ 18.8	25.8	△ 32.8	18.8	3.9	▼ 44.6	△ 51.6

（４）男女共同参画に関する用語の認知度

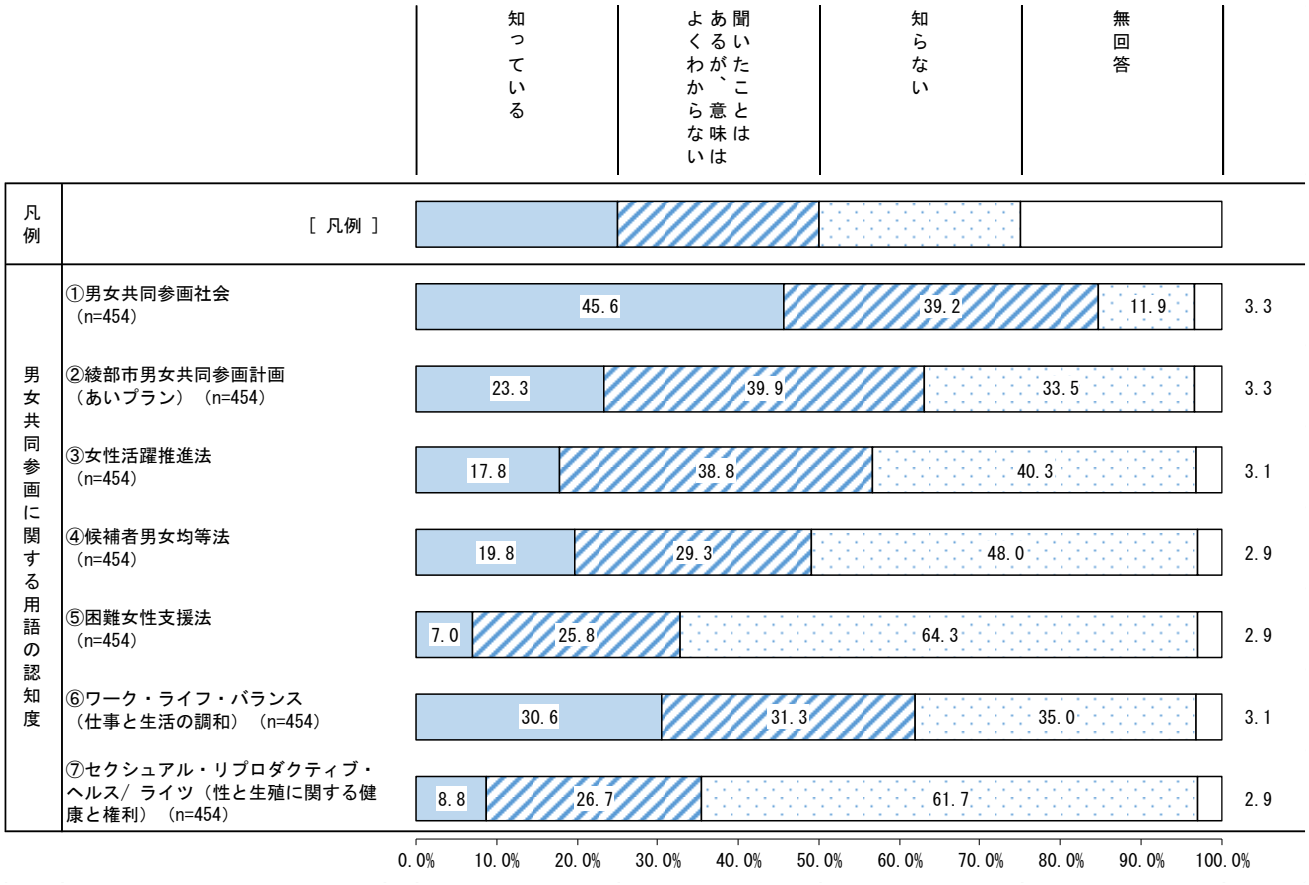
問４　次の言葉のうち、見たり、聞いたりしたことがあるものはどれですか。

【全体】

○　男女共同参画に関する用語の認知度について、『認知度』（「知っている」と「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」の合計）が最も多いものは、「①男女共同参画社会」で 84.8%となっています。また、「②綾部市男女共同参画計画（あいプラン）」「⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」「③女性活躍推進法」も『認知度』が 50%を超えています。

○　一方、「⑤困難女性支援法」「⑦セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」は『認知度』が 40%を下回っています。

【男女共同参画に関する用語の認知度】



①男女共同参画社会

【全体】

○ ①男女共同参画社会について、「知っている」が 45.6%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が 39.2%、「知らない」が 11.9%となっており、『認知度』は 84.8%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『認知度』は女性 88.1%・男性 81.8%で、女性の方が 6.3 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～30 歳代と 50 歳代では『認知度』が 90%を超えています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性 40～50 歳代は「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が、その他の層では「知っている」が多くなっています。男性の 10～30 歳代は、「知っている」が 50%を超えています。

【性別、年齢別、性年齢別 ①男女共同参画社会】

単位：%

		母数 (n)	①男女共同参画社会				“認知度”
			知っている	聞いたことはあるが、意味はよくわからない	知らない	無回答	
全体		454	45.6	39.2	11.9	3.3	84.8
性別	男性	192	47.4	34.4	15.6	2.6	81.8
	女性	245	45.7	42.4	8.6	3.3	88.1
	その他	6	▼ 16.7	△ 50.0	△ 33.3	－	▼ 66.7
年齢別	10・20歳代	13	53.8	38.5	7.7	－	92.3
	30歳代	32	46.9	43.8	9.4	－	90.7
	40歳代	36	▼ 30.6	44.4	△ 22.2	2.8	75.0
	50歳代	71	42.3	47.9	9.9	－	90.2
	60歳代	85	45.9	34.1	18.8	1.2	80.0
	70歳以上	211	48.8	36.5	9.0	5.7	85.3
性年齢別	女性　10～30歳代	21	47.6	42.9	9.5	－	90.5
	40～50歳代	65	36.9	△ 52.3	10.8	－	89.2
	60歳以上	158	49.4	38.0	7.6	5.1	87.4
	男性　10～30歳代	23	52.2	39.1	8.7	－	91.3
	40～50歳代	40	42.5	35.0	20.0	2.5	77.5
	60歳以上	128	47.7	33.6	15.6	3.1	81.3

【前回比較】

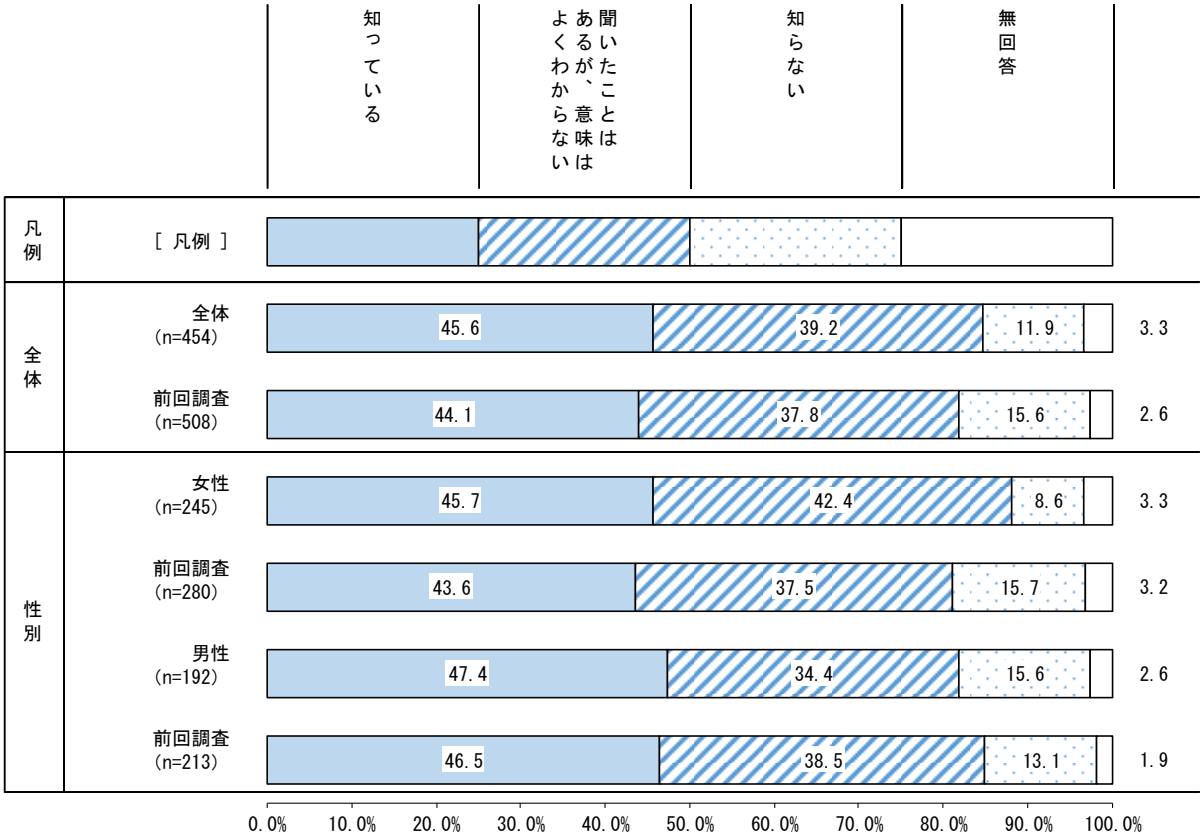
○　前回調査と比較すると、今回調査の『認知度』は 84.8%で、前回調査の 81.9%より、2.9 ポイント多くなっています。

【性別】

○　性別でみると、女性の『認知度』は 88.1%で、前回調査の 81.1%より、7.0 ポイント多くなっています。

○　男性の『認知度』は 81.8%で、前回調査の 85.0%より、3.2 ポイント少なくなっています。

【前回比較 ①男女共同参画社会】



②綾部市男女共同参画計画（あいプラン）

【全体】

○ ②綾部市男女共同参画計画（あいプラン）について、「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が39.9%で最も多く、次いで「知らない」が33.5%、「知っている」が23.3%となっており、『認知度』は63.2%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『認知度』は男女とも約 60%となっていますが、女性は男性より「知っている」が 9.6 ポイント、男性は女性より「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が 6.7 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～30歳代の『認知度』は30%台、40歳代でも52.8%と、50歳以上と比べて『認知度』が少なくなっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性・男性ともに 10～30 歳代は「知らない」が、その他の層では「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が最も多くなっています。男女とも年齢が高いほど「知っている」が多くなる傾向です。

【性別、年齢別、性年齢別 ②綾部市男女共同参画計画（あいプラン）】

単位：%

		母数(n)	②綾部市男女共同参画計画（あいプラン）				“認知度”
			知っている	聞いたことはあるが、意味はよくわからない	知らない	無回答	
全体		454	23.3	39.9	33.5	3.3	63.2
性別	男性	192	18.2	43.8	35.9	2.1	62.0
	女性	245	27.8	37.1	31.4	3.7	64.9
	その他	6	16.7	33.3	△ 50.0	－	▼ 50.0
年齢別	10・20歳代	13	▼ 7.7	30.8	△ 61.5	－	▼ 38.5
	30歳代	32	▼ 12.5	▼ 18.8	△ 68.8	－	▼ 31.3
	40歳代	36	16.7	36.1	△ 47.2	－	▼ 52.8
	50歳代	71	22.5	△ 50.7	26.8	－	△ 73.2
	60歳代	85	28.2	32.9	37.6	1.2	61.1
	70歳以上	211	25.6	43.6	24.6	6.2	69.2
性年齢別	女性　10～30歳代	21	▼ 9.5	▼ 23.8	△ 66.7	－	▼ 33.3
	40～50歳代	65	24.6	44.6	30.8	－	69.2
	60歳以上	158	31.6	35.4	27.2	5.7	67.0
	男性　10～30歳代	23	▼ 13.0	▼ 21.7	△ 65.2	－	▼ 34.7
	40～50歳代	40	15.0	47.5	37.5	－	62.5
	60歳以上	128	20.3	46.9	29.7	3.1	67.2

【前回比較】

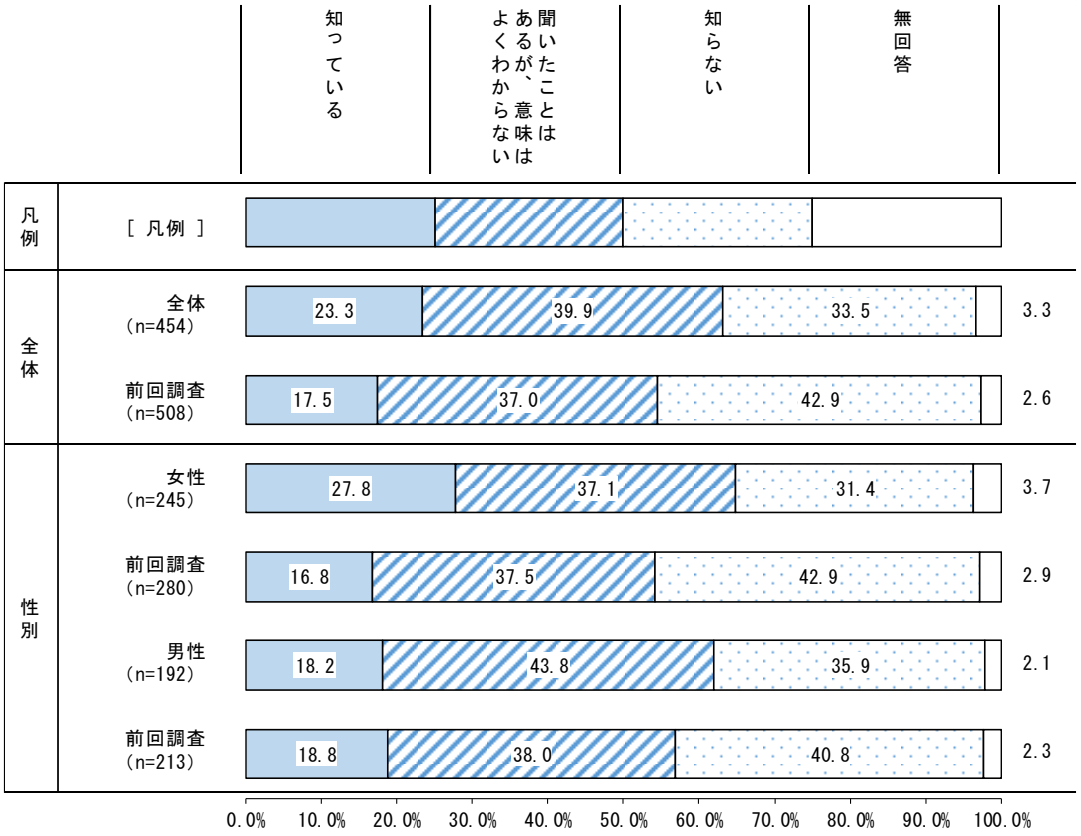
○　前回調査と比較すると、今回調査の『認知度』は 63.2%で、前回調査の 54.5%より、8.7 ポイント多くなっています。

【性別】

○　性別でみると女性の『認知度』は 64.9%で、前回調査の 54.3%より、10.6 ポイント多くなっています。

○　男性の『認知度』は 62.0%で、前回調査の 56.8%より、5.2 ポイント多くなっています。

【前回比較 ②綾部市男女共同参画計画（あいプラン)】



③女性活躍推進法

【全体】

○ ③女性活躍推進法について、「知らない」が 40.3%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が 38.8%、「知っている」が 17.8%となっており、『認知度』は 56.6%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『認知度』は女性 58.0%・男性 56.3%となっており、性別により大きな違いはみられません。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30・40 歳代では、「知らない」が 50%を超えています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、男性 10～50 歳代は「知らない」が 50%を超えていますが、その他の層では『認知度』が 50%を超えています。

【性別、年齢別、性年齢別 ③女性活躍推進法】

単位：%

		母数 (n)	③女性活躍推進法				“認知度”
			知っている	聞いたことはあるが、意味はよくわからない	知らない	無回答	
全体		454	17.8	38.8	40.3	3.1	56.6
性別	男性	192	17.2	39.1	41.7	2.1	56.3
	女性	245	18.0	40.0	38.8	3.3	58.0
	その他	6	△ 33.3	▼ 16.7	50.0	-	50.0
年齢別	10・20歳代	13	15.4	△ 53.8	30.8	-	△ 69.2
	30歳代	32	18.8	▼ 28.1	△ 53.1	-	46.9
	40歳代	36	▼ 5.6	38.9	△ 55.6	-	▼ 44.5
	50歳代	71	19.7	42.3	38.0	-	62.0
	60歳代	85	22.4	38.8	37.6	1.2	61.2
	70歳以上	211	17.5	37.9	38.9	5.7	55.4
性年齢別	女性　10～30歳代	21	14.3	42.9	42.9	-	57.2
	40～50歳代	65	12.3	44.6	43.1	-	56.9
	60歳以上	158	20.9	37.3	36.7	5.1	58.2
	男性　10～30歳代	23	17.4	30.4	△ 52.2	-	47.8
	40～50歳代	40	20.0	37.5	42.5	-	57.5
	60歳以上	128	16.4	40.6	39.8	3.1	57.0

【前回比較】

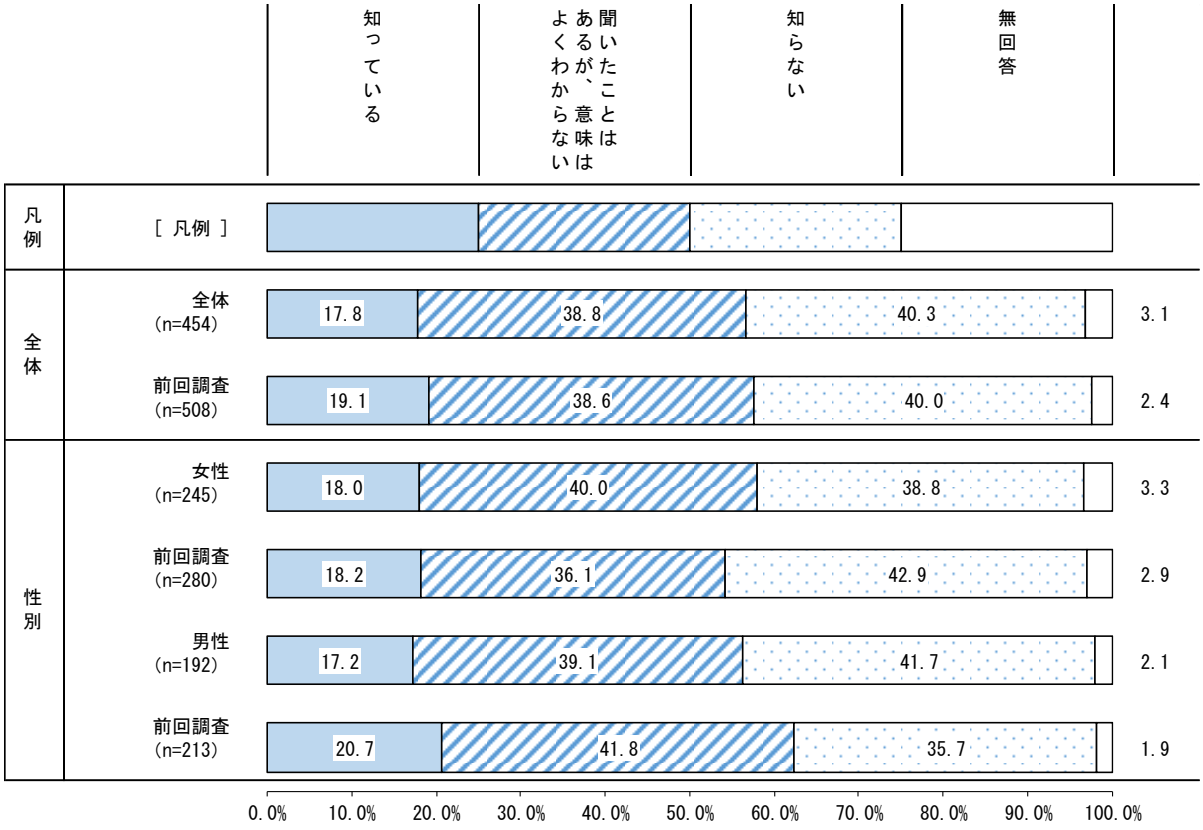
○　前回調査と比較すると、今回調査の『認知度』は 56.6%で、前回調査の 57.7%と大きな違いはみられません。

【性別】

○　性別でみると、女性の『認知度』は 58.0%で、前回調査の 54.3%より、3.7 ポイント多くなっています。

○　男性の『認知度』は 56.3%で、前回調査の 62.5%より、6.2 ポイント少なくなっています。

【前回比較 ③女性活躍推進法】



④候補者男女均等法

【全体】

○ ④候補者男女均等法について、「知らない」が 48.0%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が 29.3%、「知っている」が 19.8%となっており、『認知度』は 49.1%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『認知度』は女性 50.6%・男性 48.4%で、男性の方が 2.2 ポイント低くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、『認知度』は 10・20 歳代が 15.4%、30・40 歳代でも 40%を下回っています。70 歳以上では 57.4%で、年齢があがるほど『認知度』が高くなっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、男女とも 10～30 歳代は「知らない」が特に多くなっています。「知っている」は、男女とも年齢層が上がるほど多くなっています。

【性別、年齢別、性年齢別 ④候補者男女均等法】

単位：%

		母数 (n)	④候補者男女均等法				“認知度”
			知っている	聞いたことはあるが、意味はよくわからない	知らない	無回答	
全体		454	19.8	29.3	48.0	2.9	49.1
性別	男性	192	18.2	30.2	49.5	2.1	48.4
	女性	245	20.8	29.8	46.5	2.9	50.6
	その他	6	△ 33.3	▼ 16.7	50.0	－	50.0
年齢別	10・20歳代	13	▼ 7.7	▼ 7.7	△ 84.6	－	▼ 15.4
	30歳代	32	▼ 9.4	25.0	△ 65.6	－	▼ 34.4
	40歳代	36	16.7	22.2	△ 61.1	－	▼ 38.9
	50歳代	71	14.1	32.4	53.5	－	46.5
	60歳代	85	16.5	31.8	50.6	1.2	48.3
	70歳以上	211	26.1	31.3	▼ 37.4	5.2	57.4
性年齢別	女性　10～30歳代	21	▼ 9.5	▼ 14.3	△ 76.2	－	▼ 23.8
	40～50歳代	65	13.8	26.2	△ 60.0	－	40.0
	60歳以上	158	25.3	33.5	▼ 36.7	4.4	58.8
	男性　10～30歳代	23	▼ 4.3	26.1	△ 69.6	－	▼ 30.4
	40～50歳代	40	17.5	35.0	47.5	－	52.5
	60歳以上	128	21.1	29.7	46.1	3.1	50.8

【前回比較】

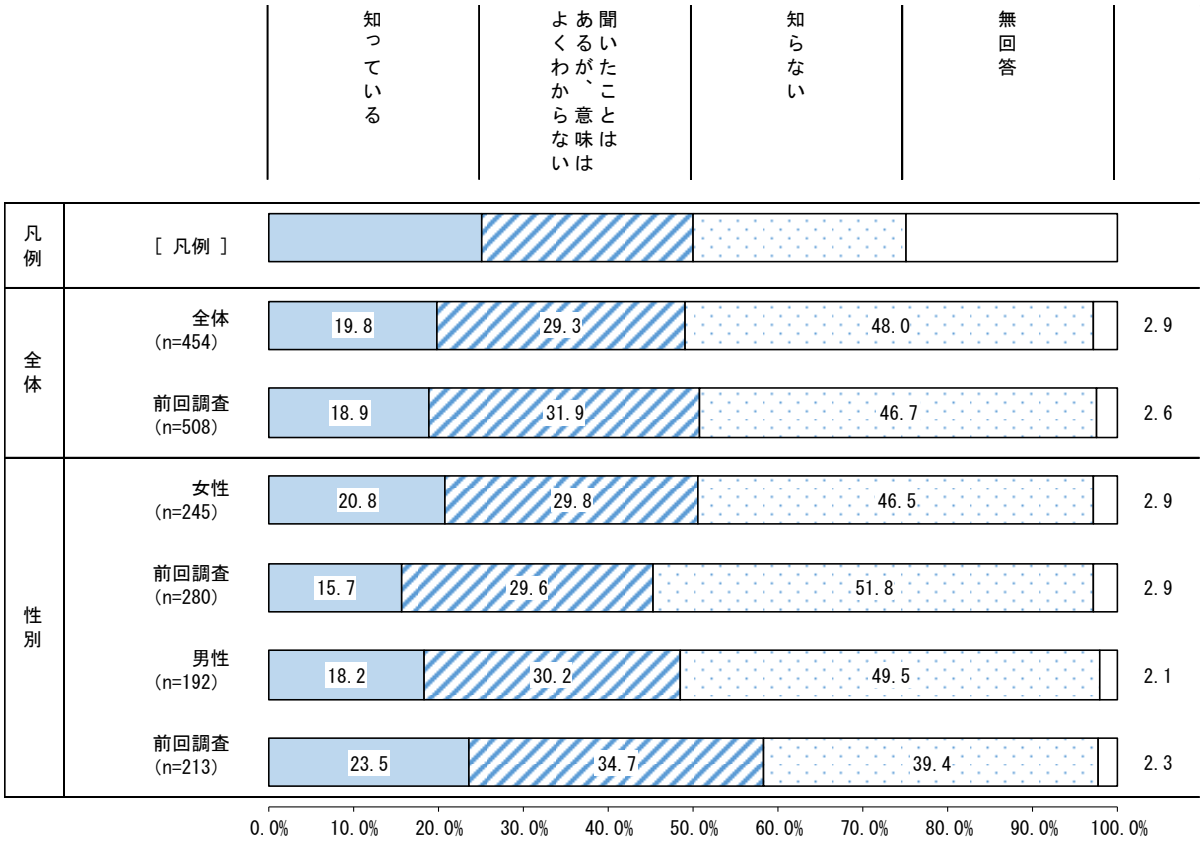
○ 前回調査と比較すると、今回調査の『認知度』は 49.1%で、前回調査の 50.8%と大きな違いはみられません。

【性別】

○ 性別でみると、女性の『認知度』は 50.6%で、前回調査の 45.3%より、5.3 ポイント多くなっています。

○ 男性の『認知度』は 48.4%で、前回調査の 58.2%より、9.8 ポイント少なくなっています。

【前回比較 ④候補者男女均等法】



⑤困難女性支援法

【全体】

○ ⑤困難女性支援法について、「知らない」が 64.3%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が 25.8%、「知っている」が 7.0%となっており、認知度は 32.8%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『認知度』は女性 32.3%・男性 31.2%となっており、性別による大きな違いはみられません。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～30 歳代では「知らない」が約 90%を占めています。『認知度』は年齢があがるほど高くなっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、「知らない」は男女とも年齢層が下がるほど、多くなっています。女性 60 歳以上の『認知度』がやや多くなっています。

【性別、年齢別、性年齢別 ⑤困難女性支援法】

単位：%

		母数 (n)	⑤困難女性支援法				“認知度”
			知っている	聞いたことはあるが、意味はよくわからない	知らない	無回答	
全体		454	7.0	25.8	64.3	2.9	32.8
性別	男性	192	5.2	26.0	67.2	1.6	31.2
	女性	245	7.8	24.5	64.1	3.7	32.3
	その他	6	△ 33.3	16.7	▼ 50.0	－	△ 50.0
年齢別	10・20歳代	13	7.7	－	△ 92.3	－	▼ 7.7
	30歳代	32	3.1	▼ 9.4	△ 87.5	－	▼ 12.5
	40歳代	36	5.6	19.4	△ 75.0	－	25.0
	50歳代	71	7.0	21.1	69.0	2.8	28.1
	60歳代	85	4.7	25.9	69.4	－	30.6
	70歳以上	211	8.5	32.2	▼ 54.0	5.2	40.7
性年齢別	女性　10～30歳代	21	－	－	△100.0	－	－
	40～50歳代	65	4.6	21.5	73.8	－	26.1
	60歳以上	158	10.1	29.1	55.1	5.7	39.2
	男性　10～30歳代	23	8.7	▼ 8.7	△ 82.6	－	▼ 17.4
	40～50歳代	40	10.0	20.0	65.0	5.0	30.0
	60歳以上	128	3.1	31.3	64.8	0.8	34.4

⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

【全体】

○ ⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について、「知らない」が 35.0%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が 31.3%、「知っている」が 30.6%となっており、『認知度』は 61.9%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『認知度』は女性 63.3%・男性 61.5%と、性別により大きな違いはみられませんが、男性は女性よりも「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が 4.1 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、70 歳以上は「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が 37.9%と、他の年齢層と比べて多くなっています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性 10～50 歳代と男性 10～30 歳代は「知っている」が最も多くなっています。『認知度』が高いのは、女性 40～50 歳代、男性 10～30 歳代で 70%を超えています。

【性別、年齢別、性年齢別 ⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】

単位：%

		母数 (n)	⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）				“認知度”
			知っている	聞いたことはあるが、意味はよくわからない	知らない	無回答	
全体		454	30.6	31.3	35.0	3.1	61.9
性別	男性	192	27.6	33.9	37.0	1.6	61.5
	女性	245	33.5	29.8	33.1	3.7	63.3
	その他	6	33.3	▼ 16.7	△ 50.0	－	▼ 50.0
年齢別	10・20歳代	13	△ 53.8	23.1	▼ 23.1	－	△ 76.9
	30歳代	32	△ 40.6	28.1	31.3	－	68.7
	40歳代	36	△ 41.7	22.2	36.1	－	63.9
	50歳代	71	△ 43.7	25.4	28.2	2.8	69.1
	60歳代	85	38.8	23.5	37.6	－	62.3
	70歳以上	211	▼ 19.0	37.9	37.9	5.2	56.9
性年齢別	女性　10～30歳代	21	△ 42.9	23.8	33.3	－	66.7
	40～50歳代	65	△ 52.3	▼ 20.0	27.7	－	△ 72.3
	60歳以上	158	24.7	34.2	35.4	5.7	58.9
	男性　10～30歳代	23	△ 47.8	26.1	26.1	－	△ 73.9
	40～50歳代	40	30.0	32.5	32.5	5.0	62.5
	60歳以上	128	23.4	35.2	40.6	0.8	58.6

【前回比較】

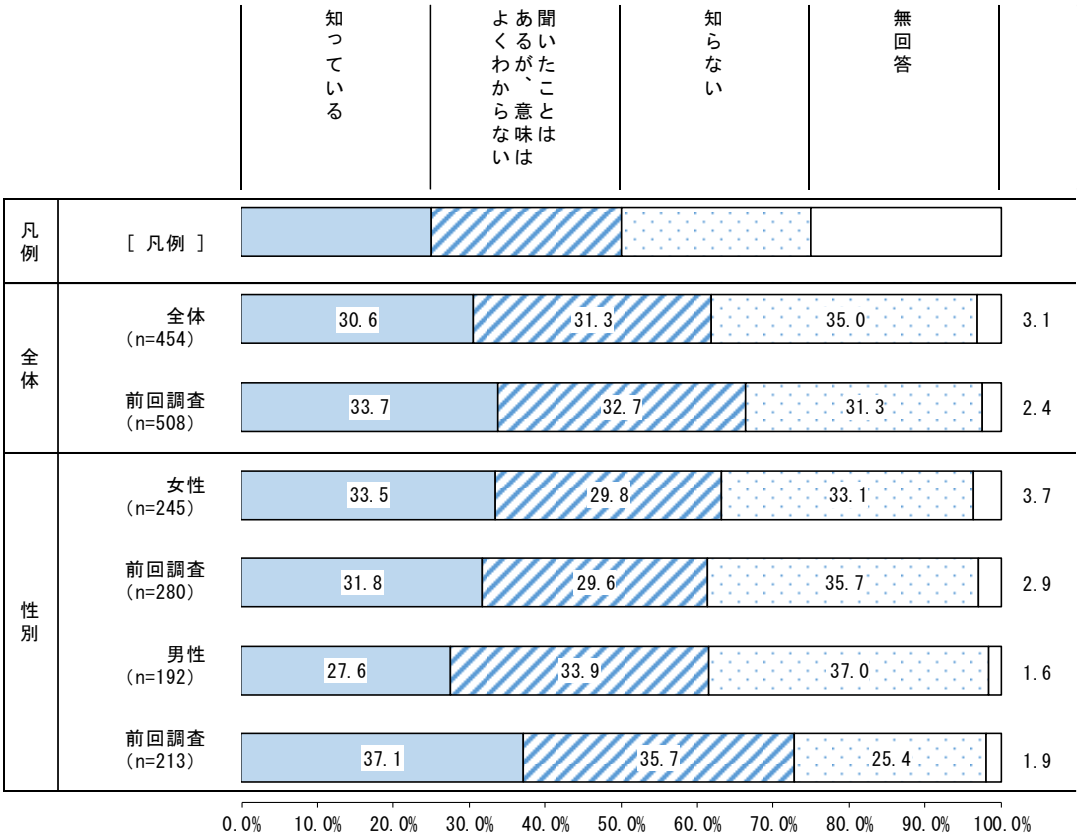
○ 前回調査と比較すると、今回調査の『認知度』は 61.9%で、前回調査の 66.4%より、4.5 ポイント少なくなっています。

【性別】

○ 性別でみると、女性の『認知度』は 63.3%で、前回調査の 61.4%との大きな違いはみられません。

○ 男性の『認知度』は 61.5%で、前回調査の 72.8%より、11.3 ポイント少なくなっています。

【前回比較 ⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】



⑦セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）

【全体】

○ ⑦セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）について、「知らない」が 61.7%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが、意味はよくわからない」が 26.7%、「知っている」が 8.8%となっており、『認知度』は 35.5%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『認知度』は女性 36.7%・男性 33.3%で、女性の方が 3.4 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30・40 歳代では「知らない」が 70%以上を占めています。

【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性の 10～30 歳代は「知らない」が他の年齢層より多い一方で「知っている」の割合がやや多くなっています。

【性別、年齢別、性年齢別 ⑦セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）】

単位：%

		母数 (n)	⑦セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）				“認知度”
			知っている	聞いたことはあるが、意味はよくわからない	知らない	無回答	
全体		454	8.8	26.7	61.7	2.9	35.5
性別	男性	192	5.2	28.1	65.1	1.6	33.3
	女性	245	11.0	25.7	60.0	3.3	36.7
	その他	6	△ 33.3	▼ 16.7	▼ 50.0	－	△ 50.0
年齢別	10・20歳代	13	15.4	23.1	61.5	－	38.5
	30歳代	32	6.3	18.8	△ 75.0	－	▼ 25.1
	40歳代	36	11.1	▼ 16.7	△ 72.2	－	27.8
	50歳代	71	8.5	23.9	64.8	2.8	32.4
	60歳代	85	8.2	29.4	62.4	－	37.6
	70歳以上	211	9.0	29.4	56.9	4.7	38.4
性年齢別	女性　10～30歳代	21	14.3	▼ 9.5	△ 76.2	－	▼ 23.8
	40～50歳代	65	10.8	23.1	66.2	－	33.9
	60歳以上	158	10.8	29.1	55.1	5.1	39.9
	男性　10～30歳代	23	4.3	26.1	69.6	－	30.4
	40～50歳代	40	7.5	20.0	67.5	5.0	27.5
	60歳以上	128	4.7	31.3	63.3	0.8	36.0

３．仕事について

（１）職業

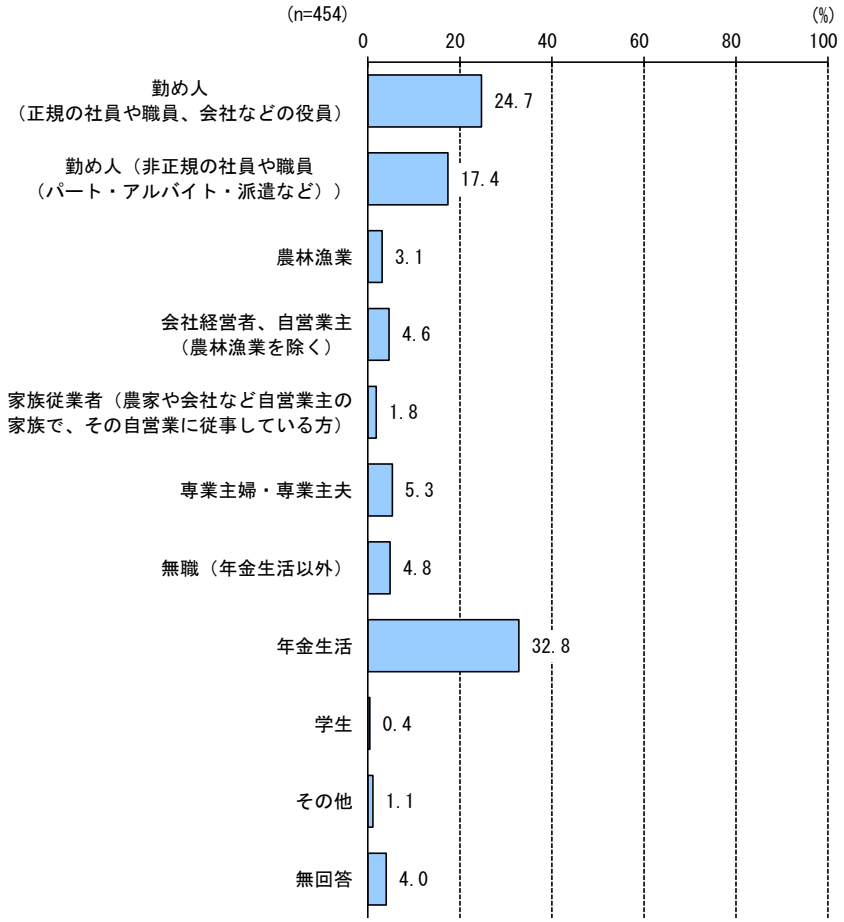
問５　あなたの現在の職業と配偶者・パートナーの職業は、次のどれにあたりますか。

あなたの職業

【全体】

○　回答者の職業について、「年金生活」が 32.8%で最も多く、次いで「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員)」が24.7%、「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など))」が17.4%となっています。

【回答者の職業】



【性別】

○　性別でみると、女性は男性よりも「専業主婦・専業主夫」が 9.4 ポイント、「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など））」が 6.7 ポイント多く、男性は女性よりも「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」が 7.4 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、10～50 歳代では「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」、60 歳代では「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など））」、70 歳以上では「年金生活」が最も多くなっています。

【性別、年齢別 回答者の職業】

単位：%

		母数(n)	回答者の職業					
			勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）	勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など））	農林漁業	会社経営者、自営業主（農林漁業を除く）	家族従業者（農家や会社など自営業主の家族で、その自営業に従事している方）	専業主婦・専業主夫
全体		454	24.7	17.4	3.1	4.6	1.8	5.3
性別	女性	245	21.2	20.8	1.6	2.9	2.9	9.4
	男性	192	28.6	14.1	5.2	6.8	0.5	－
	その他	6	△ 50.0	－	－	－	－	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 69.2	15.4	－	－	－	－
	30歳代	32	△ 78.1	▼ 9.4	－	6.3	3.1	－
	40歳代	36	△ 41.7	△ 27.8	5.6	5.6	2.8	8.3
	50歳代	71	△ 60.6	△ 25.4	2.8	2.8	－	－
	60歳代	85	▼ 15.3	△ 36.5	1.2	7.1	2.4	9.4
	70歳以上	211	▼ 3.3	▼ 7.1	4.3	4.3	1.9	6.2

単位：%

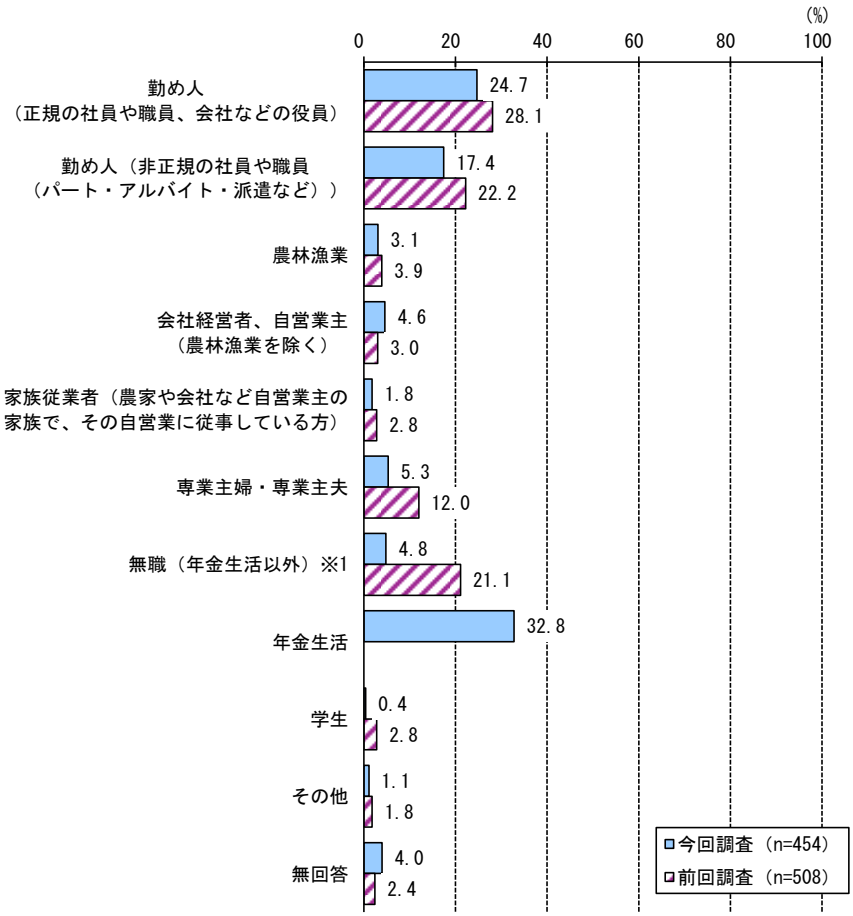
		母数(n)	回答者の職業				
			無職（年金生活以外）	年金生活	学生	その他	無回答
全体		454	4.8	32.8	0.4	1.1	4.0
性別	女性	245	4.1	32.2	－	1.6	3.3
	男性	192	5.7	33.3	1.0	0.5	4.2
	その他	6	－	△ 50.0	－	－	－
年齢別	10・20歳代	13	－	－	△ 15.4	－	－
	30歳代	32	－	－	－	3.1	－
	40歳代	36	5.6	▼ 2.8	－	－	－
	50歳代	71	1.4	－	－	1.4	5.6
	60歳代	85	5.9	▼ 18.8	－	2.4	1.2
	70歳以上	211	6.2	△ 60.7	－	0.5	5.7

【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員)」が 3.4 ポイント、「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など))」が 4.8 ポイント少なくなっています。

○　「専業主婦・専業主夫」「無職（年金生活以外)」「年金生活」の合計は、今回調査 42.9%・前回調査 33.1%で、今回調査が 9.8 ポイント多くなっています。

【前回比較 回答者の職業】



※　　前回調査では選択肢に「年金生活」はない

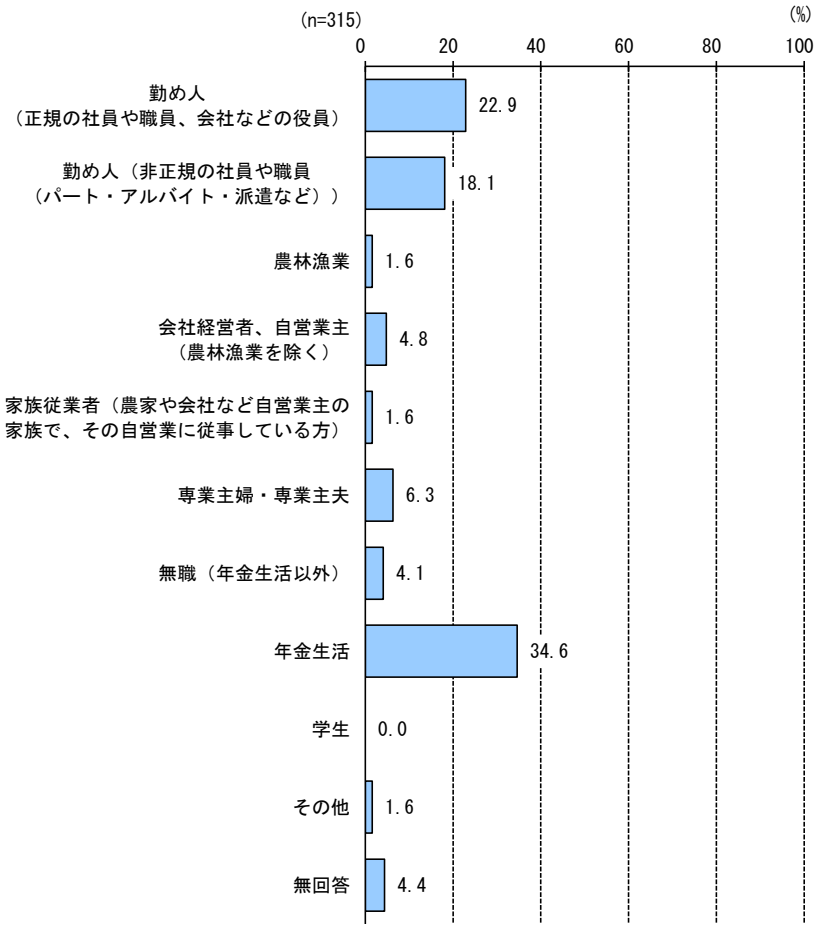
※1　前回調査では「無職」

配偶者・パートナーの職業

【全体】

○ 配偶者・パートナーの職業について、「年金生活」が 34.6%で最も多く、次いで「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員)」が22.9%、「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など))」が18.1%となっています。

【配偶者・パートナーの職業】



【性別】

○　性別でみると、女性は男性よりも「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」が 16.8 ポイント、男性は女性よりも「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など））」が 16.8 ポイント、「専業主婦・専業主夫」が 10.7 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、10～50 歳代では「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」、60 歳代では「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など））」、70 歳以上では「年金生活」が最も多くなっています。

【性別、年齢別 配偶者・パートナーの職業】

単位：%

		母数(n)	配偶者・パートナーの職業					
			勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）	勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など））	農林漁業	会社経営者、自営業主（農林漁業を除く）	家族従業者（農家や会社など自営業主の家族で、その自営業に従事している方）	専業主婦・専業主夫
全体		315	22.9	18.1	1.6	4.8	1.6	6.3
性別	女性	162	△ 31.5	▼ 10.5	3.1	6.8	1.2	▼ 1.2
	男性	143	▼ 14.7	△ 27.3	－	2.8	2.1	△ 11.9
	その他	2	－	－	－	－	－	△ 50.0
年齢別	10・20歳代	2	△ 50.0	－	－	－	－	－
	30歳代	16	△ 56.3	△ 31.3	－	6.3	－	6.3
	40歳代	27	△ 74.1	▼ 7.4	－	7.4	－	－
	50歳代	56	△ 51.8	△ 25.0	－	5.4	－	7.1
	60歳代	68	▼ 17.6	△ 35.3	－	5.9	2.9	8.8
	70歳以上	142	▼ 0.7	▼ 8.5	3.5	3.5	2.1	6.3

単位：%

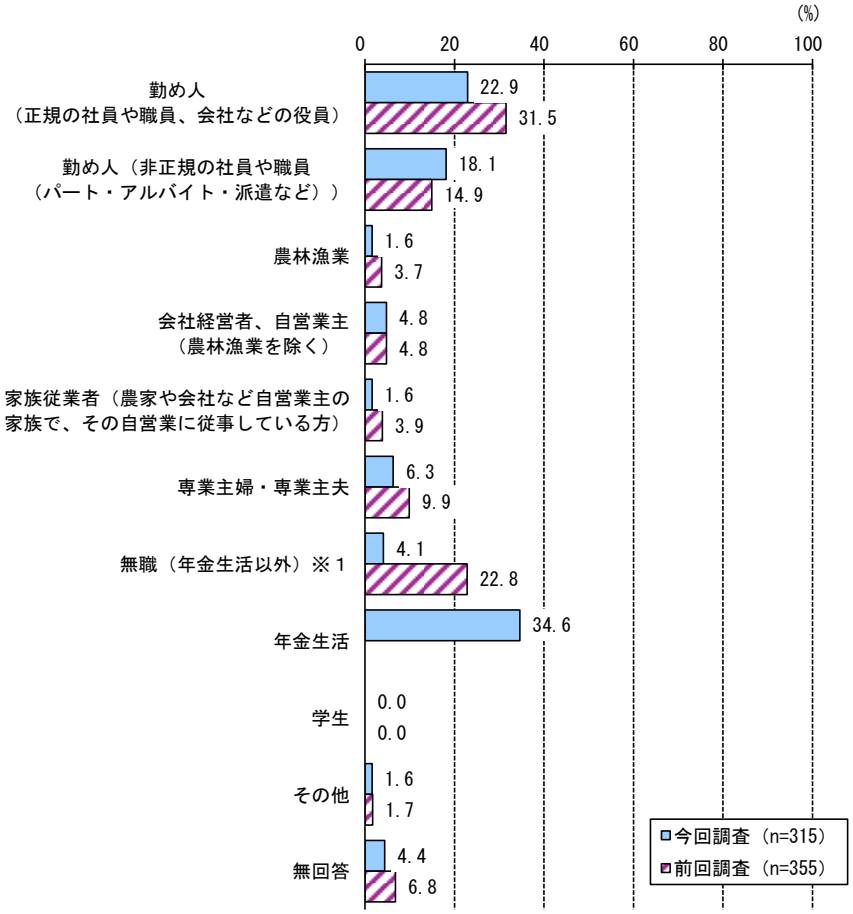
		母数(n)	配偶者・パートナーの職業				
			無職（年金生活以外）	年金生活	学生	その他	無回答
全体		315	4.1	34.6	－	1.6	4.4
性別	女性	162	3.1	35.8	－	1.9	4.9
	男性	143	5.6	32.2	－	0.7	2.8
	その他	2	－	－	－	△ 50.0	－
年齢別	10・20歳代	2	－	－	－	－	50.0
	30歳代	16	－	－	－	－	－
	40歳代	27	3.7	－	－	3.7	3.7
	50歳代	56	－	▼ 3.6	－	－	7.1
	60歳代	68	7.4	▼ 14.7	－	5.9	1.5
	70歳以上	142	4.9	△ 65.5	－	－	4.9

【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員)」が 8.6 ポイント少なく、「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など))」が 3.2 ポイント多くなっています。

○　「専業主婦・専業主夫」「無職（年金生活以外)」「年金生活」の合計は、今回調査 45.0%・前回調査 32.7%で、今回調査が 12.3 ポイント多くなっています。

【前回比較 配偶者・パートナーの職業】



※　　前回調査では選択肢に「年金生活」はない

※1　前回調査では「無職」

（2）就労意向の有無

問５．１　問５で、ご自身が「６．専業主婦・専業主夫」または「７.無職」と答えられた方におたずねします。あなたは、今後、働きたいと思いますか。

【全体】

○　就労意向の有無について、「働きたくない」が 47.8%で最も多く、次いで「わからない」が 23.9%、「条件が整えば働きたい」が 17.4%となっています。

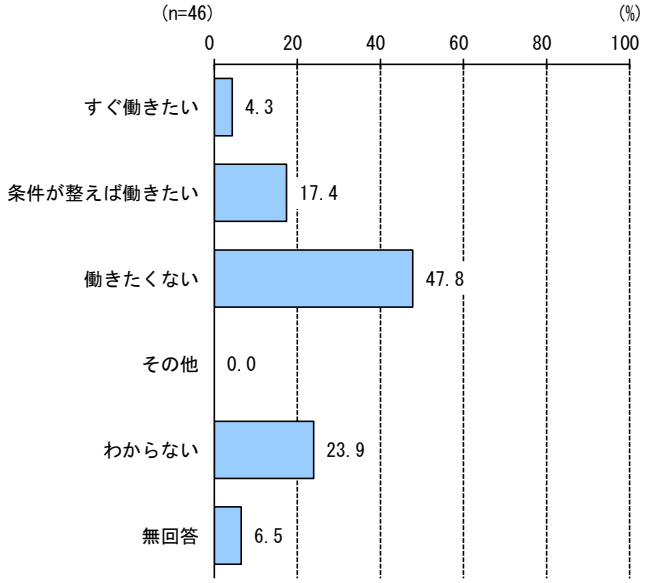
【性別】

○　性別でみると、男性は女性よりも「条件が整えば働きたい」が多くなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、60 歳代は「わからない」と「働きたくない」がそれぞれ 38.5%（5 件）、70 歳以上は「働きたくない」61.5%（16 件）が最も多くなっています。

【就労意向の有無】



【性別、年齢別 就労意向の有無】

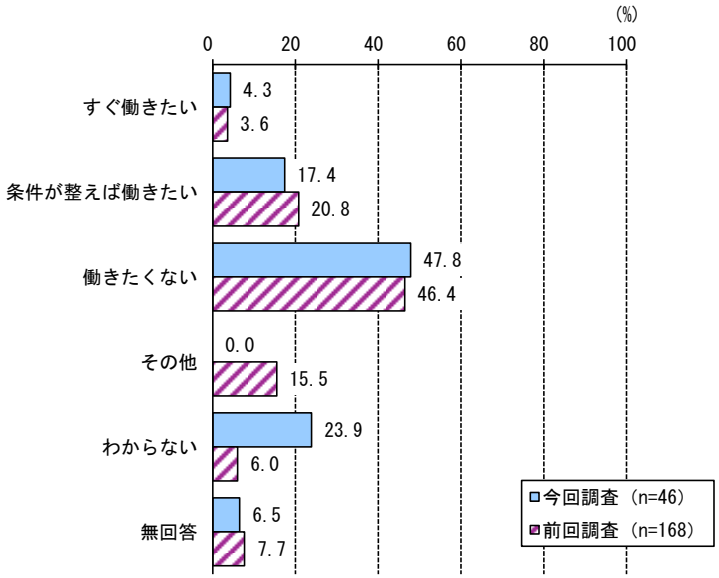
単位：%

		母数(n)	就労意向の有無					
			すぐ働きたい	条件が整えば働きたい	働きたくない	その他	わからない	無回答
全体		46	4.3	17.4	47.8	－	23.9	6.5
性別	女性	33	3.0	15.2	51.5	－	21.2	9.1
	男性	11	9.1	△ 27.3	▼ 36.4	－	27.3	－
	その他	－	－	－	－	－	－	－
年齢別	10・20歳代	－	－	－	－	－	－	－
	30歳代	－	－	－	－	－	－	－
	40歳代	5	－	△ 40.0	▼ 20.0	－	△ 40.0	－
	50歳代	1	－	△100.0	－	－	－	－
	60歳代	13	7.7	15.4	▼ 38.5	－	△ 38.5	－
	70歳以上	26	－	▼ 11.5	△ 61.5	－	▼ 15.4	11.5

【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「わからない」が多くなっていますが、就労意向がある、なしの回答割合はほとんど変わりません。

【前回比較 就労意向の有無】



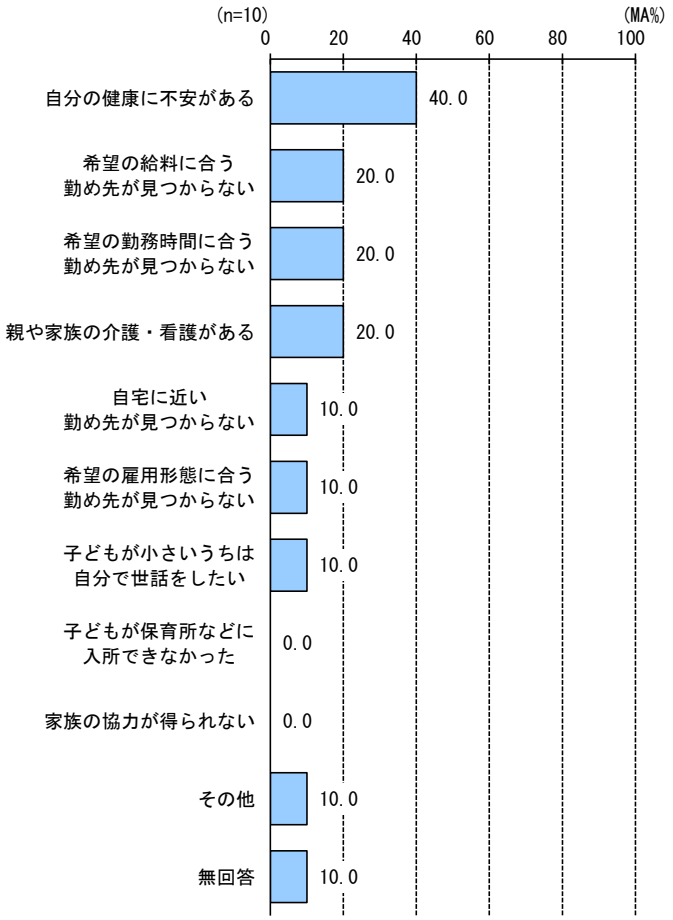
（3）働きたいと考えているが現在働いていない理由

問５．２　問５．１で「1.すぐ働きたい」または「2.条件が整えば働きたい」と答えられた方におたずねします。今後は働きたいけれども、現在働いていない理由は何ですか。

【全体】

○　働きたいと考えているが現在働いていない理由について、「自分の健康に不安がある」が40.0%（4人）で最も多く、次いで「希望の給料に合う勤め先が見つからない」「希望の勤務時間に合う勤め先が見つからない」「親や家族の介護・看護がある」が 20.0%（2 人)、「自宅に近い勤め先が見つからない」「希望の雇用形態に合う勤め先が見つからない」「子どもが小さいうちは自分で世話をしたい」「その他」が10.0%（1人）となっています。

【働きたいと考えているが現在働いていない理由】



【性別】

○　性別でみると、女性は「自分の健康に不安がある」（50.0％：３件）、男性は「親や家族の介護・看護がある」（50.0％：２件）が最も多くなっています。

【性別、年齢別 働きたいと考えているが現在働いていない理由】

単位：％

		母数(n)	働きたいと考えているが現在働いていない理由					
			自宅に近い勤め先が見つからない	希望の給料に合う勤め先が見つからない	希望の勤務時間に合う勤め先が見つか	希望の雇用形態に合う勤め先が見つか	子どもが小さいうちは自分で世話をしたい	子どもが保育所などに入所できなかった
全体		10	10.0	20.0	20.0	10.0	10.0	－
性別	女性	6		16.7	16.7	△ 16.7	△ 16.7	－
	男性	4	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0	－	－	－
	その他	－	－	－	－	－	－	－
年齢別	10・20歳代	－	－	－	－	－	－	－
	30歳代	－	－	－	－	－	－	－
	40歳代	2	－	△ 50.0	△ 50.0	－	△ 50.0	－
	50歳代	1	－	－	－	－	－	－
	60歳代	3	△ 33.3	－	△ 33.3	△ 33.3	－	－
	70歳以上	3	－	－	－	－	－	－

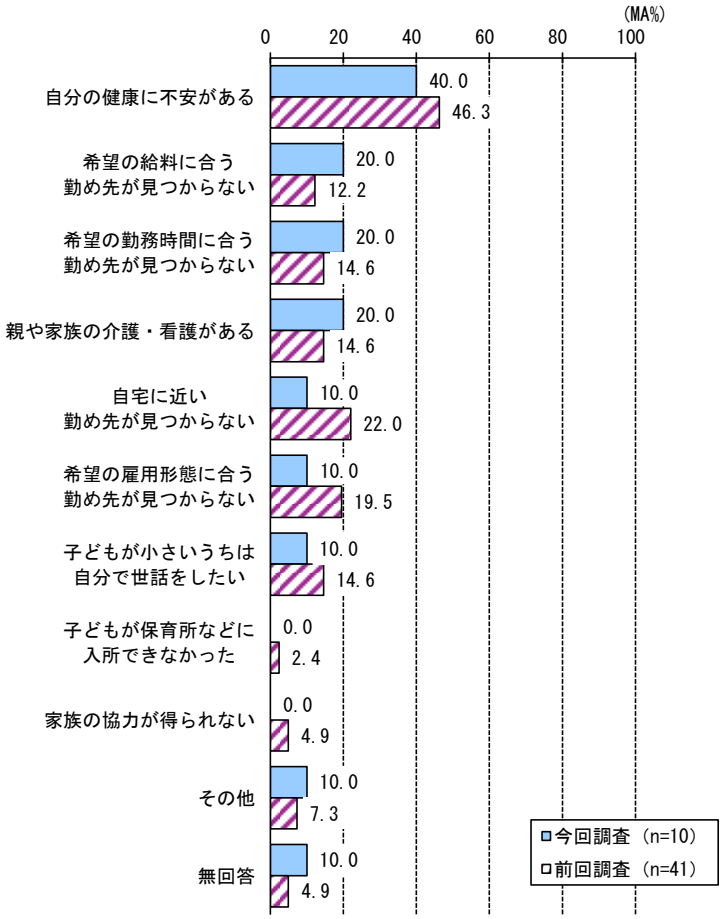
単位：％

		母数(n)	働きたいと考えているが現在働いていない理由				
			家族の協力が得られない	親や家族の介護・看護がある	自分の健康に不安がある	その他	無回答
全体		10	－	20.0	40.0	10.0	10.0
性別	女性	6	－	－	△ 50.0	－	16.7
	男性	4	－	△ 50.0	▼ 25.0	△ 25.0	－
	その他	－	－	－	－	－	－
年齢別	10・20歳代	－	－	－	－	－	－
	30歳代	－	－	－	－	－	－
	40歳代	2	－	－	△ 50.0	－	－
	50歳代	1	－	△100.0	－	－	－
	60歳代	3	－	△ 33.3	△ 66.7	－	－
	70歳以上	3	－	－	▼ 33.3	△ 33.3	33.3

【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「希望の給料に合う勤め先が見つからない」「希望の勤務時間に合う勤め先が見つからない」「親や家族の介護・看護がある」が多くなっています。

【前回比較 働きたいと考えているが現在働いていない理由】



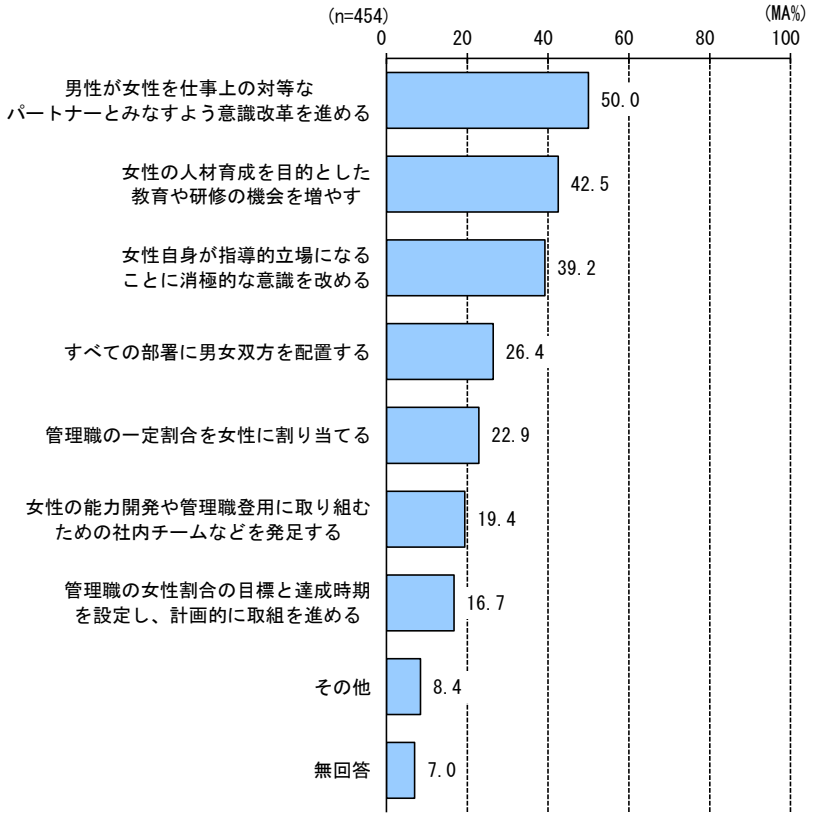
（４）女性が責任ある職務や指導的立場などに参画していくために必要なこと

問６　職場において、もっと女性が責任ある職務や指導的立場などに参画するためには、どうすればよいと思いますか。(MA)

【全体】

○　女性が責任ある職務や指導的立場などに参画していくために必要なことについて、「男性が女性を仕事上の対等なパートナーとみなすよう意識改革を進める」が50.0%で最も多く、次いで「女性の人材育成を目的とした教育や研修の機会を増やす」が 42.5%、「女性自身が指導的立場になることに消極的な意識を改める」が39.2%となっています。

【女性が責任ある職務や指導的立場などに参画していくために必要なこと(MA)】



【性別】

○　性別でみると、女性は男性よりも「すべての部署に男女双方を配置する」が 5.0 ポイント、男性は女性よりも「管理職の女性割合の目標と達成時期を設定し、計画的に取組を進める」5.6 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、10・20 歳代は「女性の人材育成を目的とした教育や研修の機会を増やす」、40 歳代は「女性自身が指導的立場になることに消極的な意識を改める」、30 歳代と 50 歳以上は「男性が女性を仕事上の対等なパートナーとみなすよう意識改革を進める」が最も多くなっています。

【性別、年齢別 女性が責任ある職務や指導的立場などに参画していくために必要なこと(MA)】

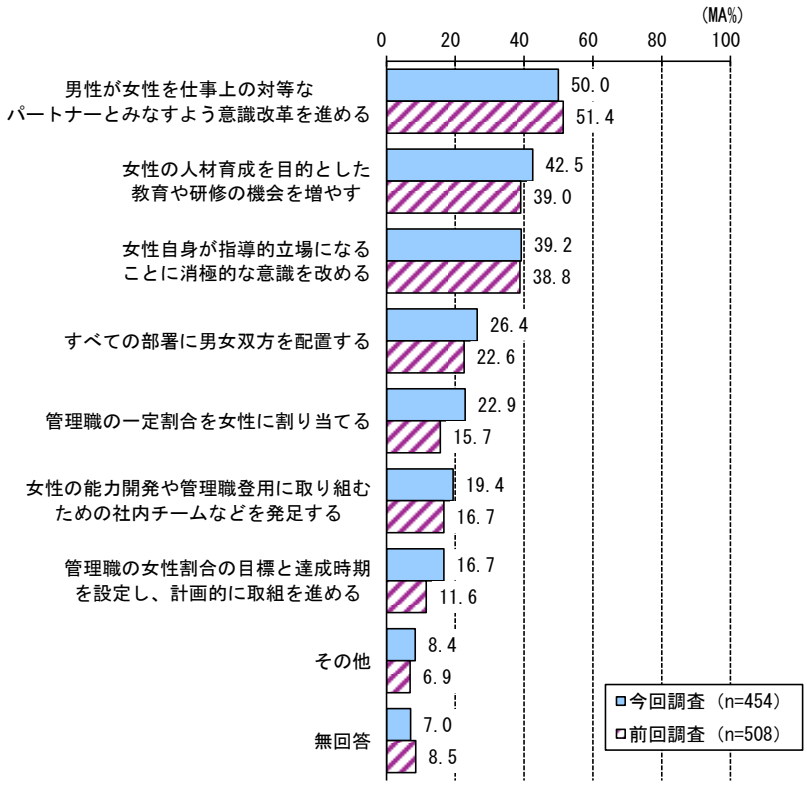
単位：%

		母数(n)	女性が責任ある職務や指導的立場などに参画していくために必要なこと								
			女性の人材育成を目的とした教育や研修の機会を増やす	女性自身が指導的立場になることに消極的な意識を改める	男性が女性を仕事上の対等なパートナーとみなすよう意識改革を進める	管理職の一定割合を女性に割り当てる	管理職の女性割合の目標と達成時期を設定し、計画的に取組を進める	女性の能力開発や管理職登用に取り組むための社内チームなどを発足する	すべての部署に男女双方を配置する	その他	無回答
全体		454	42.5	39.2	50.0	22.9	16.7	19.4	26.4	8.4	7.0
性別	女性	245	44.1	38.8	49.8	24.1	14.7	18.0	29.0	9.8	6.9
	男性	192	41.7	42.2	52.6	21.9	20.3	22.4	24.0	6.8	4.7
	その他	6	△ 66.7	－	－	－	16.7	16.7	▼ 16.7	△ 16.7	16.7
年齢別	10・20歳代	13	△ 61.5	38.5	53.8	△ 38.5	△ 53.8	23.1	30.8	7.7	－
	30歳代	32	43.8	▼ 28.1	50.0	25.0	▼ 3.1	▼ 6.3	▼ 18.8	12.5	3.1
	40歳代	36	▼ 30.6	▼ 33.3	▼ 27.8	19.4	▼ 8.3	22.2	27.8	△ 16.7	2.8
	50歳代	71	▼ 28.2	38.0	47.9	25.4	18.3	▼ 14.1	△ 32.4	12.7	4.2
	60歳代	85	38.8	△ 47.1	△ 58.8	25.9	△ 22.4	22.4	25.9	12.9	3.5
	70歳以上	211	△ 49.8	39.8	51.2	20.4	15.6	21.3	25.1	▼ 3.3	10.4

【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「管理職の一定割合を女性に割り当てる」が 7.2 ポイント、「管理職の女性割合の目標と達成時期を設定し、計画的に取組を進める」が 5.1 ポイント多くなっています。

【前回比較 女性が責任ある職務や指導的立場などに参画していくために必要なこと(MA)】



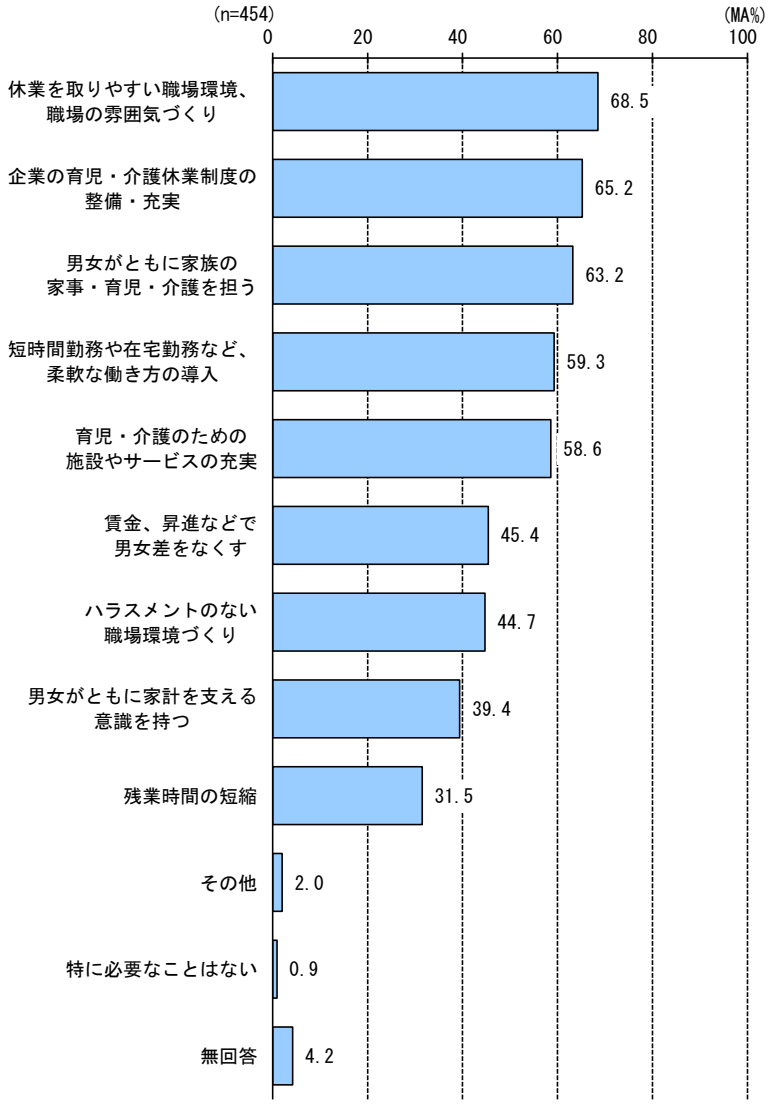
（５）育児や介護の有無にかかわらず働き続けるために必要なこと

問７　働くことを希望する男女が、育児や介護の有無にかかわらず、働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(MA)

【全体】

○　育児や介護の有無にかかわらず働き続けるために必要なことについて、「休業を取りやすい職場環境、職場の雰囲気づくり」が68.5%で最も多く、次いで「企業の育児・介護休業制度の整備・充実」が65.2%、「男女がともに家族の家事・育児・介護を担う」が63.2%となっています。

【育児や介護の有無にかかわらず働き続けるために必要なこと(MA)】



【性別】

○ 性別でみると、女性は男性よりも「その他」以外の項目がいずれも多く、「男女がともに家族の家事・育児・介護を担う」で 14.5 ポイント差、「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の導入」で 10.5 ポイント差などとなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、「休業を取りやすい職場環境、職場の雰囲気づくり」「ハラスメントのない職場環境づくり」「残業時間の短縮」「男女がともに家計を支える意識を持つ」では年齢が低くなるほど回答が多くなる傾向がみられます。

【性別、年齢別 育児や介護の有無にかかわらず働き続けるために必要なこと(MA)】

単位：%

		母数(n)	育児や介護の有無にかかわらず働き続けるために必要なこと					
			企業の育児・介護休業制度の整備・充実	短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の導入	休業を取りやすい職場環境、職場の雰囲気づくり	ハラスメントのない職場環境づくり	賃金、昇進などで男女差をなくす	育児・介護のための施設やサービスの充実
全体		454	65.2	59.3	68.5	44.7	45.4	58.6
性別	女性	245	66.9	64.1	71.8	49.0	48.2	62.4
	男性	192	65.6	▼ 53.6	66.7	40.1	43.8	56.3
	その他	6	▼ 33.3	▼ 50.0	▼ 50.0	▼ 33.3	▼ 16.7	▼ 16.7
年齢別	10・20歳代	13	69.2	△ 69.2	△ 84.6	△ 69.2	46.2	▼ 46.2
	30歳代	32	△ 81.3	△ 81.3	71.9	△ 62.5	50.0	△ 71.9
	40歳代	36	66.7	△ 66.7	△ 80.6	△ 58.3	△ 55.6	△ 69.4
	50歳代	71	69.0	△ 64.8	△ 78.9	49.3	46.5	60.6
	60歳代	85	△ 70.6	56.5	△ 74.1	45.9	△ 54.1	△ 68.2
	70歳以上	211	▼ 59.7	▼ 53.6	▼ 58.8	▼ 36.0	▼ 38.9	▼ 51.7

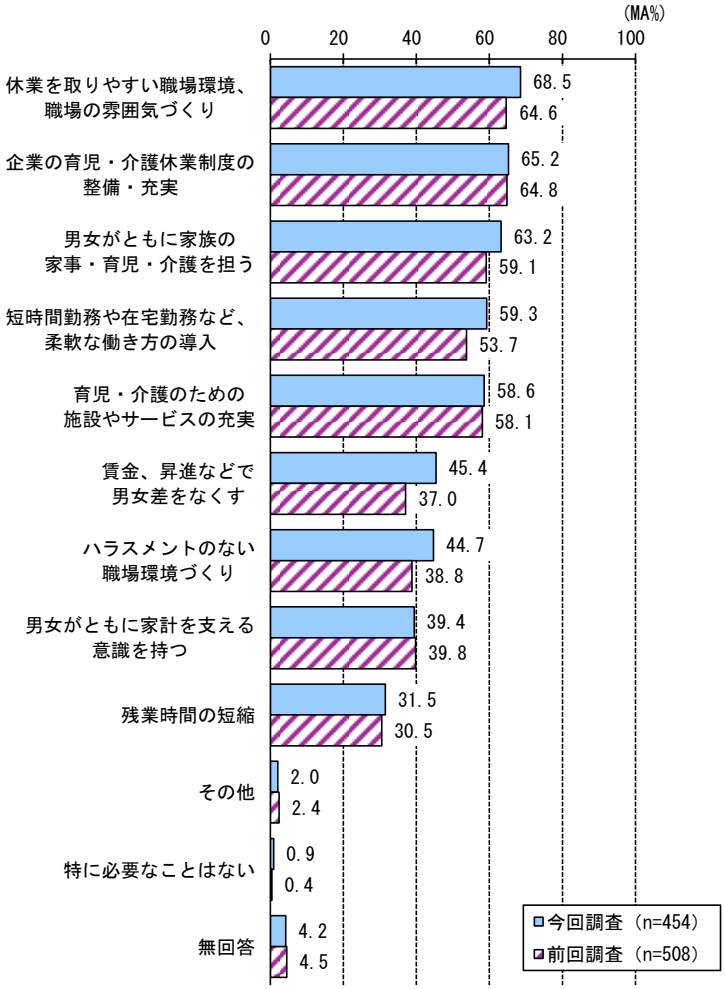
単位：%

		母数(n)	育児や介護の有無にかかわらず働き続けるために必要なこと					
			残業時間の短縮	男女がともに家族の家事・育児・介護を担う	男女がともに家計を支える意識を持つ	その他	特に必要なことはない	無回答
全体		454	31.5	63.2	39.4	2.0	0.9	4.2
性別	女性	245	35.9	△ 70.2	42.9	2.0	1.2	4.9
	男性	192	27.1	▼ 55.7	35.4	2.1	－	2.1
	その他	6	33.3	▼ 16.7	▼ 16.7	－	△ 16.7	16.7
年齢別	10・20歳代	13	△ 53.8	61.5	△ 61.5	△ 7.7	－	－
	30歳代	32	△ 56.3	65.6	△ 53.1	3.1	3.1	－
	40歳代	36	△ 44.4	61.1	△ 58.3	－	－	－
	50歳代	71	26.8	△ 70.4	40.8	4.2	－	－
	60歳代	85	35.3	62.4	▼ 34.1	4.7	1.2	－
	70歳以上	211	▼ 24.6	61.1	▼ 34.1	－	0.9	8.5

【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「賃金、昇進などで男女差をなくす」が 8.4 ポイント、「ハラスメントのない職場環境づくり」が 5.9 ポイント、「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の導入」が 5.6 ポイント多くなっています。

【前回比較 育児や介護の有無にかかわらず働き続けるために必要なこと(MA)】



4．家庭生活・子育て・社会参加・防災について

（１）男女役割分担について

問８-1　あなたは、家庭における次のことを男性、女性のどちらがするのがよいと思いますか。

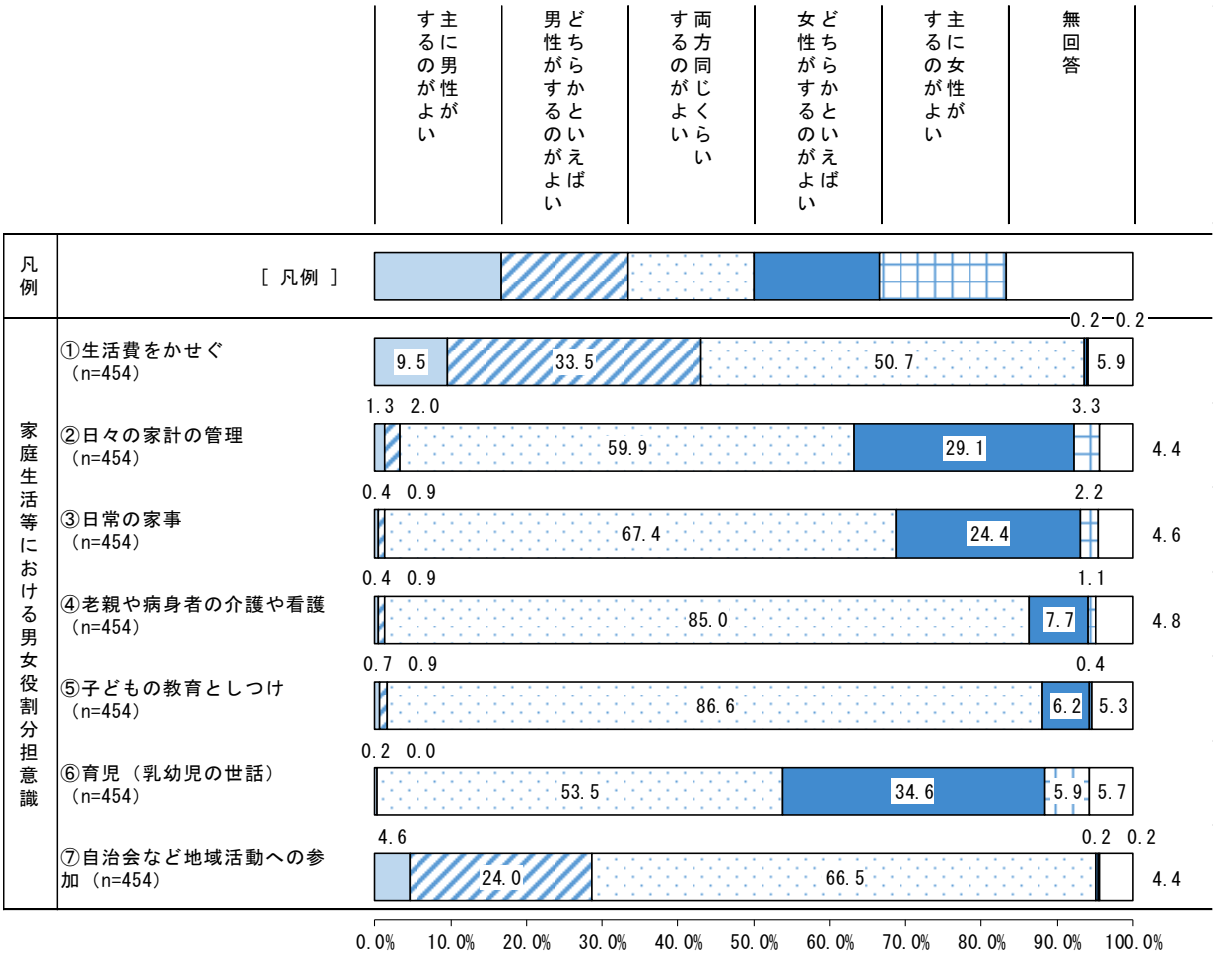
【全体】

○　男女役割分担について、いずれの項目も「両方同じくらいするのがよい」が 50%を超えており、「両方同じくらいするのがよい」が最も多い項目は「⑤子どもの教育としつけ」の 86.6%となっています。

○　『男性がするのがよい』（「主に男性がするのがよい」と「どちらかといえば男性がするのがよい」の合計）が最も多い項目は、「①生活費をかせぐ」で 43.0%、次いで「⑦自治会など地域活動への参加」で 28.6%となっています。

○　『女性がするのがよい』（「主に女性がするのがよい」と「どちらかといえば女性がするのがよい」の合計）が最も多い項目は、「⑥育児（乳幼児の世話）」で 40.5%、次いで「②日々の家計の管理」で 32.4%、「③日常の家事」で 26.6%となっています。

【男女役割分担意識】



①生活費をかせぐ

【全体】

○ ①生活費をかせぐについて、「両方同じくらいするのがよい」が 50.7%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性がするのがよい」が 33.5%、「主に男性がするのがよい」が 9.5%となっており、『男性がするのがよい』が 43.0%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『男性がするのがよい』は女性 41.2%・男性 46.4%で、男性の方が 5.2 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30～60 歳代は「両方同じくらいするのがよい」が 50%を超えており、特に 40 歳代は約 70%となっています。10・20 歳代と 70 歳以上は「両方同じくらいするのがよい」よりも『男性がするのがよい』が多くなっています。

【性別、年齢別 ①生活費をかせぐ】

単位：%

		母数(n)	①生活費をかせぐ						“男性がするのがよい”	“女性がするのがよい”
			主に男性がするのがよい	どちらかといえば男性がするのがよい	両方同じくらいするのがよい	どちらかといえば女性がするのがよい	主に女性がするのがよい	無回答		
全体		454	9.5	33.5	50.7	0.2	0.2	5.9	43.0	0.4
性別	女性	245	7.3	33.9	51.4	0.4	0.4	6.5	41.2	0.8
	男性	192	12.0	34.4	50.0	－	－	3.6	46.4	－
	その他	6	△ 16.7	33.3	▼ 33.3	－	－	16.7	△ 50.0	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 38.5	30.8	▼ 30.8	－	－	－	△ 69.3	－
	30歳代	32	12.5	▼ 28.1	△ 56.3	－	3.1	－	40.6	3.1
	40歳代	36	▼ 2.8	▼ 25.0	△ 69.4	－	－	2.8	▼ 27.8	－
	50歳代	71	7.0	29.6	△ 57.7	－	－	5.6	▼ 36.6	－
	60歳代	85	10.6	▼ 27.1	△ 56.5	－	－	5.9	▼ 37.7	－
	70歳以上	211	9.0	△ 40.3	▼ 42.7	0.5	－	7.6	△ 49.3	0.5

②日々の家計の管理

【全体】

○ ②日々の家計の管理について、「両方同じくらいするのがよい」が 59.9%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がするのがよい」が 29.1%、「主に女性がするのがよい」が 3.3%となっており、『女性がするのがよい』が 32.4%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、「両方同じくらいするのがよい」は女性 62.4%・男性 56.3%で、女性の方が 6.1 ポイント多くなっています。『女性がするのがよい』は女性 29.4%・男性 36.5%で、男性の方が 7.1 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30～50 歳代では「両方同じくらいするのがよい」が 70%を超えて多くなっています。10・20 歳代と 70 歳以上では『女性がするのがよい』が 40%を超えています。

【性別、年齢別 ②日々の家計の管理】

単位：%

		母数(n)	②日々の家計の管理						“男性がするのがよい”	“女性がするのがよい”
			主に男性がするのがよい	どちらかといえば男性がするのがよい	両方同じくらいするのがよい	どちらかといえば女性がするのがよい	主に女性がするのがよい	無回答		
全体		454	1.3	2.0	59.9	29.1	3.3	4.4	3.3	32.4
性別	女性	245	0.4	1.6	62.4	27.8	1.6	6.1	2.0	29.4
	男性	192	2.6	2.6	56.3	31.8	4.7	2.1	5.2	36.5
	その他	6	－	－	▼ 50.0	▼ 16.7	△ 33.3	－	－	△ 50.0
年齢別	10・20歳代	13	△ 7.7	－	▼ 46.2	△ 38.5	7.7	－	7.7	△ 46.2
	30歳代	32	－	3.1	△ 75.0	▼ 15.6	6.3	－	3.1	▼ 21.9
	40歳代	36	5.6	－	△ 75.0	▼ 16.7	2.8	－	5.6	▼ 19.5
	50歳代	71	－	2.8	△ 70.4	▼ 19.7	2.8	4.2	2.8	▼ 22.5
	60歳代	85	－	3.5	63.5	27.1	2.4	3.5	3.5	29.5
	70歳以上	211	1.4	1.4	▼ 49.8	△ 37.4	3.3	6.6	2.8	△ 40.7

③日常の家事

【全体】

○ ③日常の家事について、「両方同じくらいするのがよい」が 67.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がするのがよい」が 24.4%、「主に女性がするのがよい」が 2.2%となっており、『女性がするのがよい』が 26.6%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、「両方同じくらいするのがよい」は女性 69.4%・男性 65.1%で女性の方が 4.3 ポイント多く、『女性がするのがよい』は女性 24.4%・男性 29.7%で男性の方が 5.3 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30～50 歳代では「両方同じくらいするのがよい」が 80%を超えて多くなっています。60 歳代と 70 歳以上では『女性がするのがよい』がそれぞれ 29.5%、36.9%で他の年齢層と比べて多くなっています。

【性別、年齢別 ③日常の家事】

単位：%

		母数(n)	③日常の家事						“男性がするのがよい”	“女性がするのがよい”
			主に男性がするのがよい	どちらかといえば男性がするのがよい	両方同じくらいするのがよい	どちらかといえば女性がするのがよい	主に女性がするのがよい	無回答		
全体		454	0.4	0.9	67.4	24.4	2.2	4.6	1.3	26.6
性別	女性	245	－	0.4	69.4	22.4	2.0	5.7	0.4	24.4
	男性	192	1.0	1.6	65.1	27.6	2.1	2.6	2.6	29.7
	その他	6	－	－	△ 83.3	－	△ 16.7	－	－	▼ 16.7
年齢別	10・20歳代	13	△ 15.4	－	△ 76.9	▼ 7.7	－	－	△ 15.4	▼ 7.7
	30歳代	32	－	3.1	△ 87.5	▼ 6.3	3.1	－	3.1	▼ 9.4
	40歳代	36	－	2.8	△ 86.1	▼ 11.1	－	－	2.8	▼ 11.1
	50歳代	71	－	－	△ 83.1	▼ 9.9	1.4	5.6	－	▼ 11.3
	60歳代	85	－	2.4	▼ 62.4	27.1	2.4	5.9	2.4	29.5
	70歳以上	211	－	－	▼ 57.3	△ 34.1	2.8	5.7	－	△ 36.9

④老親や病身者の介護や看護

【全体】

○ ④老親や病身者の介護や看護について、「両方同じくらいするのがよい」が 85.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がするのがよい」が 7.7%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『女性がするのがよい』は女性 7.3%・男性 11.4%で、男性の方が 4.1 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30～60 歳代では「両方同じくらいするのがよい」が 90%を超えています。

【性別、年齢別 ④老親や病身者の介護や看護】

単位：%

		母数(n)	④老親や病身者の介護や看護						“男性がするのがよい”	“女性がするのがよい”
			主に男性がするのがよい	どちらかといえば男性がするのがよい	両方同じくらいするのがよい	どちらかといえば女性がするのがよい	主に女性がするのがよい	無回答		
全体		454	0.4	0.9	85.0	7.7	1.1	4.8	1.3	8.8
性別	女性	245	－	0.4	86.1	6.1	1.2	6.1	0.4	7.3
	男性	192	1.0	1.6	83.3	10.4	1.0	2.6	2.6	11.4
	その他	6	－	－	△100.0	－	－	－	－	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 15.4	△ 7.7	▼ 76.9	－	－	－	△ 23.1	－
	30歳代	32	－	△ 6.3	△ 90.6	－	3.1	－	△ 6.3	▼ 3.1
	40歳代	36	－	－	△ 97.2	2.8	－	－	－	▼ 2.8
	50歳代	71	－	－	△ 91.5	2.8	1.4	4.2	－	4.2
	60歳代	85	－	－	△ 90.6	5.9	－	3.5	－	5.9
	70歳以上	211	－	0.5	▼ 77.7	△ 12.8	1.4	7.6	0.5	△ 14.2

⑤子どもの教育としつけ

【全体】

○ ⑤子どもの教育としつけについて、「両方同じくらいするのがよい」が 86.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がするのがよい」が 6.2%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『女性がするのがよい』は女性 4.1%・男性 10.4%で、男性の方が 6.3 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、40～60 歳代では「両方同じくらいするのがよい」が 90%を超えています。

【性別、年齢別 ⑤子どもの教育としつけ】

単位：%

		母数(n)	⑤子どもの教育としつけ						“男性がするのがよい”	“女性がするのがよい”
			主に男性がするのがよい	どちらかといえば男性がするのがよい	両方同じくらいするのがよい	どちらかといえば女性がするのがよい	主に女性がするのがよい	無回答		
全体		454	0.7	0.9	86.6	6.2	0.4	5.3	1.6	6.6
性別	女性	245	－	0.4	89.0	3.7	0.4	6.5	0.4	4.1
	男性	192	1.0	1.6	83.3	9.9	0.5	3.6	2.6	10.4
	その他	6	－	－	△100.0	－	－	－	－	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 7.7	－	84.6	－	△ 7.7	－	△ 7.7	7.7
	30歳代	32	－	△ 6.3	84.4	6.3	3.1	－	6.3	9.4
	40歳代	36	2.8	－	△ 91.7	5.6	－	－	2.8	5.6
	50歳代	71	－	－	91.5	4.2	－	4.2	－	4.2
	60歳代	85	－	1.2	90.6	5.9	－	2.4	1.2	5.9
	70歳以上	211	0.5	0.5	82.5	7.6	－	9.0	1.0	7.6

⑥育児（乳幼児の世話）

【全体】

○ ⑥育児（乳幼児の世話）について、「両方同じくらいするのがよい」が 53.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がするのがよい」が 34.6%、「主に女性がするのがよい」が 5.9%となっており、『女性がするのがよい』が 40.5%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、「両方同じくらいするのがよい」は女性 57.6%・男性 48.4%で、女性の方が 9.2 ポイント多くなっています。『女性がするのがよい』は女性 35.5%・男性 47.4%で男性の方が 11.9 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10・20 歳代と 40・50 歳代では「両方同じくらいするのがよい」が 60%を超えています。70 歳以上では「女性がするのがよい」が 47.4%で、「両方同じくらいするのがよい」よりも多くなっています。

【性別、年齢別 ⑥育児（乳幼児の世話）】

単位：%

		母数(n)	⑥育児（乳幼児の世話）						“男性がするのがよい”	“女性がするのがよい”
			主に男性がするのがよい	どちらかといえば男性がするのがよい	両方同じくらいするのがよい	どちらかといえば女性がするのがよい	主に女性がするのがよい	無回答		
全体		454	0.2	－	53.5	34.6	5.9	5.7	0.2	40.5
性別	女性	245	－	－	57.6	30.6	4.9	6.9	－	▼ 35.5
	男性	192	0.5	－	▼ 48.4	△ 40.1	7.3	3.6	0.5	△ 47.4
	その他	6	－	－	▼ 33.3	△ 50.0	△ 16.7	－	－	△ 66.7
年齢別	10・20歳代	13	△ 7.7	－	△ 76.9	▼ 15.4	－	－	△ 7.7	▼ 15.4
	30歳代	32	－	－	53.1	△ 43.8	3.1	－	－	△ 46.9
	40歳代	36	－	－	△ 75.0	▼ 16.7	8.3	－	－	▼ 25.0
	50歳代	71	－	－	△ 64.8	▼ 25.4	4.2	5.6	－	▼ 29.6
	60歳代	85	－	－	56.5	35.3	5.9	2.4	－	41.2
	70歳以上	211	－	－	▼ 43.1	△ 40.3	7.1	9.5	－	△ 47.4

⑦自治会など地域活動への参加

【全体】

○ ⑦自治会など地域活動への参加について、「両方同じくらいするのがよい」が 66.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性がするのがよい」が 24.0%、「主に男性がするのがよい」が 4.6%となっており、『男性がするのがよい』が 28.6%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『男性がするのがよい』は女性 26.9%・男性 30.2%で男性の方が 3.3 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～50 歳代では「両方同じくらいするのがよい」が 70%を超えています。特に 40 歳代は 86.1%と多くなっています。60 歳以上では『男性がするのがよい』が約 30%となっています。

【性別、年齢別 ⑦自治会など地域活動への参加】

単位：%

		母数(n)	⑦自治会など地域活動への参加						“男性がするのがよい”	“女性がするのがよい”
			主に男性がするのがよい	どちらかといえば男性がするのがよい	両方同じくらいするのがよい	どちらかといえば女性がするのがよい	主に女性がするのがよい	無回答		
全体		454	4.6	24.0	66.5	0.2	0.2	4.4	28.6	0.4
性別	女性	245	2.4	24.5	66.9	－	0.4	5.7	26.9	0.4
	男性	192	7.3	22.9	67.2	－	－	2.6	30.2	－
	その他	6	△ 16.7	△ 33.3	▼ 50.0	－	－	－	△ 50.0	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 15.4	▼ 7.7	△ 76.9	－	－	－	▼ 23.1	－
	30歳代	32	△ 12.5	▼ 12.5	△ 71.9	－	3.1	－	25.0	3.1
	40歳代	36	5.6	▼ 8.3	△ 86.1	－	－	－	▼ 13.9	－
	50歳代	71	2.8	▼ 18.3	△ 73.2	－	－	5.6	▼ 21.1	－
	60歳代	85	4.7	28.2	62.4	－	－	4.7	32.9	－
	70歳以上	211	3.3	△ 29.9	▼ 60.7	0.5	－	5.7	33.2	0.5

問８-２　あなたの家庭では、実際に次のことを男性、女性のどちらがしていますか。

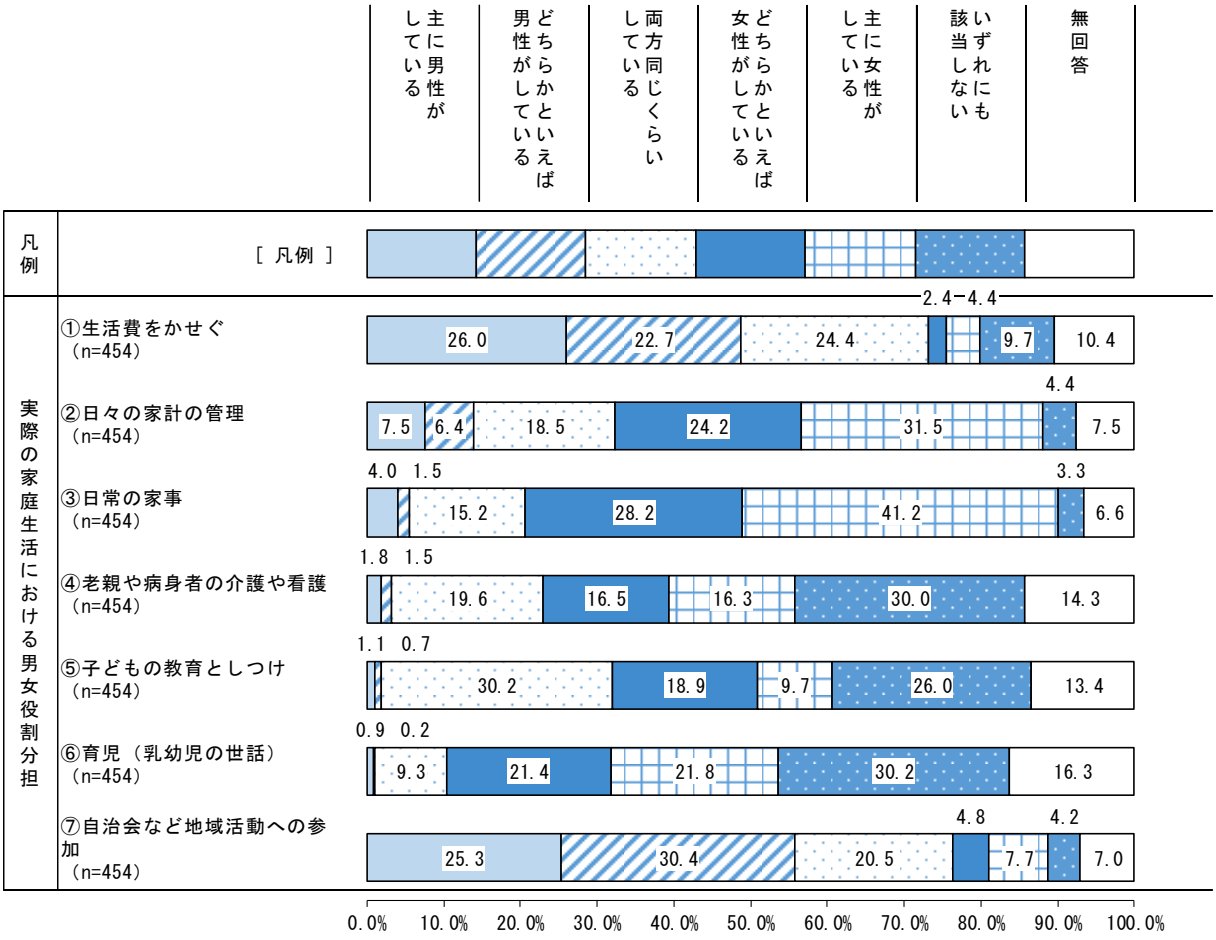
【全体】

○　実際の男女役割分担について、「両方同じくらいしている」が最も多いものは「⑤子どもの教育としつけ」で 30.2%となっています。

○　『男性がしている』（「主に男性がしている」と「どちらかといえば男性がしている」の合計）が最も多いものは「⑦自治会など地域活動への参加」で 55.7%、次いで「①生活費をかせぐ」で 48.7%となっています。

○　『女性がしている』（「主に女性がしている」と「どちらかといえば女性がしている」の合計）が最も多いものは「③日常の家事」で 69.4%、次いで「②日々の家計の管理」で 55.7%、「⑥育児（乳幼児の世話）」で 43.2%、「④老親や病身者の介護や看護」で 32.8%、「⑤子どもの教育としつけ」で 28.6%となっています。

【実際の男女役割分担】



①生活費をかせぐ

【全体】

○ ①生活費をかせぐについて、「主に男性がしている」が 26.0%で最も多く、次いで「両方同じくらいしている」が 24.4%、「どちらかといえば男性がしている」が 22.7%となっており、『男性がしている』が 48.7%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『男性がしている』は女性 39.2%・男性 60.9%で、男性の方が 21.7 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10・20 歳代は「両方同じくらいしている」が他の年齢層に比べて多くなっています。30 歳代では「主に男性がしている」が 37.5%と多く、『男性がしている』が 62.5%となっています。

【性別、年齢別 ①生活費をかせぐ】

単位：%

		母数(n)	①生活費をかせぐ							“男性がしている”	“女性がしている”
			主に男性がしている	どちらかといえば男性がしている	両方同じくらいしている	どちらかといえば女性がしている	主に女性がしている	いずれにも該当しない	無回答		
全体		454	26.0	22.7	24.4	2.4	4.4	9.7	10.4	48.7	6.8
性別	女性	245	▼ 19.6	19.6	24.9	2.4	7.3	12.2	13.9	▼ 39.2	9.7
	男性	192	△ 33.3	27.6	23.4	2.6	1.0	6.8	5.2	△ 60.9	3.6
	その他	6	△ 50.0	－	▼ 16.7	－	－	－	33.3	50.0	－
年齢別	10・20歳代	13	23.1	▼ 15.4	△ 46.2	－	△ 15.4	－	－	▼ 38.5	△ 15.4
	30歳代	32	△ 37.5	25.0	28.1	－	6.3	▼ 3.1	－	△ 62.5	6.3
	40歳代	36	22.2	△ 30.6	25.0	5.6	△ 11.1	－	5.6	52.8	△ 16.7
	50歳代	71	△ 31.0	22.5	25.4	4.2	5.6	▼ 4.2	7.0	53.5	9.8
	60歳代	85	25.9	23.5	23.5	7.1	2.4	11.8	5.9	49.4	9.5
	70歳以上	211	22.7	21.3	22.3	－	2.8	14.2	16.6	44.0	2.8

②日々の家計の管理

【全体】

○ ②日々の家計の管理について、「主に女性がしている」が 31.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がしている」が 24.2%、「両方同じくらいしている」が 18.5%となっており、『女性がしている』が 55.7%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『女性がしている』は女性 60.4%・男性 48.4%で、女性の方が 12.0 ポイント多くなっています。『男性がしている』は女性 7.0%・男性 23.9%で、男性の方が 16.9 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～40 歳代では『女性がしている』が 60%を超えています。50 歳代では「両方同じくらいしている」が 31.0%と、他の年齢層よりも多くなっています。

【性別、年齢別 ②日々の家計の管理】

単位：%

		母数(n)	②日々の家計の管理							“男性がしている”	“女性がしている”
			主に男性がしている	どちらかといえば男性がしている	両方同じくらいしている	どちらかといえば女性がしている	主に女性がしている	いずれにも該当しない	無回答		
全体		454	7.5	6.4	18.5	24.2	31.5	4.4	7.5	13.9	55.7
性別	女性	245	3.3	3.7	18.4	23.7	△ 36.7	5.3	9.0	▼ 7.0	60.4
	男性	192	△ 13.5	10.4	19.3	23.4	▼ 25.0	3.6	4.7	△ 23.9	▼ 48.4
	その他	6	－	－	△ 33.3	▼ 16.7	▼ 16.7	－	33.3	－	▼ 33.4
年齢別	10・20歳代	13	7.7	7.7	15.4	▼ 15.4	△ 46.2	7.7	－	15.4	△ 61.6
	30歳代	32	9.4	6.3	15.6	25.0	△ 40.6	3.1	－	15.7	△ 65.6
	40歳代	36	8.3	5.6	13.9	19.4	△ 47.2	－	5.6	13.9	△ 66.6
	50歳代	71	8.5	5.6	△ 31.0	19.7	26.8	5.6	2.8	14.1	▼ 46.5
	60歳代	85	7.1	5.9	20.0	25.9	27.1	8.2	5.9	13.0	53.0
	70歳以上	211	6.6	6.6	15.6	25.6	30.3	3.3	11.8	13.2	55.9

③日常の家事

【全体】

○ ③日常の家事について、「主に女性がしている」が 41.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がしている」が 28.2%、「両方同じくらいしている」が 15.2%となっており、『女性がしている』が 69.4%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『女性がしている』は女性 74.7%・男性 63.0%で、女性の方が 11.7 ポイント多くなっています。『男性がしている』は女性 1.6%・男性 10.9%、「両方同じくらいしている」は女性 12.2%・男性 18.8%で、それぞれ男性の方が 9.3 ポイント、6.6 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30～50 歳代では『女性がしている』が 70%を超えています。

【性別、年齢別 ③日常の家事】

単位：%

		母数(n)	③日常の家事							“男性がしている”	“女性がしている”
			主に男性がしている	どちらかといえば男性がしている	両方同じくらいしている	どちらかといえば女性がしている	主に女性がしている	いずれにも該当しない	無回答		
全体		454	4.0	1.5	15.2	28.2	41.2	3.3	6.6	5.5	69.4
性別	女性	245	1.2	0.4	12.2	24.5	△ 50.2	3.3	8.2	1.6	△ 74.7
	男性	192	7.8	3.1	18.8	32.3	▼ 30.7	3.6	3.6	△ 10.9	▼ 63.0
	その他	6	－	－	16.7	▼ 16.7	▼ 33.3	－	33.3	－	▼ 50.0
年齢別	10・20歳代	13	7.7	－	△ 23.1	▼ 23.1	△ 46.2	－	－	7.7	69.3
	30歳代	32	6.3	－	15.6	△ 37.5	37.5	3.1	－	6.3	△ 75.0
	40歳代	36	－	－	16.7	27.8	△ 50.0	－	5.6	－	△ 77.8
	50歳代	71	1.4	4.2	15.5	31.0	42.3	2.8	2.8	5.6	73.3
	60歳代	85	7.1	2.4	16.5	24.7	38.8	4.7	5.9	9.5	▼ 63.5
	70歳以上	211	3.8	0.9	13.7	27.0	40.8	3.8	10.0	4.7	67.8

④老親や病身者の介護や看護

【全体】

○ ④老親や病身者の介護や看護について、「いずれにも該当しない」が 30.0%で最も多く、次いで「両方同じくらいしている」が 19.6%、「どちらかといえば女性がしている」が 16.5%となっており、『女性がしている』が 32.8%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『女性がしている』は女性 40.8%・男性 23.4%で、女性の方が 17.4 ポイント多くなっています。「両方同じくらいしている」は女性 16.3%・男性 22.9%、『男性がしている』は女性 0.8%・男性 6.7%で、それぞれ男性の方が 6.6 ポイント、5.9 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、40 歳代は「女性がしている」が 47.2%と、他の年齢層よりも多くなっています。

【性別、年齢別 ④老親や病身者の介護や看護】

単位：%

		母数(n)	④老親や病身者の介護や看護							“男性がしている”	“女性がしている”
			主に男性がしている	どちらかといえば男性がしている	両方同じくらいしている	どちらかといえば女性がしている	主に女性がしている	いずれにも該当しない	無回答		
全体		454	1.8	1.5	19.6	16.5	16.3	30.0	14.3	3.3	32.8
性別	女性	245	0.4	0.4	16.3	17.1	△ 23.7	26.5	15.5	0.8	△ 40.8
	男性	192	3.6	3.1	22.9	15.6	▼ 7.8	△ 35.4	11.5	6.7	▼ 23.4
	その他	6	－	－	△ 33.3	16.7	－	▼ 16.7	33.3	－	▼ 16.7
年齢別	10・20歳代	13	△ 7.7	△ 7.7	△ 30.8	▼ 7.7	△ 23.1	▼ 23.1	－	△ 15.4	30.8
	30歳代	32	6.3	－	18.8	18.8	12.5	△ 43.8	－	6.3	31.3
	40歳代	36	－	－	▼ 11.1	△ 22.2	△ 25.0	△ 36.1	5.6	－	△ 47.2
	50歳代	71	5.6	5.6	△ 25.4	12.7	16.9	26.8	7.0	△ 11.2	29.6
	60歳代	85	1.2	2.4	△ 28.2	20.0	14.1	▼ 24.7	9.4	3.6	34.1
	70歳以上	211	－	－	▼ 14.2	15.6	15.6	30.8	23.7	－	31.2

⑤子どもの教育としつけ

【全体】

○ ⑤子どもの教育としつけについて、「両方同じくらいしている」が 30.2%で最も多く、次いで「いずれにも該当しない」が 26.0%、「どちらかといえば女性がしている」が 18.9%となっており、『女性がしている』が 28.6%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『女性がしている』は女性 33.5%・男性 23.5%で、女性の方が 10.0 ポイント多くなっています。「両方同じくらいしている」は、女性 25.3%・男性 35.4%で、男性の方が 10.1 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10・20 歳代と 40 歳代で『女性がしている』が他の年齢層に比べて多くなっています。

【性別、年齢別 ⑤子どもの教育としつけ】

単位：%

		母数(n)	⑤子どもの教育としつけ							“男性がしている”	“女性がしている”
			主に男性がしている	どちらかといえば男性がしている	両方同じくらいしている	どちらかといえば女性がしている	主に女性がしている	いずれにも該当しない	無回答		
全体		454	1.1	0.7	30.2	18.9	9.7	26.0	13.4	1.8	28.6
性別	女性	245	−	−	25.3	20.8	12.7	24.9	16.3	−	33.5
	男性	192	2.6	1.6	△ 35.4	17.2	6.3	28.6	8.3	4.2	▼ 23.5
	その他	6	−	−	△ 50.0	16.7	−	−	33.3	−	▼ 16.7
年齢別	10・20歳代	13	△ 7.7	−	△ 38.5	23.1	△ 30.8	−	−	△ 7.7	△ 53.9
	30歳代	32	△ 6.3	−	34.4	18.8	△ 15.6	21.9	3.1	6.3	△ 34.4
	40歳代	36	−	−	27.8	△ 27.8	△ 19.4	▼ 19.4	5.6	−	△ 47.2
	50歳代	71	1.4	1.4	33.8	△ 23.9	14.1	21.1	4.2	2.8	△ 38.0
	60歳代	85	1.2	2.4	27.1	18.8	7.1	△ 35.3	8.2	3.6	25.9
	70歳以上	211	−	−	28.9	15.6	5.2	27.5	22.7	−	▼ 20.8

⑥育児（乳幼児の世話）

【全体】

○ ⑥育児（乳幼児の世話）について、「いずれにも該当しない」が 30.2%で最も多く、次いで「主に女性がしている」が 21.8%、「どちらかといえば女性がしている」が 21.4%となっており、『女性がしている』が 43.2%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『女性がしている』は女性 45.7%・男性 41.7%で、女性の方が 4.0 ポイント多くなっています。「いずれにも該当しない」は女性 28.2%・男性 34.4%で、男性の方が 6.2 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、40 歳代は『女性がしている』が 66.7%と多くなっています。また、30 歳代と 50 歳代でも『女性がしている』が 50%を超えています。10・20 歳代は「両方同じくらいしている」が他の年齢層に比べて多くなっています。

【性別、年齢別 ⑥育児（乳幼児の世話）】

単位：%

		母数(n)	⑥育児（乳幼児の世話）							“男性がしている”	“女性がしている”
			主に男性がしている	どちらかといえば男性がしている	両方同じくらいしている	どちらかといえば女性がしている	主に女性がしている	いずれにも該当しない	無回答		
全体		454	0.9	0.2	9.3	21.4	21.8	30.2	16.3	1.1	43.2
性別	女性	245	−	−	8.2	21.2	24.5	28.2	18.0	−	45.7
	男性	192	2.1	0.5	9.9	22.4	19.3	34.4	11.5	2.6	41.7
	その他	6	−	−	△ 16.7	16.7	△ 33.3	−	33.3	−	△ 50.0
年齢別	10・20歳代	13	△ 7.7	−	△ 30.8	23.1	23.1	▼ 15.4	−	△ 7.7	46.2
	30歳代	32	3.1	−	12.5	△ 28.1	25.0	28.1	3.1	3.1	△ 53.1
	40歳代	36	−	−	▼ 2.8	25.0	△ 41.7	▼ 25.0	5.6	−	△ 66.7
	50歳代	71	1.4	−	△ 16.9	25.4	25.4	▼ 23.9	7.0	1.4	△ 50.8
	60歳代	85	1.2	1.2	12.9	▼ 15.3	23.5	△ 36.5	9.4	2.4	38.8
	70歳以上	211	−	−	▼ 4.3	20.9	▼ 16.1	32.2	26.5	−	▼ 37.0

⑦自治会など地域活動への参加

【全体】

○ ⑦自治会など地域活動への参加について、「どちらかといえば男性がしている」が 30.4%で最も多く、次いで「主に男性がしている」が 25.3%、「両方同じくらいしている」が 20.5%となっており、『男性がしている』が 55.7%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『女性がしている』は女性 17.9%・男性 5.7%で、女性の方が 12.2 ポイント多くなっています。『男性がしている』は女性 46.5%・男性 69.3%で、男性の方が 22.8 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30～40 歳代では『女性がしている』が約 20%で、他の年齢層よりも多くなっています。10・20 歳代と 50～60 歳代では『男性がしている』が 60%を超えています。

【性別、年齢別 ⑦自治会など地域活動への参加】

単位：%

		母数(n)	⑦自治会など地域活動への参加							“男性がしている”	“女性がしている”
			主に男性がしている	どちらかといえば男性がしている	両方同じくらいしている	どちらかといえば女性がしている	主に女性がしている	いずれにも該当しない	無回答		
全体		454	25.3	30.4	20.5	4.8	7.7	4.2	7.0	55.7	12.5
性別	女性	245	▼ 16.3	30.2	22.0	5.7	12.2	4.9	8.6	▼ 46.5	△ 17.9
	男性	192	△ 37.5	31.8	17.2	3.1	▼ 2.6	3.6	4.2	△ 69.3	▼ 5.7
	その他	6	△ 33.3	▼ 16.7	16.7	－	－	－	33.3	▼ 50.0	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 30.8	△ 38.5	23.1	－	－	7.7	－	△ 69.3	－
	30歳代	32	25.0	▼ 15.6	△ 28.1	△ 12.5	12.5	6.3	－	▼ 40.6	△ 25.0
	40歳代	36	25.0	▼ 16.7	△ 27.8	8.3	△ 13.9	2.8	5.6	▼ 41.7	△ 22.2
	50歳代	71	▼ 19.7	△ 40.8	16.9	7.0	7.0	5.6	2.8	60.5	14.0
	60歳代	85	24.7	△ 36.5	20.0	1.2	7.1	4.7	5.9	△ 61.2	8.3
	70歳以上	211	28.0	28.9	18.0	3.8	7.1	3.3	10.9	56.9	10.9

（２）「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方

問９　あなたは、生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域活動・個人の生活」で何を優先しますか。希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれお答えください。

希望

【全体】

○　生活の中で優先すること(希望)について、「仕事と家庭生活」が 24.7%で最も多く、次いで「家庭生活」が 20.5%、「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活」が 16.7%となっています。

【性別】

○　性別でみると、女性が男性よりも多いのは「家庭生活と地域活動・個人の生活」(4.1 ポイント)、「仕事と家庭生活」(3.1 ポイント)、男性が女性よりも多いのは「仕事」(3.6 ポイント)、「家庭生活」(3.2 ポイント)、「地域活動・個人の生活」(3.1 ポイント）となっていますが、大きな違いはありません。

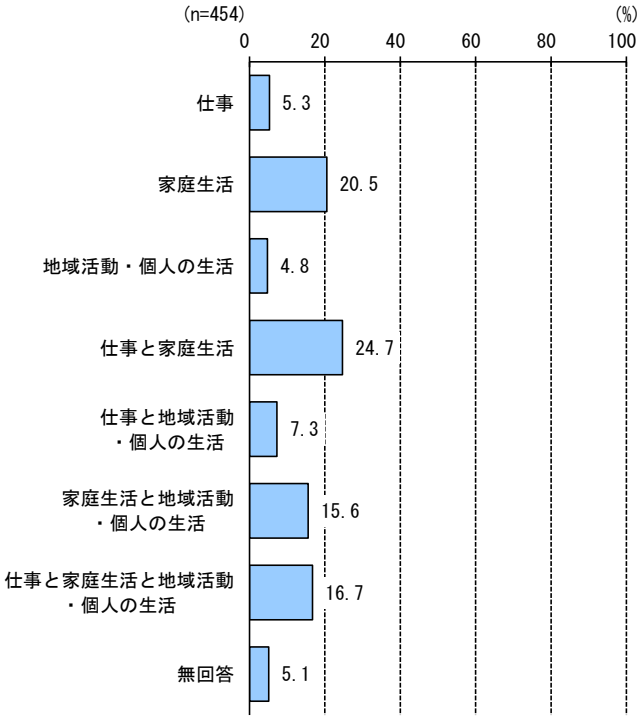
【年齢別】

○　年齢別でみると、10・20 歳代と 50～60 歳代は「仕事と家庭生活」、30～40 歳代は「家庭生活」、70 歳以上は「家庭生活と地域活動・個人の生活」が最も多くなっています。

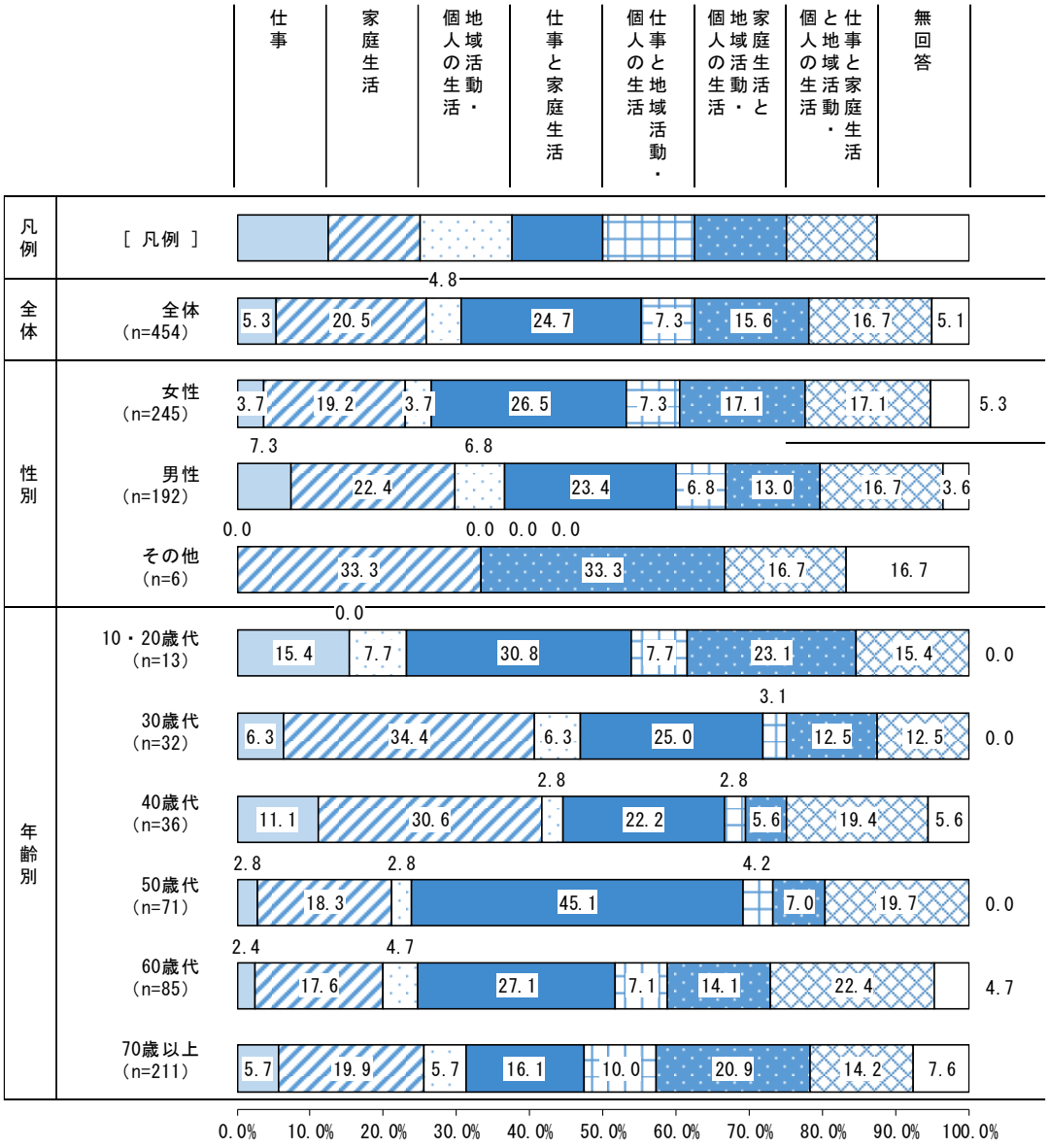
【性年齢別】

○　性年齢別でみると、女性 10～30 歳代は「家庭生活と地域活動・個人の生活」、男性の 10～30 歳代は「仕事」が全体よりやや多くなっています。40～50 歳代は「仕事と家庭生活」が女性 40.0%・男性 35.0%で特に多くなっています。

【生活の中で優先すること(希望)】



【性別、年齢別、性年齢別 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(希望)】



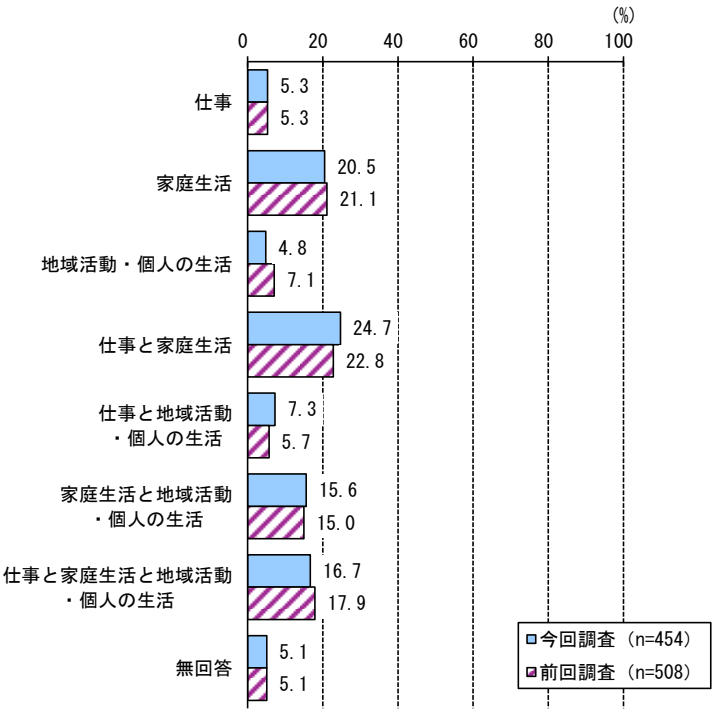
単位：%

		母数(n)	生活の中で優先すること(希望) 仕事	家庭生活	地域活動・個人の生活	仕事と家庭生活	仕事と地域活動・個人の生活	家庭生活と地域活動・個人の生活	仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活	無回答
全体		454	5.3	20.5	4.8	24.7	7.3	15.6	16.7	5.1
性年齢別	女性 10～30歳代	21	4.8	23.8	4.8	28.6	4.8	△ 23.8	▼ 9.5	-
	女性 40～50歳代	65	4.6	24.6	1.5	△ 40.0	3.1	▼ 7.7	16.9	1.5
	女性 60歳以上	158	3.2	16.5	4.4	20.3	9.5	20.3	18.4	7.6
	男性 10～30歳代	23	△ 13.0	21.7	8.7	26.1	4.3	▼ 8.7	17.4	-
	男性 40～50歳代	40	5.0	20.0	5.0	△ 35.0	5.0	▼ 5.0	△ 22.5	2.5
	男性 60歳以上	128	7.0	23.4	7.0	▼ 18.8	7.8	16.4	14.8	4.7

【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査・前回調査とも「仕事と家庭生活」が最も多く、大きな違いはみられません。

【前回比較　「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(希望)】



現実

【全体】

○ 生活の中で優先すること(現実)について、「仕事と家庭生活」が 22.7%で最も多く、次いで「家庭生活」が 20.0%、「仕事」が 16.7%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、女性は男性よりも「仕事と家庭生活」が 6.1 ポイント、「家庭生活と地域活動・個人の生活」が 5.0 ポイント多く、男性は女性よりも「仕事と地域活動・個人の生活」が 10.6 ポイント多くなっています。

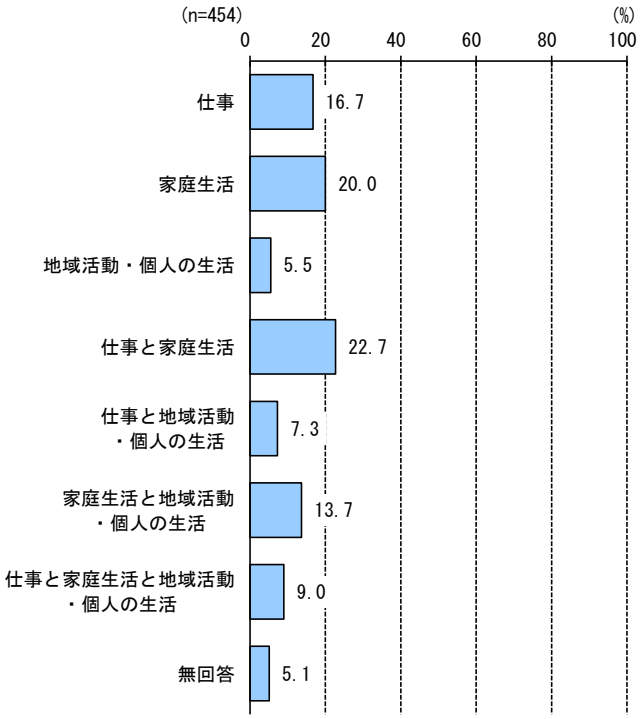
【年齢別】

○ 年齢別でみると、「仕事」の割合は年齢が下がるほど多くなっています。60 歳代以下では、複数の事柄を優先する回答は、年齢が上がるほど多くなっています。

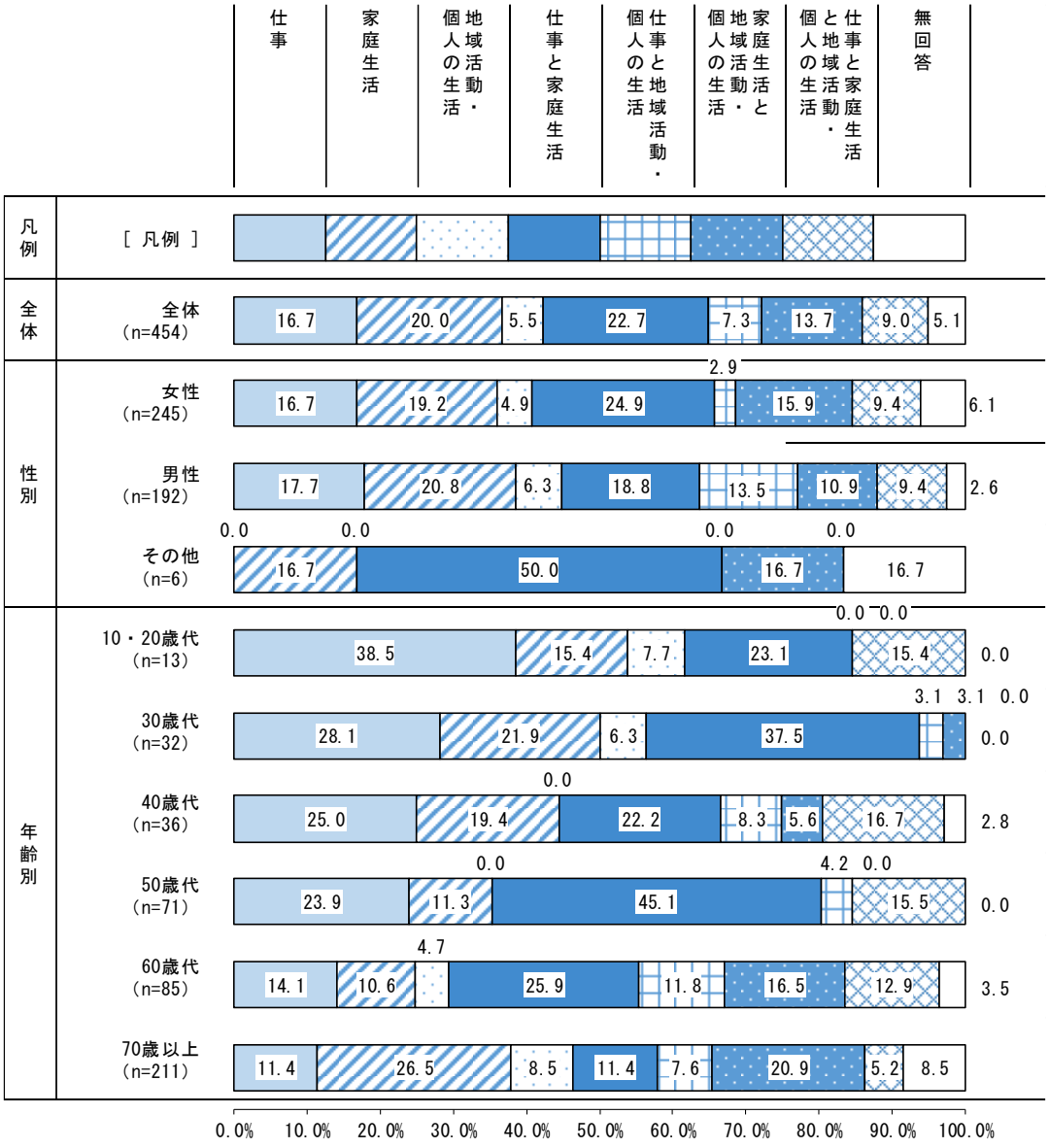
【性年齢別】

○ 性年齢別でみると、女性の 10～30 歳代は「仕事」、40～50 歳代は「仕事と家庭生活」、60 歳以上は「仕事と家庭生活」が最も多くなっています。男性の 60 歳未満は「仕事と家庭生活」が最も多いですが、60 歳以上は「家庭生活」が最も多くなっています。

【生活の中で優先すること(現実)】



【性別、年齢別、性年齢別　「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(現実)】



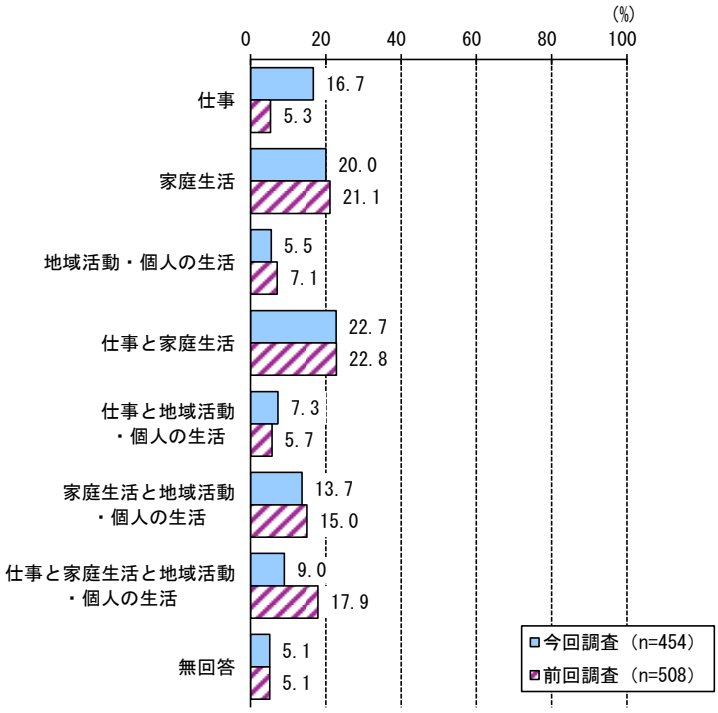
単位：%

		母数(n)	生活の中で優先すること(現実) 仕事	家庭生活	地域活動・個人の生活	仕事と家庭生活	仕事と地域活動・個人の生活	家庭生活と地域活動・個人の生活	仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活	無回答
全体		454	16.7	20.0	5.5	22.7	7.3	13.7	9.0	5.1
性年齢別	女性　10～30歳代	21	△ 38.1	▼ 9.5	－	△ 33.3	4.8	▼ 4.8	9.5	－
	40～50歳代	65	△ 26.2	18.5	－	△ 40.0	－	▼ 1.5	12.3	1.5
	60歳以上	158	▼ 10.1	20.9	7.6	▼ 17.1	3.8	△ 23.4	8.2	8.9
	男性　10～30歳代	23	△ 26.1	△ 26.1	△ 13.0	△ 34.8	－	－	－	－
	40～50歳代	40	20.0	▼ 7.5	－	△ 32.5	△ 15.0	▼ 2.5	△ 22.5	－
	60歳以上	128	15.6	23.4	7.0	▼ 11.7	△ 15.6	15.6	7.0	3.9

【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活」が 8.9 ポイント少なく、「仕事」が 11.4 ポイント多くなっています。

【前回比較 生活の中で優先すること(現実)】



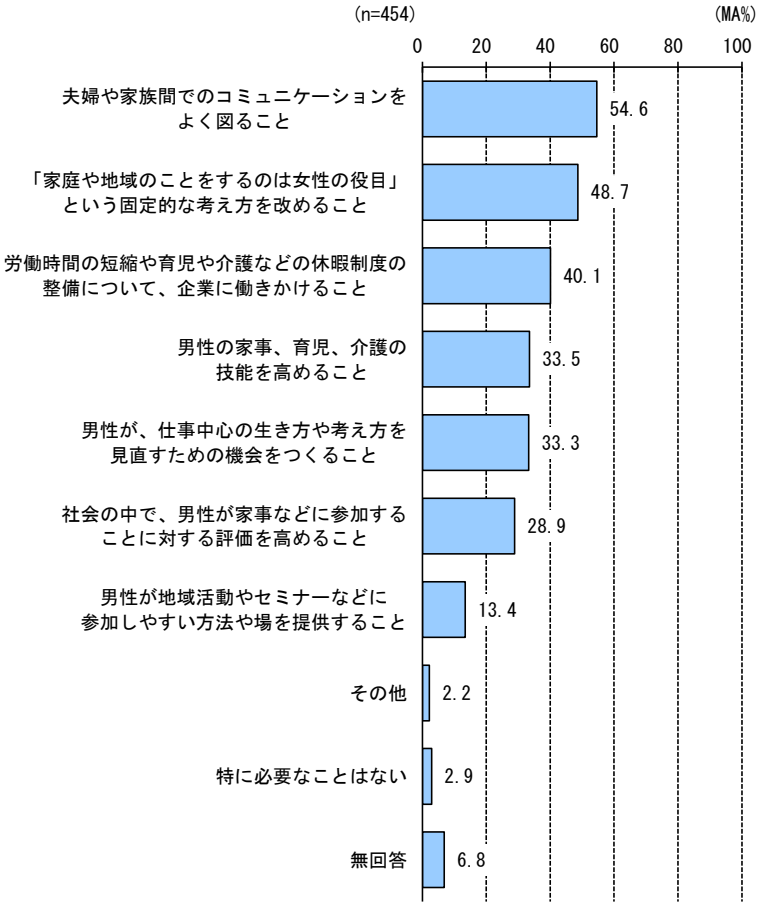
（3）男性が家事、子育て、介護などに積極的に参加していくために必要なこと

問10　一般的に、仕事中心の生活であることが多い男性が、今後、仕事以外のこと（家事、子育て、介護など）に積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。(MA)

【全体】

○　男性が家事、子育て、介護などに積極的に参加していくために必要なことについて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が 54.6%で最も多く、次いで「『家庭や地域のことをするのは女性の役目』という固定的な考え方を改めること」が 48.7%、「労働時間の短縮や育児や介護などの休暇制度の整備について、企業に働きかけること」が40.1%となっています。

【男性が家事、子育て、介護などに積極的に参加していくために必要なこと(MA)】



【性別】

○　性別でみると、女性は男性よりも「その他」「特に必要なことはない」以外の項目がいずれも多くなっており、「『家庭や地域のことをするのは女性の役目』という固定的な考え方を改めること」で 18.4 ポイント差、「男性の家事、育児、介護の技能を高めること」で 10.4 ポイント差などとなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、10～30 歳代はほとんどの項目で他の年齢層よりも回答が多くなっています。40 歳代は「『家庭や地域のことをするのは女性の役目』という固定的な考え方を改めること」が 61.1%で最も多くなっています。

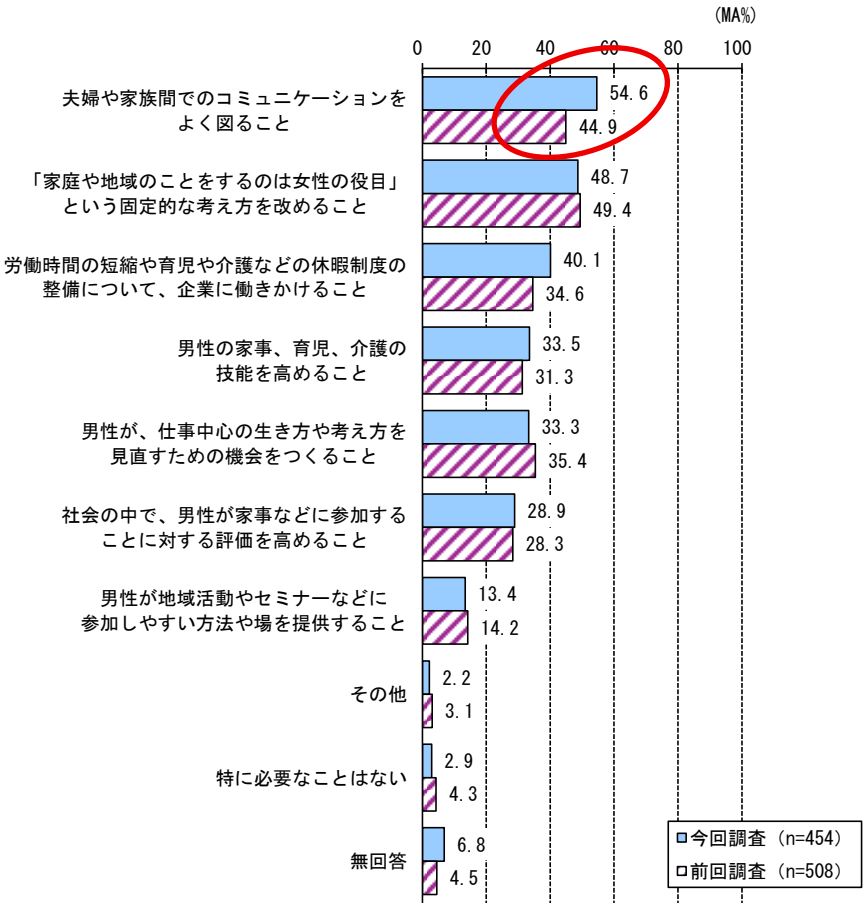
【性別、年齢別 男性が家事、子育て、介護などに積極的に参加していくために必要なこと(MA)】

単位：%

		母数(n)	男性が家事、子育て、介護などに積極的に参加していくために必要なこと									
			「家庭や地域のことをするのは女性の役目」という固定的な考え方を改めること	労働時間の短縮や育児や介護などの休暇制度の整備について、企業に働きかけること	男性が、仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくること	男性の家事、育児、介護の技能を高めること	男性が地域活動やセミナーなどに参加しやすい方法や場を提供すること	社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高めること	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	その他	特に必要なことはない	無回答
全体		454	48.7	40.1	33.3	33.5	13.4	28.9	54.6	2.2	2.9	6.8
性別	女性	245	△ 58.0	44.1	35.5	38.0	15.1	31.8	56.7	1.6	2.4	6.1
	男性	192	▼ 39.6	37.5	31.8	▼ 27.6	12.5	26.6	53.1	3.1	3.1	5.7
	その他	6	▼ 33.3	▼ 33.3	－	△ 50.0	－	－	△ 66.7	－	△ 16.7	－
年齢別	10・20歳代	13	△ 61.5	△ 53.8	△ 38.5	△ 53.8	15.4	30.8	△ 69.2	△ 7.7	－	－
	30歳代	32	50.0	△ 56.3	37.5	△ 46.9	12.5	△ 37.5	△ 65.6	6.3	6.3	－
	40歳代	36	△ 61.1	44.4	▼ 25.0	▼ 22.2	11.1	33.3	55.6	2.8	2.8	2.8
	50歳代	71	46.5	▼ 31.0	△ 39.4	△ 42.3	▼ 5.6	33.8	▼ 47.9	1.4	2.8	1.4
	60歳代	85	45.9	△ 51.8	31.8	31.8	9.4	27.1	57.6	3.5	1.2	5.9
	70歳以上	211	47.9	35.5	33.2	30.3	△ 18.5	26.1	52.6	0.9	3.3	10.4

【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が 9.7 ポイント、「労働時間の短縮や育児や介護などの休暇制度の整備について、企業に働きかけること」が 5.5 ポイント多くなっています。



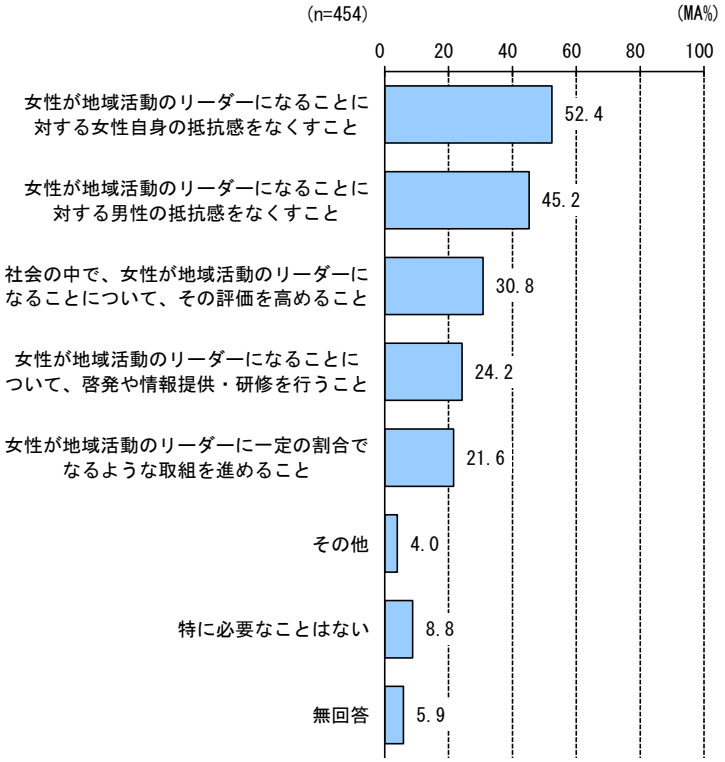
（４）女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと

問11　あなたは、自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(MA)

【全体】

○　女性が地域活動のリーダーになるために必要なことについて、「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が52.4%で最も多く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が 45.2%、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」が30.8%となっています。

【女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと(MA)】



【性別】

○　性別でみると、女性が男性よりも多いのは「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」（8.3ポイント）で、他の項目はいずれも男性が女性よりも多くなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、10・20歳代は「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も多く、30歳以上は「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が最も多くなっています。

【性別、年齢別 女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと(MA)】

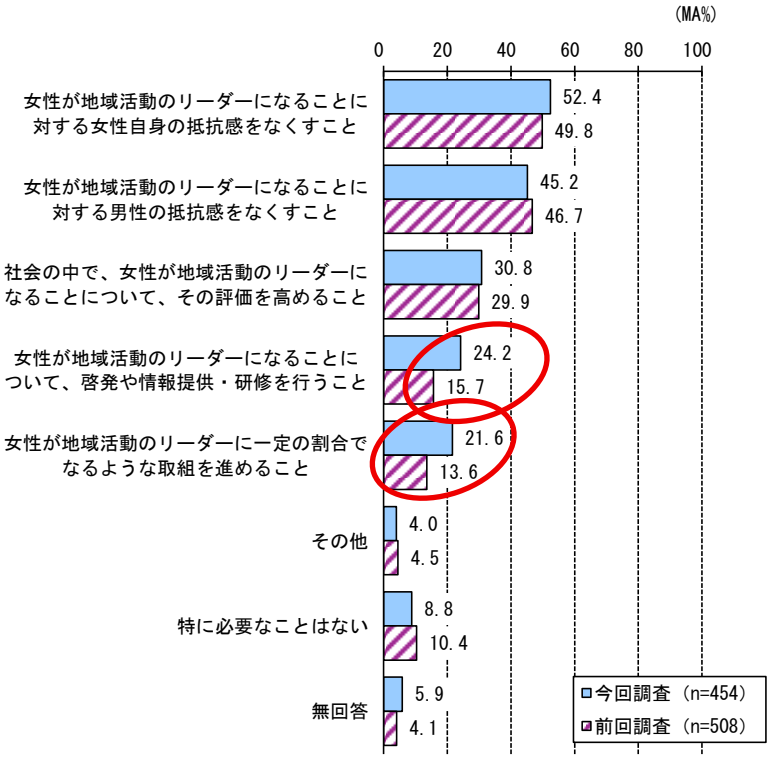
単位：%

		母数(n)	女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと							
			女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること	女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること	その他	特に必要なことはない	無回答
全体		454	52.4	45.2	30.8	24.2	21.6	4.0	8.8	5.9
性別	女性	245	50.6	49.4	29.8	21.6	19.2	4.5	8.6	6.5
	男性	192	56.8	41.1	33.9	28.6	26.0	3.6	9.9	2.6
	その他	6	△ 66.7	▼ 33.3	－	▼ 16.7	－	－	－	16.7
年齢別	10・20歳代	13	▼ 38.5	△ 76.9	30.8	23.1	▼ 15.4	7.7	△ 15.4	－
	30歳代	32	56.3	40.6	28.1	▼ 12.5	18.8	3.1	12.5	－
	40歳代	36	50.0	47.2	▼ 13.9	25.0	▼ 8.3	△ 13.9	△ 13.9	2.8
	50歳代	71	△ 57.7	46.5	26.8	▼ 14.1	18.3	7.0	12.7	－
	60歳代	85	51.8	47.1	△ 36.5	▼ 17.6	25.9	2.4	7.1	5.9
	70歳以上	211	53.1	43.1	34.1	△ 31.8	24.2	1.9	6.6	8.5

【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと」が 8.5 ポイント、「女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること」が 8.0 ポイント多くなっています。

【前回比較 女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと(MA)】



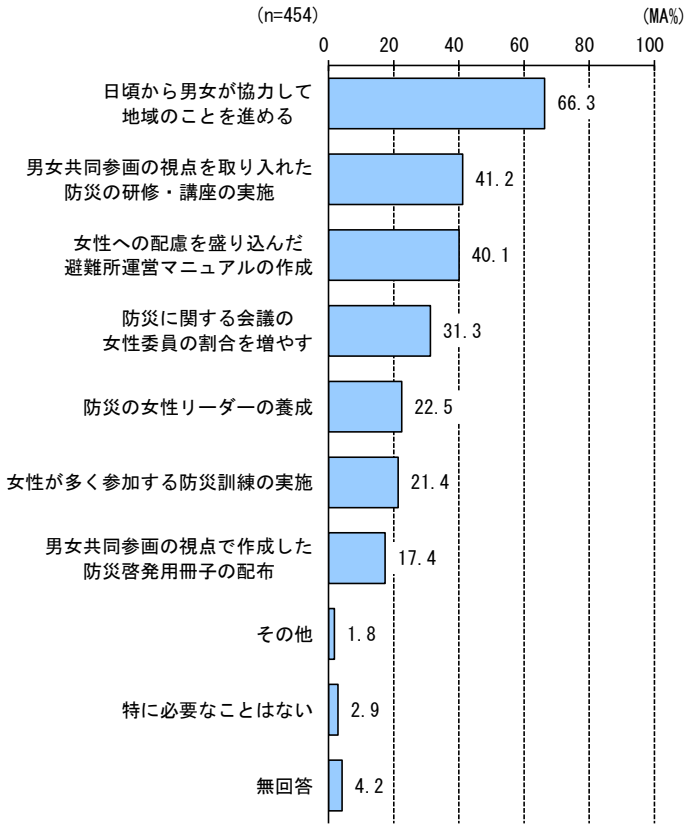
（５）男女が協力し合って災害対応をしていくために必要なこと

問12　災害時の避難所において、男女が協力し合って災害対応をしていくためには、日頃からどのようなことを行っていく必要があると思いますか。(MA)

【全体】

○　男女が協力し合って災害対応をしていくために必要なことについて、「日頃から男女が協力して地域のことを進める」が66.3%で最も多く、次いで「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」が 41.2%、「女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルの作成」が40.1%となっています。

【男女が協力し合って災害対応をしていくために必要なこと(MA)】



【性別】

○　性別でみると、女性は男性よりも「女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルの作成」が 6.6 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、10・20 歳代と 60 歳代は「防災の女性リーダーの養成」が 30%を超えています。

【性別、年齢別 男女が協力し合って災害対応をしていくために必要なこと(MA)】

単位：%

		母数(n)	男女が協力し合って災害対応をしていくために必要なこと				
			防災に関する会議の女性委員の割合を増やす	男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施	女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルの作成	女性が多く参加する防災訓練の実施	男女共同参画の視点で作成した防災啓発用冊子の配布
全体		454	31.3	41.2	40.1	21.4	17.4
性別	女性	245	31.0	43.3	44.1	20.0	16.3
	男性	192	32.8	40.6	37.5	24.0	19.8
	その他	6	33.3	▼ 33.3	▼ 16.7	－	16.7
年齢別	10・20歳代	13	△ 38.5	△ 46.2	△ 46.2	▼ 15.4	15.4
	30歳代	32	31.3	▼ 28.1	▼ 34.4	18.8	15.6
	40歳代	36	33.3	38.9	△ 47.2	19.4	19.4
	50歳代	71	26.8	40.8	△ 45.1	▼ 15.5	15.5
	60歳代	85	34.1	40.0	△ 45.9	22.4	20.0
	70歳以上	211	31.3	45.0	35.5	24.6	17.5

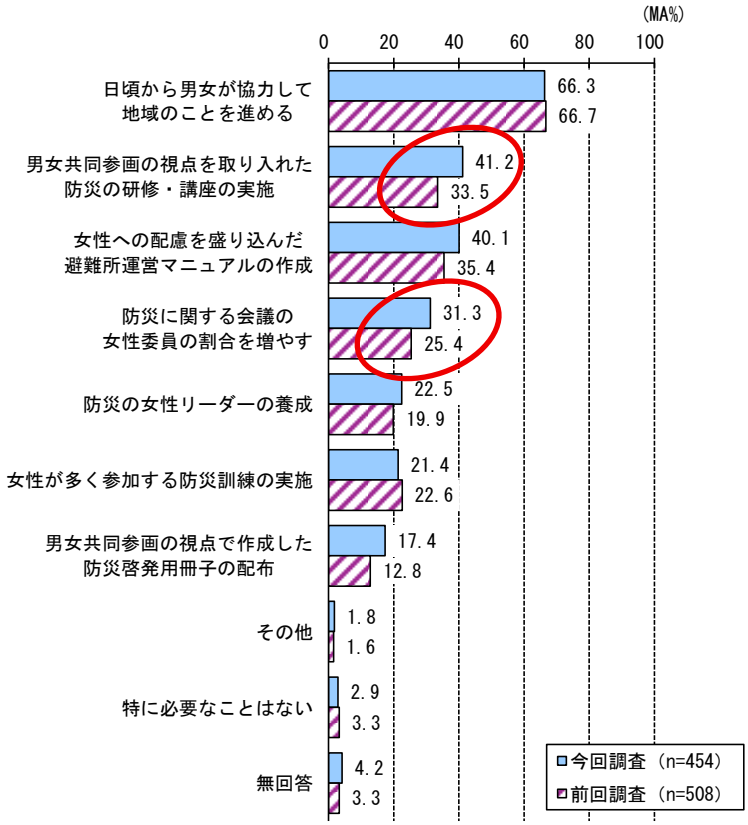
単位：%

		母数(n)	男女が協力し合って災害対応をしていくために必要なこと				
			防災の女性リーダーの養成	日頃から男女が協力して地域のことを進める	その他	特に必要なことはない	無回答
全体		454	22.5	66.3	1.8	2.9	4.2
性別	女性	245	22.0	68.6	2.0	3.3	4.9
	男性	192	24.5	65.6	1.0	2.6	1.0
	その他	6	－	▼ 33.3	△ 16.7	－	16.7
年齢別	10・20歳代	13	△ 46.2	69.2	△ 7.7	－	－
	30歳代	32	▼ 12.5	△ 71.9	－	△ 12.5	3.1
	40歳代	36	22.2	▼ 55.6	－	2.8	－
	50歳代	71	18.3	66.2	2.8	4.2	－
	60歳代	85	△ 30.6	65.9	2.4	1.2	2.4
	70歳以上	211	20.9	68.2	1.4	1.9	6.6

【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」が7.7ポイント、「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす」が5.9ポイント多くなっています。

【前回比較 男女が協力し合って災害対応をしていくために必要なこと(MA)】



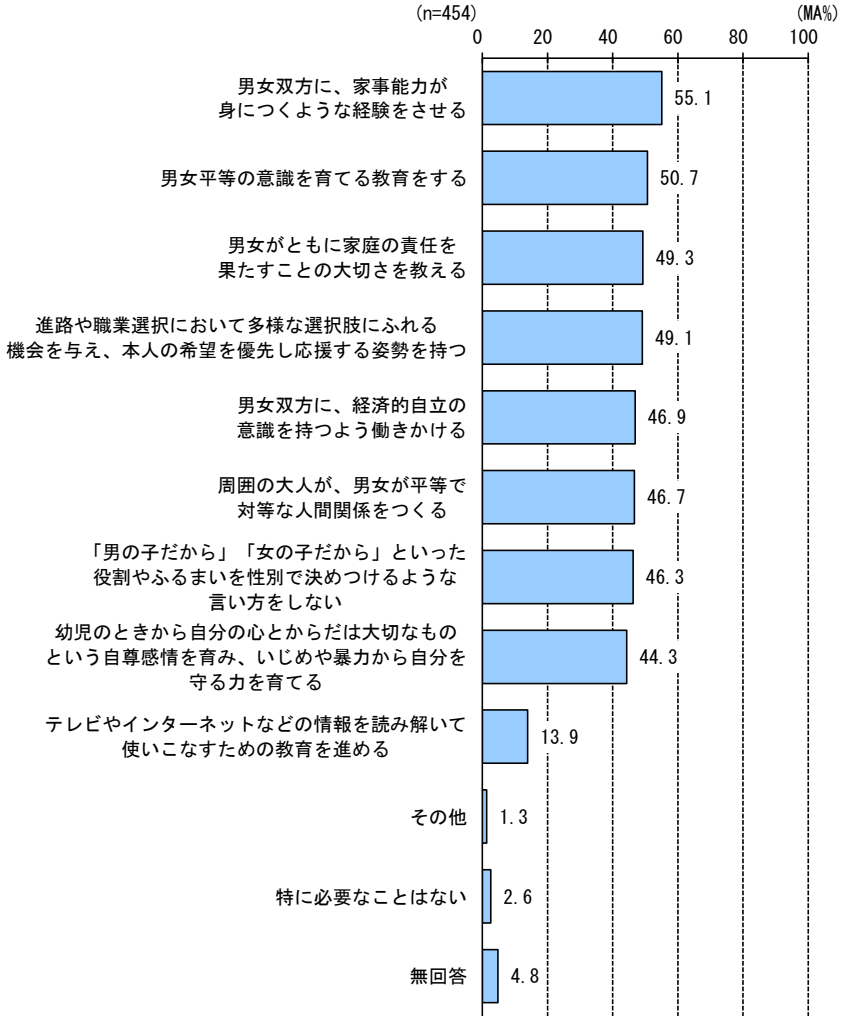
（6）男女共同参画を進めるために子どもへの教育に必要なこと

問13　あなたは、男女共同参画を進めるために、子どもへの教育においてどのようなことが必要だと思いますか。(MA)

【全体】

○　男女共同参画を進めるために子どもへの教育に必要なことについて、「男女双方に、家事能力が身につくような経験をさせる」が55.1%で最も多く、次いで「男女平等の意識を育てる教育をする」が 50.7%、「男女がともに家庭の責任を果たすことの大切さを教える」が 49.3%となっています。

【男女共同参画を進めるために子どもへの教育に必要なこと(MA)】



【性別】

○ 性別でみると、女性は男性よりも「テレビやインターネットなどの情報を読み解いて使いこなすための教育を進める」「特に必要なことはない」以外の項目がいずれも多くなっており、「周囲の大人が、男女が平等で対等な人間関係をつくる」で 17.0 ポイント差、「『男の子だから』『女の子だから』といった役割やふるまいを性別で決めつけるような言い方をしない」で16.0 ポイント差、「幼児のときから自分の心とからだは大切なものという自尊感情を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる」で 14.4 ポイント差、「男女双方に、家事能力が身につくような経験をさせる」で 12.2 ポイント差となっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～40 歳代では「進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与え、本人の希望を優先し応援する姿勢を持つ」が 60%を超えています。また、40 歳代は「男女双方に、家事能力が身につくような経験をさせる」「男女双方に、経済的自立の意識を持つよう働きかける」「周囲の大人が、男女が平等で対等な人間関係をつくる」が 60%を超えています。

【性別、年齢別 男女共同参画を進めるために子どもへの教育に必要なこと(MA)】

単位：%

		母数(n)	男女共同参画を進めるために子どもへの教育に必要なこと					
			男女平等の意識を育てる教育をする	進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与え、本人の希望を優先し応援する姿勢を持つ	幼児のときから自分の心とからだは大切なものという自尊感情を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる	男女がともに家庭の責任を果たすことの大切さを教える	テレビやインターネットなどの情報を読み解いて使いこなすための教育を進める	「男の子だから」「女の子だから」といった役割やふるまいを性別で決めつけるような言い方をしない
全体		454	50.7	49.1	44.3	49.3	13.9	46.3
性別	女性	245	51.8	△ 54.3	△ 51.4	52.7	13.5	△ 53.5
	男性	192	51.0	45.8	▼ 37.0	46.4	14.1	▼ 37.5
	その他	6	▼ 33.3	▼ 33.3	▼ 33.3	50.0	△ 33.3	▼ 33.3
年齢別	10・20歳代	13	△ 69.2	△ 76.9	△ 76.9	△ 61.5	△ 23.1	△ 61.5
	30歳代	32	△ 56.3	△ 65.6	△ 53.1	53.1	△ 25.0	▼ 40.6
	40歳代	36	△ 58.3	△ 66.7	44.4	47.2	△ 19.4	△ 52.8
	50歳代	71	▼ 42.3	47.9	42.3	49.3	15.5	49.3
	60歳代	85	51.8	51.8	△ 50.6	54.1	17.6	43.5
	70歳以上	211	50.7	▼ 42.7	39.8	46.9	9.0	45.0

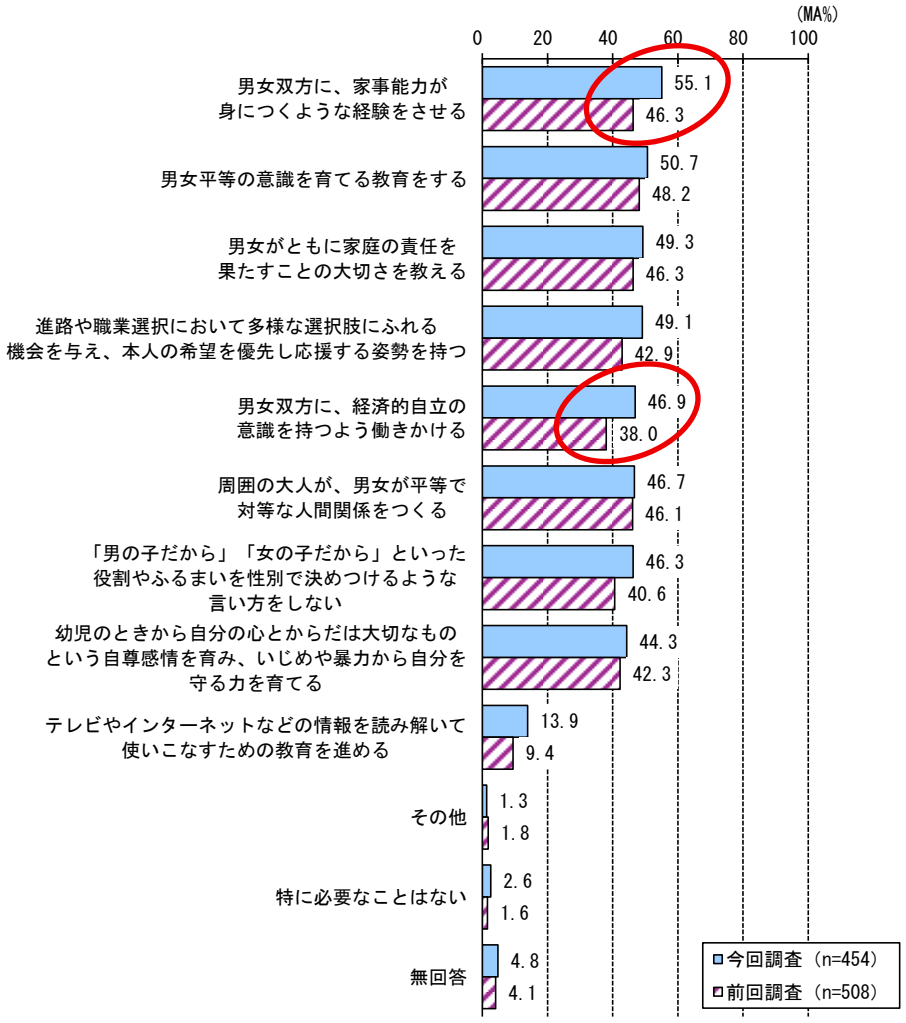
単位：%

		母数(n)	男女共同参画を進めるために子どもへの教育に必要なこと					
			男女双方に、家事能力が身につくような経験をさせる	男女双方に、経済的自立の意識を持つよう働きかける	周囲の大人が、男女が平等で対等な人間関係をつくる	その他	特に必要なことはない	無回答
全体		454	55.1	46.9	46.7	1.3	2.6	4.8
性別	女性	245	△ 61.2	51.0	△ 55.5	1.6	1.6	5.7
	男性	192	▼ 49.0	44.8	▼ 38.5	1.0	4.2	2.1
	その他	6	▼ 33.3	▼ 16.7	▼ 16.7	－	－	16.7
年齢別	10・20歳代	13	△ 69.2	△ 53.8	△ 69.2	△ 7.7	－	－
	30歳代	32	59.4	△ 53.1	50.0	3.1	△ 9.4	－
	40歳代	36	△ 72.2	△ 66.7	△ 61.1	－	2.8	－
	50歳代	71	52.1	47.9	50.7	4.2	2.8	1.4
	60歳代	85	▼ 49.4	48.2	49.4	－	1.2	3.5
	70歳以上	211	54.5	42.7	▼ 40.8	0.5	2.4	7.6

【前回比較】

○ 前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりもすべての項目で回答割合が多くなっています。前回との差が大きい順に「男女双方に、経済的自立の意識を持つよう働きかける」が 8.9 ポイント、「男女双方に、家事能力が身につくような経験をさせる」が 8.8 ポイント、「進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与え、本人の希望を優先し応援する姿勢を持つ」が 6.2 ポイント、「『男の子だから』『女の子だから』といった役割やふるまいを性別で決めつけるような言い方をしない」が 5.7 ポイント多くなっています。

【前回比較 男女共同参画を進めるために子どもへの教育に必要なこと(MA)】



５．配偶者等からの暴力・ハラスメントについて

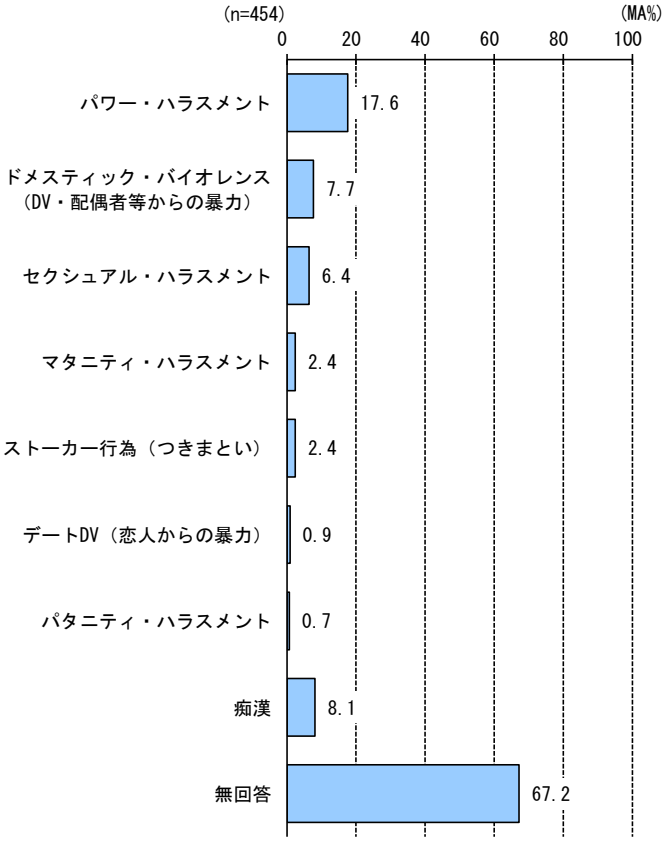
（１）DV・ハラスメントなどの経験

問14　あなたは、次のような行為の被害を受けた経験がありますか。(MA)

【全体】

○　DV・ハラスメントなどの経験について、「パワー・ハラスメント」が 17.6%で最も多く、次いで「痴漢」が 8.1%、「ドメスティック・バイオレンス（DV・配偶者等からの暴力)」が 7.7%となっており、いずれかの経験がある人が32.8%となっています。

【DV・ハラスメントなどの経験(MA)】



【性別】

○ 性別でみると、女性は男性よりも「痴漢」が 13.3 ポイント、「セクシュアル・ハラスメント」が 9.0 ポイント、「ドメスティック・バイオレンス（DV・配偶者等からの暴力）」が 5.0 ポイントで多い一方、男性は女性よりも「パワー・ハラスメント」が 7.7 ポイント多くなっており、いずれかの経験がある人は女性 38.8%・男性 27.6%となっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30～50 歳代では「パワー・ハラスメント」が 20%を超えています。また、40～60 歳代では「痴漢」が 10%を超えています。

【性別、年齢別 DV・ハラスメントなどの経験(MA)】

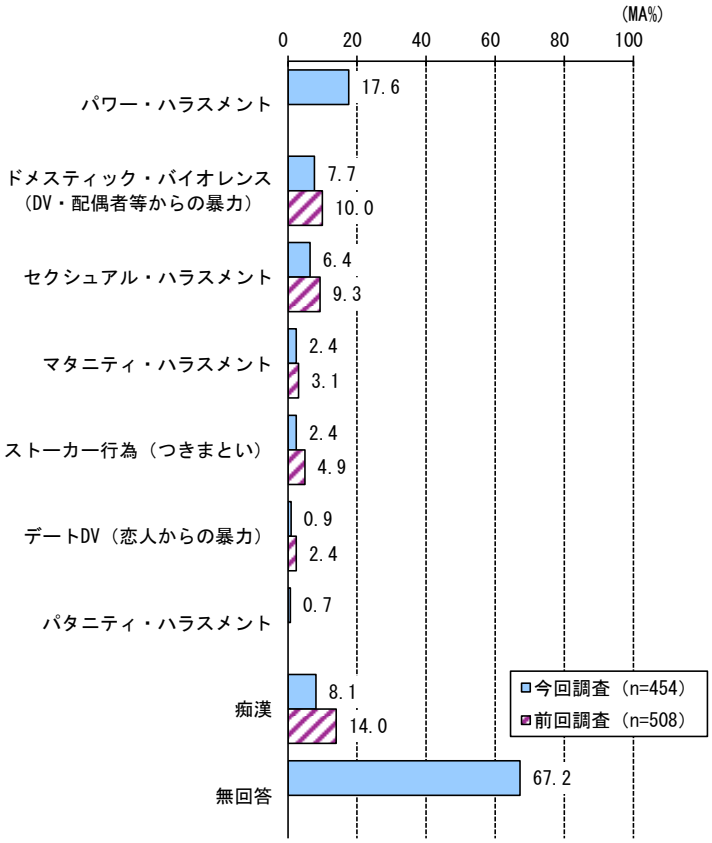
単位：%

		母数(n)	DV・ハラスメントなどの経験								
			ドメスティック・バイオレンス（DV・配偶者等からの暴力）	デートDV（恋人からの暴力）	セクシュアル・ハラスメント	パワー・ハラスメント	マタニティ・ハラスメント	パタニティ・ハラスメント	ストーカー行為（つきまとい）	痴漢	無回答
全体		454	7.7	0.9	6.4	17.6	2.4	0.7	2.4	8.1	67.2
性別	女性	245	10.2	1.2	10.6	14.7	3.7	0.4	3.3	△ 14.3	61.2
	男性	192	5.2	0.5	1.6	22.4	1.0	1.0	1.6	▼ 1.0	72.4
	その他	6	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0
年齢別	10・20歳代	13	－	－	－	▼ 7.7	－	－	－	－	92.3
	30歳代	32	3.1	－	3.1	△ 31.3	－	－	－	3.1	68.8
	40歳代	36	△ 13.9	2.8	11.1	△ 25.0	△ 8.3	－	△ 11.1	△ 19.4	50.0
	50歳代	71	8.5	4.2	9.9	△ 23.9	4.2	1.4	5.6	△ 14.1	54.9
	60歳代	85	7.1	－	3.5	18.8	1.2	1.2	2.4	12.9	64.7
	70歳以上	211	8.1	－	6.6	▼ 12.3	1.9	0.5	0.5	3.8	73.0

【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査の比較可能な項目はいずれも前回調査より少なくなっています。

【前回調査 DV・ハラスメントなどの経験(MA)】



※　前回調査では選択肢に「パワー・ハラスメント」「パタニティ・ハラスメント」はありません。

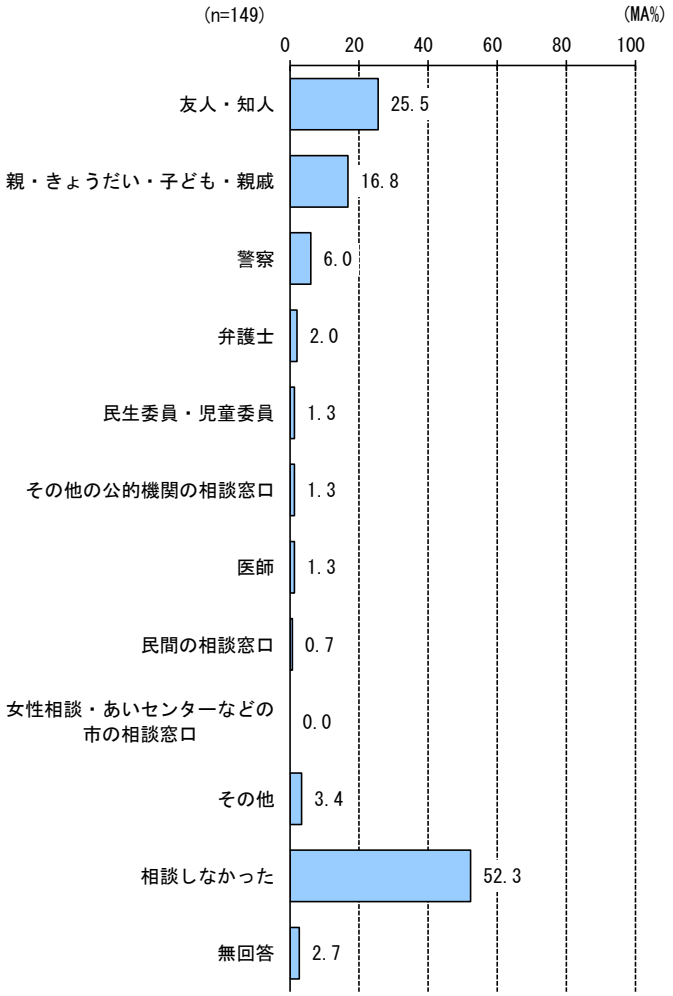
（２）DV・ハラスメントなどを受けた際の相談状況

問15　問14で、どれかひとつでも被害を受けたことがある方におたずねします。そのとき、誰（どこ）に相談しましたか。(MA)

【全体】

○　DV・ハラスメントなどを受けた際の相談状況について、「相談しなかった」が 52.3%で最も多く、次いで「友人・知人」が 25.5%、「親・きょうだい・子ども・親戚」が 16.8%となっています。

【DV・ハラスメントなどを受けた際の相談状況(MA)】



【性別】

○ 性別でみると、女性は男性よりも「親・きょうだい・子ども・親戚」が 11.7 ポイント、「友人・知人」が 7.6 ポイント多く、男性は女性よりも「相談しなかった」が 16.0 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30 歳代は「友人・知人」(40.0%：4 件)、40 歳代は「親・きょうだい・子ども・親戚」(33.3%：6 件）が他の年齢層と比べて多くなっています。

【性別、年齢別 DV・ハラスメントなどを受けた際の相談状況(MA)】

単位：%

		母数(n)	DV・ハラスメントなどを受けた際の相談状況					
			親・きょうだい・子ども・親戚	友人・知人	警察	女性相談・あいセンターなどの市の相談窓口	民生委員・児童委員	その他の公的機関の相談窓口
全体		149	16.8	25.5	6.0	－	1.3	1.3
性別	女性	95	21.1	28.4	5.3	－	1.1	－
	男性	53	▼ 9.4	20.8	7.5	－	1.9	3.8
	その他	－	－	－	－	－	－	－
年齢別	10・20歳代	1	－	△100.0	－	－	－	－
	30歳代	10	20.0	△ 40.0	－	－	－	－
	40歳代	18	△ 33.3	22.2	△ 11.1	－	－	－
	50歳代	32	△ 21.9	25.0	6.3	－	－	3.1
	60歳代	30	20.0	23.3	6.7	－	－	－
	70歳以上	57	▼ 7.0	24.6	5.3	－	3.5	1.8

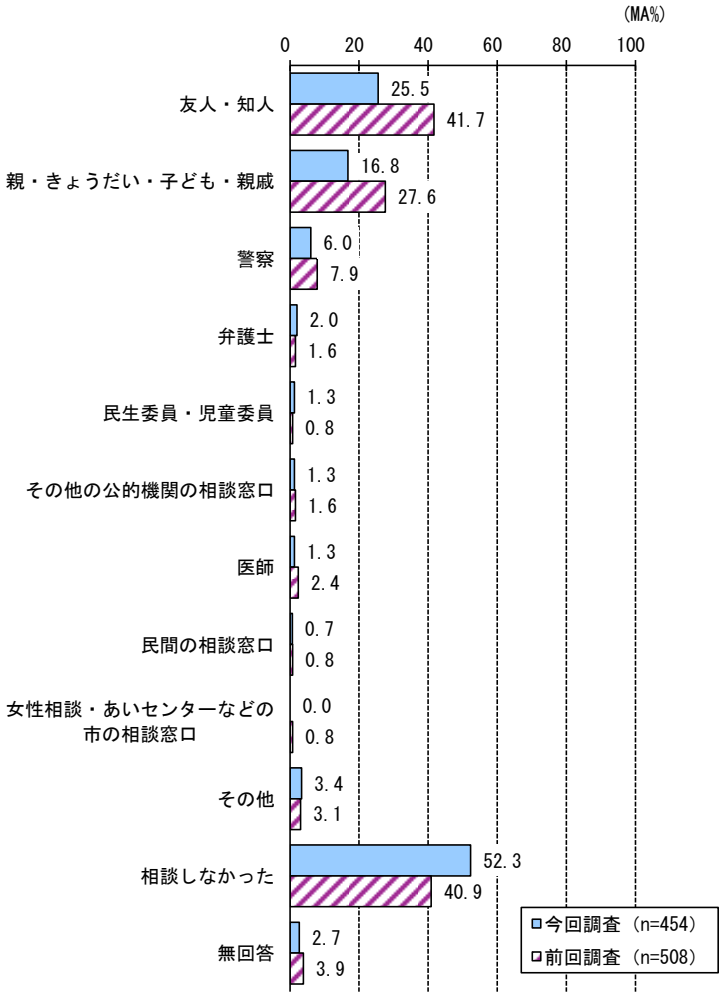
単位：%

		母数(n)	DV・ハラスメントなどを受けた際の相談状況					
			民間の相談窓口	医師	弁護士	その他	相談しなかった	無回答
全体		149	0.7	1.3	2.0	3.4	52.3	2.7
性別	女性	95	－	2.1	1.1	5.3	▼ 46.3	3.2
	男性	53	1.9	－	3.8	－	△ 62.3	1.9
	その他	－	－	－	－	－	－	－
年齢別	10・20歳代	1	－	－	－	－	－	－
	30歳代	10	－	－	－	△ 10.0	▼ 40.0	－
	40歳代	18	－	－	－	5.6	50.0	－
	50歳代	32	3.1	－	3.1	6.3	▼ 46.9	3.1
	60歳代	30	－	－	－	3.3	56.7	－
	70歳以上	57	－	3.5	3.5	－	56.1	5.3

【前回比較】

○ 前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「友人・知人」が 16.2 ポイント、「親・きょうだい・子ども・親戚」が 10.8 ポイント少なく、「相談しなかった」が 11.4 ポイント多くなっています。

【前回比較 DV・ハラスメントなどを受けた際の相談状況(MA)】



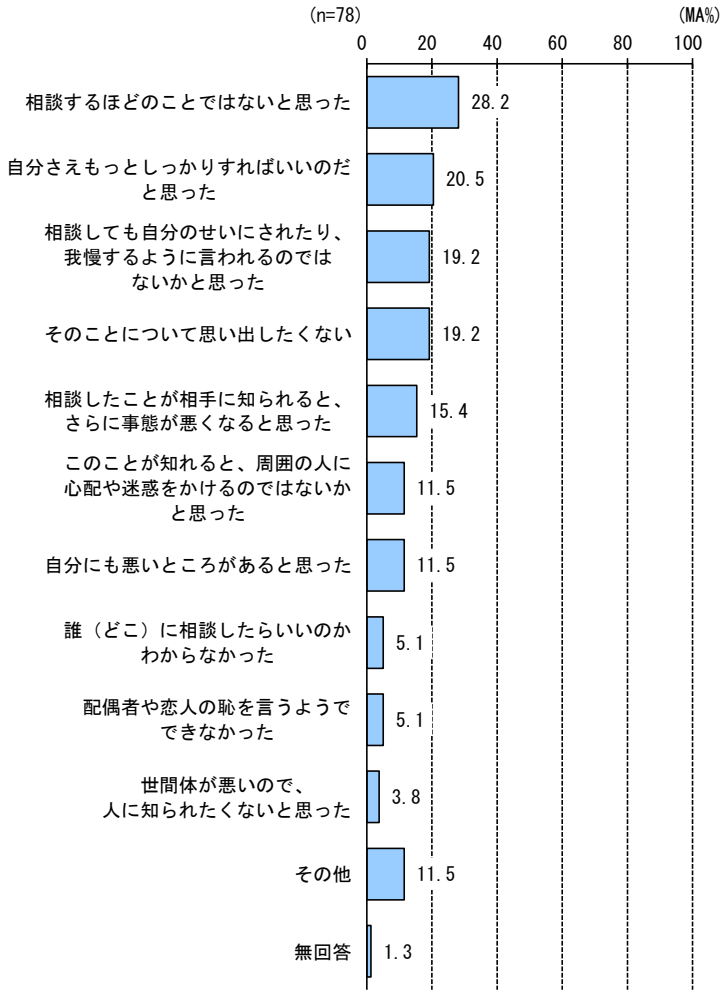
（３）DV・ハラスメントなどを相談しなかった理由

問16　問15で「相談しなかった」と答えた方におたずねします。相談しなかった理由は何ですか。(MA)

【全体】

○　DV・ハラスメントなどを相談しなかった理由について、「相談するほどのことではないと思った」が 28.2%で最も多く、次いで「自分さえもっとしっかりすればいいのだと思った」が 20.5%、「相談しても自分のせいにされたり、我慢するように言われるのではないかと思った」「そのことについて思い出したくない」が 19.2%となっています。

【DV・ハラスメントなどを相談しなかった理由(MA)】



【性別】

○　性別でみると、男性は女性よりも「相談したことが相手に知られると、さらに事態が悪くなると思った」が 15.1 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○　年齢別でみると、30 歳代は「自分さえもっとしっかりすればいいのだと思った」「相談するほどのことではないと思った」（それぞれ 50.0%：２件）、40 歳代は「その他」（44.4%：4 件）、50 歳代と 70 歳以上は「相談するほどのことではないと思った」（50 歳代 40.0%：6 件、70 歳以上 31.3%：10 件）、60 歳代は「自分にも悪いところがあると思った」（23.5%：4 件）が最も多くなっています。

【性別、年齢別 DV・ハラスメントなどを相談しなかった理由(MA)】

単位：%

		母数(n)	DV・ハラスメントなどを相談しなかった理由					
			誰（どこ）に相談したらいいのかわからなかった	相談しても自分のせいにされたり、我慢するように言われるのではないかと思った	自分さえもっとしっかりすればいいのだと思った	配偶者や恋人の恥を言うようでできなかった	このことが知れると、周囲の人に心配や迷惑をかけるのではないかと思った	世間体が悪いので、人に知られたくないと思った
全体		78	5.1	19.2	20.5	5.1	11.5	3.8
性別	女性	44	9.1	22.7	18.2	9.1	13.6	6.8
	男性	33	－	15.2	24.2	－	9.1	－
	その他	－	－	－	－	－	－	－
年齢別	10・20歳代	－	－	－	－	－	－	－
	30歳代	4	－	△ 25.0	△ 50.0	－	－	－
	40歳代	9	△ 11.1	22.2	▼ 11.1	△ 22.2	－	△ 22.2
	50歳代	15	6.7	20.0	▼ 6.7	6.7	6.7	6.7
	60歳代	17	5.9	▼ 11.8	17.6	－	△ 17.6	－
	70歳以上	32	3.1	21.9	△ 28.1	3.1	15.6	－

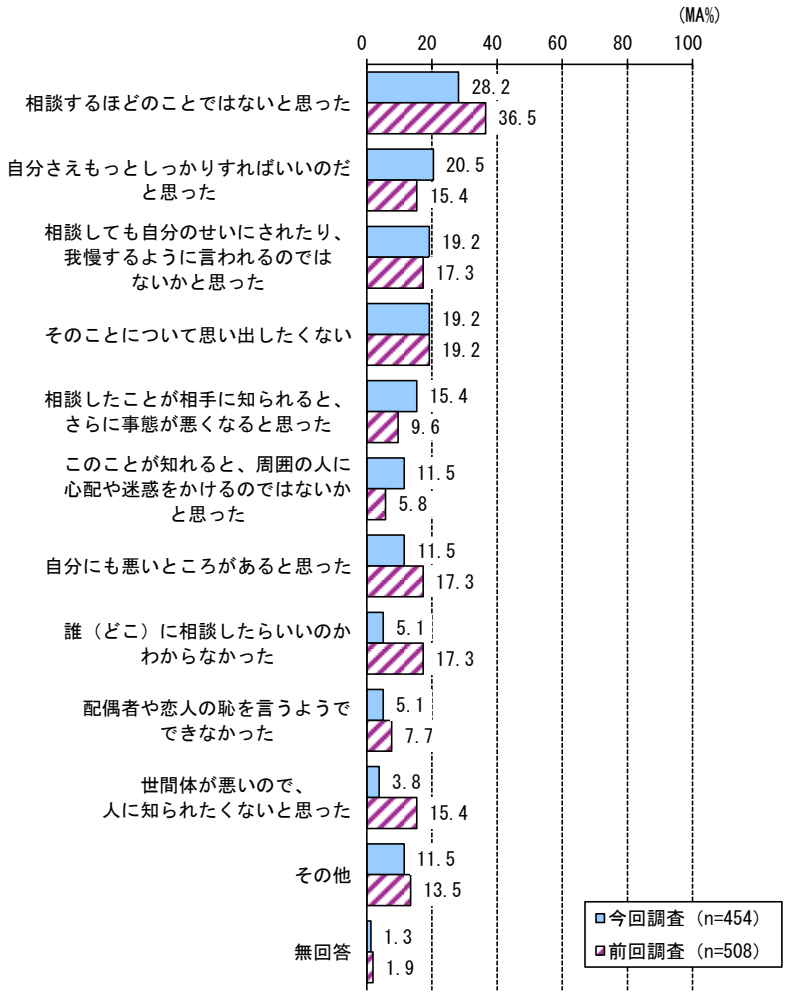
単位：%

		母数(n)	DV・ハラスメントなどを相談しなかった理由					
			相談したことが相手に知られると、さらに事態が悪くなると思った	相談するほどのことではないと思った	自分にも悪いところがあると思った	そのことについて思い出したくない	その他	無回答
全体		78	15.4	28.2	11.5	19.2	11.5	1.3
性別	女性	44	▼ 9.1	29.5	9.1	18.2	13.6	2.3
	男性	33	△ 24.2	24.2	15.2	21.2	▼ 6.1	－
	その他	－	－	－	－	－	－	－
年齢別	10・20歳代	－	－	－	－	－	－	－
	30歳代	4	△ 25.0	△ 50.0	△ 25.0	△ 25.0	－	－
	40歳代	9	11.1	－	11.1	22.2	△ 44.4	－
	50歳代	15	13.3	△ 40.0	6.7	△ 26.7	6.7	－
	60歳代	17	11.8	▼ 17.6	△ 23.5	▼ 5.9	△ 17.6	－
	70歳以上	32	18.8	31.3	▼ 6.3	21.9	－	3.1

【前回比較】

○ 前回調査と比較すると、今回調査の方が多くなっている項目では、「このことが知れると、周囲の人に心配や迷惑をかけるのではないかと思った」が 5.7 ポイント、「自分さえもっとしっかりすればいいのだと思った」が 5.1 ポイント多くなっており、少なくなっている項目では、「誰（どこ）に相談したらいいのかわからなかった」が 12.2 ポイント、「世間体が悪いので、人に知られたくないと思った」が 11.6 ポイント、「相談するほどのことではないと思った」が 8.3 ポイント、「自分にも悪いところがあると思った」が 5.8 ポイント少なくなっています。

【前回比較 DV・ハラスメントなどを相談しなかった理由(MA)】



６．男女共同参画施策について

（１）この10年間の男女共同参画の変化

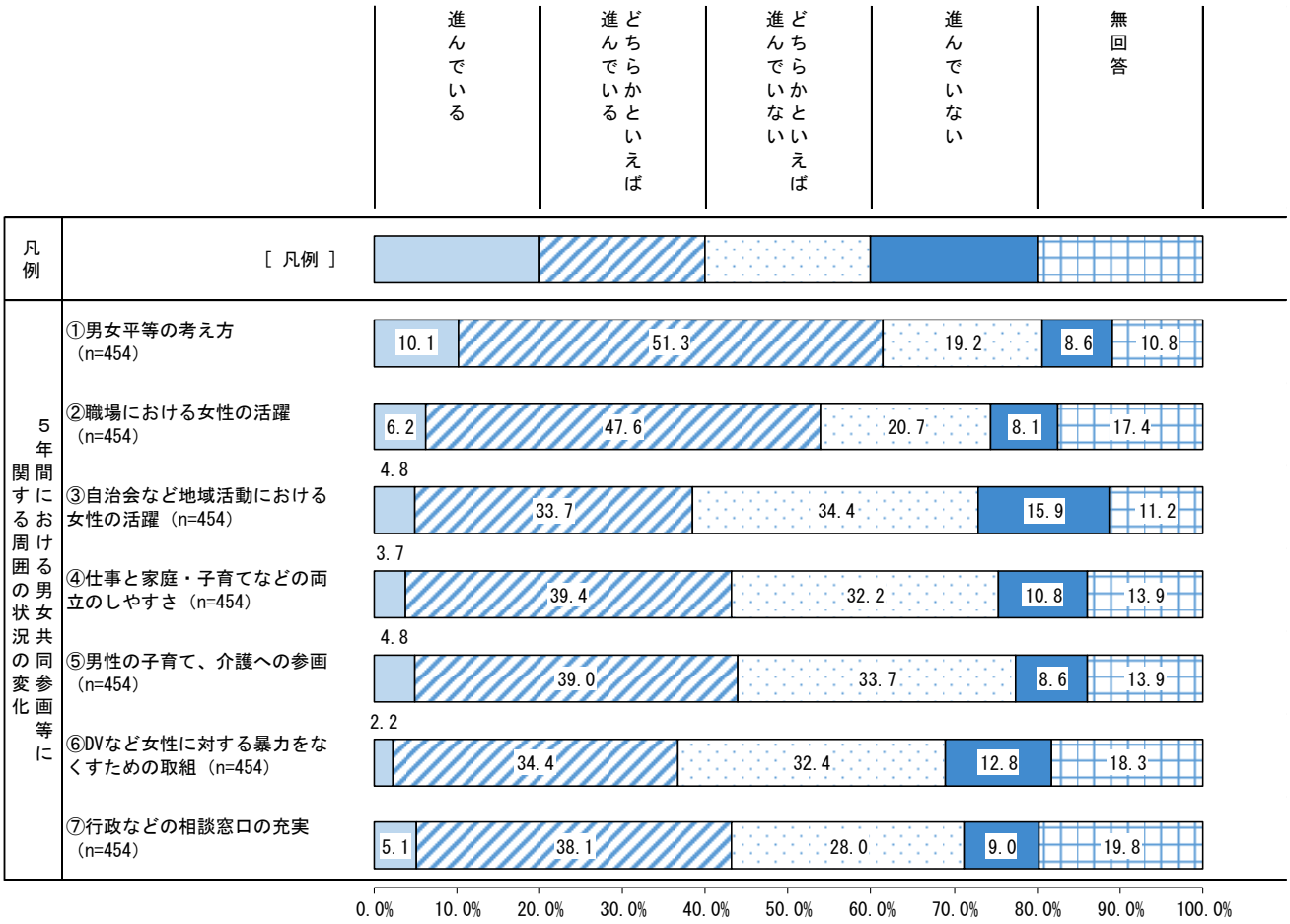
問17　あなた自身の生活や周りの状況から判断して、この５年間で、以下の項目について変化があったと思いますか。

【全体】

○　この 10 年間の男女共同参画の変化について、『進んでいる』（「進んでいる」と「どちらかといえば進んでいる」の合計）が最も多いものは、「①男女平等の考え方」で 61.4%、次いで「②職場における女性の活躍」で 53.8%となっています。

○　『進んでいない』（「どちらかといえば進んでいない」と「進んでいない」の合計）が最も多いものは、「③自治会など地域活動における女性の活躍」で 50.3%、次いで「⑥DV など女性に対する暴力をなくすための取組」で 45.2%となっています。

【この 10 年間の男女共同参画の変化】



①男女平等の考え方

【全体】

○ ①男女平等の考え方について、「どちらかといえば進んでいる」が 51.3%で最も多く、次いで「どちらかといえば進んでいない」が 19.2%、「進んでいる」が 10.1%となっており、『進んでいる』が 61.4%、『進んでいない』が 27.8%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『進んでいる』は女性 59.5%・男性 66.7%で、男性の方が 7.2 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、40～50 歳代では『進んでいる』が約 70%となっています。

【性別、年齢別 ①男女平等の考え方】

単位：%

		母数(n)	①男女平等の考え方					“進んでいる”	“進んでいない”
			進んでいる	どちらかといえば進んでいる	どちらかといえば進んでいない	進んでいない	無回答		
全体		454	10.1	51.3	19.2	8.6	10.8	61.4	27.8
性別	女性	245	7.3	52.2	20.4	9.0	11.0	59.5	29.4
	男性	192	14.1	52.6	17.2	7.8	8.3	△ 66.7	25.0
	その他	6	△ 16.7	－	16.7	△ 16.7	50.0	▼ 16.7	△ 33.4
年齢別	10・20歳代	13	△ 15.4	▼ 38.5	23.1	△ 23.1	－	▼ 53.9	△ 46.2
	30歳代	32	12.5	50.0	15.6	△ 18.8	3.1	62.5	△ 34.4
	40歳代	36	8.3	△ 61.1	22.2	5.6	2.8	△ 69.4	27.8
	50歳代	71	7.0	△ 60.6	21.1	5.6	5.6	△ 67.6	26.7
	60歳代	85	11.8	49.4	21.2	11.8	5.9	61.2	△ 33.0
	70歳以上	211	10.4	47.9	18.0	6.6	17.1	58.3	24.6

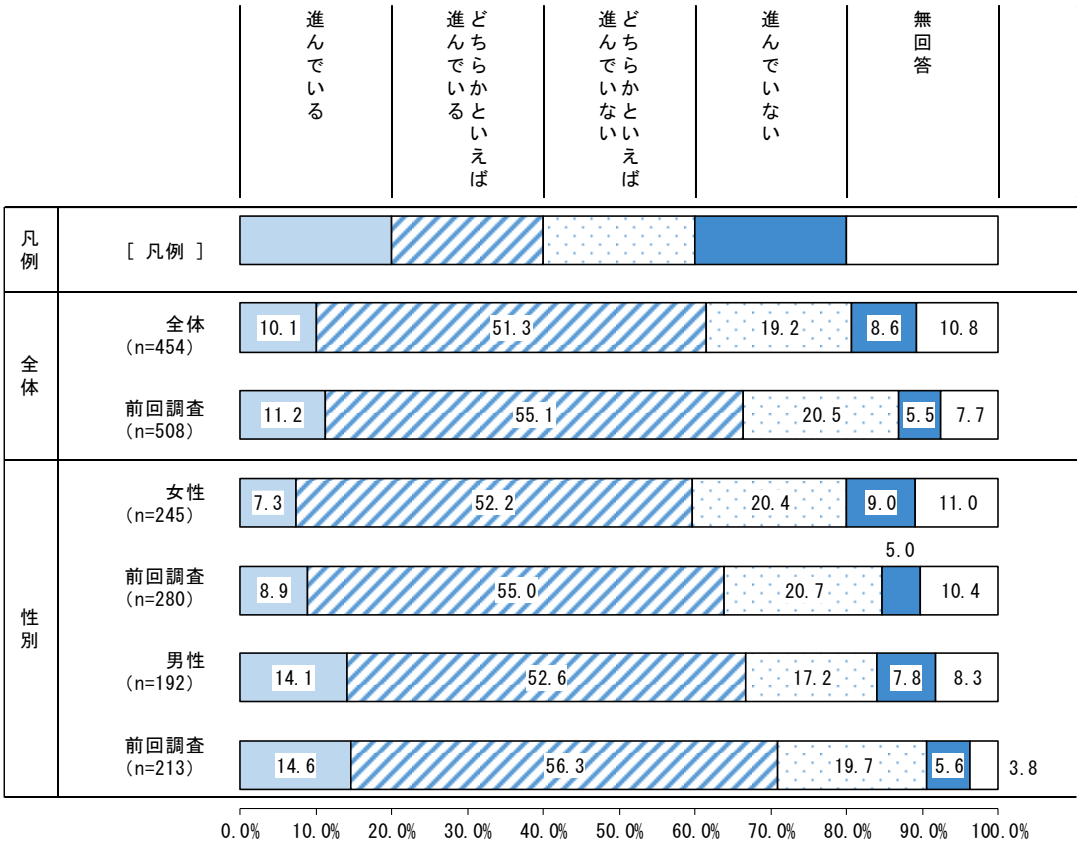
【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『進んでいる』が 4.9 ポイント少なくなっています。

【性別】

○　性別でみると、『進んでいる』は女性で 4.4 ポイント、男性で 4.2 ポイント少なくなっています。

【前回比較 ①男女平等の考え方】



②職場における女性の活躍

【全体】

○ ②職場における女性の活躍について、「どちらかといえば進んでいる」が 47.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば進んでいない」が 20.7%、「進んでいない」が 8.1%となっており、『進んでいる』が 53.8%、『進んでいない』が 28.8%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『進んでいない』は女性 25.3%・男性 32.9%で、男性の方が 7.6 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30～50 歳代では『進んでいる』が 60%を超えています。

【性別、年齢別 ②職場における女性の活躍】

単位：%

		母数(n)	②職場における女性の活躍					“進んでいる”	“進んでいない”
			進んでいる	どちらかといえば進んでいる	どちらかといえば進んでいない	進んでいない	無回答		
全体		454	6.2	47.6	20.7	8.1	17.4	53.8	28.8
性別	女性	245	4.1	51.0	19.6	5.7	19.6	55.1	25.3
	男性	192	8.9	45.8	21.4	11.5	12.5	54.7	32.9
	その他	6	△ 16.7	▼ 16.7	△ 33.3	－	33.3	▼ 33.4	33.3
年齢別	10・20歳代	13	△ 15.4	▼ 38.5	23.1	△ 23.1	－	53.9	△ 46.2
	30歳代	32	9.4	△ 53.1	▼ 15.6	△ 18.8	3.1	△ 62.5	△ 34.4
	40歳代	36	△ 13.9	50.0	△ 27.8	5.6	2.8	△ 63.9	33.4
	50歳代	71	4.2	△ 56.3	22.5	8.5	8.5	△ 60.5	31.0
	60歳代	85	7.1	48.2	△ 27.1	8.2	9.4	55.3	△ 35.3
	70歳以上	211	4.3	43.6	17.5	6.2	28.4	▼ 47.9	▼ 23.7

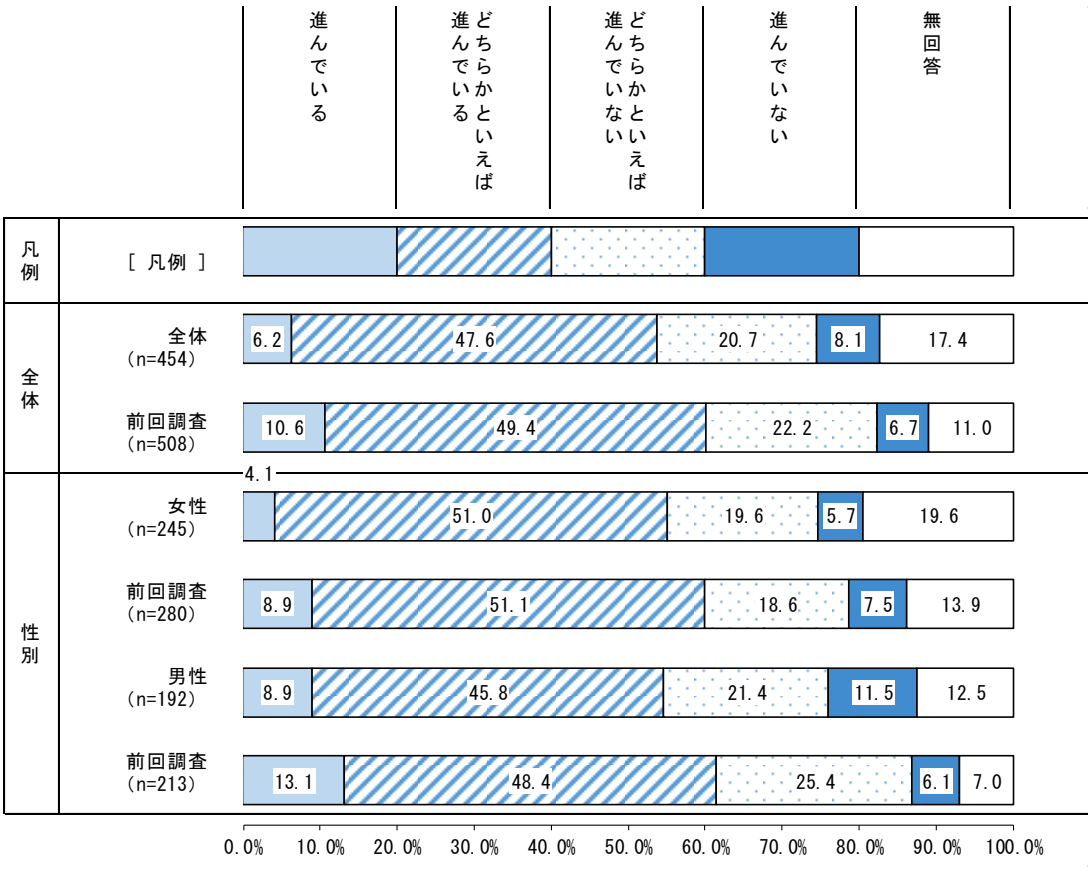
【前回比較】

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『進んでいる』が 6.2 ポイント少なくなっています。

【性別】

○　性別でみると、『進んでいる』は女性で 4.9 ポイント、男性で 6.8 ポイント少なくなっています。

【前回比較 ②職場における女性の活躍】



③自治会など地域活動における女性の活躍

【全体】

○ ③自治会など地域活動における女性の活躍について、「どちらかといえば進んでいない」が34.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば進んでいる」が 33.7%、「進んでいない」が15.9%となっており、『進んでいる』が 38.5%、『進んでいない』が 50.3%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『進んでいない』は女性 42.0%・男性 61.4%で、男性の方が 19.4 ポイント多く、女性は『進んでいない』よりも『進んでいる』が多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～50 歳代では『進んでいない』が約 60%と多くなっています。

【性別、年齢別 ③自治会など地域活動における女性の活躍】

単位：%

		母数(n)	③自治会など地域活動における女性の活躍					“進んでいる”	“進んでいない”
			進んでいる	どちらかといえば進んでいる	どちらかといえば進んでいない	進んでいない	無回答		
全体		454	4.8	33.7	34.4	15.9	11.2	38.5	50.3
性別	女性	245	2.9	△ 42.4	31.0	11.0	12.7	△ 45.3	▼ 42.0
	男性	192	7.3	▼ 24.0	38.5	△ 22.9	7.3	▼ 31.3	△ 61.4
	その他	6	△ 16.7	－	△ 50.0	－	33.3	▼ 16.7	50.0
年齢別	10・20歳代	13	7.7	30.8	38.5	△ 23.1	－	38.5	△ 61.6
	30歳代	32	6.3	▼ 28.1	▼ 28.1	△ 31.3	6.3	34.4	△ 59.4
	40歳代	36	2.8	33.3	△ 41.7	16.7	5.6	36.1	△ 58.4
	50歳代	71	2.8	32.4	△ 42.3	15.5	7.0	35.2	△ 57.8
	60歳代	85	2.4	36.5	36.5	17.6	7.1	38.9	54.1
	70歳以上	211	6.6	33.6	30.8	12.8	16.1	40.2	▼ 43.6

【前回比較】

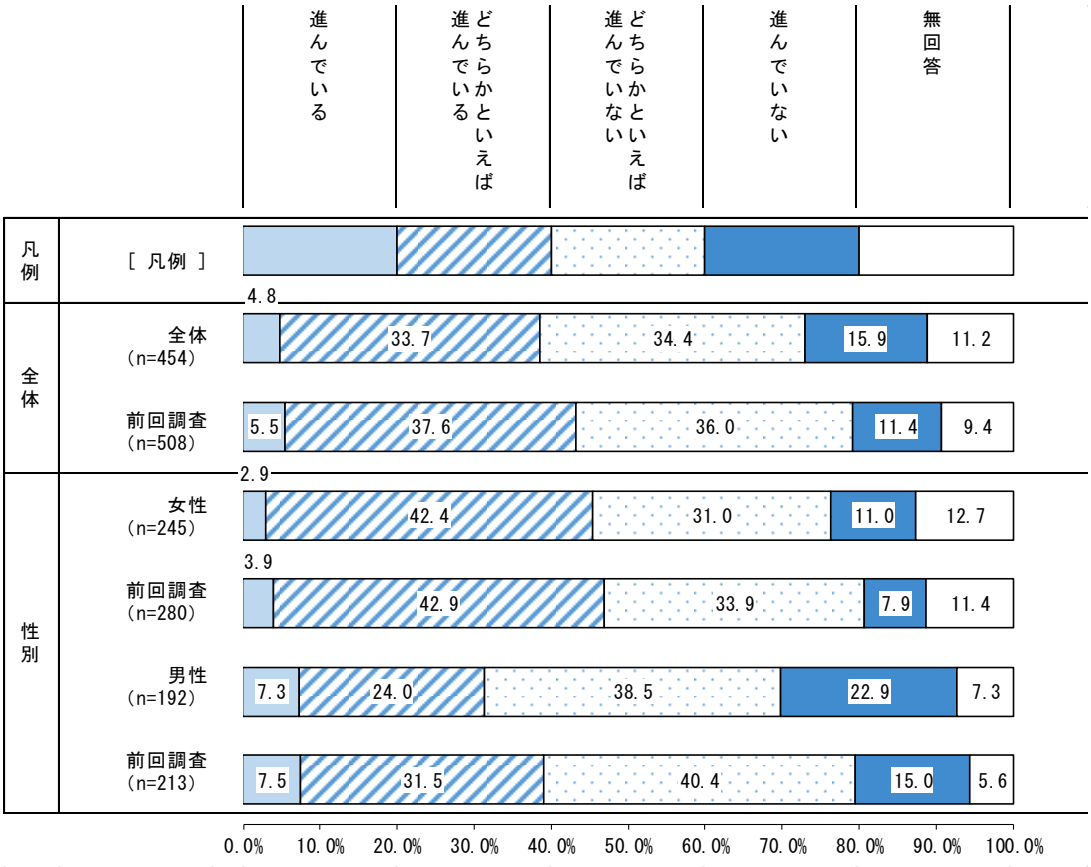
○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『進んでいる』が 4.6 ポイント少なくなっています。

【性別】

○　性別でみると、女性は『進んでいない』の割合に大きな違いはみられませんが、「進んでいない」は 3.1 ポイント多くなっています。

○　男性は、『進んでいる』が 7.7 ポイント少なくなっています。

【前回比較 ③自治会など地域活動における女性の活躍】



④仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさ

【全体】

○ ④仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさについて、「どちらかといえば進んでいる」が39.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば進んでいない」が 32.2%、「進んでいない」が10.8%となっており、『進んでいる』が 43.1%、『進んでいない』が 43.0%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『進んでいる』は女性 42.8%・男性 44.3%で、性別による大きな違いはみられません。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30～40 歳代では『進んでいない』が 50.0%となっています。50 歳代では『進んでいる』が 53.5%で、『進んでいない』よりも多くなっています。

【性別、年齢別 ④仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさ】

単位：%

		母数(n)	④仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさ					“進んでいる”	“進んでいない”
			進んでいる	どちらかといえば進んでいる	どちらかといえば進んでいない	進んでいない	無回答		
全体		454	3.7	39.4	32.2	10.8	13.9	43.1	43.0
性別	女性	245	2.0	40.8	31.0	11.8	14.3	42.8	42.8
	男性	192	4.7	39.6	33.9	10.4	11.5	44.3	44.3
	その他	6	△ 33.3	－	33.3	－	33.3	▼ 33.3	▼ 33.3
年齢別	10・20歳代	13	△ 23.1	▼ 7.7	△ 38.5	△ 30.8	－	▼ 30.8	△ 69.3
	30歳代	32	△ 9.4	37.5	▼ 25.0	△ 25.0	3.1	46.9	△ 50.0
	40歳代	36	5.6	41.7	△ 38.9	11.1	2.8	47.3	△ 50.0
	50歳代	71	2.8	△ 50.7	29.6	8.5	8.5	△ 53.5	38.1
	60歳代	85	5.9	40.0	35.3	11.8	7.1	45.9	47.1
	70歳以上	211	0.9	37.4	31.8	8.1	21.8	38.3	39.9

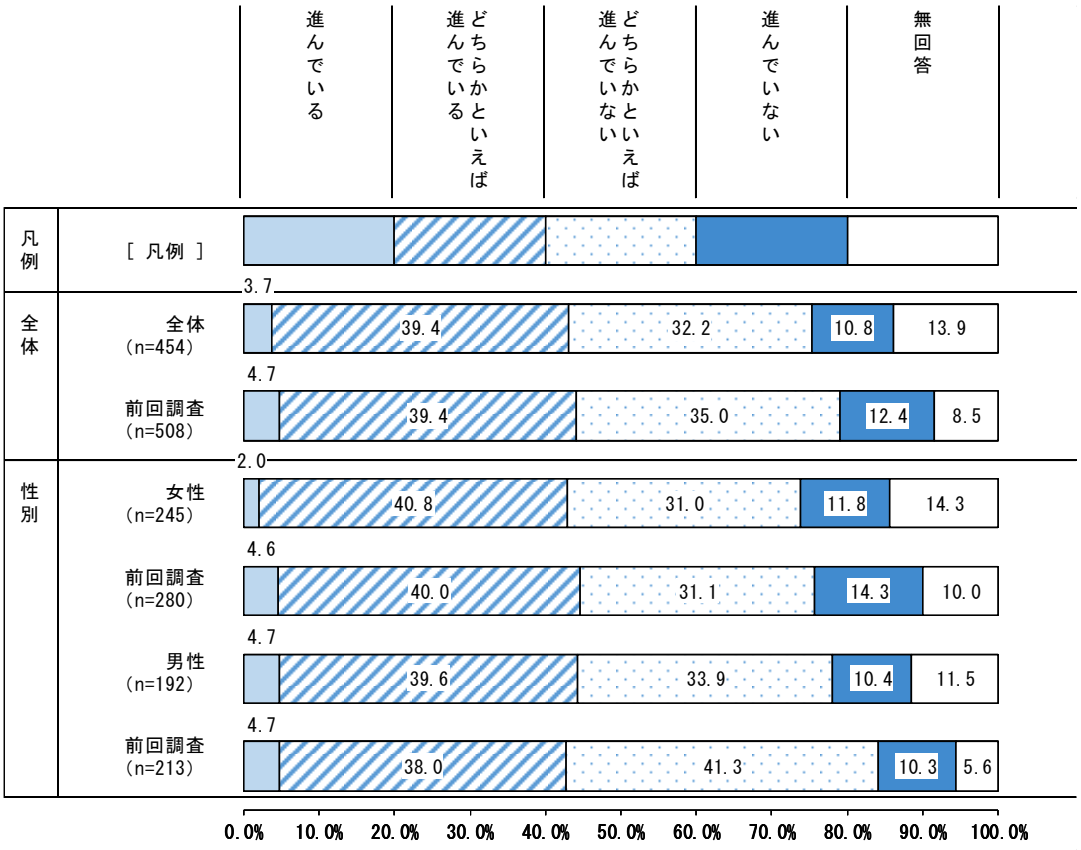
【前回比較】

○ 前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『進んでいない』が 4.4 ポイント少なくなっていますが、『進んでいる』もわずかに少なくなっています。

【性別】

○ 性別でみると、『進んでいない』は女性で 2.6 ポイント、男性で 7.3 ポイント少なくなっています。『進んでいる』は、女性はわずかに少なくなっていますが、男性はわずかに多くなっています。

【前回比較 ④仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさ】



⑤男性の子育て、介護への参画

【全体】

○ ⑤男性の子育て、介護への参画について、「どちらかといえば進んでいる」が 39.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば進んでいない」が 33.7%、「進んでいない」が 8.6%となっており、『進んでいる』が 43.8%、『進んでいない』が 42.3%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『進んでいない』は女性 41.7%・男性 44.8%で、男性の方が 3.1 ポイント多く、男性は『進んでいる』よりも『進んでいない』が多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30～40 歳代では『進んでいる』が約 60%となっています。70 歳以上では『進んでいる』(35.6%) よりも『進んでいない』(43.6%) が多くなっています。

【性別、年齢別 ⑤男性の子育て、介護への参画】

単位：%

		母数(n)	⑤男性の子育て、介護への参画					“進んでいる”	“進んでいない”
			進んでいる	どちらかといえば進んでいる	どちらかといえば進んでいない	進んでいない	無回答		
全体		454	4.8	39.0	33.7	8.6	13.9	43.8	42.3
性別	女性	245	3.3	40.4	33.5	8.2	14.7	43.7	41.7
	男性	192	6.3	38.0	34.9	9.9	10.9	44.3	44.8
	その他	6	△ 33.3	▼ 16.7	▼ 16.7	－	33.3	△ 50.0	▼ 16.7
年齢別	10・20歳代	13	△ 23.1	▼ 23.1	30.8	△ 23.1	－	46.2	△ 53.9
	30歳代	32	9.4	△ 50.0	▼ 21.9	△ 15.6	3.1	△ 59.4	37.5
	40歳代	36	5.6	△ 52.8	36.1	▼ 2.8	2.8	△ 58.4	38.9
	50歳代	71	5.6	△ 45.1	31.0	8.5	9.9	△ 50.7	39.5
	60歳代	85	5.9	41.2	△ 38.8	5.9	8.2	47.1	44.7
	70歳以上	211	2.4	▼ 33.2	34.6	9.0	20.9	▼ 35.6	43.6

【前回比較】

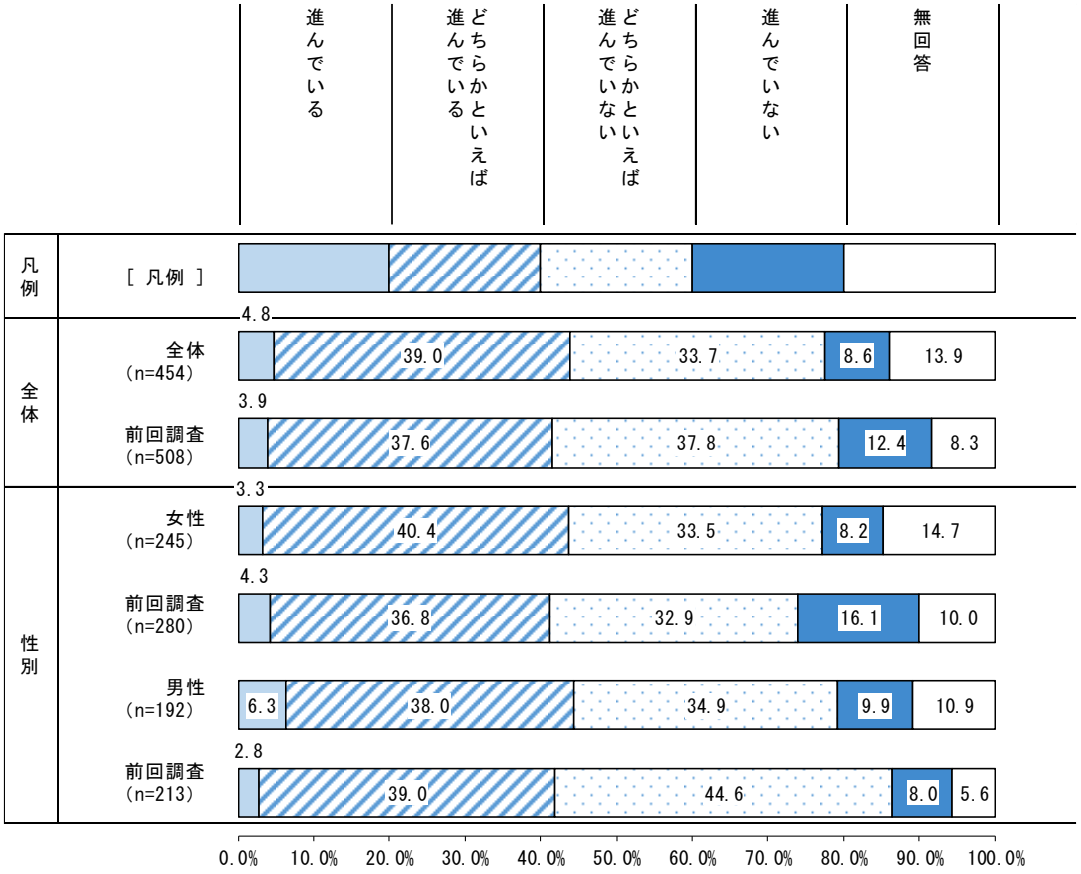
○ 前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『進んでいる』が 2.3 ポイント多く、今回調査は前回調査よりも『進んでいない』が 7.9 ポイント少なくなっています。

【性別】

○ 性別でみると、男女とも『進んでいる』がわずかに多くなっており、女性は「進んでいない」が 7.9 ポイント少なくなっています。

○ 男性は、「どちらかといえば進んでいない」が 9.7 ポイント少なくなっています。

【前回比較 ⑤男性の子育て、介護への参画】



⑥DVなど女性に対する暴力をなくすための取組

【全体】

○ ⑥DV など女性に対する暴力をなくすための取組について、「どちらかといえば進んでいる」が 34.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば進んでいない」が 32.4%、「進んでいない」が 12.8%となっており、『進んでいる』が 36.6%、『進んでいない』が 45.2%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『進んでいる』は女性 32.6%・男性 42.2%で、男性の方が 9.6 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、10～30 歳代では『進んでいない』が 60%を超えています。

【性別、年齢別 ⑥DV など女性に対する暴力をなくすための取組】

単位：%

		母数(n)	⑥DVなど女性に対する暴力をなくすための取組					“進んでいる”	“進んでいない”
			進んでいる	どちらかといえば進んでいる	どちらかといえば進んでいない	進んでいない	無回答		
全体		454	2.2	34.4	32.4	12.8	18.3	36.6	45.2
性別	女性	245	1.6	31.0	31.8	14.3	21.2	32.6	46.1
	男性	192	2.1	△ 40.1	34.4	11.5	12.0	△ 42.2	45.9
	その他	6	△ 16.7	－	▼ 16.7	16.7	50.0	▼ 16.7	▼ 33.4
年齢別	10・20歳代	13	△ 7.7	▼ 23.1	30.8	△ 38.5	－	▼ 30.8	△ 69.3
	30歳代	32	3.1	▼ 28.1	△ 43.8	△ 21.9	3.1	▼ 31.2	△ 65.7
	40歳代	36	2.8	36.1	△ 38.9	11.1	11.1	38.9	50.0
	50歳代	71	2.8	△ 42.3	△ 38.0	8.5	8.5	△ 45.1	46.5
	60歳代	85	2.4	37.6	36.5	14.1	9.4	40.0	△ 50.6
	70歳以上	211	1.4	31.3	▼ 27.0	11.4	28.9	32.7	▼ 38.4

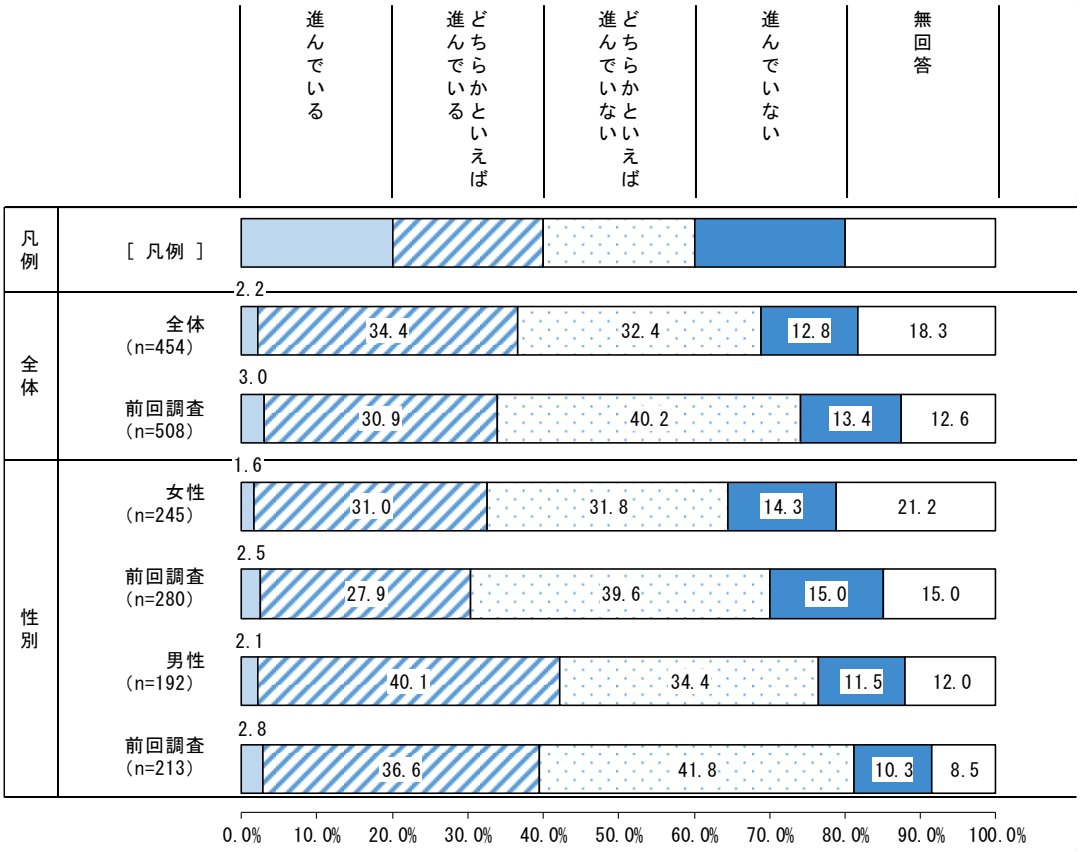
【前回比較】

○ 前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『進んでいる』が 2.7 ポイント多く、『進んでいない』が 8.4 ポイント少なくなっています。

【性別】

○ 性別でみると、男女とも『進んでいる』がわずかに多くなっており、『進んでいない』は女性で 8.5 ポイント、男性で 6.2 ポイント少なくなっています。

【前回比較 ⑥DV など女性に対する暴力をなくすための取組】



⑦行政などの相談窓口の充実

【全体】

○ ⑦行政などの相談窓口の充実について、「どちらかといえば進んでいる」が 38.1%で最も多く、次いで「どちらかといえば進んでいない」が 28.0%、「進んでいない」が 9.0%となっており、『進んでいる』が 43.2%、『進んでいない』が 37.0%となっています。

【性別】

○ 性別でみると、『進んでいない』は女性 34.7%・男性 41.1%で、男性の方が 6.4 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、40 歳代では『進んでいる』が 50.0%となっていますが、10～30 歳代では『進んでいない』が 50%以上となっています。

【性別、年齢別 ⑦行政などの相談窓口の充実】

単位：%

		母数(n)	⑦行政などの相談窓口の充実					“進んでいる”	“進んでいない”
			進んでいる	どちらかといえば進んでいる	どちらかといえば進んでいない	進んでいない	無回答		
全体		454	5.1	38.1	28.0	9.0	19.8	43.2	37.0
性別	女性	245	4.1	38.8	24.5	10.2	22.4	42.9	34.7
	男性	192	6.3	38.5	32.8	8.3	14.1	44.8	41.1
	その他	6	△ 16.7	▼ 16.7	▼ 16.7	－	50.0	▼ 33.4	▼ 16.7
年齢別	10・20歳代	13	△ 15.4	▼ 23.1	23.1	△ 38.5	－	38.5	△ 61.6
	30歳代	32	6.3	37.5	25.0	△ 25.0	6.3	43.8	△ 50.0
	40歳代	36	2.8	△ 47.2	△ 36.1	8.3	5.6	△ 50.0	△ 44.4
	50歳代	71	2.8	42.3	△ 36.6	7.0	11.3	45.1	△ 43.6
	60歳代	85	5.9	36.5	32.9	8.2	16.5	42.4	41.1
	70歳以上	211	5.2	37.0	▼ 22.7	6.2	28.9	42.2	▼ 28.9

【前回比較】

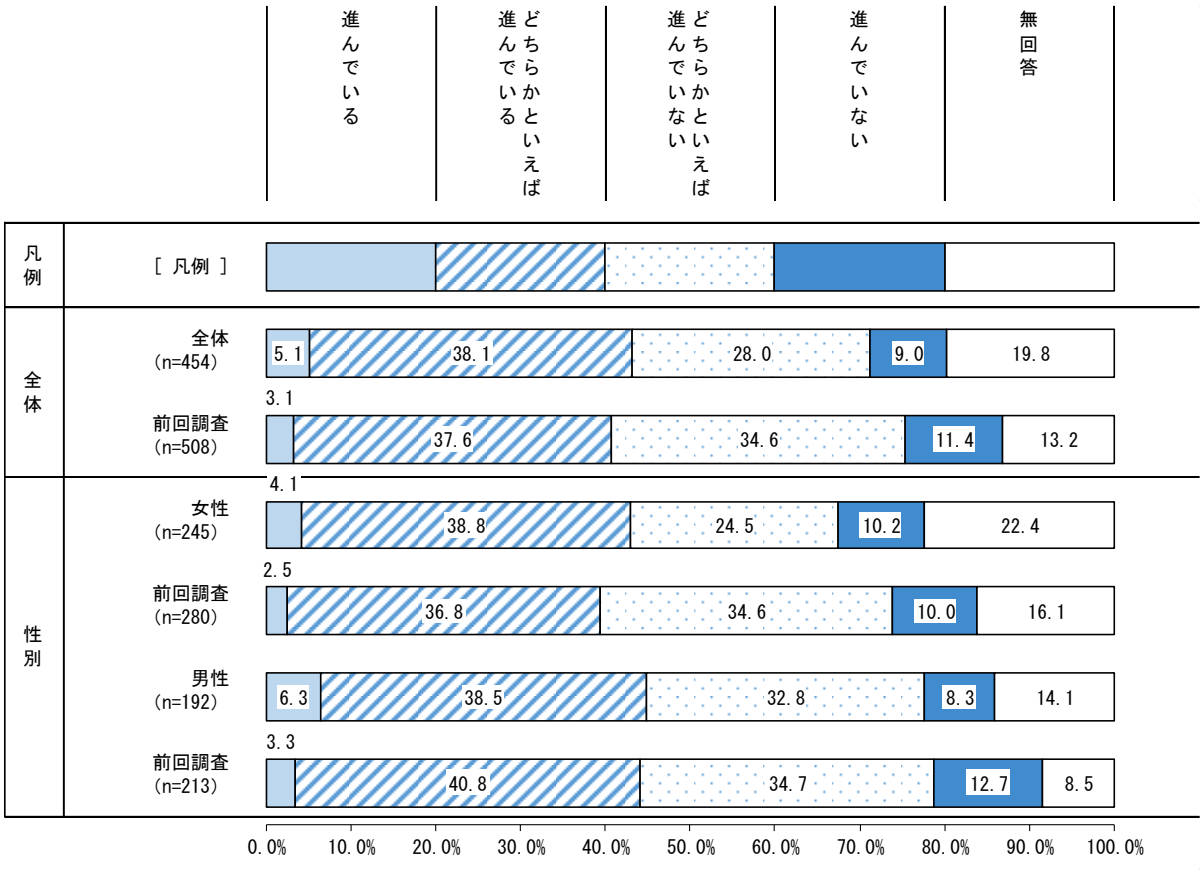
○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも『進んでいない』が 9.0 ポイント少なくなり『進んでいる』がわずかに多くなっています。

【性別】

○　性別でみると、男女とも『進んでいる』はわずかに多くなっており、女性は「どちらかといえば進んでいない」が 10.1 ポイント少なくなっています。

○　男性は、「進んでいない」が 4.4 ポイント少なくなっています。

【前回比較 ⑦行政などの相談窓口の充実】



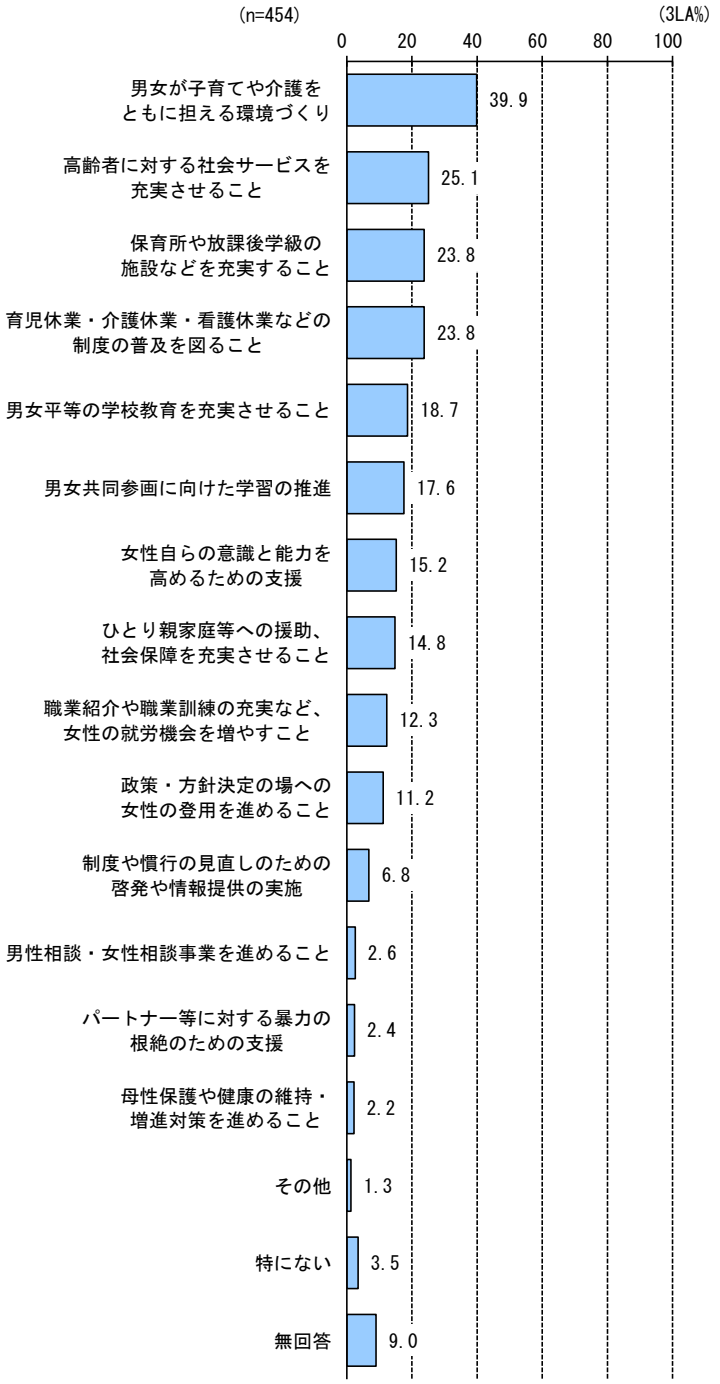
（２）綾部市が今後さらに力を入れて取り組むべきこと

問18　綾部市では、男女共同参画社会をめざして様々な施策を推進していますが、今後さらに力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。(3LA)

【全体】

○　綾部市が今後さらに力を入れて取り組むべきことについて、「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」が39.9%で最も多く、次いで「高齢者に対する社会サービスを充実させること」が25.1%、「保育所や放課後学級の施設などを充実すること」「育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること」が23.8%となっています。

【綾部市が今後さらに力を入れて取り組むべきこと(3LA)】



【性別】

○ 性別でみると、女性は男性よりも「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」が 12.8 ポイント、「職業紹介や職業訓練の充実など、女性の就労機会を増やすこと」が 7.0 ポイント多く、男性は女性よりも「ひとり親家庭等への援助、社会保障を充実させること」が 9.3 ポイント、「女性自らの意識と能力を高めるための支援」が 7.1 ポイント多くなっています。

【年齢別】

○ 年齢別でみると、30～40 歳代では「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」が約 50%、「保育所や放課後学級の施設などを充実すること」が約 30%と、50 歳以上と比べて多くなっています。

【性別、年齢別 綾部市が今後さらに力を入れて取り組むべきこと(3LA)】

単位：%

		母数(n)	綾部市が今後さらに力を入れて取り組むべきこと								
			男女共同参画に向けた学習の推進	男女平等の学校教育を充実させること	女性自らの意識と能力を高めるための支援	職業紹介や職業訓練の充実など、女性の就労機会を増やすこと	保育所や放課後学級の施設などを充実すること	高齢者に対する社会サービスを充実させること	育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること	母性保護や健康の維持・増進対策を進めること	ひとり親家庭等への援助、社会保障を充実させること
全体		454	17.6	18.7	15.2	12.3	23.8	25.1	23.8	2.2	14.8
性別	女性	245	16.3	20.8	12.7	15.9	25.3	26.9	24.1	2.0	11.0
	男性	192	20.8	17.7	19.8	8.9	23.4	24.0	22.9	2.6	△ 20.3
	その他	6	−	−	−	−	▼ 16.7	▼ 16.7	△ 50.0	−	−
年齢別	10・20歳代	13	15.4	15.4	△ 30.8	7.7	△ 46.2	▼ 7.7	△ 30.8	−	▼ 7.7
	30歳代	32	18.8	21.9	△ 21.9	12.5	28.1	▼ 15.6	21.9	3.1	18.8
	40歳代	36	▼ 8.3	13.9	16.7	△ 22.2	△ 30.6	▼ 13.9	27.8	−	16.7
	50歳代	71	14.1	▼ 9.9	11.3	14.1	26.8	25.4	22.5	1.4	11.3
	60歳代	85	16.5	20.0	16.5	12.9	23.5	25.9	27.1	7.1	12.9
	70歳以上	211	21.3	22.3	14.2	10.0	19.4	29.9	21.8	0.9	16.6

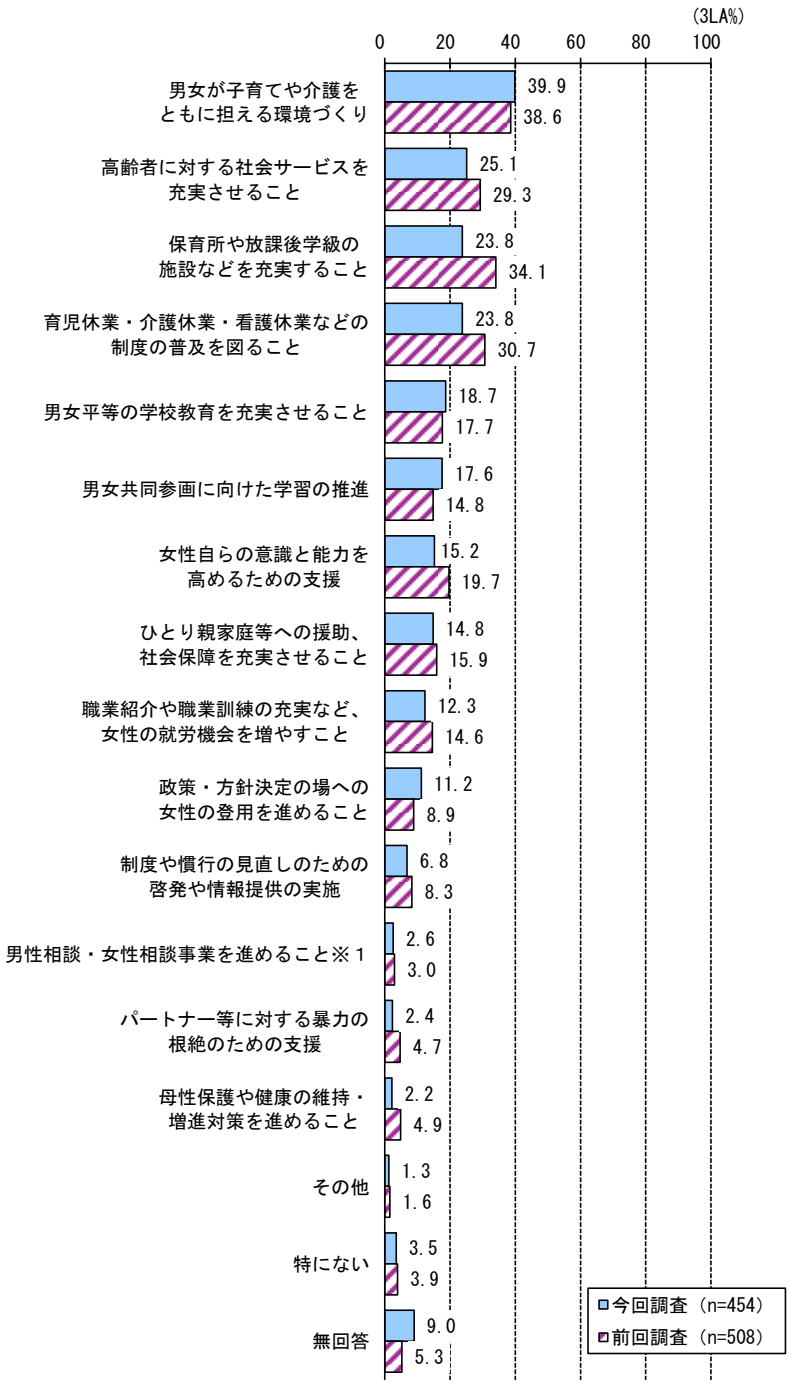
単位：%

		母数(n)	綾部市が今後さらに力を入れて取り組むべきこと							
			政策・方針決定の場への女性の登用を進めること	男性相談・女性相談事業を進めること	パートナー等に対する暴力の根絶のための支援	制度や慣行の見直しのための啓発や情報提供の実施	男女が子育てや介護をともに担える環境づくり	その他	特にない	無回答
全体		454	11.2	2.6	2.4	6.8	39.9	1.3	3.5	9.0
性別	女性	245	11.0	0.8	0.8	7.3	△ 46.1	1.2	2.9	8.2
	男性	192	12.0	4.7	4.2	6.3	▼ 33.3	1.6	4.2	6.8
	その他	6	−	△ 16.7	△ 16.7	−	▼ 33.3	−	△ 16.7	33.3
年齢別	10・20歳代	13	15.4	△ 15.4	△ 7.7	7.7	38.5	−	−	−
	30歳代	32	−	3.1	6.3	6.3	△ 53.1	△ 6.3	6.3	−
	40歳代	36	▼ 5.6	2.8	5.6	△ 16.7	△ 52.8	−	2.8	5.6
	50歳代	71	9.9	5.6	2.8	8.5	43.7	1.4	5.6	2.8
	60歳代	85	△ 16.5	2.4	2.4	8.2	40.0	1.2	4.7	5.9
	70歳以上	211	11.8	0.9	0.9	4.3	35.1	0.9	2.4	13.7

【前回比較】（参考）

○　前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「保育所や放課後学級の施設などを充実すること」が 10.3 ポイント、「育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること」が 6.9 ポイント、「女性自らの意識と能力を高めるための支援」が 4.5 ポイント、「高齢者に対する社会サービスを充実させること」が 4.2 ポイント少なくなっています。

【前回比較　綾部市が今後さらに力を入れて取り組むべきこと(3LA)】



○　前回調査では回答数が３つより多い回答も含めて集計しているため全体に回答割合が高くなっていると考えられるため「参考」としています。

７．自由意見

回答者のうち 70 人から 78 件の意見が寄せられました。主な意見は以下の通りです。

【男女平等・男女共同参画の推進】

●綾部市の取組は、確実に進んでいるけど、「取組」と「実感」との乖離の分析が必要だと思う。
●職場、学校では女性の活躍が見られるが、地域は年の大きい方が多く、なかなか女性が入り込めないように思う。
●先ずは同時進行で、より暮らしやすい市にする。そこから男女共同参画社会に取り組める余裕が男女ともに出来るのではないでしょうか。
●コーディネーターの方より、女性の自治会への参加が多い地区はのびると言われたのが印象的だった。
●自治会単位の少人数での学習講習等参加しやすい環境づくりをしてほしい。
●誰かが進めていかないと男女共同社会にはならない。
●男でも女でもできる人がしたら良い。
●女性しか出産できない生物的問題を解決しない限り、男女共同参画社会は実現しにくい。
●男女関係なくやる気、熱意のある方がやれば良い。
●もっともっと女性の社会進出、管理職、議員、首長になって、女性の立場からの発信で社会を変えていってほしいです。
●だいぶ女性の方が活躍されるようになりましたが、まだ足りないように思います。男性と同じように女性の意見を検討され意見が言える環境になるといいです。
●男性、女性は身体的にも違っており、尊重すべきだと思います。
●個々の人生に差別のない生活が送れることを望みます。
●必要性を感じません。
●自治会での女性役員や高齢者代表は、おいた方がよいと思う
●男女共に同じ目線になっていく社会になる日がくることを願っています。まずは家庭内から。
●リーダーになる人（職場や政治においてなど）は、男女問わず、まず能力のある人がなることが大切であると思います。
●40～60 歳代の人が先頭にたって参画に取り組めば、実現が早まると思う。
●自治会や PTA の長は男性がやらなければならない。なんで、女性って優遇されていて。男ばかりに負担があり、損をしている。
●男女平等は現実に出来ないこともたくさんあります。それぞれの立場（視野）が互いに協力しあえるようにすればよい。

【男女共同参画に関する意識・啓発】

●男の特性、女の特性は変えることは難しいので、そのことを頭において考えてほしい。
●高齢男性（80 歳～90 歳以上）の認識がまだまだと感じます。
●様々な場面で女性が活躍できるよう、男女双方の理解が広がる様啓発を強める。
●女性が男性と対等の立場になるためには、女性自身も勉強をして常に社会のことに目を向け、時代の流れに遅れないように努力する必要がある。
●物部地域は高齢化が進み、地域活動では男性中心の取組みや考え方が依然根強くあるので、自治会に向けての研修や広報が大切かと考えます。
●海外の映画やドラマは全て、男女共同参画社会になっています。日本はまだまだ少ないので、この辺から改善することが必要です。
●男性の育児休暇について啓発をお願いします。
●男女共同参画社会の実現に向け、益々の啓蒙をよろしくお願いします。
●男女どちらでもできる方がする。助け合い補い合うことが大切。体力差等も支援が大切で、それを分かりやすく皆が知ることができるようにする。
●例えば自治会三役など、男性がするものという認識が男女共通ではないか。
●男女平等、男女共同参画だからという理由で色んな役が回ってくることが多く、「男女平等やから○○やって～」という感じで困っています。その理由だけで役職を充てる綾部の風習がおかしいと思います。
●男女平等は無理なお題目で、女性が不平等に感じることしっかりと認識することが重要。性差はあって当然なので、どう配慮すべきかを話し合うことが重要、
●女性の地位向上について、家庭での役割は得意な方がするなどお互いの思いやりが必要と思う。
●高齢者女性が家のことをするものと思い込んでいる人が多い。70 歳以上の男性にも家事をするのが当たり前だと教え、やり方を勉強してもらう機会をつくってほしい。高齢者の意識が変わらないと若い人も自由にできない。

【人権の尊重について】

●性別を超えて、その人が得意なことを理解して、その力を伸ばせる社会であってほしい。
●平等は良いことだけど、進むと後々問題が出てくるので、その対処を考えておくべき。
●将来若い人たちが納得して社会で希望を持って生活できるような制度、意識を育ててほしいです。
●これからの若い人達にとって良い社会でありますように心から願っております。
●みんなが性別に関わらずやりたいことのできる社会になるように頑張ってください。
●一人一人が最高の人生を送れること。
●若い世代は家庭でもお互いが協力していて、私などは「ザ昭和」です。男女というより人としてお互い尊重し違い、同じを知ることでやさしい綾部市になるのではないでしょうか。
●男女共に感謝と相手を思いやる気持ちを持つこと。
●高齢化社会で田舎では若い人が少なくなっています。地域でお互いに助け合い見守りの生活をしていかねばならないと思っています。

【職場や就労について】

●女性起業家の育成セミナーの開催や、やる気のある人材を募集し起業を支援する夢のあるセミナーがあってもいいのでは。

●市の女性管理職を増やす。女性の副市長が必要。民生委員、自治会長（連合会）PTA などの団体の長に女性を。

●自治会、PTA の役員は女性の方が敬遠されていると思う。政治、仕事、地域活動において男女関係なくやる気のある人が平等に活躍できれば良い。

●国会議員から市会議員まで男女の比率、年齢の比率をそろえる法律が必要で、あらゆる職場で女性や非正規勤務者が働きやすくなる環境作りが必要だと思います。

●無理に女性を何％採用とかするのはおかしいと思う。能力のある人は男女問わず採用すれば良い。能力もないのに「女性を〇％採用」など逆に能力のある男性が不採用になる可能性もあり、おかしなことだ。

●綾部市職員の正職化を進め、自からその手本を示すこと、社会だけでなく女性自身の意識改革も必要。

●色んな組織に女性部があることが疑問です。

【子育て・子どもの教育について】

●PTA 役員、会長は男性が多いが、他役員は女性が多い。世代が変わることで考え方も変わることも多いと感じる。

●保育の現場に男性が極めて少ないことが社会における問題として取り組んでほしい。

【ワーク・ライフ・バランスについて】

●男女平等が絶対ではないし、なかなか現実できることではないが、家庭内や仕事場で、しっかり話し合い、互いに助け合って協力していくことが大事だと思う。

●在宅勤務が可能になる働き方が広まるようなシステム作り能力開発。例えば議会もリモート参加が可能にしたり、オンラインで投票できるようにする。

●男性が育児休暇を取りやすい職場になればもっと育児参加ができる。

●育児休暇が取りやすい職場作りや環境、人員。

●家庭に於いてはお互いにできることは協力することは大切だと思います。

●女性も社会で働くのは良いことだが、家庭（家事、育児）がおろそかになっていると家庭崩壊につながるのでは？　私的には夫が稼いでくれて、自分はしっかり家庭のことがやりたい。娘にも無理に働かず家庭も大切にしてほしいと思っている。

●何歳にもなって、男女が健康管理を大切にし、職場では、男性が妻や子の介護に休暇を取りやすくなればと思う。

●夫は手伝おうとしてくれるが、きれいに洗う、たたむなどできない。結局すべてあとでやり直すことになるのに「やった」と思われる。家事は得意な方がすればいいと思うが、なのに出費が平等なのは、不満である。

●共働き家庭が増えている現在の社会ニーズに合った社会づくり支援が必要ではないかと思います。

Ⅴ　事業所アンケートの結果

Ⅴ 事業所アンケートの結果

１．事業所の概要について

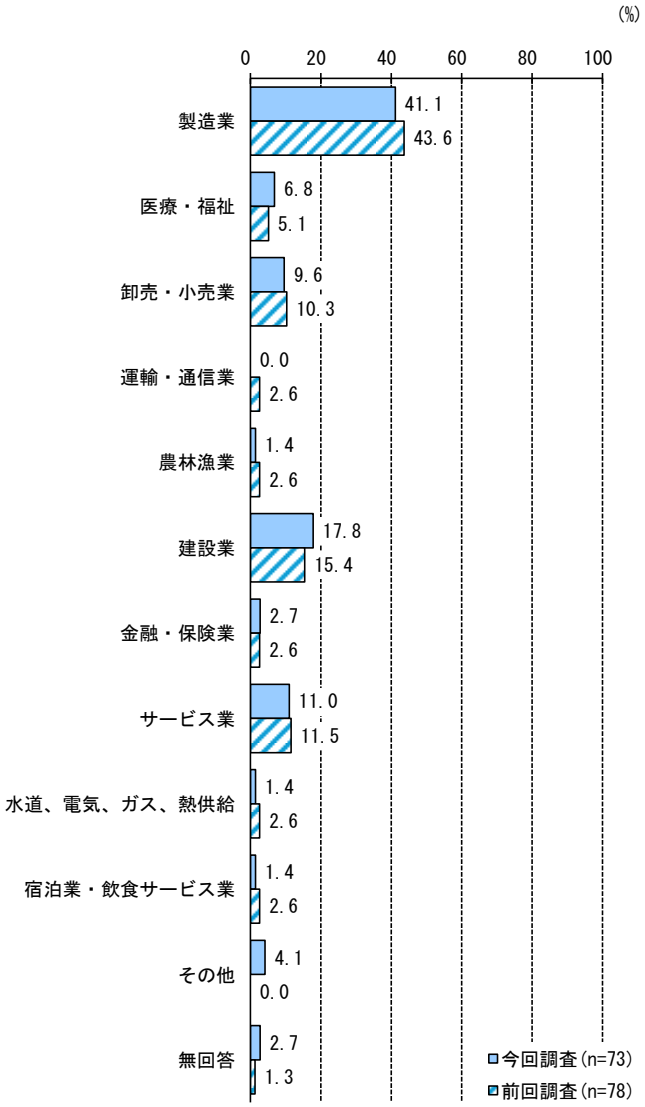
（１）業種

問１　貴事業所の主な業種は何ですか。

【全体】

○　業種について、「製造業」が 41.1%で最も多く、次いで「建設業」が 17.8%、「サービス業」が 11.0%となっています。

【業種】



（2）従業員数

問2　貴事業所の従業員数・雇用形態についてご回答ください。

【全体】

○　従業員数について、「①管理職数」については、女性が 60 人、男性が 361 人となっており、管理職の女性割合は 14.5%となっています。「②正規従業員数」については、女性が 803 人、男性が 1,709 人となっており、正規従業員の女性割合は 32.6%となっています。「③非正規従業員数」については、女性が 931 人、男性が 534 人となっており、非正規従業員の女性割合は 63.9%となっています。

【従業員数】

	今回調査				前回調査			
	男性	女性 (A)	全体 (B)	女性割合 (A÷B)	男性	女性 (A)	全体 (B)	女性割合 (A÷B)
①管理職員数	361人	60人	414人	14.5%	494人	81人	575人	14.1%
②正規従業員数	1,709人	803人	2,460人	32.6%	1,895人	906人	2,801人	32.3%
③非正規従業員数	534人	931人	1,458人	63.9%	798人	1,489人	2,287人	65.1%
合計※1	2,465人	1,742人	4,187人	41.6%	3,647人	2,556人	6,203人	41.2%

※1合計には雇用形態別従業員数が不明の事業所を含み、雇用形態別従業員数の計とは一致しない。

２．女性の登用について

（１）女性の雇用状況

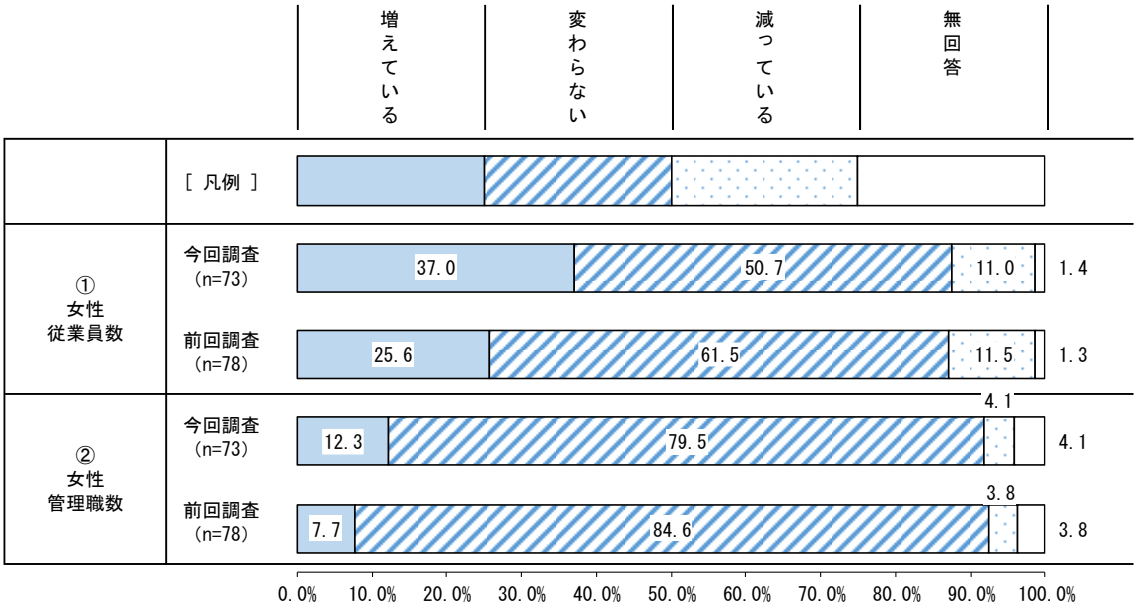
問３　貴事業所では、５年前と比べて女性の雇用状況はどのようになっていますか。

【全体】

○　女性従業員数は、「変わらない」が 50.7%で最も多く、次いで「増えている」が 37.0%、「減っている」が 11.0%となっています。

○　女性管理職数は、「増えている」が 12.3%となっています。

【女性の雇用状況】



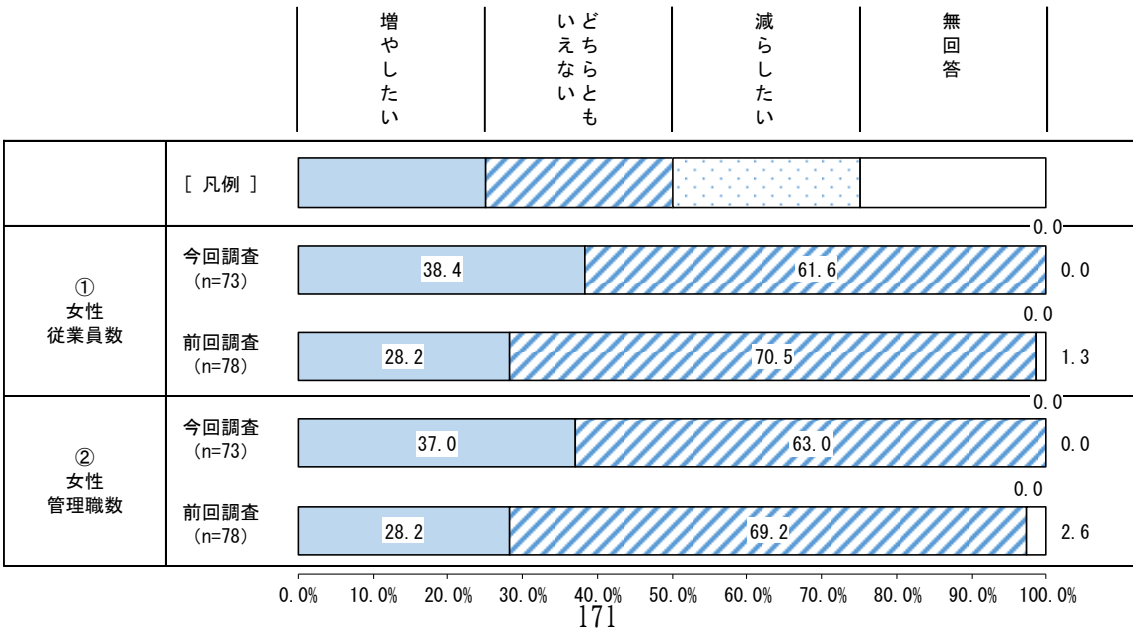
（２）今後の女性の雇用についての考え

問４　貴事業所では、今後、女性の雇用をどのようにしたいと考えていますか。

【全体】

○　今後の女性の雇用についての考えについて、「どちらともいえない」が 61.6%で最も多く、次いで「増やしたい」が 38.4%となっています。

【今後の女性の雇用についての考え】



（３）女性の積極的登用のための取組

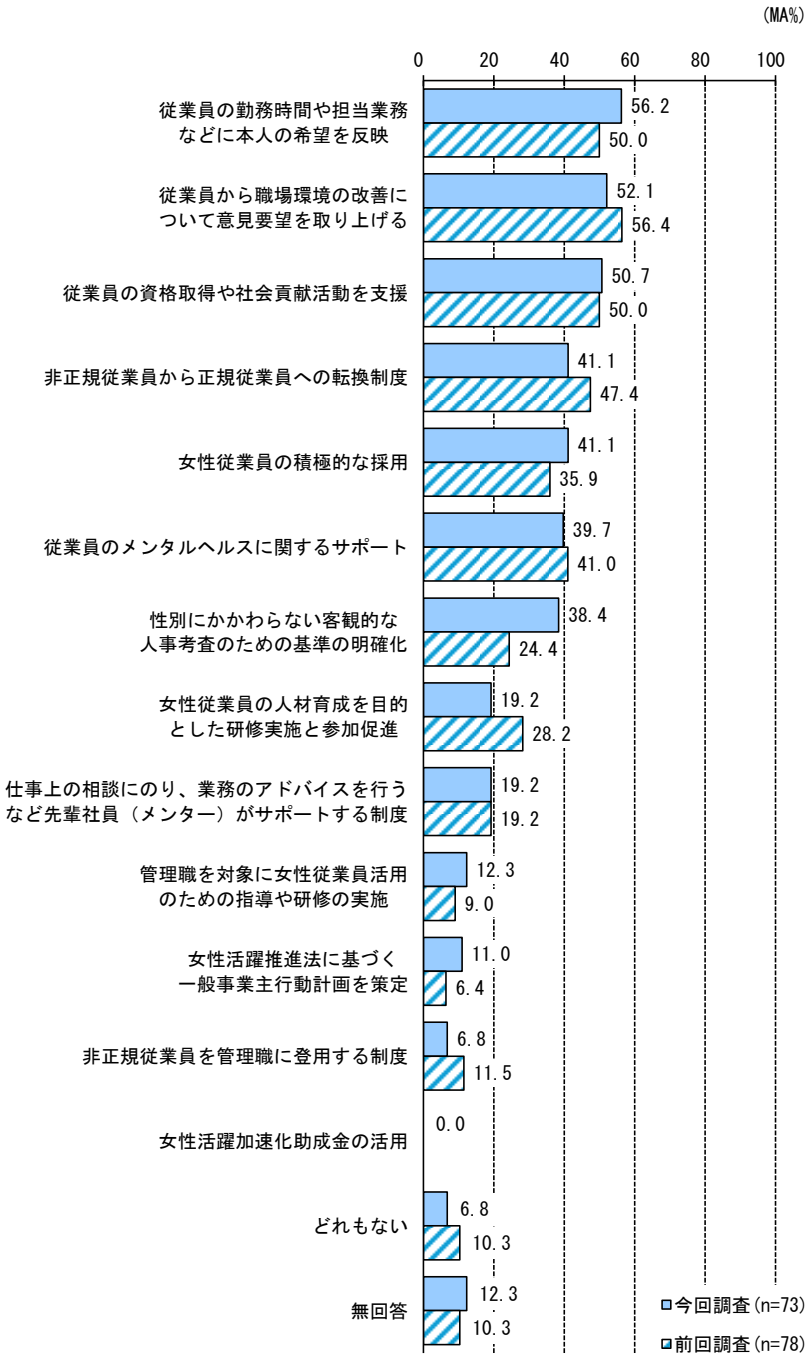
問５　貴事業所において、女性を積極的に登用するために、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。

①現在、取り組んでいること(MA)

【全体】

○　現在、取り組んでいる女性の積極的登用のための取組について、「従業員の勤務時間や担当業務などに本人の希望を反映」が56.2%で最も多く、次いで「従業員から職場環境の改善について意見要望を取り上げる」が 52.1%、「従業員の資格取得や社会貢献活動を支援」が 50.7%となっています。

【女性の積極的登用のための取組(現在)(MA)】

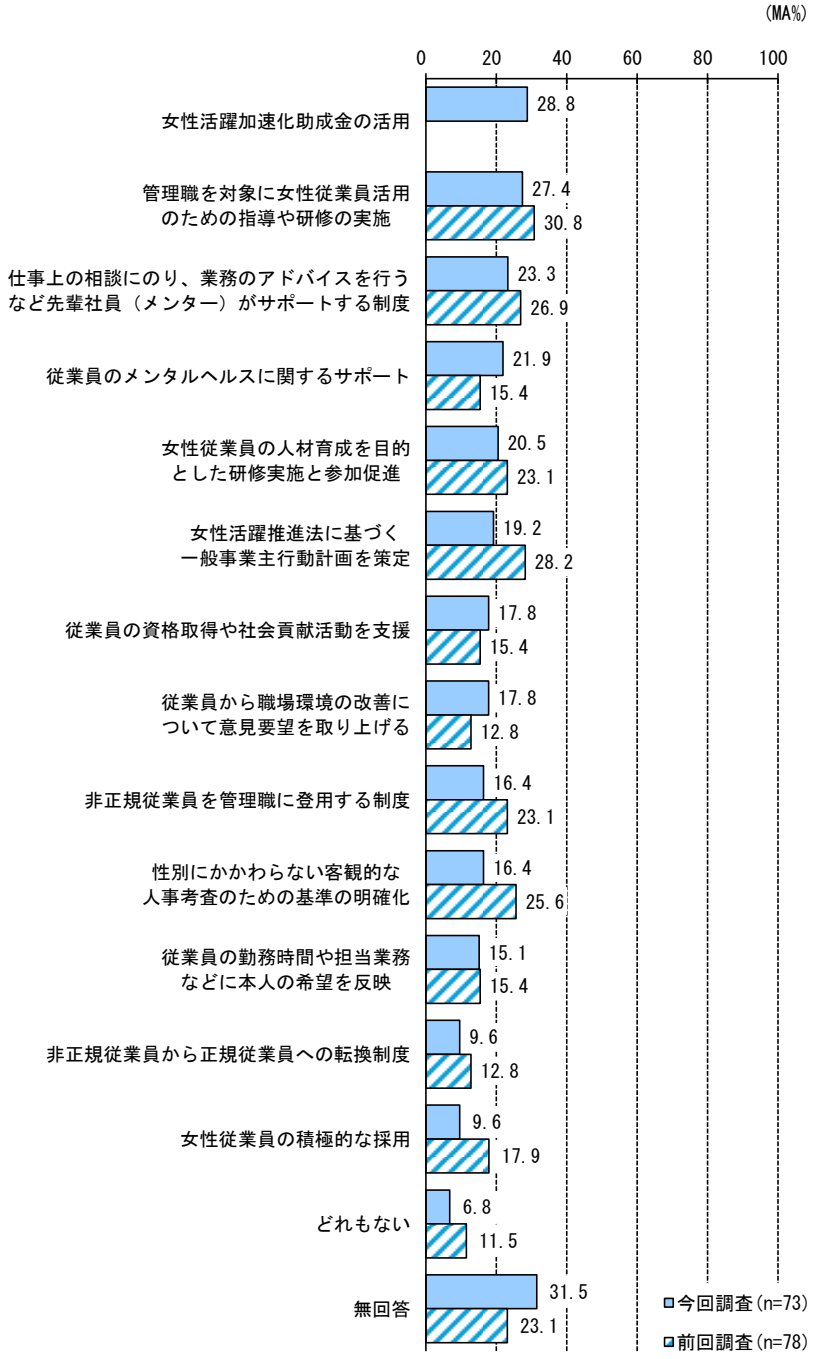


②今後、取り組みたいこと(MA)

【全体】

○ 今後、取り組みたい女性の積極的登用のための取組について、「女性活躍加速化助成金の活用」が 28.8%で最も多く、次いで「管理職を対象に女性従業員活用のための指導や研修の実施」が 27.4%、「仕事上の相談にのり、業務のアドバイスを行うなど先輩社員（メンター）がサポートする制度」が 23.3%となっています。

【女性の積極的登用のための取組(今後)(MA)】



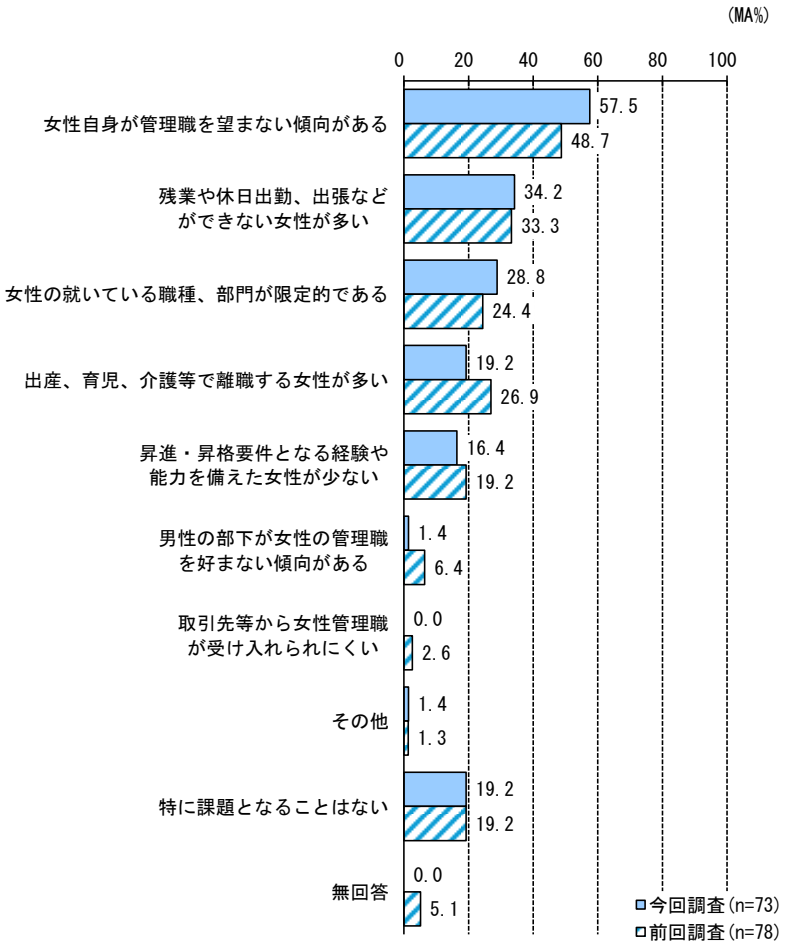
（４）女性を管理職に登用するうえでの課題

問６　女性を管理職に登用するうえで課題となるのは、どのようなことですか。(MA)

【全体】

○　女性を管理職に登用するうえでの課題について、「女性自身が管理職を望まない傾向がある」が 57.5％で最も多く、次いで「残業や休日出勤、出張などができない女性が多い」が 34.2%、「女性の就いている職種、部門が限定的である」が 28.8%となっています。

【女性を管理職に登用するうえでの課題(MA)】



３．育児・介護との両立支援について

（１）育児休業の取得状況

問７　育児休業取得状況について男女別にお答えください。

【全体】

○　育児休業取得状況について、「令和５年度中に出産した女性従業員数」は 28 人、「うち、育児休業を取得した女性従業員数」は 30 人となっています。

○　「令和５年度中に配偶者が出産した男性従業員数」は 46 人、「うち、育児休業を取得した男性従業員数」は 25 人となっています。

○　「産後パパ育休(出生時育児休業)を取得した男性従業員数」は 22 人となっています。

【育児休業の取得状況】

	今回調査 (令和5年度)	前回調査 (平成30年度)
年度中に出産した女性従業員数	28人	39人
うち、育児休業を取得した女性従業員数	30人	43人
年度中に配偶者が出産した男性従業員数	46人	53人
うち、育児休業を取得した男性従業員数	25人	7人
産後パパ育休(出生時育児休業)を取得した男性従業員数	22人	

（２）介護休業の取得状況

問８　介護休業取得状況について男女別にお答えください。

【全体】

○　介護休業の取得状況について、「令和５年度中に介護休業を取得した女性従業員数」は６人となっています。

○　「令和５年度中に介護休業を取得した男性従業員数」は３人となっています。

【介護休業の取得状況】

	今回調査 (令和5年度)	前回調査 (平成30年度)
年度中に介護休業を取得した女性従業員数	6人	1人
年度中に介護休業を取得した男性従業員数	3人	2人

（3）育児・介護をしながら働きつづけるための取組

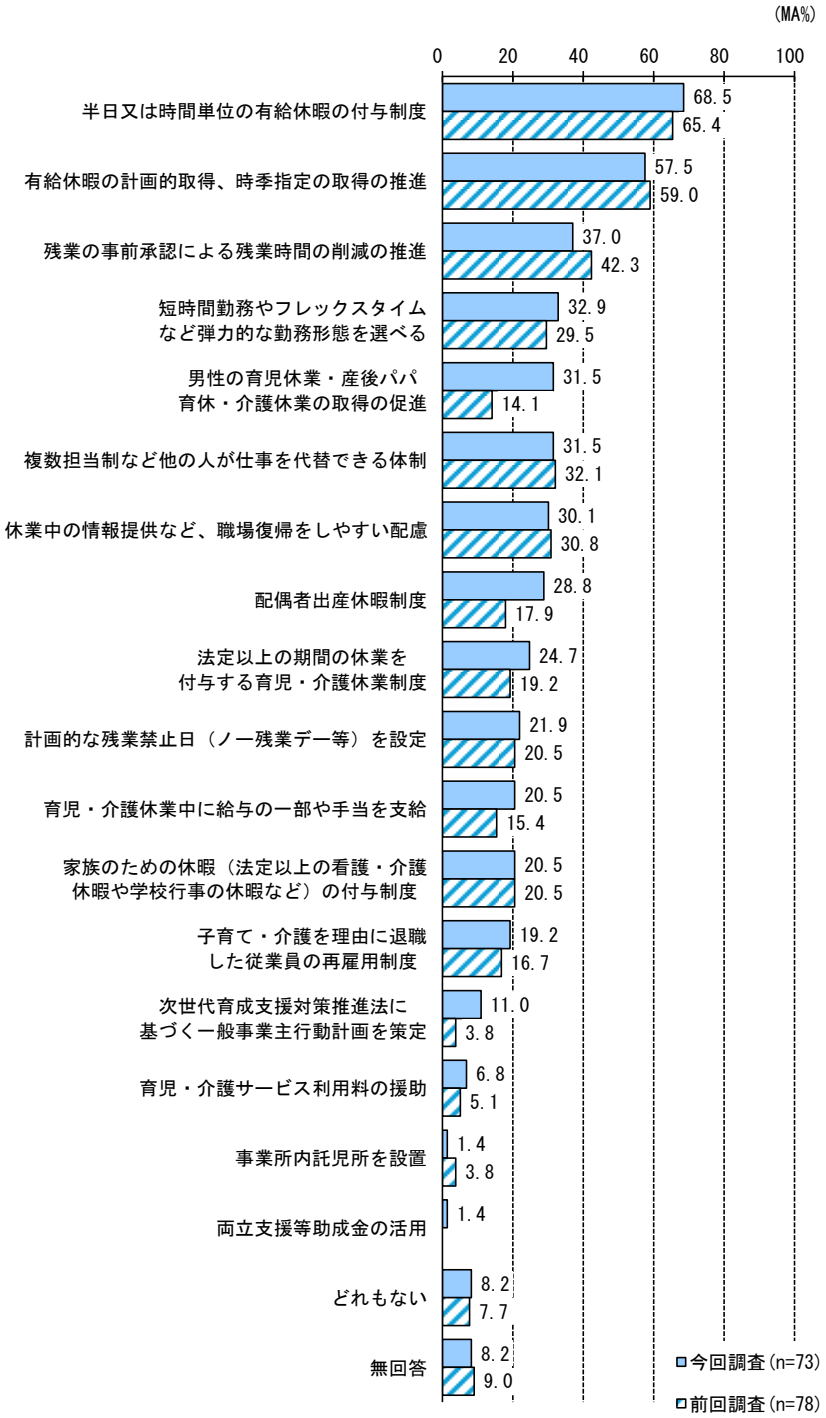
問9　貴事業所では、男女がともに育児・介護をしながら働くことについて、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。

①現在、取り組んでいること(MA)

【全体】

○　現在、取り組んでいる育児・介護をしながら働きつづけるための取組について、「半日又は時間単位の有給休暇の付与制度」が68.5%で最も多く、次いで「有給休暇の計画的取得、時季指定の取得の推進」が 57.5%、「残業の事前承認による残業時間の削減の推進」が 37.0%となっています。

【育児・介護をしながら働きつづけるための取組(現在)(MA)】

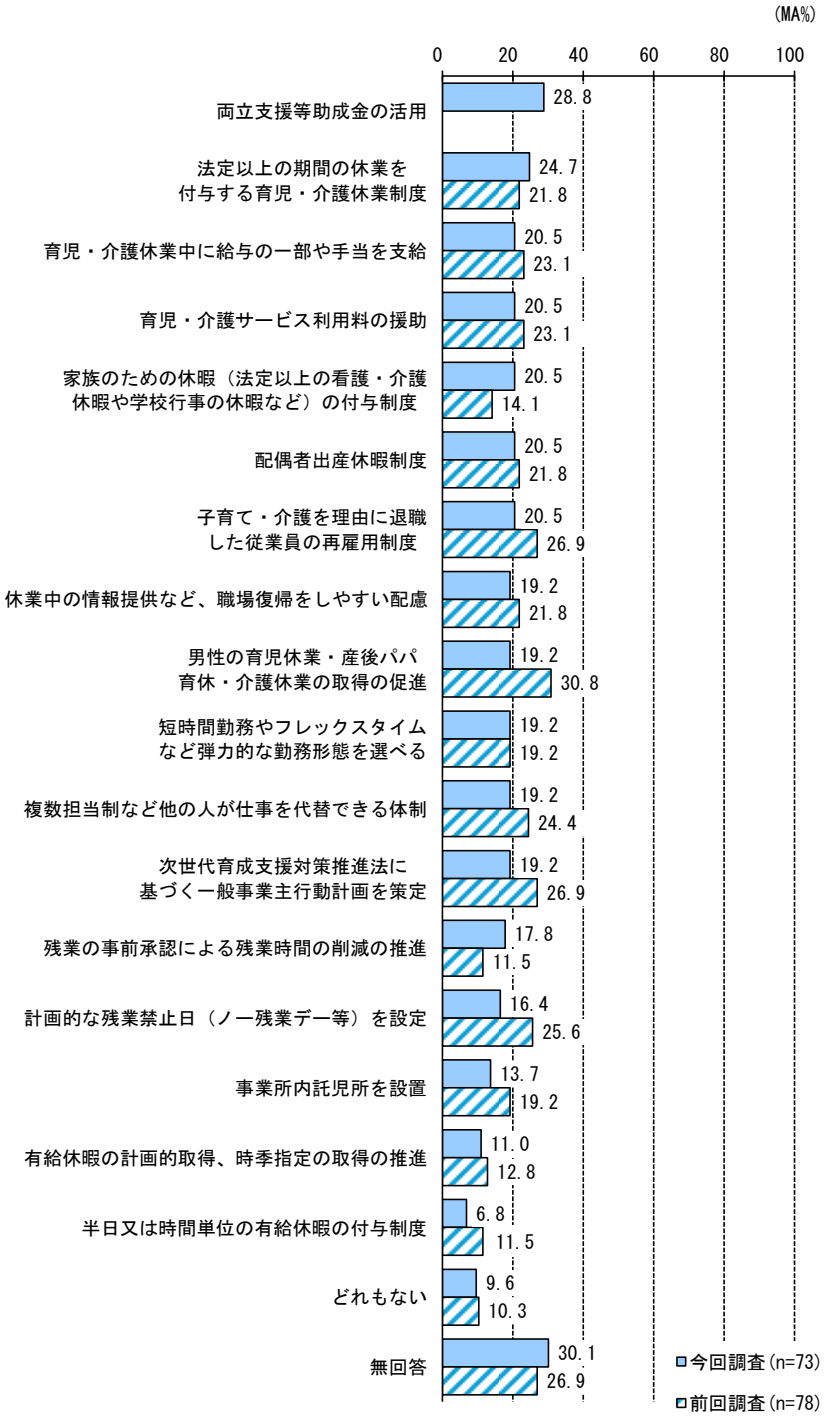


②今後、取り組みたいこと(MA)

【全体】

○ 今後、取り組みたい育児・介護をしながら働きつづけるための取組について、「両立支援等助成金の活用」が28.8%で最も多く、次いで「法定以上の期間の休業を付与する育児・介護休業制度」が24.7%、「育児・介護休業中に給与の一部や手当を支給」「育児・介護サービス利用料の援助」「家族のための休暇（法定以上の看護・介護休暇や学校行事の休暇など）の付与制度」「配偶者出産休暇制度」「子育て・介護を理由に退職した従業員の再雇用制度」が20.5%となっています。

【育児・介護をしながら働きつづけるための取組(今後)(MA)】



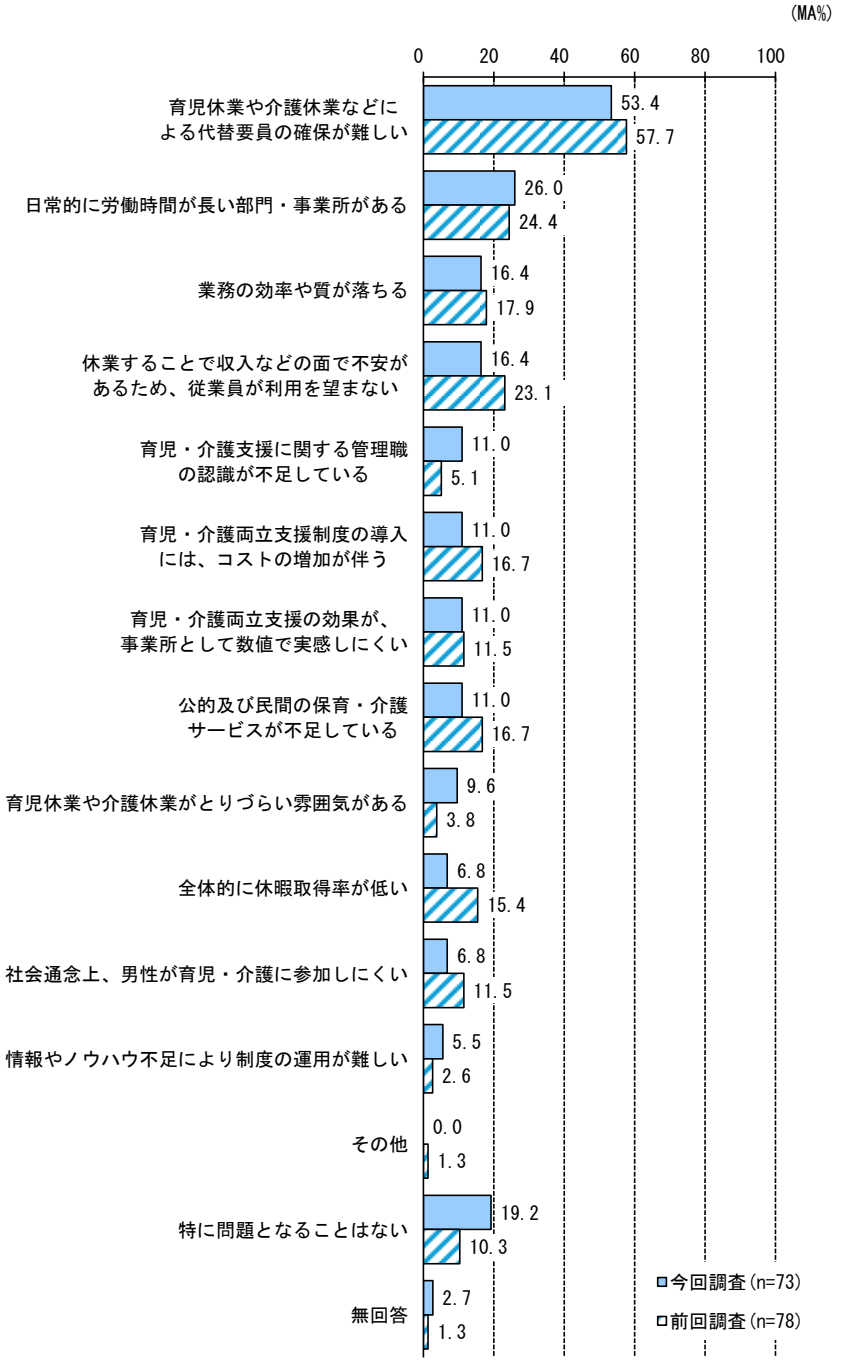
（４）仕事と育児や介護の両立支援を推進するうえでの課題

問10　貴事業所において、仕事と育児や介護の両立支援を推進しようとする場合、どのような問題があると思いますか。(MA)

【全体】

○　仕事と育児や介護の両立支援を推進しようとする際の問題について、「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」が53.4%で最も多く、次いで「日常的に労働時間が長い部門・事業所がある」が26.0%、「特に問題となることはない」が19.2%となっています。

【仕事と育児や介護の両立支援を推進しようとする際の問題(MA)】



4．男女がともに働きやすい環境について

（１）企業認定・認証制度の認知度

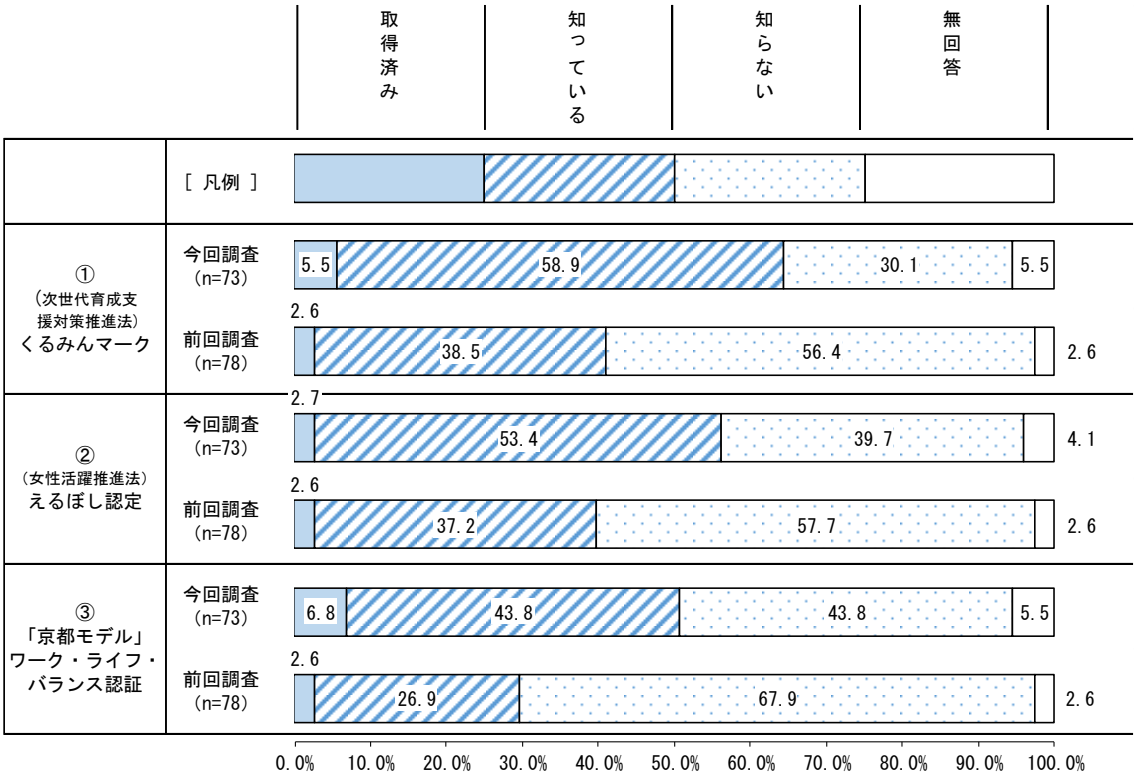
問11　国や京都府が取り組む、次の企業認定・認証制度をご存知ですか。

【全体】

○　企業認定・認証制度の認知度について、『「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証』は「知っている」と「知らない」の認知度が同率で、ほかの企業認定・認証制度は「知っている」が多くなっています。

○　所得済みが『「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証』で6.8%とほかの企業認定・認証制度より多くなっています。

【企業認定・認証制度の認知度】



①（次世代育成支援対策推進法）
「子育てサポート企業」として認定（くるみんマーク）



②（女性活躍推進法）
女性の活躍推進に関する状況等が優良な事業主の認定（えるぼし認定）



③「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証
ワーク・ライフ・バランスに取り組む方針を宣言し、認証基準を満たす従業員 300 人以下の府内事業所を京都府が認証



（2）ハラスメント防止のための取組

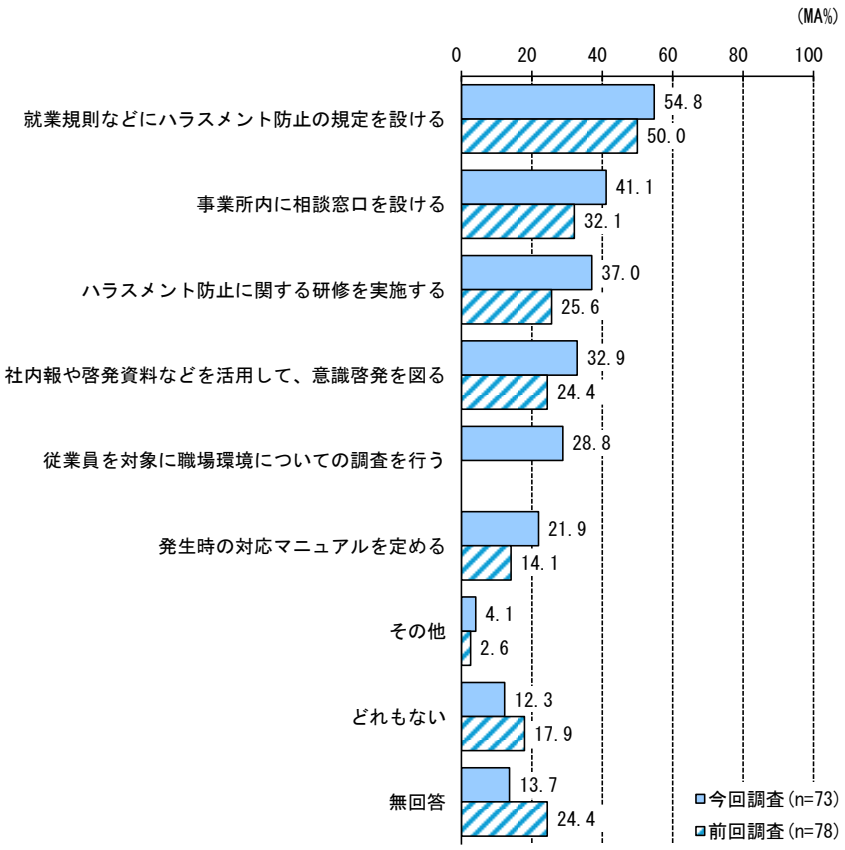
問12　貴事業所では、職場におけるハラスメントを防止するため、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。

①現在、取り組んでいること(MA)

【全体】

○　現在、取り組んでいるハラスメント防止のための取組について、「就業規則などにハラスメント防止の規定を設ける」が 54.8%で最も多く、次いで「事業所内に相談窓口を設ける」が 41.1%、「ハラスメント防止に関する研修を実施する」が 37.0%となっています。

【ハラスメント防止のための取組(現在)(MA)】

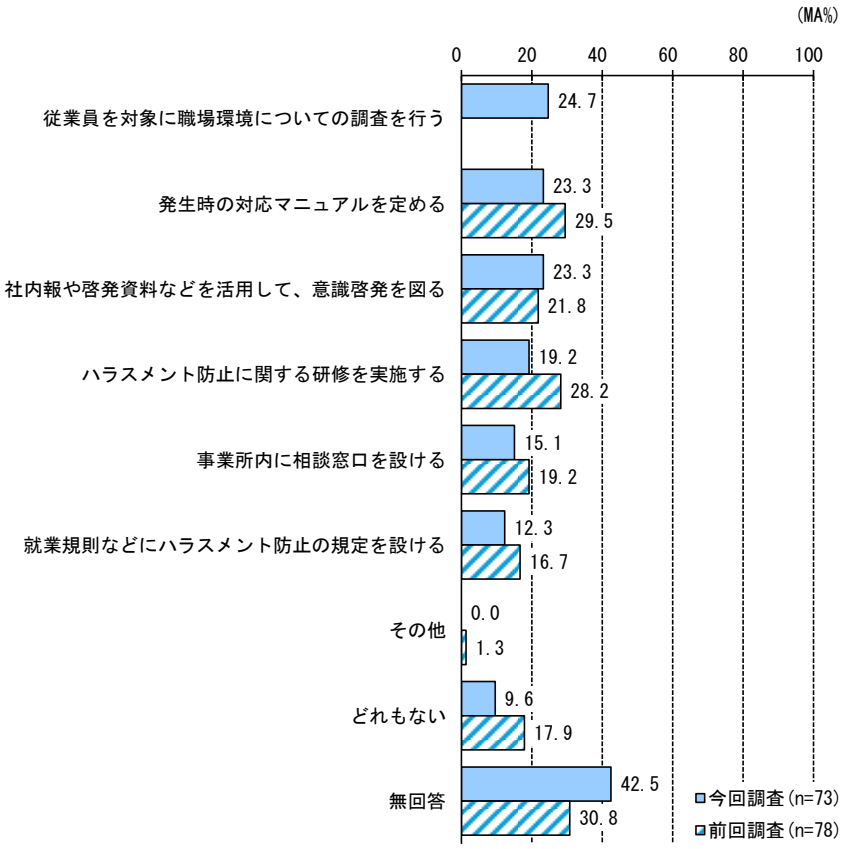


②今後、取り組みたいこと(MA)

【全体】

○ 今後、取り組みたいハラスメント防止のための取組について、「従業員を対象に職場環境についての調査を行う」が 24.7%で最も多く、次いで「発生時の対応マニュアルを定める」「社内報や啓発資料などを活用して、意識啓発を図る」が 23.3%、「ハラスメント防止に関する研修を実施する」が19.2%となっています。

【ハラスメント防止のための取組(今後)(MA)】



５．男女共同参画に関する今後の取組について

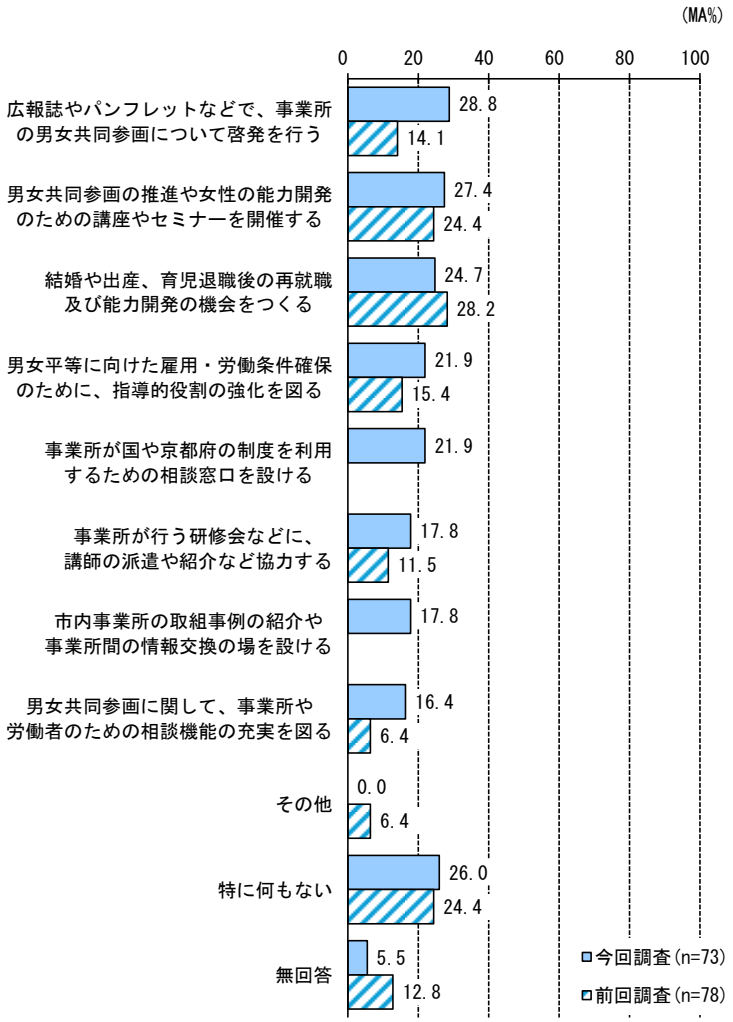
（１）男女共同参画を進めるにあたり行政に対して希望すること

問13　今後、事業の男女共同参画を進めるにあたり、行政に対してどのようなことを望まれますか。(MA)

【全体】

○　男女共同参画を進めるにあたり行政に対して希望することについて、「広報誌やパンフレットなどで、事業所の男女共同参画について啓発を行う」が 28.8%で最も多く、次いで「男女共同参画の推進や女性の能力開発のための講座やセミナーを開催する」が 27.4%、「特に何もない」が 26.0%となっています。

【男女共同参画を進めるにあたり行政に対して希望すること（MA)】



６．自由意見

回答事業所のうち５社から意見が寄せられました。

●小規模の会社・事業所では後継者をはじめとする人材不足等の課題に直面し、事業継続自体に不足をかかえているところも多い。その状況では男女共同参画社会の実現に向けた取組みを進めていく部分もあるが、今後 DX の推進等で方向としては進んでいくと思う。

●育児を中心とした働き方を好む女性も多い、仕事と育児のバランスを企業がいかに対応できるか、行政はそのあたりをサポートしてほしい。

●女性の市職員で仕事以前の問題として“女性アピール”がはなはだしい。過度な化粧、ネイルまたミニスカート、サンダルなど職場にふさわしくない職員が在社する。職場、仕事を男女共同参画社会というならば、まずは女性の身だしなみ含め意識改革が必要だと思う。

●各事業所がそれぞれで男女共同参画に関わる取組みをしている状況かと思いますので、事例紹介の場が交流の場があれば、市の取組みに貢献できるかと思います。

●そもそも共同参画しないと企業は回らないと思います。

Ⅵ　調査票

Ⅵ　調査票

１．市民意識調査

綾部市男女共同参画社会づくりに関する市民意識調査

市民の皆様には、日頃から綾部市の男女共同参画行政に対しまして格別のご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、綾部市では男女がともに参画できる社会の実現を目指した「綾部市男女共同参画計画」に基づき市民の皆様一人ひとりがあらゆる分野で活躍できる綾部市を築くための様々な取組を行っております。

本調査は、令和３年度に策定した「第４次あいプラン」が中間年を迎えることから、現在の社会情勢、市民意識やニーズ、価値観の変化に対応した計画の改定を行うための基礎として、市民の皆様のお考えを聞かせていただきたく、無作為に抽出した１，０００人を対象に意識調査を実施するものです。

回答は、無記名ですので個人が特定されることはありません。

また、回答内容は統計的に処理し、調査の目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただきご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和７年３月

綾　部　市

【ご記入に当たってのお願い】

１．回答は、封筒のあて名のご本人がお答えください。ご本人による記入が困難な場合は、家族の方等に代筆していただいても結構です。
２．回答は、該当する数字を○で囲んでください。「その他（具体的に　　）」を選ばれた場合は、（　）内にその内容を記入してください。
３．調査票や返信用封筒にあなたのご住所やお名前を記入していただく必要はありません。
４．ご記入いただいた調査票は、**３月２６日（水）まで**に同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。切手は不要です。

この調査票についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

綾部市市民環境部人権推進課　男女共同参画担当
〒623-0016　綾部市西町一丁目４９－１　Ｉ・Ｔビル５階
綾部市男女共同参画センター（あいセンター）
電話番号/ファクス　0773-42-2030
E-mail　jinkensuisin@city.ayabe.lg.jp

男女平等について

問１．男女共同参画・ジェンダー平等のための様々な社会の動きに関心を持っていますか。（○は１つ）

１．非常に関心を持っている	２．多少関心を持っている
３．あまり関心を持っていない	４．まったく関心を持っていない

問２．現在、男女の地位は平等になっていると思いますか。

（○は①～⑧にそれぞれ１つ）	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
①学校教育では	1	2	3	4	5	6
②職場では	1	2	3	4	5	6
③家庭生活では	1	2	3	4	5	6
④社会の慣習やしきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
⑤法律や制度のうえでは	1	2	3	4	5	6
⑥政治への参加では	1	2	3	4	5	6
⑦地域活動の場では（自治会、ボランティア活動など）	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体では	1	2	3	4	5	6

問３．次のような考え方についてどのように思いますか。

（○は①～⑦にそれぞれ１つ）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割分担をする方がよい	1	2	3	4
②女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てた方がよい	1	2	3	4
③女性も結婚、出産にかかわらず仕事を続ける方がよい	1	2	3	4
④父親も子育てに積極的にかかわった方がよい	1	2	3	4
⑤政治など方針決定の場に参画する女性が今よりも増えた方がよい	1	2	3	4
⑥自治会や PTA などの会長や役員に女性が増えた方がよい	1	2	3	4
⑦希望する夫婦が別姓を選べるようにする方がよい	1	2	3	4

問４．次の言葉のうち、見たり、聞いたりしたことがあるものはどれですか。

（○は①～⑦にそれぞれ１つ）	知っている	聞いたことはあるが、意味はよくわからない	知らない
①男女共同参画社会 男女が社会の対等なパートナーとして、社会のあらゆる分野の活動に参画し、利益を享受するとともに責任を担う社会。	1	2	3
②綾部市男女共同参画計画（あいプラン） 男女共同参画社会の実現をめざして、綾部市が取り組む施策の方向を示した計画。	1	2	3
③女性活躍推進法 働く場面で活躍したいという希望を持つ女性が活躍できるよう、一定規模以上の企業等に取組を義務づけた法律。	1	2	3
④候補者男女均等法 国会と地方議会の選挙で、各政党に候補者数をできる限り男女均等にするよう求める法律。	1	2	3

（○は①～⑦にそれぞれ１つ）	知っている	聞いたことはあるが、意味はよくわからない	知らない
⑤困難女性支援法 困難な問題を抱える女性一人一人のニーズに応じて、本人の立場に寄り添って、切れ目のない包括的な支援を行うための法律。	1	2	3
⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和） 働く人が「仕事」も「生活」（育児や介護、趣味、地域活動など）も充実させて豊かな人生を送ることをめざす働き方、生き方のこと。	1	2	3
⑦セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利） 自分の体、性や生殖について、誰もが十分な情報を得られ、自分の望むものを選んで決められること。そのために必要な医療やケアを受けられること。	1	2	3

仕事について

問５．あなたの現在の職業と配偶者・パートナーの職業は、次のどれにあたりますか。
（「あなた」と「配偶者・パートナー」それぞれに番号を１つ。配偶者・パートナーのいない方はあなたの職業のみに番号を１つ記入してください。）

●あなたの職業		●配偶者・パートナーの職業	
番号		番号	

１．勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）
２．勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など））
３．農林漁業
４．会社経営者、自営業主（農林漁業を除く）
５．家族従業者（農家や会社など自営業主の家族で、その自営業に従事している方）
６．専業主婦・専業主夫
７．無職（年金生活以外）
８．年金生活
９．学生
10．その他（具体的に　　）

問５－１．問５で、ご自身が「６．専業主婦・専業主夫」または「７．無職」と答えられた方におたずねします。あなたは、今後、働きたいと思いますか。（○は１つ）

１．すぐ働きたい　　２．条件が整えば働きたい
３．働きたくない　　４．その他（具体的に　　）
５．わからない

↓

問５－２　問５－１で「１．すぐ働きたい」または「２．条件が整えば働きたい」と答えられた方におたずねします。今後は働きたいけれども、現在働いていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

１．自宅に近い勤め先が見つからない
２．希望の給料に合う勤め先が見つからない
３．希望の勤務時間に合う勤め先が見つからない
４．希望の雇用形態に合う勤め先が見つからない
５．子どもが小さいうちは自分で世話をしたい
６．子どもが保育所などに入所できなかった
７．家族の協力が得られない
８．親や家族の介護・看護がある
９．自分の健康に不安がある
10．その他（具体的に　　）

全員にお聞きします。

問６．職場において、もっと女性が責任ある職務や指導的立場などに参画するためには、どうすればよいと思いますか。（○はいくつでも）

１．女性の人材育成を目的とした教育や研修の機会を増やす
２．女性自身が指導的立場になることに消極的な意識を改める
３．男性が女性を仕事上の対等なパートナーとみなすよう意識改革を進める
４．管理職の一定割合を女性に割り当てる
５．管理職の女性割合の目標と達成時期を設定し、計画的に取組を進める
６．女性の能力開発や管理職登用に取り組むための社内チームなどを発足する
７．すべての部署に男女双方を配置する
８．その他（具体的に　　）

問７．働くことを希望する男女が、育児や介護の有無にかかわらず、働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

１．企業の育児・介護休業制度の整備・充実
２．短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の導入
３．休業を取りやすい職場環境、職場の雰囲気づくり
４．ハラスメントのない職場環境づくり
５．賃金、昇進などで男女差をなくす
６．育児・介護のための施設やサービスの充実
７．残業時間の短縮
８．男女がともに家族の家事・育児・介護を担う
９．男女がともに家計を支える意識を持つ
10．その他（具体的に　　）
11．特に必要なことはない

家庭生活・子育て・社会参加・防災について

問8-1．あなたは、家庭における次のことを男性、女性のどちらがするのがよいと思いますか。

（○は①～⑦にそれぞれ１つ）	主に男性がするのがよい	どちらかといえば男性がするのがよい	両方同じくらいするのがよい	どちらかといえば女性がするのがよい	主に女性がするのがよい
①生活費をかせぐ	1	2	3	4	5
②日々の家計の管理	1	2	3	4	5
③日常の家事	1	2	3	4	5
④老親や病身者の介護や看護	1	2	3	4	5
⑤子どもの教育としつけ	1	2	3	4	5
⑥育児（乳幼児の世話）	1	2	3	4	5
⑦自治会など地域活動への参加	1	2	3	4	5

問8-2．あなたの家庭では、実際に次のことを男性、女性のどちらがしていますか。

（○は①～⑦にそれぞれ1つ）	主に男性がしている	どちらかといえば男性がしている	両方同じくらいしている	どちらかといえば女性がしている	主に女性がしている	いずれにも該当しない
①生活費をかせぐ	1	2	3	4	5	6
②日々の家計の管理	1	2	3	4	5	6
③日常の家事	1	2	3	4	5	6
④老親や病身者の介護や看護	1	2	3	4	5	6
⑤子どもの教育としつけ	1	2	3	4	5	6
⑥育児（乳幼児の世話）	1	2	3	4	5	6
⑦自治会など地域活動への参加	1	2	3	4	5	6

問9．あなたは、生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域活動・個人の生活」で何を優先しますか。希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれお答えください。

＜希望＞ （○は１つ）	１．仕事 ２．家庭生活 ３．地域活動・個人の生活 ４．仕事と家庭生活 ５．仕事と地域活動・個人の生活 ６．家庭生活と地域活動・個人の生活 ７．仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活
＜現実＞ （○は１つ）	１．仕事 ２．家庭生活 ３．地域活動・個人の生活 ４．仕事と家庭生活 ５．仕事と地域活動・個人の生活 ６．家庭生活と地域活動・個人の生活 ７．仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活

「仕事」：週1時間以上働いていること。雇用形態は問わない。

「家庭生活」：家族と過ごす、家事、育児、介護・看護など。

「地域活動」：社会参加活動、交際・つきあいなど。

「個人の生活」：学習、趣味など。

問 10. 一般的に、仕事中心の生活であることが多い男性が、今後、仕事以外のこと（家事、子育て、介護など）に積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1．「家庭や地域のことをするのは女性の役目」という固定的な考え方を改めること
2．労働時間の短縮や育児や介護などの休暇制度の整備について、企業に働きかけること
3．男性が、仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくること
4．男性の家事、育児、介護の技能を高めること
5．男性が地域活動やセミナーなどに参加しやすい方法や場を提供すること
6．社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高めること
7．夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
8．その他（具体的に　　）
9．特に必要なことはない

問 11. あなたは、自治会長やＰＴＡ会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1．女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと
2．女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと
3．社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること
4．女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと
5．女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること
6．その他（具体的に　　）
7．特に必要なことはない

問 12. 災害時の避難所において、男女が協力し合って災害対応をしていくためには、日頃からどのようなことを行っていく必要があると思いますか。（○はいくつでも）

1．防災に関する会議の女性委員の割合を増やす
2．男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施
3．女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルの作成
4．女性が多く参加する防災訓練の実施
5．男女共同参画の視点で作成した防災啓発用冊子の配布
6．防災の女性リーダーの養成
7．日頃から男女が協力して地域のことを進める
8．その他（具体的に　　）
9．特に必要なことはない

問 13. あなたは、男女共同参画を進めるために、子どもへの教育においてどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1．男女平等の意識を育てる教育をする
2．進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与え、本人の希望を優先し応援する姿勢を持つ
3．幼児のときから自分の心とからだは大切なものという自尊感情を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる
4．男女がともに家庭の責任を果たすことの大切さを教える
5．テレビやインターネットなどの情報を読み解いて使いこなすための教育を進める
6．「男の子だから」「女の子だから」といった役割やふるまいを性別で決めつけるような言い方をしない
7．男女双方に、家事能力が身につくような経験をさせる
8．男女双方に、経済的自立の意識を持つよう働きかける
9．周囲の大人が、男女が平等で対等な人間関係をつくる
10．その他（具体的に　　）
11．特に必要なことはない

配偶者等からの暴力・ハラスメントについて

問 14. あなたは、次のような行為の被害を受けた経験がありますか。（○はいくつでも）

1．ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ・配偶者等からの暴力）
（配偶者・パートナー間で相手を自分の思いどおりにコントロールしようとする態度や行動。殴る、蹴るだけでなく、言葉で脅す、行動を制限する、経済的な苦痛を与える行為などが含まれ、被害者が恐怖を感じる行為はすべて暴力。）
2．デートＤＶ（恋人からの暴力）
（恋人同士の間で起こるＤＶ。）
3．セクシュアル・ハラスメント
（相手が不快に思い、相手が自身の尊厳を傷つけられたと感じるような性的発言や行動。）
4．パワー・ハラスメント
（職場内での優位性や立場を利用した業務の適正範囲を超えた叱責や嫌がらせ。）
5．マタニティ・ハラスメント
（妊娠・出産を理由として被る不利益や、精神的・肉体的な嫌がらせ。）
6．パタニティ・ハラスメント
（男性労働者が、育児のための制度を利用することに対する嫌がらせ。）
7．ストーカー行為（つきまとい）
特定の人に対する好意の感情、またはその好意がかなわなかったことに対する怨念の感情により、つきまとい、まちぶせ、押しかけや無言電話などをする行為。
8．痴漢

問 15. 問 14 で、どれかひとつでも被害を受けたことがある方におたずねします。
そのとき、誰（どこ）に相談しましたか。（○はいくつでも）

1．親・きょうだい・子ども・親戚
2．友人・知人
3．警察
4．女性相談・あいセンターなどの市の相談窓口
5．民生委員・児童委員
6．その他の公的機関の相談窓口
7．民間の相談窓口
8．医師
9．弁護士
10．その他（具体的に　　）
11．相談しなかった

問 16. 問 15 で「相談しなかった」と答えた方におたずねします。相談しなかった
理由は何ですか。（○はいくつでも）

1．誰（どこ）に相談したらいいのかわからなかった
2．相談しても自分のせいにされたり、我慢するように言われるのではないかと思った
3．自分さえもっとしっかりすればいいのだと思った
4．配偶者や恋人の恥を言うようでできなかった
5．このことが知れると、周囲の人に心配や迷惑をかけるのではないかと思った
6．世間体が悪いので、人に知られたくないと思った
7．相談したことが相手に知られると、さらに事態が悪くなると思った
8．相談するほどのことではないと思った
9．自分にも悪いところがあると思った
10．そのことについて思い出したくない
11．その他（具体的に　　）

男女共同参画施策について

問 17. あなた自身の生活や周りの状況から判断して、この５年間で、以下の項目について変化があったと思いますか。

（○は①～⑦にそれぞれ１つ）	進んでいる	どちらかといえば進んでいる	どちらかといえば進んでいない	進んでいない
①男女平等の考え方	1	2	3	4
②職場における女性の活躍	1	2	3	4
③自治会など地域活動における女性の活躍	1	2	3	4
④仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさ	1	2	3	4
⑤男性の子育て、介護への参画	1	2	3	4
⑥ＤＶなど女性に対する暴力をなくすための取組	1	2	3	4
⑦行政などの相談窓口の充実	1	2	3	4

問 18. 綾部市では、男女共同参画社会をめざして様々な施策を推進していますが、今後さらに力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。（○は３つまで）

1．男女共同参画に向けた学習の推進
2．男女平等の学校教育を充実させること
3．女性自らの意識と能力を高めるための支援
4．職業紹介や職業訓練の充実など、女性の就労機会を増やすこと
5．保育所や放課後学級の施設などを充実すること
6．高齢者に対する社会サービスを充実させること
7．育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること
8．母性保護や健康の維持・増進対策を進めること
9．ひとり親家庭等への援助、社会保障を充実させること
10．政策・方針決定の場への女性の登用を進めること
11．男性相談・女性相談事業を進めること
12．パートナー等に対する暴力の根絶のための支援
13．制度や慣行の見直しのための啓発や情報提供の実施
14．男女が子育てや介護をともに担える環境づくり
15．その他（具体的に　　）
16．特にない

あなた自身のことについて

問 19. あなたの性別（あなた自身が自認する性についてお答えください。）

１．男性	２．女性	３．その他 （答えたくない。どちらでもない。わからない。）

問 20. あなたの年齢

１．２０歳未満	２．２０歳代	３．３０歳代
４．４０歳代	５．５０歳代	６．６０歳代
７．７０歳以上		

問 21. あなたが現在住んでおられる地域

１．綾部	２．中筋	３．吉美
４．西八田	５．東八田	６．山家
７．口上林	８．豊里	９．物部
10．志賀郷	11．中上林	12．奥上林

問 22. あなたの家族構成

１．ひとり暮らし	２．配偶者・パートナーのみ（事実婚を含む）
３．２世代世帯（親と子ども）	４．３世代世帯（祖父母と親と子ども）
５．その他（具体的に	）

問 23. 現在のあなたは

１．配偶者・パートナーがいる	２．配偶者・パートナーはいない

問 24. あなたにお子さんはいますか。いる方は人数及びお子さんの年代をお書きください。（別居・同居は問いません。）（○はいくつでも）

１．いる（　　）人	２．子どもはいない		
↓			
１．就学前	２．小学生	３．中学生	４．高校生
５．大学生・大学院生・専門学校生	６．社会人		

最後に、男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見・ご要望などがございましたら自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。この調査票は、**3月26日（水）まで**に、同封の返信用封筒に入れて切手を貼らずに投函してください。

２．事業所アンケート

綾部市男女共同参画社会づくりに関する事業所アンケート

事業所の皆様には、日頃から綾部市の男女共同参画行政に対しまして格別のご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、綾部市では男女がともに参画できる社会の実現を目指した「綾部市男女共同参画計画」に基づき、市民の皆様一人ひとりがあらゆる分野で活躍できるための様々な取組を行っております。

本調査は、令和３年度に策定した「第４次あいプラン」が中間年を迎えることから、現在の社会情勢、市民意識やニーズ、価値観の変化に対応した計画の改定を行うための基礎として、事業所における雇用の状況や女性の活躍推進に係る取組み状況、課題などを把握することを目的に綾部商工会議所の会員である市内事業所を対象にアンケートを行うものです。

回答内容は統計的に処理し、調査の目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和７年３月

綾　部　市

【ご記入に当たってのお願い】

１．回答は、事業所の代表者または、人事を担当されている方がお答えください。
２．記入に当たっては、令和６年１０月１日現在の状況でお答えください。
３．ご記入いただいた調査票は、**３月２６日（水）まで**に同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。切手は不要です。

この調査票についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

綾部市市民環境部人権推進課　男女共同参画担当
〒623-0016　綾部市西町一丁目４９－１　Ｉ・Ｔビル５階
綾部市男女共同参画センター（あいセンター）
電話番号/ファクス　0773-42-2030
E-mail　jinkensuisin@city.ayabe.lg.jp

■事業所の概要についておたずねします。

問１．貴事業所の主な業種は何ですか。（○は１つ）

１．製造業
２．医療・福祉
３．卸売・小売業
４．運輸・通信業
５．農林漁業
６．建設業
７．金融・保険業
８．サービス業
９．水道、電気、ガス、熱供給
10．宿泊業・飲食サービス業
11．その他（具体的に　　）

問２．貴事業所の従業員数・雇用形態についてご回答ください。

雇用形態	男性の人数（人）	女性の人数（人）	合計（人）
①管理職数			
②正規従業員数			
③非正規従業員数 派遣、嘱託、契約従業員、アルバイト・パート等			
合　計（人）			

※該当者がいない場合は「０」をご記入ください。

※「管理職の数」は、取締役を含め、部課長など一定の権限を持つ方の人数をご記入ください。

※「正規従業員」とはいわゆる正社員・正職員で期間を定めずに雇われている従業者。

■女性の登用についておたずねします。

問３．貴事業所では、５年前と比べて女性の雇用状況はどのようになっていますか。

①女性従業員数	１．増えている	２．変わらない	３．減っている
②女性管理職数	１．増えている	２．変わらない	３．減っている

問４．貴事業所では、今後、女性の雇用をどのようにしたいと考えていますか。

①女性従業員数	１．増やしたい	２．どちらともいえない	３．減らしたい
②女性管理職数	１．増やしたい	２．どちらともいえない	３．減らしたい

問５．貴事業所において、女性を積極的に登用するために、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。

「①現在」「②今後」それぞれ１～13 に○はいくつでも。 「①現在」または「②今後」で１～13 にあてはまる選択肢がない場合は 14 に○をつけてください。	**①現在、取り組んでいる**	**②今後、取り組みたい**
１．非正規従業員から正規従業員への転換制度	1	1
２．非正規従業員を管理職に登用する制度	2	2
３．性別にかかわらない客観的な人事考査のための基準の明確化	3	3
４．女性従業員の人材育成を目的とした研修実施と参加促進	4	4
５．女性従業員の積極的な採用	5	5
６．従業員の勤務時間や担当業務などに本人の希望を反映	6	6
７．従業員の資格取得や社会貢献活動を支援	7	7
８．従業員から職場環境の改善について意見要望を取り上げる	8	8
９．従業員のメンタルヘルスに関するサポート	9	9
10．管理職を対象に女性従業員活用のための指導や研修の実施	10	10
11．仕事上の相談にのり、業務のアドバイスを行うなど先輩社員（メンター）がサポートする制度	11	11
12．女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を策定	12	12
13．女性活躍加速化助成金の活用	13	13
14．どれもない	14	14

問６．女性を管理職に登用するうえで課題となるのは、どのようなことですか。

（○はいくつでも）

１．女性自身が管理職を望まない傾向がある
２．出産、育児、介護等で離職する女性が多い
３．残業や休日出勤、出張などができない女性が多い
４．昇進・昇格要件となる経験や能力を備えた女性が少ない
５．取引先等から女性管理職が受け入れられにくい
６．女性の就いている職種、部門が限定的である
７．男性の部下が女性の管理職を好まない傾向がある
８．その他（具体的に　　）
９．特に課題となることはない

■育児・介護との両立支援についておたずねします。

問７．育児休業取得状況について男女別にお答えください。

令和５年度中に出産した女性従業員数　　人

うち、育児休業を取得した女性従業員数　　人

令和５年度中に配偶者が出産した男性従業員数　　人

うち、育児休業を取得した男性従業員数　　人

産後パパ育休(出生時育児休業)※を
取得した男性従業員数　　人

※産後８週間以内に 28 日を限度として取得できる育児休業で２回に分けて取得が可能で「退院時と里帰りから戻るときに取得する」など、家庭の事情に合わせて柔軟に育休を取得しやすくなった。

問８．介護休業取得状況について男女別にお答えください。

令和５年度中に介護休業を取得した女性従業員数　　人

令和５年度中に介護休業を取得した男性従業員数　　人

問９．貴事業所では、男女がともに育児・介護をしながら働くことについて、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。

「①現在」「②今後」それぞれ１～17 に○はいくつでも。 「①現在」または「②今後」で１～17 にあてはまる選択肢がない場合は 18 に○をつけてください。	①現在、取り組んでいる	②今後、取り組みたい
１．法定以上の期間の休業を付与する育児・介護休業制度	1	1
２．育児・介護休業中に給与の一部や手当を支給	2	2
３．育児・介護サービス利用料の援助	3	3
４．家族のための休暇（法定以上の看護・介護休暇や学校行事の休暇など）の付与制度	4	4
５．配偶者出産休暇制度	5	5
６．事業所内託児所を設置	6	6
７．休業中の情報提供など、職場復帰をしやすい配慮	7	7
８．子育て・介護を理由に退職した従業員の再雇用制度	8	8
９．男性の育児休業・産後パパ育休・介護休業の取得の促進	9	9
10．短時間勤務やフレックスタイムなど弾力的な勤務形態を選べる	10	10
11．計画的な残業禁止日（ノー残業デー等）を設定	11	11
12．残業の事前承認による残業時間の削減の推進	12	12
13．半日又は時間単位の有給休暇の付与制度	13	13
14．有給休暇の計画的取得、時季指定の取得の推進	14	14
15．複数担当制など他の人が仕事を代替できる体制	15	15
16．次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定	16	16
17．両立支援等助成金の活用	17	17
18．どれもない	18	18

問 10. 貴事業所において、仕事と育児や介護の両立支援を推進しようとする場合、どのような問題があると思いますか。（〇はいくつでも）

1．日常的に労働時間が長い部門・事業所がある
2．全体的に休暇取得率が低い
3．育児休業や介護休業がとりづらい雰囲気がある
4．育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい
5．業務の効率や質が落ちる
6．育児・介護支援に関する管理職の認識が不足している
7．育児・介護両立支援制度の導入には、コストの増加が伴う
8．情報やノウハウ不足により制度の運用が難しい
9．育児・介護両立支援の効果が、事業所として数値で実感しにくい
10. 公的及び民間の保育・介護サービスが不足している
11. 社会通念上、男性が育児・介護に参加しにくい
12. 休業することで収入などの面で不安があるため、従業員が利用を望まない
13. その他（具体的に　　）
14. 特に問題となることはない

■男女がともに働きやすい環境についておたずねします。

問 11. 国や京都府が取り組む、次の企業認定・認証制度をご存知ですか。
（〇は①～③それぞれに1つ）

①（次世代育成支援対策推進法） 「子育てサポート企業」として認定（くるみんマーク）		1．取得済み 2．知っている 3．知らない
②（女性活躍推進法） 女性の活躍推進に関する状況等が優良な事業主の認定（えるぼし認定）		1．取得済み 2．知っている 3．知らない
③「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証 ワーク・ライフ・バランスに取り組む方針を宣言し、認証基準を満たす従業員 300 人以下の府内事業所を京都府が認証		1．取得済み 2．知っている 3．知らない

問 12. 貴事業所では、職場におけるハラスメント※を防止するため、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。

「①現在」「②今後」それぞれ１～６に○はいくつでも。 「①現在」または「②今後」で１～６にあてはまる選択肢がない場合は７に○をつけてください。	①現在、取り組んでいる	②今後、取り組みたい
１．就業規則などにハラスメント防止の規定を設ける	1	1
２．事業所内に相談窓口を設ける	2	2
３．ハラスメント防止に関する研修を実施する	3	3
４．発生時の対応マニュアルを定める	4	4
５．社内報や啓発資料などを活用して、意識啓発を図る	5	5
６．従業員を対象に職場環境についての調査を行う	6	6
７．その他（具体的に　　）	7	7
８．どれもない	8	8

※**ハラスメント**:いろいろな場面での「嫌がらせ、いじめ」を指す。他者に対する発言・行動等が本人の意図には関係なく、相手を不快にさせる、尊厳を傷つける、不利益を与える、脅威を与えるなど。

（例えば）**セクシュアル・ハラスメント**:相手が不快に思い、相手が自身の尊厳を傷つけられたと感じるような性的発言や行動のこと。

パワー・ハラスメント:職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与えたり、職場環境を悪化させる行為のこと。

マタニティ・ハラスメント:妊娠・出産を理由に職場において不利益を受けたり、精神的・肉体的な嫌がらせを受けたりすること。

パタニティ・ハラスメント：男性労働者が、育児のための制度の利用を希望することや実際に利用したことに対して嫌がらせを受けること。

■男女共同参画に関する今後の取組についておたずねします。

問 13. 今後、事業の男女共同参画を進めるにあたり、行政に対してどのようなことを望まれますか。（○はいくつでも）

1．広報誌やパンフレットなどで、事業所の男女共同参画について啓発を行う
2．男女共同参画の推進や女性の能力開発のための講座やセミナーを開催する
3．事業所が行う研修会などに、講師の派遣や紹介など協力する
4．結婚や出産、育児退職後の再就職及び能力開発の機会をつくる
5．男女共同参画に関して、事業所や労働者のための相談機能の充実を図る
6．男女平等に向けた雇用・労働条件確保のために、指導的役割の強化を図る
7．市内事業所の取組事例の紹介や事業所間の情報交換の場を設ける
8．事業所が国や京都府の制度を利用するための相談窓口を設ける
9．その他（具体的に　　）
10. 特に何もない

■最後に、男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見・ご要望などがございましたら自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

この調査票は、**３月２６日（水）まで**に、同封の返信用封筒に入れて切手を貼らずに投函してください。